

項目別業務実績評価

<評価凡例>

S 計画に対し十分に取り組み、顕著な成果が得られている  
B 計画に対し十分に組み組んでいる

A 計画に対し十分に取り組み、成果が得られている  
C 計画に対する取組みは十分ではない

<評価凡例>

☆ 良好で特に着目する状況  
△ より一層の取組を期待

○ 良好な状況  
▼ 取組改善を強く要望

令和6年度  
第1回評価委員会

資料1ー4

議題1

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																											
						評価	説明																																
第1 中期目標の期間 平成31年4月1日から平成36年3月31日までの5年間とする。	第1 中期計画の期間 平成31年4月1日から平成36年3月31日までの5年間とする。	- -		- -	- -																																		
第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項  県立病院機構は、定款で定める業務について、質の向上に取り組む、多様化する県民の医療ニーズへの対応に努めること。また、その成果を県民や他の医療機関と共有できるよう、県民視点での情報発信に努めるほか、患者や家族の立場に立ち、その満足度が高められるよう、創意工夫に取り組むこと。	第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置  県立病院では、県民の医療需要に的確に対応し、安全で質の高い医療の提供を図る。このためには、医療の品質管理が必要である。この医療の質を向上させるため、定量的目標を定め、適切な医療の提供を行い、県立病院にふさわしい優秀な人材の確保と育成、医療に関する調査及び研究、地域への支援、県民の安心、安全を守るための災害等における医療救護体制の整備に努める。	第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																					
1 医療の提供  医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。	1 医療の提供  県立病院機構の職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。	1 医療の提供																																					
(1) 基本的な診療理念  診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。	(1) 基本的な診療理念  診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。	(1) 基本的な診療理念  各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ①患者への十分な説明と同意の徹底 ②医療技術の向上 ③チーム医療の推進 ④医療安全対策の充実 ⑤患者満足度（入院・外来）の向上	-  1	-  1	-  各病院	-  A	-  令和5年度についても、患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。 総合での受け入れは前年を上回り、他院への情報提供についてはコロナ前の状況に回復している。	-  ・総合病院のセカンドオピニオン件数（他医療機関から紹介された件数）、情報提供料算定件数（他医療機関へ紹介した件数）は令和4年度よりも向上し、患者からの求めに適切に対応するとともに、他医療機関との信頼関係も構築できている。 ・今後も引き続き、患者への十分な説明と同意のもと、信頼関係に基づく安全・最適な医療を提供することが求められる。			1																												
				①②③運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行う。	クリニカルパス管理委員会において、新規作成及び修正に係る審議、承認を行った。  クリニカルパスの新規作成、適用率等実績 <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>新規作成（件）</td><td>34</td><td>9</td><td>23</td><td>17</td><td>4</td><td>26</td></tr><tr><td>修正（件）</td><td>253</td><td>103</td><td>225</td><td>66</td><td>70</td><td>65</td></tr><tr><td>適用率（%）</td><td>63.3</td><td>63.9</td><td>68.3</td><td>68.8</td><td>68.2</td><td>※ 74.2</td></tr></table> ※ 電子カルテ更新等に伴う計算方法の見直しを実施。	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	新規作成（件）	34	9	23	17	4	26	修正（件）	253	103	225	66	70	65	適用率（%）	63.3	63.9	68.3	68.8	68.2	※ 74.2	A	クリニカルパスに関する運用・管理について、医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう、医療従事者が定期的に議論を行った。 令和5年度は電子カルテの更新に伴い、パスの修正増加に向けた、患者の状態変化における評価・統計等の分析が容易となるBOMを導入し、また、計算方法の見直しを実施した。 ※BOM：日本クリニカルパス学会の患者アウトカム用語基本マスター	・クリニカルパス管理委員会を毎月開催し、新規作成だけでなく既存パスを随時見直す体制がとられている。 ・クリニカルパスの新規作成件数及び適用率は、令和5年度も高い水準を維持している。			2
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																	
新規作成（件）	34	9	23	17	4	26																																	
修正（件）	253	103	225	66	70	65																																	
適用率（%）	63.3	63.9	68.3	68.8	68.2	※ 74.2																																	
				①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	令和5年度末現在 稼働クリニカルパス 4件（m－ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン）  稼働クリニカルパス件数 <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	A	医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう医療従事者が定期的に議論を行っており、必要に応じ新規のクリニカルパス作成もしくは既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供した。	・稼働クリニカルパス数については、導入が可能なものを導入済みであるため、令和4年度と同水準である。 ・精神科医療では個々の病状に合わせた診療となるケースが多く、パスを適用できるケースは限られるが、m－ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピンに導入されており、患者の負担軽減と計画的な医療の提供に努めている。			3														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																	
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No													
						評価	説明																		
			4	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	<div>稼働クリニカルパス件数（単位：件）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>51</td><td>51</td><td>52</td><td>61</td><td>54</td><td>62</td></tr></table> ※令和3年度は病棟工事に伴い、一時的に稼働させたクリニカルパスがあり件数が増加した。	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	稼働クリニカルパス	51	51	52	61	54	62	A	令和4年度に、次年度の電子カルテ更新を見据えてクリニカルパスの見直しを行った結果、令和5年度から新規で稼働させたパスがあり、令和5年度は前年度に比べ件数が増加した。				4
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																			
稼働クリニカルパス	51	51	52	61	54	62																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																																																																																																																																							
						評価	説明																																																																																																																																																																																																																																																												
			5	③チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	<div>チーム医療の推進（カンファレンスの開催）</div> <div>5年度</div> <table><tr><th>区分</th><th>チーム名</th><th>開催頻度</th><th>主要メンバー</th></tr><tr><td rowspan="10">総合</td><td>栄養サポートチーム</td><td>2回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師</td></tr><tr><td>感染制御チーム</td><td>院内2回 院外4回/年</td><td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td></tr><tr><td>抗菌薬適正使用支援チーム</td><td>毎日</td><td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>1回/月</td><td>医師、看護師、栄養士</td></tr><tr><td>呼吸ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士</td></tr><tr><td>認知症ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師</td></tr><tr><td>精神科リエゾンチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士</td></tr><tr><td>糖尿病透析予防診療チーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、栄養士</td></tr><tr><td>排尿ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師</td></tr><tr><td rowspan="5">こころ</td><td>認知症ケアチーム</td><td>1回/3ヶ月</td><td>医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士</td></tr><tr><td>嚥下対策チーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、言語聴覚士、栄養士</td></tr><tr><td>要介護患者支援管理チーム</td><td>第1・3・5火木曜日</td><td>医師、看護師、理学療法士、社会福祉士</td></tr><tr><td>栄養サポートチーム</td><td>週1回</td><td>医師・看護師・薬剤師・栄養士</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>院内週1回 院外2回/年</td><td>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師</td></tr><tr><td rowspan="5">こども</td><td>褥瘡対策チーム</td><td>1回/月</td><td>医師・看護師、薬剤師、栄養士</td></tr><tr><td>アレルギー（食物アレルギー）対策チーム</td><td>随時</td><td>医師・看護師・精神保健福祉士等</td></tr><tr><td>栄養サポートチーム</td><td>週1回</td><td>医師・看護師・栄養士等</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>院内2回 院外4回/年</td><td>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士</td></tr><tr><td colspan="4"></td><td>褥瘡対策部会</td><td>1回/月</td><td>医師・看護師</td><td></td></tr><tr><td colspan="4"></td><td>リハビリテーション</td><td>随時・週1回 随時</td><td>医師・看護師・理学療法士等</td><td></td></tr></table> <div>チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況</div> <div>（単位：千円）</div> <table><tr><th>病院</th><th>項目</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td rowspan="10">総合</td><td>栄養サポートチーム</td><td>1,154</td><td>904</td><td>1,246</td><td>1,092</td><td>879</td><td>1,040</td></tr><tr><td>感染制御チーム</td><td>93,168</td><td>92,879</td><td>86,309</td><td>86,701</td><td>123,703</td><td>132,299</td></tr><tr><td>抗菌薬適正使用支援チーム</td><td>15,985</td><td>19,122</td><td>17,563</td><td>17,643</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>4,815</td><td>2,085</td><td>755</td><td>1,630</td><td>2,545</td><td>1,160</td></tr><tr><td>呼吸ケアチーム</td><td>1</td><td>92</td><td>143</td><td>224</td><td>159</td><td>134</td></tr><tr><td>認知症ケアチーム</td><td>4,462</td><td>4,456</td><td>4,445</td><td>4,287</td><td>4,313</td><td>4,514</td></tr><tr><td>精神科リエゾンチーム</td><td>-</td><td>580</td><td>772</td><td>4,164</td><td>3,852</td><td>3,483</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>3,163</td><td>20,389</td><td>17,965</td><td>20,600</td><td>18,704</td><td>16,206</td></tr><tr><td>糖尿病透析予防診療チーム</td><td>508</td><td>998</td><td>431</td><td>235</td><td>168</td><td>294</td></tr><tr><td>排尿ケアチーム</td><td>200</td><td>212</td><td>388</td><td>536</td><td>350</td><td>500</td></tr><tr><td rowspan="6">こころ</td><td>RS（精神リエゾンサービス）チーム</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1,360</td></tr><tr><td>嚥下対策チーム</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>517</td></tr><tr><td>要介護患者支援管理チーム</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>84</td></tr><tr><td>計</td><td>123,456</td><td>142,880</td><td>131,561</td><td>137,112</td><td>154,673</td><td>161,591</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>352</td><td>368</td><td>290</td><td>347</td><td>344</td><td>515</td></tr><tr><td>計</td><td>352</td><td>368</td><td>290</td><td>347</td><td>344</td><td>515</td></tr><tr><td rowspan="6">こども</td><td>栄養サポートチーム</td><td>2</td><td>8</td><td>40</td><td>20</td><td>34</td><td>176</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>27,610</td><td>27,460</td><td>25,090</td><td>23,660</td><td>29,540</td><td>2,741</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>2,200</td><td>2,535</td><td>2,550</td><td>2,470</td><td>1,280</td><td>1,575</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>-</td><td>136</td><td>590</td><td>310</td><td>340</td><td>728</td></tr><tr><td>リハビリテーション</td><td>52,394</td><td>58,836</td><td>59,137</td><td>72,397</td><td>71,689</td><td>75,490</td></tr><tr><td>計</td><td>82,206</td><td>88,975</td><td>87,407</td><td>98,857</td><td>102,883</td><td>80,710</td></tr></table>	区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師	感染制御チーム	院内2回 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士	糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師	こころ	認知症ケアチーム	1回/3ヶ月	医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士	嚥下対策チーム	1回/週	医師、看護師、言語聴覚士、栄養士	要介護患者支援管理チーム	第1・3・5火木曜日	医師、看護師、理学療法士、社会福祉士	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・薬剤師・栄養士	感染防止対策チーム	院内週1回 院外2回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	こども	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護師、薬剤師、栄養士	アレルギー（食物アレルギー）対策チーム	随時	医師・看護師・精神保健福祉士等	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・栄養士等	感染防止対策チーム	院内2回 院外4回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士					褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護師						リハビリテーション	随時・週1回 随時	医師・看護師・理学療法士等		病院	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	栄養サポートチーム	1,154	904	1,246	1,092	879	1,040	感染制御チーム	93,168	92,879	86,309	86,701	123,703	132,299	抗菌薬適正使用支援チーム	15,985	19,122	17,563	17,643	-	-	褥瘡対策チーム	4,815	2,085	755	1,630	2,545	1,160	呼吸ケアチーム	1	92	143	224	159	134	認知症ケアチーム	4,462	4,456	4,445	4,287	4,313	4,514	精神科リエゾンチーム	-	580	772	4,164	3,852	3,483	緩和ケアチーム	3,163	20,389	17,965	20,600	18,704	16,206	糖尿病透析予防診療チーム	508	998	431	235	168	294	排尿ケアチーム	200	212	388	536	350	500	こころ	RS（精神リエゾンサービス）チーム						1,360	嚥下対策チーム						517	要介護患者支援管理チーム						84	計	123,456	142,880	131,561	137,112	154,673	161,591	感染防止対策チーム	352	368	290	347	344	515	計	352	368	290	347	344	515	こども	栄養サポートチーム	2	8	40	20	34	176	感染防止対策チーム	27,610	27,460	25,090	23,660	29,540	2,741	褥瘡対策チーム	2,200	2,535	2,550	2,470	1,280	1,575	緩和ケアチーム	-	136	590	310	340	728	リハビリテーション	52,394	58,836	59,137	72,397	71,689	75,490	計	82,206	88,975	87,407	98,857	102,883	80,710	S	<p>SARS-CoV-2(以下、「新型コロナウイルス」という。)感染症への対応のため、各部署の医師、看護師等の多職種による院内感染対策のチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が5類に分類された後も、各病院では引き続き、新型コロナウイルス感染症対応時には、当該チームが各種感染症への対応を行っている。</p> <p>また、総合病院では令和元年度の精神科医師の着任以降、緩和ケアチーム及び精神科リエゾンチームによる診療報酬上の評価加算が高い水準で推移しており、収益面においても大きく貢献した。</p> <p>令和5年度は、精神科リエゾンチーム及び認知症ケアチームが中心となって認知症や精神科患者の身体合併症等に対して適切な医療を提供できる体制を整備し、精神科病棟(精神科身体合併症病棟)を開棟し運用を開始した。</p> <p>これにより、精神疾患及び身体疾患への専門治療を同時に提供することが可能となった。</p>	<p>・各病院とも多職種によるチーム医療が推進されており、患者の状況に的確に対応できる体制が確保されている。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症への対応に当たっては、令和2年度から継続して、総合病院に感染症対策室を中心とした院内感染対策チームを設置しており、各病院においても多職種からなるチームが感染防止の取組や情報収集を行うなど、院内感染対策に取り組み、県立病院として、本県の新型コロナウイルス感染症対策において重要な役割を果たし、医療提供体制の確保に貢献している。</p> <p>・診療報酬上の評価加算も堅調に増加しており、収益面においても貢献している。</p> <p>・精神身体合併症については、総合病院の精神科リエゾンチーム及び認知症ケアチームが中心となって体制整備を進め、令和4年度に開催した県立病院機構精神科あり方検討ワーキンググループを経て、令和5年度には、総合病院に精神科身体合併症病棟を設置した。</p> <p>・精神身体合併症の患者に対しては、精神科医師と一般科医師が相互に治療計画等の共有を行い、双方の症状に対応できる入院治療体制が必要である。精神科身体合併症病棟の設置により、早期に精神科・一般科の専門的治療を同時に行えるため、患者の負担軽減に寄与している。</p> <p>・精神科救急医療においては、精神身体合併症病棟の設置に伴い、県から、身体合併症の入院治療が必要かつ措置入院等が必要な患者の受入れができる病床を1床確保する身体合併症事業を受託した。これまで県内1病院のみでの対応であり、今回の総合病院の病棟設置が診療科の地域偏在の解消に寄与している。</p>	14	☆	5
区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																																																																																																																																																																																																																																
総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																
	感染制御チーム	院内2回 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																
	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士																																																																																																																																																																																																																																																																
	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師																																																																																																																																																																																																																																																																
	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師																																																																																																																																																																																																																																																																
	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																
	糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																
	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師																																																																																																																																																																																																																																																																
こころ	認知症ケアチーム	1回/3ヶ月	医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																
	嚥下対策チーム	1回/週	医師、看護師、言語聴覚士、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																
	要介護患者支援管理チーム	第1・3・5火木曜日	医師、看護師、理学療法士、社会福祉士																																																																																																																																																																																																																																																																
	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・薬剤師・栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																
	感染防止対策チーム	院内週1回 院外2回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																
こども	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護師、薬剤師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																
	アレルギー（食物アレルギー）対策チーム	随時	医師・看護師・精神保健福祉士等																																																																																																																																																																																																																																																																
	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・栄養士等																																																																																																																																																																																																																																																																
	感染防止対策チーム	院内2回 院外4回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																
	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																
				褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護師																																																																																																																																																																																																																																																													
				リハビリテーション	随時・週1回 随時	医師・看護師・理学療法士等																																																																																																																																																																																																																																																													
病院	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																												
総合	栄養サポートチーム	1,154	904	1,246	1,092	879	1,040																																																																																																																																																																																																																																																												
	感染制御チーム	93,168	92,879	86,309	86,701	123,703	132,299																																																																																																																																																																																																																																																												
	抗菌薬適正使用支援チーム	15,985	19,122	17,563	17,643	-	-																																																																																																																																																																																																																																																												
	褥瘡対策チーム	4,815	2,085	755	1,630	2,545	1,160																																																																																																																																																																																																																																																												
	呼吸ケアチーム	1	92	143	224	159	134																																																																																																																																																																																																																																																												
	認知症ケアチーム	4,462	4,456	4,445	4,287	4,313	4,514																																																																																																																																																																																																																																																												
	精神科リエゾンチーム	-	580	772	4,164	3,852	3,483																																																																																																																																																																																																																																																												
	緩和ケアチーム	3,163	20,389	17,965	20,600	18,704	16,206																																																																																																																																																																																																																																																												
	糖尿病透析予防診療チーム	508	998	431	235	168	294																																																																																																																																																																																																																																																												
	排尿ケアチーム	200	212	388	536	350	500																																																																																																																																																																																																																																																												
こころ	RS（精神リエゾンサービス）チーム						1,360																																																																																																																																																																																																																																																												
	嚥下対策チーム						517																																																																																																																																																																																																																																																												
	要介護患者支援管理チーム						84																																																																																																																																																																																																																																																												
	計	123,456	142,880	131,561	137,112	154,673	161,591																																																																																																																																																																																																																																																												
	感染防止対策チーム	352	368	290	347	344	515																																																																																																																																																																																																																																																												
	計	352	368	290	347	344	515																																																																																																																																																																																																																																																												
こども	栄養サポートチーム	2	8	40	20	34	176																																																																																																																																																																																																																																																												
	感染防止対策チーム	27,610	27,460	25,090	23,660	29,540	2,741																																																																																																																																																																																																																																																												
	褥瘡対策チーム	2,200	2,535	2,550	2,470	1,280	1,575																																																																																																																																																																																																																																																												
	緩和ケアチーム	-	136	590	310	340	728																																																																																																																																																																																																																																																												
	リハビリテーション	52,394	58,836	59,137	72,397	71,689	75,490																																																																																																																																																																																																																																																												
	計	82,206	88,975	87,407	98,857	102,883	80,710																																																																																																																																																																																																																																																												
			6	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	<p>3病院で、以下のとおり研修等を実施し安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>医療安全対策、院内感染対策研修等</p> <table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="7">集団感染数（件）</th><th colspan="2">院内感染対策研修</th><th colspan="2">医療安全対策研修</th></tr><tr><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度9月末</th><th>5年度</th><th>研修数(回)</th><th>参加者数(人)</th><th>研修数(回)</th><th>参加者数(人)</th></tr><tr><td>総合</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>24</td><td>4</td><td>12</td><td>4</td><td>4,054</td><td>24</td><td>9,480</td></tr><tr><td>こころ</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>3</td><td>435</td><td>6</td><td>791</td></tr><tr><td>こども</td><td>4</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>1,254</td><td>2</td><td>1,214</td></tr><tr><td>計</td><td>5</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>27</td><td>6</td><td>17</td><td>9</td><td>5,743</td><td>32</td><td>11,485</td></tr></table>	区分	集団感染数（件）							院内感染対策研修		医療安全対策研修		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度9月末	5年度	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)	総合	0	1	0	1	24	4	12	4	4,054	24	9,480	こころ	1	0	0	0	0	0	2	3	435	6	791	こども	4	0	1	0	3	2	3	2	1,254	2	1,214	計	5	1	1	1	27	6	17	9	5,743	32	11,485	A	<p>各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。</p> <p>医療安全研修については、前年参加者数を大幅に上回り(R4:10,486人)、積極的に取り組んだことが評価できる。</p> <p>令和5年度も、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として、感染対策室を中心に感染防止に関する取組や情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行った。</p>	<p>・院内感染対策・医療安全対策研修を継続的に実施しており、安全・安心な医療の提供に関する職員への意識付けが行われている。</p> <p>・令和5年度も、法定回数をはるかに超える回数を実施している。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症等の院内感染対策として、感染対策室をはじめとするチームにより対応している。県立病院として、本県の新型コロナウイルス対策において重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献している。</p>	14	○	6																																																																																																																																																																																	
区分	集団感染数（件）							院内感染対策研修		医療安全対策研修																																																																																																																																																																																																																																																									
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度9月末	5年度	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)																																																																																																																																																																																																																																																								
総合	0	1	0	1	24	4	12	4	4,054	24	9,480																																																																																																																																																																																																																																																								
こころ	1	0	0	0	0	0	2	3	435	6	791																																																																																																																																																																																																																																																								
こども	4	0	1	0	3	2	3	2	1,254	2	1,214																																																																																																																																																																																																																																																								
計	5	1	1	1	27	6	17	9	5,743	32	11,485																																																																																																																																																																																																																																																								



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																				
						評価	説明																																																									
			7	④⑤固定チームナーシングによる看護提供を行うことで、看護の継続性を図り、患者の安心を高める。	総合 「患者様の声」の推移（看護師） (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>ご意見</td><td>85</td><td>81</td><td>53</td><td>79</td><td>85</td><td>67</td></tr><tr><td>感謝</td><td>29</td><td>40</td><td>34</td><td>37</td><td>44</td><td>38</td></tr></table> 患者満足度調査 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>入院</td><td>98.9</td><td>98.0</td><td>98.2</td><td>97.6</td><td>99.0</td><td>98.4</td><td>90以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	ご意見	85	81	53	79	85	67	感謝	29	40	34	37	44	38	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	入院	98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上	A	令和5年度の看護師に対する「患者様の声」の件数は、感謝の件数は例年並に推移したものの、ご意見の件数は減少した。 今後も寄せられた意見を参考に質の高い看護を提供できるよう努める。				「患者様の声」の合計件数は、令和5年度は105件と例年並みの件数である。 ・固定したチームメンバーで受け持ち患者を分担して看護を行う「固定チームナーシング方式」のもと、入院から退院まで看護が展開されている。 ・看護師メンバーが固定されることで、患者に寄り添った質の高い看護の提供が可能となり、患者との間に信頼関係が強くなるものと考えられる。				7												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																										
ご意見	85	81	53	79	85	67																																																										
感謝	29	40	34	37	44	38																																																										
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																									
入院	98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上																																																									
			8	⑤患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	各病院 患者満足度調査 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>総 合</td><td>入院 98.9 外来 94.3</td><td>98.0 93.6</td><td>98.2 94.3</td><td>97.6 95.6</td><td>99.0 95.9</td><td>98.4 94.7</td><td>90以上 85以上</td></tr><tr><td>こころ</td><td>入院 — 外来 91.0</td><td>— 95.7</td><td>— 92.7</td><td>— 100.0</td><td>— 92.3</td><td>— 90.7</td><td>— 85以上</td></tr><tr><td>子ども</td><td>入院 96.1 外来 98.9</td><td>99.0 98.1</td><td>95.3 96.5</td><td>100.0 97.3</td><td>95.9 100.0</td><td>93.5 97.1</td><td>90以上 90以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	総 合	入院 98.9 外来 94.3	98.0 93.6	98.2 94.3	97.6 95.6	99.0 95.9	98.4 94.7	90以上 85以上	こころ	入院 — 外来 91.0	— 95.7	— 92.7	— 100.0	— 92.3	— 90.7	— 85以上	子ども	入院 96.1 外来 98.9	99.0 98.1	95.3 96.5	100.0 97.3	95.9 100.0	93.5 97.1	90以上 90以上	A	各病院の満足度は高い水準を維持しており、令和5年度についても各病院で患者満足度の向上に努め、目標値を超えている。				・患者満足度調査を毎年実施し、調査結果をもとに患者サービスの向上につながるよう、きめ細かい改善策が講じられている。 ・令和5年度の患者満足度は、3病院とも目標値を上回っている。	1	1	○	8																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																									
総 合	入院 98.9 外来 94.3	98.0 93.6	98.2 94.3	97.6 95.6	99.0 95.9	98.4 94.7	90以上 85以上																																																									
こころ	入院 — 外来 91.0	— 95.7	— 92.7	— 100.0	— 92.3	— 90.7	— 85以上																																																									
子ども	入院 96.1 外来 98.9	99.0 98.1	95.3 96.5	100.0 97.3	95.9 100.0	93.5 97.1	90以上 90以上																																																									
(2) 県立病院が担う役割  他の医療機関では対応困難な高度・特殊医療など、県の保健医療施策として求められている医療を誠実に提供するとともに、地域連携に努め、県内医療機関の中核病院としての役割を果たすこと。また、医療技術の進展等に対応し、高度・専門医療等の更なる充実・強化に努めること。	(2) 県立病院が担う役割  他の医療機関では対応困難な高度・専門・特殊医療が確実に提供できるように、先進的技術・治療法の導入に努める。情報通信技術を活用した医療連携や疾患ごとの地域連携を推進する。 県内医療機関の中核病院として、緊急時における後方病床の確保や人材育成などの支援体制の整備を行うとともに、地域の医療機関との機能分担や紹介率・逆紹介率の向上により、地域連携の強化を図る。  【目標値】 ・紹介率（総合、こころ、子ども） ・逆紹介率（総合、こころ、子ども）	(2) 県立病院が担う役割  県内の中核的病院として高度・専門・特殊医療を提供するため、地域の医療機関との機能分担を推進し、地域の医療機関との連携を強化する。 ①紹介・逆紹介の推進 ②地域連携クリニカルパスの推進 ③かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル（ふじのくにねっと）の推進  【目標値】 ・紹介率（総合、こころ、子ども） ・逆紹介率（総合、こころ、子ども）	—	—	総合 紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>92.7</td><td>92.4</td><td>93.8</td><td>93.5</td><td>91.3</td><td>89.7</td><td>90以上</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>171.3</td><td>174.7</td><td>195.4</td><td>200.3</td><td>188.2</td><td>173.0</td><td>175以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	紹介率	92.7	92.4	93.8	93.5	91.3	89.7	90以上	逆紹介率	171.3	174.7	195.4	200.3	188.2	173.0	175以上	B	紹介先、逆紹介先となる地域のクリニックとの情報共有、広報及び訪問等を積極的に行って連携強化に努めたが、若干の減少を見せている。施設訪問など行い連携強化に努めることとしている。				・紹介率は、目標値を下回ったが、地域医療支援病院の承認基準である紹介率80％を大きく上回っている。 ・逆紹介率は、非常に高く、県内医療機関の中核病院として、地域の医療機関との連携が積極的に図られている。一方で、分母となる初診患者数が昨年度に比べて増加したこともあり、目標値を下回っているため、診療所訪問等による病診連携の更なる促進を期待する。	2	1	○	9																									
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																									
紹介率	92.7	92.4	93.8	93.5	91.3	89.7	90以上																																																									
逆紹介率	171.3	174.7	195.4	200.3	188.2	173.0	175以上																																																									
			10	①地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	こころ 紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>51.0</td><td>56.1</td><td>51.2</td><td>45.6</td><td>53.6</td><td>54.8</td><td>57以上</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>37.0</td><td>33.7</td><td>30.1</td><td>25.2</td><td>26.9</td><td>27.0</td><td>30以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	紹介率	51.0	56.1	51.2	45.6	53.6	54.8	57以上	逆紹介率	37.0	33.7	30.1	25.2	26.9	27.0	30以上	B	紹介率・逆紹介率ともに目標値には達していないものの、紹介率、逆紹介率ともに前年度実績を上回った。 今後も他の医療機関や公的機関との連携を強めながら、当院への新規患者獲得を進めていく。				・他の医療機関では対応が困難な患者を受け入れており、継続して治療を続ける患者が多いため、逆紹介率が伸びにくい。 ・近年の紹介率・逆紹介率は新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向にあり、紹介率・逆紹介率ともに目標値を下回るものの、令和5年度は令和4年度と同程度を維持した。 ・引き続き精神科患者の地域移行に努め、高度精神科医療を担う県立病院としての役割を果たすことを期待する。	2	1	○	10																									
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																									
紹介率	51.0	56.1	51.2	45.6	53.6	54.8	57以上																																																									
逆紹介率	37.0	33.7	30.1	25.2	26.9	27.0	30以上																																																									
			11	①地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	こころ 紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>92.6</td><td>90.9</td><td>90.7</td><td>91.1</td><td>91.1</td><td>90.1</td><td>94以上</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>43.7</td><td>47.7</td><td>44.8</td><td>46.2</td><td>61.4</td><td>47.8</td><td>53以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	紹介率	92.6	90.9	90.7	91.1	91.1	90.1	94以上	逆紹介率	43.7	47.7	44.8	46.2	61.4	47.8	53以上	B	令和5年度は、紹介率については前年度並の数値を維持した。一方で、逆紹介率については、前年度を下回ったが、第3期中期目標期間中で2番目に高い数値であった。今後はより一層、地域医療機関との連携強化等を図っていく。				・紹介率は、目標値を下回ったが、地域医療支援病院の承認基準である紹介率80％を大きく上回っており、県内小児医療の中核病院として、地域の医療機関との連携が積極的に図られている。 ・逆紹介率は、今後の少子化を見据えて分母となる初診患者数の増加に努めたこともあり、目標値を下回っているが、こども病院は重篤な患者が多く、逆紹介せずに継続して診療を続ける患者が多く、新型コロナウイルス感染症の影響で重症患者の割合が上がっている状況にある。 ・なお、紹介率・逆紹介率は、第2期中期目標期間実績の最高値を目標値に設定している。	2	1	○	11																									
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																									
紹介率	92.6	90.9	90.7	91.1	91.1	90.1	94以上																																																									
逆紹介率	43.7	47.7	44.8	46.2	61.4	47.8	53以上																																																									
			12	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	総合 地域連携クリニカルパス (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>脳 卒 中</td><td>62</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td><td>49</td><td>8</td></tr><tr><td>大 腿 骨 頸 部 骨 折</td><td>57</td><td>82</td><td>104</td><td>90</td><td>85</td><td>82</td></tr><tr><td>胃 が ん</td><td>61</td><td>55</td><td>51</td><td>55</td><td>54</td><td>40</td></tr><tr><td>大 腸 が ん</td><td>124</td><td>122</td><td>102</td><td>135</td><td>138</td><td>127</td></tr><tr><td>乳 が ん</td><td>105</td><td>128</td><td>102</td><td>116</td><td>103</td><td>108</td></tr><tr><td>前 立 腺 が ん</td><td>104</td><td>16</td><td>20</td><td>35</td><td>43</td><td>45</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	脳 卒 中	62	83	102	92	49	8	大 腿 骨 頸 部 骨 折	57	82	104	90	85	82	胃 が ん	61	55	51	55	54	40	大 腸 が ん	124	122	102	135	138	127	乳 が ん	105	128	102	116	103	108	前 立 腺 が ん	104	16	20	35	43	45	A	令和5年度も、地域の医療機関等との連携により、地域連携クリニカルパスの適用を推進し、円滑な運用に努めた。				・地域連携クリニカルパスの適用患者数は、令和4年度から減少したが、かかりつけ医やリハビリテーション病院などとの機能分担に努めている。				12
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																										
脳 卒 中	62	83	102	92	49	8																																																										
大 腿 骨 頸 部 骨 折	57	82	104	90	85	82																																																										
胃 が ん	61	55	51	55	54	40																																																										
大 腸 が ん	124	122	102	135	138	127																																																										
乳 が ん	105	128	102	116	103	108																																																										
前 立 腺 が ん	104	16	20	35	43	45																																																										





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																																																					
						評価	説明																																																																																																																																																																										
医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供すること。また、認知症をはじめとした精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症及び二次的障害を含む発達障害への対応など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を活かし、相互に連携を取り、適切な対応を図ること。 その他、移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題に取り組み、今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。	ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。	ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。 特に、SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)など新興感染症については、感染拡大防止のため、県との連携・協力体制を整備し、診療機能の強化に努める。 【総】・結核病棟を維持する。また各種感染症や難病、アレルギー疾患医療は県内医療機関との連携・協力関係を進める。 ・新興感染症について、県と連携・協力して病床を確保するなど拡大防止に対応できる体制を充実し、県の中核病院としての役割を果たす。 【総・子】・腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取組みを継続する。 【子】・アレルギー疾患拠点病院として、講習会の実施等の取組みを継続する。	15	総合・ミニマム・ミニモ	(総合) 結核病棟は50床で運用している。 エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。  <table><tr><td colspan="7">入院患者数（総合）（単位：人）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>エイズ</td><td colspan="6">非公開</td></tr><tr><td>結 核</td><td>111</td><td>92</td><td>95</td><td>85</td><td>48</td><td>54</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">移植実績（総合）（単位：件）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>腎移植</td><td>14</td><td>17</td><td>12</td><td>10</td><td>13</td><td>12</td></tr><tr><td>造血幹細胞移植</td><td>17</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>14</td><td>16</td></tr><tr><td>強角膜片作成</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>33</td><td>34</td><td>26</td><td>22</td><td>29</td><td>29</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">造血幹細胞移植実績(こども)（単位：件）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>骨髄移植</td><td>5</td><td>2</td><td>8</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>臍帯血</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>自家末梢血</td><td>4</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td></tr><tr><td>同種末梢血</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>14</td><td>10</td><td>12</td><td>6</td><td>10</td><td>9</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">アレルギー疾患に関する研修会・講演会開催件数（単位：件）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>総 合</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>こども</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr></table> <table><tr><td colspan="4">新型コロナウイルス感染症受入体制（令和5年時点）</td></tr><tr><td></td><td>病床数</td><td>時 期</td><td>備 考</td></tr><tr><td>総 合</td><td>24床</td><td>令和4年12月～</td><td>6A病棟 最大24床（※令和5年5月から一般病棟で受入れ）</td></tr><tr><td>こころ</td><td>4床</td><td>令和2年4月～</td><td>2床はスタッフ用(※令和5年5月より解除)</td></tr><tr><td>こども</td><td>8床</td><td>令和5年7月～</td><td>PICU、MFICU、NICU、北4病棟、CCU</td></tr></table>	入院患者数（総合）（単位：人）							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	エイズ	非公開						結 核	111	92	95	85	48	54	移植実績（総合）（単位：件）							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	腎移植	14	17	12	10	13	12	造血幹細胞移植	17	14	13	12	14	16	強角膜片作成	2	3	1	0	2	1	計	33	34	26	22	29	29	造血幹細胞移植実績(こども)（単位：件）							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	骨髄移植	5	2	8	3	3	3	臍帯血	3	3	2	2	2	2	自家末梢血	4	4	1	1	4	2	同種末梢血	2	1	1	0	1	2	計	14	10	12	6	10	9	アレルギー疾患に関する研修会・講演会開催件数（単位：件）							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総 合	1	1	0	1	1	1	こども	4	3	2	2	2	3	新型コロナウイルス感染症受入体制（令和5年時点）					病床数	時 期	備 考	総 合	24床	令和4年12月～	6A病棟 最大24床（※令和5年5月から一般病棟で受入れ）	こころ	4床	令和2年4月～	2床はスタッフ用(※令和5年5月より解除)	こども	8床	令和5年7月～	PICU、MFICU、NICU、北4病棟、CCU	A	(総合) 新型コロナウイルス感染症患者の受入について、令和5年5月8日より5類に移行後は、国の方針に基づき、一般病棟での対応を行い、地域の新型コロナウイルス感染症患者の受入を行っている。 結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況において、当院は50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。 移植については、生体移植を含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を実施している。令和5年度も、前年度に引き続き同水準で移植をしている。 (こころ) 県の要請により新型コロナウイルス感染症に対応する病床を4床(うち2床をスタッフ用)を整備し、令和2年4月から令和5年5月まで運用した。なお、令和5年度中の患者受け入れ実績はなかった。 (こども) 新型コロナウイルス感染症に対応するため、令和5年度は8床(PICU1床、MFICU1床、NICU1床、北4病棟3床、CCU2床)を確保し、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れた。 今回の日本における新型コロナウイルス感染パンデミックの経験を踏まえ、第8次静岡県保健医療計画中間見直しにおいて新興・再興感染症対策が追加されたことから、当院が県内小児医療の最後の砦としての役割を果たすべく、県と感染症指定医療機関の指定に向けた調整を行っている。 また、移植医療に関しては、先進的医療である造血幹細胞移植に取り組み、令和4年度実績並の9件を実施した。 その他、アレルギー疾患に関する県民向け・医療者向けの講習会を実施しており、令和5年度は3回開催した。	14	○	15
	入院患者数（総合）（単位：人）																																																																																																																																																																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																											
エイズ	非公開																																																																																																																																																																																
結 核	111	92	95	85	48	54																																																																																																																																																																											
移植実績（総合）（単位：件）																																																																																																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																											
腎移植	14	17	12	10	13	12																																																																																																																																																																											
造血幹細胞移植	17	14	13	12	14	16																																																																																																																																																																											
強角膜片作成	2	3	1	0	2	1																																																																																																																																																																											
計	33	34	26	22	29	29																																																																																																																																																																											
造血幹細胞移植実績(こども)（単位：件）																																																																																																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																											
骨髄移植	5	2	8	3	3	3																																																																																																																																																																											
臍帯血	3	3	2	2	2	2																																																																																																																																																																											
自家末梢血	4	4	1	1	4	2																																																																																																																																																																											
同種末梢血	2	1	1	0	1	2																																																																																																																																																																											
計	14	10	12	6	10	9																																																																																																																																																																											
アレルギー疾患に関する研修会・講演会開催件数（単位：件）																																																																																																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																											
総 合	1	1	0	1	1	1																																																																																																																																																																											
こども	4	3	2	2	2	3																																																																																																																																																																											
新型コロナウイルス感染症受入体制（令和5年時点）																																																																																																																																																																																	
	病床数	時 期	備 考																																																																																																																																																																														
総 合	24床	令和4年12月～	6A病棟 最大24床（※令和5年5月から一般病棟で受入れ）																																																																																																																																																																														
こころ	4床	令和2年4月～	2床はスタッフ用(※令和5年5月より解除)																																																																																																																																																																														
こども	8床	令和5年7月～	PICU、MFICU、NICU、北4病棟、CCU																																																																																																																																																																														
	エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。 【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。 【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他への充実を図る。	総合	患者サポートセンター退院調整件数（単位：件） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>件数</td><td>6,810</td><td>5,217</td><td>6,007</td><td>6,517</td><td>6,661</td><td>6,618</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">退院支援関係診療報酬算定件数実績（単位：件）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>退院調整加算（旧）</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>退院支援加算1（新）</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>入退院支援加算1※</td><td>4,816</td><td>3,987</td><td>5,403</td><td>6,008</td><td>5,890</td><td>6,004</td></tr><tr><td>退院時リハビリテーション指導料</td><td>530</td><td>1,113</td><td>3,529</td><td>2,957</td><td>2,839</td><td>2,979</td></tr><tr><td>計</td><td>5,346</td><td>5,100</td><td>8,932</td><td>8,965</td><td>8,729</td><td>8,983</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	6,810	5,217	6,007	6,517	6,661	6,618	退院支援関係診療報酬算定件数実績（単位：件）							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	退院調整加算（旧）	—	—	—	—	—	—	退院支援加算1（新）	—	—	—	—	—	—	入退院支援加算1※	4,816	3,987	5,403	6,008	5,890	6,004	退院時リハビリテーション指導料	530	1,113	3,529	2,957	2,839	2,979	計	5,346	5,100	8,932	8,965	8,729	8,983	A	患者サポートセンターの看護師、MSWや理学療法士等が中心となり、入院早期から退院調整を積極的に支援している。			16																																																																																																								
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																											
件数	6,810	5,217	6,007	6,517	6,661	6,618																																																																																																																																																																											
退院支援関係診療報酬算定件数実績（単位：件）																																																																																																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																											
退院調整加算（旧）	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																											
退院支援加算1（新）	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																											
入退院支援加算1※	4,816	3,987	5,403	6,008	5,890	6,004																																																																																																																																																																											
退院時リハビリテーション指導料	530	1,113	3,529	2,957	2,839	2,979																																																																																																																																																																											
計	5,346	5,100	8,932	8,965	8,729	8,983																																																																																																																																																																											



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点 点	数 値	評 価	No																																															
						評価	説明																																																				
			16 ～ 18	リハビ リテー ション	<p>リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてよりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。</p> <p>リハビリテーション活動実施件数（単位：件）</p> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>精神科作業療法</td><td>5,494</td><td>4,483</td><td>5,427</td><td>4,552</td><td>4,010</td><td>3,969</td></tr><tr><td>デイケア</td><td>6,023</td><td>4,462</td><td>2,653</td><td>1,388</td><td>1,875</td><td>2,595</td></tr><tr><td>計</td><td>11,517</td><td>8,945</td><td>8,080</td><td>5,949</td><td>5,885</td><td>6,564</td></tr></table> <p>訪問看護実施件数（単位：件）</p> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>訪問看護実施件数</td><td>3,996</td><td>3,704</td><td>3,841</td><td>3,643</td><td>3,726</td><td>4,121</td></tr><tr><td>（うち複数訪問）</td><td>31</td><td>38</td><td>46</td><td>37</td><td>71</td><td>57</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	精神科作業療法	5,494	4,483	5,427	4,552	4,010	3,969	デイケア	6,023	4,462	2,653	1,388	1,875	2,595	計	11,517	8,945	8,080	5,949	5,885	6,564	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	訪問看護実施件数	3,996	3,704	3,841	3,643	3,726	4,121	（うち複数訪問）	31	38	46	37	71	57	B	<p>令和5年度は、デイケア活動を中止することなく継続出来ており、徐々にコロナ流行前の実施体制に移行している。また、院内の窓口や売店などで案内ポスターの掲示やパンフレットの配架を行う等の広報活動により、患者の増加に努めている。</p> <p>訪問看護活動については、各部署の活動が再開されたことにより複数の職種での訪問が難しくなったが、積極的に訪問を行い、コロナ前の実績を上回った。今後も積極的な実施に努めていく。</p>	15	△	17
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																					
精神科作業療法	5,494	4,483	5,427	4,552	4,010	3,969																																																					
デイケア	6,023	4,462	2,653	1,388	1,875	2,595																																																					
計	11,517	8,945	8,080	5,949	5,885	6,564																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																					
訪問看護実施件数	3,996	3,704	3,841	3,643	3,726	4,121																																																					
（うち複数訪問）	31	38	46	37	71	57																																																					
				リハビ リテー ション	<p>リハビリ実施実績（単位：件）</p> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>理学療法</td><td>17,309</td><td>22,829</td><td>22,985</td><td>24,683</td><td>25,770</td><td>26,886</td><td>15,000</td></tr><tr><td>作業療法</td><td>6,039</td><td>4,546</td><td>3,813</td><td>7,794</td><td>11,495</td><td>11,333</td><td>—</td></tr><tr><td>言語聴覚療法</td><td>7,901</td><td>9,744</td><td>10,162</td><td>10,045</td><td>9,555</td><td>10,332</td><td>—</td></tr><tr><td>計</td><td>31,249</td><td>37,119</td><td>36,960</td><td>42,522</td><td>46,820</td><td>48,551</td><td>—</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000	作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	—	言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	—	計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	—	S	<p>令和5年度リハビリ実施件数は、過去最大件数であった令和4年度の数値を上回る結果となった。令和4年度に件数が大幅に増えた作業療法は、令和5年度もその件数を維持し、理学療法及び言語聴覚療法は前年度を上回る件数となった。</p> <p>作業療法に関しては、令和3年度に増員された療法士が経験を積むことにより運用の幅が広がり、入院患者のうち集中治療系病棟の患者にも対応することで件数が増加している。</p> <p>また、理学療法に関して、令和4年4月から算定可能となったPICUでの早期離床・リハビリテーション加算（入室後14日間に500点/人/日）について、令和5年度もPICU入室患者のほぼ全例に早期離床の介入ができた。早期離床への意識も高まりPICU退室後もシームレスな機能回復の継続を目的に各主治医からのリハビリの処方が増加した。</p> <p>今後もさらなる質の向上を図っていく。</p>	15	☆	18									
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																				
理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000																																																				
作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	—																																																				
言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	—																																																				
計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	—																																																				
	オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	19	総合	<p>遺伝診療科受診者数（単位：人）</p> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>受診者数</td><td>101</td><td>146</td><td>227</td><td>233</td><td>270</td><td>266</td></tr></table> <p>【参考】エキスパートパネル実施件数（単位：人）</p> <table><tr><th>区 分</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>受診者数</td><td>38</td><td>46</td><td>46</td><td>94</td></tr></table> <p>【参考】遺伝カウンセリング件数（単位：人）</p> <table><tr><th>区 分</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>受診者数</td><td>227</td><td>233</td><td>270</td><td>266</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	受診者数	101	146	227	233	270	266	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	受診者数	38	46	46	94	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	受診者数	227	233	270	266	A	<p>遺伝診療に関する診療は年々増加傾向にあったが、令和5年度の実績は、令和4年度と同程度の高い水準を維持した。</p>			○	19														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																					
受診者数	101	146	227	233	270	266																																																					
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度																																																							
受診者数	38	46	46	94																																																							
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度																																																							
受診者数	227	233	270	266																																																							



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No
						評価	説明					
							A					20
							A					21
							A					22

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																									
						評価	説明																																																																														
	キ 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	キ 移行期医療支援センターの運用などによる移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	23	・SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)などの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。 (No.15再掲) ・機構内各病院や他医療機関、県などと連携して移行期医療及び成人期医療を提供する。 ・【こころ】総合病院、こども病院と連携した県立3病院の精神科医療体制構築を進める。 ・【子】県担当課と協議しつつ、受託した移行期医療支援センターの運営を行い、業務内容の充実を図る ・【子】No.59	移行期医療件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こども→総合</td><td>610</td><td>666</td><td>995</td><td>1,367</td><td>1,100</td><td>918</td></tr><tr><td>こども→こころ</td><td>-</td><td>19</td><td>18</td><td>15</td><td>28</td><td>31</td></tr></table> 関連するカンファレンス等の開催実績 (単位：回) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績</td><td>2</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数</td><td>1</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数</td><td>5</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> ※ 令和2年度に短期入所事業者の指定を受け、令和4年度から入所している  移行期医療推進協議会の開催 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>移行期医療推進協議会の開催</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>0</td></tr></table>  移行期医療センターに関する委員会等の実施回数 (単位：件数) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>移行期医療センターに関する委員会等の実施回数</td><td>-</td><td>11</td><td>18</td><td>9</td><td>7</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こども→総合	610	666	995	1,367	1,100	918	こども→こころ	-	19	18	15	28	31	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	2	5	0	0	0	0	移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	1	6	4	3	2	2	医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	5	3	6	6	3	4	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	移行期医療推進協議会の開催	-	-	-	-	1	0	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	-	11	18	9	7	新型コロナウイルス感染症への対応については、総合病院及びこども病院が県から重点医療機関に指定されており、各病院において患者受入体制を整備し、県と調整のうえ患者の受入を行ってきた。 移行期医療への対応については、機構内における医療情報システム(電子カルテシステム)の統合を進め、令和5年5月に稼働を開始した。これにより、今後患者情報の病院間の相互参照が可能となり、医療サービスの向上が期待される。 (総合) 令和5年度の実診患者数は、令和4年度実績とほぼ横這いとなった。 (こころ) 当院とこども病院間での医師による合同カンファレンスについては実施していないものの、相互の医局間で連携したことにより、こども病院で対応出来ない重篤な精神疾患症例の児童の受け入れを実施し、期間中最高件数の受入ができた。 (こども) 県から移行期医療支援センター運営事業を受託し、県と連携して移行期医療支援体制の推進に取り組んだ。 令和5年度は小児科から成人医療施設への紹介実績調査のほか、こども病院として、患者の自立を促すための自立支援外来の実施、静岡市医師会と重症心身障がい児の移行のためのカンファレンスを行った。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応について、令和2年度に指定障害福祉サービスによる短期入所事業者の指定を受け、令和5年度は3人(延人数)の利用があった。	・こども病院は県の受託事業として、令和2年9月に静岡県移行期医療支援センターを開設し、医療機関関連マップの作成などを移行期医療支援体制の拡充に取り組んでいる。 ・総合病院、こども病院では移行期医療関連部署を令和2年度に設置しており、令和5年度における病院間の移行期医療件数は、こども病院と総合病院間、こども病院とこころの医療センター間のいずれも令和4年度と同水準となっている。 (参考) ・医療の発達により、小児期の慢性疾患による死亡率が減少する一方で、原疾患治療や合併症への対応が長期化し、思春期・成人期を迎える患者が増えているが、小児期と成人期の診療科・医療機関の連携は十分ではない。 ・国は、移行期医療に対応可能な医療機関情報を把握・公表し、小児期と成人期の医療機関等の連絡調整・連携支援、患者の自律支援等を担う総合的なセンター機能を、各都道府県に1箇所以上設置することを求めている。 ・移行期医療は、小児診療科から成人診療科に完全に移行する疾病、両方でケアが必要な疾病、小児診療科で継続してケアが必要な疾病と、疾病の種類や状況に応じて、求められる診療体制が異なる点が特徴である。	15	○	23
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																															
こども→総合	610	666	995	1,367	1,100	918																																																																															
こども→こころ	-	19	18	15	28	31																																																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																															
こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	2	5	0	0	0	0																																																																															
移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	1	6	4	3	2	2																																																																															
医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	5	3	6	6	3	4																																																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																															
移行期医療推進協議会の開催	-	-	-	-	1	0																																																																															
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																
移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	-	11	18	9	7																																																																																
	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システム統合をはじめとした医療情報の共有化に取組む。 また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。		・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。 ・3病院の医療情報システム統合を実施し、セキュリティを強化した上で、地域医療連携などICTを利用したサービスの向上を目指す。	施設及び機器等の整備状況 <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="7">施設整備</th></tr><tr><th>第2期累計 (実績)</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>第3期累計</th></tr><tr><td>総合</td><td>16,132</td><td>1,091</td><td>1,472</td><td>1,866</td><td>383</td><td>685</td><td>4,813</td></tr><tr><td>こころ</td><td>992</td><td>139</td><td>246</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>390</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,764</td><td>148</td><td>829</td><td>190</td><td>136</td><td>282</td><td>1,303</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>0</td><td>78</td><td>395</td><td>358</td><td>3,304</td><td>831</td></tr><tr><td>合計</td><td>18,887</td><td>1,379</td><td>2,626</td><td>2,456</td><td>877</td><td>4,271</td><td>7,338</td></tr></table>	区 分	施設整備							第2期累計 (実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	総合	16,132	1,091	1,472	1,866	383	685	4,813	こころ	992	139	246	5	0	0	390	こども	1,764	148	829	190	136	282	1,303	本部	0	0	78	395	358	3,304	831	合計	18,887	1,379	2,626	2,456	877	4,271	7,338	(総合) 施設整備に関しては、本館電気設備改修工事が完了した。令和6年度は引き続き、本館非常用発電機更新工事及び劣化改修工事を行う予定である。 器械備品に関しては、超電導磁石式全身用MR装置、据置型デジタル式循環器用X線透視診断装置等の更新を行った。 (こころ) 施設整備に関しては、厨房改修や設備改修等に関する検討を進めた。 器械備品に関しては、多項目自動血球分析装置、歯科用パノラマX線撮影装置等の更新	・令和5年度においては、総合病院やこども病院における約76億円の施設及び機器等の整備を実施し、高度な治療への対応強化や療養環境の向上に取り組んでいる。 ・医療機器の購入においては、機器購入委員会を開き、優先順位の高い機器から購入を行うなど、適切な管理がされている。令和5年度は総合病院でMR装置を購入したほか、令和4年度から5年度にかけて、3病院の医療情報システムの統合(電子カルテシステムの統合を含む)を行っている。																							
区 分	施設整備																																																																																				
	第2期累計 (実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計																																																																														
総合	16,132	1,091	1,472	1,866	383	685	4,813																																																																														
こころ	992	139	246	5	0	0	390																																																																														
こども	1,764	148	829	190	136	282	1,303																																																																														
本部	0	0	78	395	358	3,304	831																																																																														
合計	18,887	1,379	2,626	2,456	877	4,271	7,338																																																																														



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																						
						評価	説明																																																											
			24	各病院・本部	<div>(単位：百万円)</div> <table><tr><th colspan="8">器械備品等</th></tr><tr><th></th><th>第2期累計 (実績)</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>第3期累計</th></tr><tr><td>総合</td><td>6,788</td><td>706</td><td>894</td><td>708</td><td>1,049</td><td>1,724</td><td>3,356</td></tr><tr><td>こころ</td><td>169</td><td>31</td><td>31</td><td>8</td><td>14</td><td>24</td><td>84</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,834</td><td>308</td><td>747</td><td>567</td><td>717</td><td>454</td><td>2,339</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>0</td><td>44</td><td>0</td><td>1</td><td>1,166</td><td>45</td></tr><tr><td>合計</td><td>8,791</td><td>1,045</td><td>1,716</td><td>1,283</td><td>1,780</td><td>3,368</td><td>5,824</td></tr></table> <div>医療情報システム統合の実施状況 ・質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムを統合、令和5年5月から稼働を開始した。</div>	器械備品等									第2期累計 (実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	総合	6,788	706	894	708	1,049	1,724	3,356	こころ	169	31	31	8	14	24	84	こども	1,834	308	747	567	717	454	2,339	本部	0	0	44	0	1	1,166	45	合計	8,791	1,045	1,716	1,283	1,780	3,368	5,824	A	を行った。 (こども) 施設整備に関しては、昇降機改修工事及び外来天井改修工事が完了した。 器械備品に関しては、生体情報モニタ及びドクターカーの更新を行った。 (本部) 質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、機構内における医療情報システムの統合を行い、令和5年5月に3病院共通電子カルテシステムの稼働を開始した。	17	○	24
器械備品等																																																																		
	第2期累計 (実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計																																																											
総合	6,788	706	894	708	1,049	1,724	3,356																																																											
こころ	169	31	31	8	14	24	84																																																											
こども	1,834	308	747	567	717	454	2,339																																																											
本部	0	0	44	0	1	1,166	45																																																											
合計	8,791	1,045	1,716	1,283	1,780	3,368	5,824																																																											
	ケ 各県立病院は、質の高い医療を継続的に提供するため、次のとおり重点的に取り組む。	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																						
	県立総合病院	<sup>(7)</sup> 県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん疾患)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療 県民に提供する医療＜業務予定量＞ 病床数 718床 一般病床 662床 結核病床 50床 精神病床 6床 外来患者 455,056人 入院患者 227,436人	25	総合	<div>入院・外来患者数</div> <div>(単位：人)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>233,305</td><td>225,595</td><td>203,298</td><td>207,398</td><td>199,210</td><td>211,603</td><td>227,436</td></tr><tr><td>(うち結核病床)</td><td>6,406</td><td>4,967</td><td>5,223</td><td>4,918</td><td>3,260</td><td>3,977</td><td>-</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>436,699</td><td>448,945</td><td>425,092</td><td>455,056</td><td>455,776</td><td>457,778</td><td>455,056</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	入院患者数	233,305	225,595	203,298	207,398	199,210	211,603	227,436	(うち結核病床)	6,406	4,967	5,223	4,918	3,260	3,977	-	外来患者数	436,699	448,945	425,092	455,056	455,776	457,778	455,056	B	入院患者数については、新型コロナウイルス感染症の対応を継続しながら、令和2年度以前の数字まで戻りつつあり、順調に増加している。 一方、外来患者数については、令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度実績を超え過去最高を更新した。	3	1	○	25																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																											
入院患者数	233,305	225,595	203,298	207,398	199,210	211,603	227,436																																																											
(うち結核病床)	6,406	4,967	5,223	4,918	3,260	3,977	-																																																											
外来患者数	436,699	448,945	425,092	455,056	455,776	457,778	455,056																																																											
・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、常時高度な専門的治療を提供する。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	○循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を活かした常時高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を最大限に活かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する常時救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(Mitra Clip)等の低侵襲かつ高度な手術の実施	①冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に常時対応できる体制を構築し、高度専門診療を提供する。	26	総合	CCU/ICUは平成30年9月より14床で運用している。  CCU／ICU稼働率 <div>(単位：％)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>稼働率(％)</td><td>119.1</td><td>100.3</td><td>88.6</td><td>95.7</td><td>87.4</td><td>96.3</td></tr><tr><td>入室患者数(人)</td><td>771</td><td>866</td><td>802</td><td>925</td><td>795</td><td>853</td></tr><tr><td>1日平均(人)</td><td>14.3</td><td>14.0</td><td>12.4</td><td>13.4</td><td>12.2</td><td>13.5</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	稼働率(％)	119.1	100.3	88.6	95.7	87.4	96.3	入室患者数(人)	771	866	802	925	795	853	1日平均(人)	14.3	14.0	12.4	13.4	12.2	13.5	A	CCU/ICUの稼働率及び1日平均入室患者数は、令和4年度は新型肺炎患者の重症化に伴い、一時的に稼働の制限を行っていたが、令和5年度は制限はなくなり、稼働率、入室患者数ともに増加した。	3	○	26																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																												
稼働率(％)	119.1	100.3	88.6	95.7	87.4	96.3																																																												
入室患者数(人)	771	866	802	925	795	853																																																												
1日平均(人)	14.3	14.0	12.4	13.4	12.2	13.5																																																												



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																	
						評価	説明																																																																																																						
			27	②脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	総合  脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>62</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td><td>49</td><td>8</td></tr></table> 超急性期脳卒中加算（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>16</td><td>35</td><td>28</td><td>32</td><td>20</td><td>28</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	算定件数	62	83	102	92	49	8	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	算定件数	16	35	28	32	20	28	A	脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数について、対象となる患者が減少したことにより、令和5年度は前年度に引き続き減少した。院内においては地域連携パスについて再周知し、引き続き、地域の医療機関等との連携により、パスの適用を推進し、円滑な運用に努める。 しかしながら超急性期脳卒中加算は前年度を上回る結果となった。 また、今後も、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。				27																																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																							
算定件数	62	83	102	92	49	8																																																																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																							
算定件数	16	35	28	32	20	28																																																																																																							
			28	③生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	総合  糖尿病透析予防指導管理料（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>145</td><td>285</td><td>123</td><td>67</td><td>48</td><td>91</td></tr></table> (単位：件) <table><tr><th colspan="4">区 分</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td colspan="4">腎代替療法指導管理料</td><td>211</td><td>164</td><td>177</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	算定件数	145	285	123	67	48	91	区 分				3年度	4年度	5年度	腎代替療法指導管理料				211	164	177	A	糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病・内分泌内科外来、そらまめ外来、透析室における指導により算定する。また、糖尿病透析予防指導管理料と腎代替療法指導管理料の対象患者は重複しているため、腎代替療法患者の増加に伴い、糖尿病透析予防管理料の患者数は減少している。 令和4年度の算定件数は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、人員配置の変更が大きく影響したが、令和5年度は、昨年度を上回る結果となった。				28																																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																							
算定件数	145	285	123	67	48	91																																																																																																							
区 分				3年度	4年度	5年度																																																																																																							
腎代替療法指導管理料				211	164	177																																																																																																							
			29	④ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	総合  ハイブリッド手術室稼動状況（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>ハイブリッド手術室使用件数</td><td>706</td><td>486</td><td>484</td><td>512</td><td>525</td><td>563</td><td>400以上</td></tr><tr><td>TAVI実施件数 ※上記の内数</td><td>74</td><td>67</td><td>65</td><td>105</td><td>81</td><td>84</td><td>－</td></tr><tr><td>ステントグラフト挿入術 ※上記の内数</td><td>91</td><td>125</td><td>76</td><td>99</td><td>120</td><td>108</td><td>－</td></tr><tr><td>Mitra Clip件数 ※上記の内数</td><td>12</td><td>24</td><td>14</td><td>21</td><td>11</td><td>14</td><td>－</td></tr></table> 参考（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>P C I</td><td>450</td><td>368</td><td>363</td><td>349</td><td>333</td><td>274</td></tr><tr><td>アブレーション</td><td>253</td><td>284</td><td>267</td><td>305</td><td>262</td><td>282</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	ハイブリッド手術室使用件数	706	486	484	512	525	563	400以上	TAVI実施件数 ※上記の内数	74	67	65	105	81	84	－	ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	91	125	76	99	120	108	－	Mitra Clip件数 ※上記の内数	12	24	14	21	11	14	－	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	P C I	450	368	363	349	333	274	アブレーション	253	284	267	305	262	282	A	MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管撮影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト内挿術、MitraClip等の手術に使用される。 ハイブリッド手術室の稼動状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇し、令和5年度は令和4年度を上回る結果となった。 令和5年度の稼働状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は令和4年度実績と同程度を維持している。	3	1	○	29																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																						
ハイブリッド手術室使用件数	706	486	484	512	525	563	400以上																																																																																																						
TAVI実施件数 ※上記の内数	74	67	65	105	81	84	－																																																																																																						
ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	91	125	76	99	120	108	－																																																																																																						
Mitra Clip件数 ※上記の内数	12	24	14	21	11	14	－																																																																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																							
P C I	450	368	363	349	333	274																																																																																																							
アブレーション	253	284	267	305	262	282																																																																																																							
	・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備し、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供していく。	○がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、手術、放射線治療、化学療法に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用	30	①がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	総合  がん手術件数（単位：件、％） <table><tr><th>区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>胃がん</td><td>340</td><td>366</td><td>351</td><td>351</td><td>392</td><td>347</td></tr><tr><td>大腸がん</td><td>687</td><td>696</td><td>759</td><td>776</td><td>732</td><td>787</td></tr><tr><td>肝がん</td><td>366</td><td>260</td><td>328</td><td>255</td><td>232</td><td>264</td></tr><tr><td>肺がん</td><td>134</td><td>194</td><td>213</td><td>180</td><td>184</td><td>169</td></tr><tr><td>乳がん</td><td>449</td><td>511</td><td>440</td><td>454</td><td>441</td><td>448</td></tr><tr><td>その他</td><td>1,241</td><td>1,549</td><td>1,355</td><td>1,630</td><td>1,600</td><td>1,509</td></tr><tr><td>がん手術合計</td><td>3,217</td><td>3,576</td><td>3,446</td><td>3,646</td><td>3,581</td><td>3,524</td></tr><tr><td>手術全体</td><td>8,651</td><td>9,225</td><td>8,513</td><td>8,798</td><td>8,525</td><td>8,931</td></tr><tr><td>がん手術割合</td><td>37.2</td><td>38.8</td><td>40.5</td><td>41.4</td><td>42.0</td><td>39.5</td></tr></table> ※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上  内視鏡検査・処置（単位：件） <table><tr><th>年度</th><th>上部消化管検査</th><th>下部消化管検査</th><th>ERCP検査</th><th>気管支鏡検査</th><th>その他</th><th>合計</th></tr><tr><td>元年度</td><td>10,489</td><td>2,813</td><td>445</td><td>389</td><td>56</td><td>14,192</td></tr><tr><td>2年度</td><td>9,817</td><td>2,771</td><td>404</td><td>291</td><td>38</td><td>13,321</td></tr><tr><td>3年度</td><td>10,540</td><td>2,740</td><td>400</td><td>250</td><td>54</td><td>14,119</td></tr></table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	胃がん	340	366	351	351	392	347	大腸がん	687	696	759	776	732	787	肝がん	366	260	328	255	232	264	肺がん	134	194	213	180	184	169	乳がん	449	511	440	454	441	448	その他	1,241	1,549	1,355	1,630	1,600	1,509	がん手術合計	3,217	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524	手術全体	8,651	9,225	8,513	8,798	8,525	8,931	がん手術割合	37.2	38.8	40.5	41.4	42.0	39.5	年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計	元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192	2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321	3年度	10,540	2,740	400	250	54	14,119	B	がん手術件数は、令和4年度若干減少したものの、令和5年度の件数は順調に推移しており、コロナ禍前の令和元年度当時の水準と同等となった。  放射線治療件数は、高精度放射線治療に比重を置いていることで件数自体は抑えられているが、その中でも件数は順調に推移しており、目標値と同程度の件数となった。	4	1	○	30
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																							
胃がん	340	366	351	351	392	347																																																																																																							
大腸がん	687	696	759	776	732	787																																																																																																							
肝がん	366	260	328	255	232	264																																																																																																							
肺がん	134	194	213	180	184	169																																																																																																							
乳がん	449	511	440	454	441	448																																																																																																							
その他	1,241	1,549	1,355	1,630	1,600	1,509																																																																																																							
がん手術合計	3,217	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524																																																																																																							
手術全体	8,651	9,225	8,513	8,798	8,525	8,931																																																																																																							
がん手術割合	37.2	38.8	40.5	41.4	42.0	39.5																																																																																																							
年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計																																																																																																							
元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192																																																																																																							
2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321																																																																																																							
3年度	10,540	2,740	400	250	54	14,119																																																																																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																										
						評価	説明																																															
					<table><tr><td>3年度</td><td>10,040</td><td>2,749</td><td>420</td><td>300</td><td>34</td><td>13,110</td></tr><tr><td>4年度</td><td>10,058</td><td>2,727</td><td>445</td><td>306</td><td>47</td><td>13,583</td></tr><tr><td>5年度</td><td>9,903</td><td>2,767</td><td>410</td><td>281</td><td>54</td><td>13,415</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">放射線治療（単位：件）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>5年度目標</td></tr><tr><td>件数</td><td>15,772</td><td>1,100</td><td>1,104</td><td>1,257</td><td>980</td><td>978</td><td>1,000</td></tr></table> ※令和元年度より放射線治療管理料算定件数とする。	3年度	10,040	2,749	420	300	34	13,110	4年度	10,058	2,727	445	306	47	13,583	5年度	9,903	2,767	410	281	54	13,415	放射線治療（単位：件）							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	件数	15,772	1,100	1,104	1,257	980	978	1,000					
3年度	10,040	2,749	420	300	34	13,110																																																
4年度	10,058	2,727	445	306	47	13,583																																																
5年度	9,903	2,767	410	281	54	13,415																																																
放射線治療（単位：件）																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																															
件数	15,772	1,100	1,104	1,257	980	978	1,000																																															
			31	①外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。	総合  外来化学療法加算（単位：件） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>5年度目標</td></tr><tr><td>件数</td><td>12,159</td><td>12,707</td><td>12,660</td><td>12,812</td><td>13,854</td><td>13,862</td><td>12,000以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	件数	12,159	12,707	12,660	12,812	13,854	13,862	12,000以上	S	外来化学療法については、外来化学療法センターの移転リニューアルや前日採血の運用を導入するなど、患者の療養環境や利便性が大幅に向上し、令和5年度の外来化学療法加算算定件数は13,000件を上回り、過去最多の実施件数となった。 また、がん薬物療法(抗がん剤治療)による脱毛抑制のための頭部冷却装置(PAXMAN)を導入し乳がん患者を対象に治療を開始している。乳がんを含む固形癌に対する薬物療法を受ける患者の、治療中及び治療後の脱毛抑制が期待でき、患者サービスの向上、及び対象患者のQOLの向上が図られる。	・抗がん剤療法を主とする化学療法は、外科的療法である手術、内科的療法である放射線治療と並び、がん治療の3本柱の1つである。 ・令和2年度に実施した外来化学療養センターの移転リニューアルを経て、令和5年度の外来化学療法加算件数は、過去最大件数となった。 ・外来化学療法センターのリニューアルや、前日採血の実施、抗がん剤治療の副作用である脱毛を抑制する頭部冷却装置(PAXMAN)の導入など、第3期中期目標期間を通じたハード・ソフト両面での取り組みの効果が現れている。 ・日常生活を送りながら治療を行うことができる、外来化学療法の充実は、がん患者に対する質の高い医療の提供だけでなく、治療と生活の両立などQOLの向上に大きく寄与している。	4	1	☆	31																										
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																															
件数	12,159	12,707	12,660	12,812	13,854	13,862	12,000以上																																															
			32	②地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	総合  緩和ケアチーム介入症例数（単位：件） <table><tr><td>区分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>症例数</td><td>418</td><td>527</td><td>482</td><td>548</td><td>396</td><td>383</td></tr></table> 緩和ケア診療加算算定件数（単位：件） <table><tr><td>区分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>件数</td><td>812</td><td>5249</td><td>4,417</td><td>5,308</td><td>4,796</td><td>4,372</td></tr></table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	症例数	418	527	482	548	396	383	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	812	5249	4,417	5,308	4,796	4,372	A	緩和ケアチームは、緩和医療科医師、精神科医師、がんに関連する専門・認定看護師等で構成され、院内のがん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。 また、がん患者等の社会復帰を支援するため、院内にハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携による就労支援出張相談窓口を設置し、通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフによる無料の就労相談を行っている。	・「緩和ケア」は終末期医療のみならず、近年は、がん治療におけるできるだけ早い段階での開始の必要性が認識されている。 ・がんに伴う身体や精神の苦痛があっても患者が自分らしく生活できるよう、緩和医療科医と精神科医、専門知識を有する看護師・薬剤師等が連携する緩和ケアチームが、身体面・精神面の症状を軽減するための医療を提供している。 ・令和5年度の診療加算算定件数は令和4年度と同程度となり、地域がん診療連携拠点病院として、今後も、高度な集学的治療や適切な緩和医療の提供が期待される。				32														
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																
症例数	418	527	482	548	396	383																																																
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																
件数	812	5249	4,417	5,308	4,796	4,372																																																
			33	③がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	総合  がん相談件数（単位：件） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>がん相談</td><td>4,374</td><td>4,742</td><td>4,458</td><td>3,493</td><td>2,456</td><td>2,241</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	がん相談	4,374	4,742	4,458	3,493	2,456	2,241	A	がん相談支援センターにおいて、がんに関連する専門・認定看護師を中心に対面及び電話による相談を実施している。 がん相談件数については、令和5年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での相談件数が減少傾向であるため、前年度と同水準となった。	・がん相談支援センターには国立がん研究センター主催の相談員研修を修了した相談員2人(専従1人・専任1人)を配置している。その他、がん看護専門看護師1人(専任)、緩和ケア認定看護師1人(専任)、がん化学療法認定看護師1人(専任)、乳がん認定看護師2人(専任)が外来、病棟において相談業務を行っており、がん患者が相談しやすい体制が確保されている。				33																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																
がん相談	4,374	4,742	4,458	3,493	2,456	2,241																																																



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																														
						評価	説明																																																																			
			34	④手術支援ロボットを増設するなど、高度・先進医療に対応できる手術体制の充実を図り、質の高い医療の提供を行う。	<div>ロボット支援手術件数（単位：件）</div> <table><tr><td>診療科</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>5年度目標</td></tr><tr><td>泌尿器科</td><td>112</td><td>104</td><td>135</td><td>132</td><td>132</td><td>136</td><td>—</td></tr><tr><td>婦人科</td><td>18</td><td>25</td><td>23</td><td>25</td><td>18</td><td>31</td><td>—</td></tr><tr><td>消化器外科</td><td>83</td><td>70</td><td>82</td><td>92</td><td>163</td><td>222</td><td>—</td></tr><tr><td>心臓血管外科</td><td>—</td><td>—</td><td>3</td><td>12</td><td>15</td><td>18</td><td>—</td></tr><tr><td>計</td><td>213</td><td>199</td><td>243</td><td>261</td><td>328</td><td>407</td><td>230以上</td></tr></table> <div>ロボット支援手術者数（単位：人）</div> <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>人数</td><td>11</td><td>12</td><td>16</td><td>23</td><td>21</td><td>38</td></tr></table>	診療科	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	泌尿器科	112	104	135	132	132	136	—	婦人科	18	25	23	25	18	31	—	消化器外科	83	70	82	92	163	222	—	心臓血管外科	—	—	3	12	15	18	—	計	213	199	243	261	328	407	230以上	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	人数	11	12	16	23	21	38	S	ロボット支援手術は、患者にとっては低侵襲というメリットがあるが、経営面においては消耗品や機器の保守費用等を現在の診療報酬では賄うことができないという問題点があるため、手術部において適用症例を見極めたうえで実施している。 手術件数については、目標値及び令和4年度実績を大きく上回る結果となった。 運用に当たっては、手術講師を東京大学医学部、東京医科大学等から招聘し、術者の指導に充て、常に高度医療技術の習得に努めている。 令和4年度からはロボット手術運営部会を立ち上げ、より良いロボット支援手術の運営に努めているほか、総合病院の婦人科医師がロボット手術学会の学会会長を務めるなど、婦人科のロボット支援施術の普及、発展、技術の向上に貢献している。	・これまでのダ・ヴィンチ2台体制に加え、令和4年度には国産手術支援ロボット「hinotori」を購入し、手術支援ロボット3台体制で泌尿器科、婦人科、消化器外科、心臓血管外科における手術に対応し、ロボット支援手術の拡充を図った。 ・ロボット支援手術件数は第3期中期目標期間を通じて増加しており、令和5年度は407件と、目標値230件を大幅に上回り、過去最大となった。 ・ロボット支援手術の運用においては、外部講師の招聘や、ロボット手術運営部会の設立など、常に技術の習得に努めており、高度な専門的医療の提供体制が拡充されている。	4	1	☆	34
診療科	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																			
泌尿器科	112	104	135	132	132	136	—																																																																			
婦人科	18	25	23	25	18	31	—																																																																			
消化器外科	83	70	82	92	163	222	—																																																																			
心臓血管外科	—	—	3	12	15	18	—																																																																			
計	213	199	243	261	328	407	230以上																																																																			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																				
人数	11	12	16	23	21	38																																																																				
	・認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制を整備する。	○認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制の運用開始 ①認知症や精神科患者の身体合併症に対応する病棟の開棟（精神科身体合併症病棟）など医療提供体制の充実	No.20		こころの医療センターとの連携による常勤の精神科医師5名の着任により、精神科患者の身体合併症に対応する精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが協働しながら治療を行っている。 また、精神疾患と身体疾患を併せ持つ精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、令和5年4月から精神科病棟（精神科身体合併症病棟）を開棟した。 加えて令和5年4月から精神科病棟の運用を開始し、静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託した。	A	令和5年4月から精神科病棟の運用を開始し、静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託している。 精神科病棟運用開始により、主に県内中部・東部の身体合併を有する精神科患者の受け入れを行い、他施設での対応が困難な症例について年間延べ774名の入院管理を行った。	・精神科リエゾンチームは、身体の病気で入院中の患者の不安、不眠、抑うつ、せん妄等の精神症状や心理的な問題に対し適切なサポートが行えるよう、精神科医、認知症看護認定看護師、薬剤師が主治医と連携しながら活動した。 ・認知症や精神疾患を伴う身体合併症の増加に対応するため、総合病院の精神科リエゾンチーム及び認知症ケアチームが中心となって体制整備を進め、令和5年度に精神身体合併症病棟を設置した。 ・精神科救急医療においては、精神身体合併症病棟の設置に伴い、県から、身体合併症の入院治療が必要かつ措置入院等が必要な患者の受け入れができる病床を1床確保する身体合併症事業を受託した。これまで県内1病院のみでの事業であったが、総合病院への設置により、患者の負担軽減及び診療科の地域偏在の解消に寄与している。 ・精神身体合併症病棟の運営にあたっては、機構3病院の連携体制の更なる強化が進むことを期待する。				35																																																														
	・先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用により、適切な治療を提供していく。	○先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用による適切な治療の提供 ①ハイブリッド手術室を活用した高度専門医療の推進 ②高度放射線治療の推進	先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する。 ①No.29 ②No.30		<div>手術件数（単位：件）</div> <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>手術件数</td><td>9,327</td><td>9,814</td><td>9,126</td><td>9,395</td><td>9,160</td><td>9,459</td><td>9,400以上</td></tr></table> <div>HCU延患者数（単位：人）</div> <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>人数</td><td>6,872</td><td>6,426</td><td>5,569</td><td>5,759</td><td>5,669</td><td>6,537</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	手術件数	9,327	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,400以上	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	人数	6,872	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537	A	先端医学棟では、最新の設備と医療機器を最大限に活用した高度・先進医療を実施している。特に、3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室と術後管理を行うHCU20床の一体的かつ効率的な運用に努めている。なお、令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度以前と同様の件数まで回復し、目標件数を達成した。 令和4年9月に総合病院先端医学棟で発生した火災により、病理学部の機能をリサーチ・サポート・センターに移転して診療を継続していたが、令和5年9月末に復旧工事が完了した。	・MRI・CT・血管造影の3種類のハイブリッド手術室を含む23室の手術室、20床のHCU病床を備えた先端医学棟の稼働以降、手術待ちの状況はほぼ解消されている。 ・HCU延患者数は、第3期中期目標期間において、新型コロナウイルス感染症等の影響により落ち込んでいるが、令和5年度は大幅に増加し、コロナ禍以前と同水準に回復しつつある。 ・手術件数は、新型コロナウイルス感染症等の影響により、令和2年度以降は目標値を下回っていたが、令和5年度においては目標値を上回っている。	5	1	○	36																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																			
手術件数	9,327	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,400以上																																																																			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																				
人数	6,872	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537																																																																				



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																							
						評価	説明																																																																												
	・高度救命救急センターとして一層の充実を図り、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応していく。	○重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①救急搬送患者の受入体制の充実	37	①②医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。	医師の変則勤務試行状況 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>該当者（人）</td><td>1,717</td><td>1,784</td><td>1,893</td><td>1,838</td><td>1,864</td><td>1,909</td></tr><tr><td>利用者（人）</td><td>966</td><td>1,047</td><td>1,224</td><td>1,139</td><td>1,176</td><td>1,197</td></tr><tr><td>利用率（％）</td><td>56.3</td><td>58.7</td><td>64.7</td><td>61.9</td><td>63.1</td><td>62.7</td></tr></table> ※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	該当者（人）	1,717	1,784	1,893	1,838	1,864	1,909	利用者（人）	966	1,047	1,224	1,139	1,176	1,197	利用率（％）	56.3	58.7	64.7	61.9	63.1	62.7	A	救急患者の円滑な受入体制を維持するため、各診療科の協力のもと、医師の変則勤務を進めている。令和5年度の利用者数は前年度をやや上回った。	6	○	37																																													
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																													
該当者（人）	1,717	1,784	1,893	1,838	1,864	1,909																																																																													
利用者（人）	966	1,047	1,224	1,139	1,176	1,197																																																																													
利用率（％）	56.3	58.7	64.7	61.9	63.1	62.7																																																																													
			③救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出勤可能な市町の拡大に努める。	救急科医師9名体制で稼働  救急車受入率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>当番日</td><td>97.1</td><td>90.9</td><td>87.7</td><td>94.4</td><td>93.3</td><td>92.0</td></tr><tr><td>全 日</td><td>97.4</td><td>92.3</td><td>92.5</td><td>94.4</td><td>93.4</td><td>93.3</td></tr></table>  特殊疾病患者受入数 (単位：件) <table><tr><th>疾病名</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>重症熱傷</td><td>14</td><td>11</td><td>9</td><td>4</td><td>14</td><td>21</td></tr><tr><td>重症外傷</td><td>378</td><td>380</td><td>431</td><td>335</td><td>410</td><td>480</td></tr><tr><td>急性中毒</td><td>30</td><td>46</td><td>26</td><td>39</td><td>60</td><td>64</td></tr><tr><td>病院外心停止</td><td>186</td><td>174</td><td>201</td><td>182</td><td>236</td><td>236</td></tr><tr><td>計</td><td>608</td><td>611</td><td>667</td><td>560</td><td>720</td><td>801</td></tr></table>  ドクターカー出勤状況 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>12</td><td>12</td><td>8</td><td>11</td><td>9</td><td>13</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	当番日	97.1	90.9	87.7	94.4	93.3	92.0	全 日	97.4	92.3	92.5	94.4	93.4	93.3	疾病名	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	重症熱傷	14	11	9	4	14	21	重症外傷	378	380	431	335	410	480	急性中毒	30	46	26	39	60	64	病院外心停止	186	174	201	182	236	236	計	608	611	667	560	720	801	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	12	12	8	11	9	13	A	救急科医師数に変化はない。救急当直体制の見直しを行っているが、現在も医師数が充足しているとは言えない状況である。 令和5年度の救急患者数及び救急車受入件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、令和4年度実績と同水準で推移した。特殊疾患患者も積極的に受け入れ、高度救命救急センターとしての機能を果たしている。 ドクターカーは事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対して出勤している。令和5年度の出動件数は13件と、令和4年度に比べ増加した。
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																													
当番日	97.1	90.9	87.7	94.4	93.3	92.0																																																																													
全 日	97.4	92.3	92.5	94.4	93.4	93.3																																																																													
疾病名	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																													
重症熱傷	14	11	9	4	14	21																																																																													
重症外傷	378	380	431	335	410	480																																																																													
急性中毒	30	46	26	39	60	64																																																																													
病院外心停止	186	174	201	182	236	236																																																																													
計	608	611	667	560	720	801																																																																													
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																													
件数	12	12	8	11	9	13																																																																													
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①手術件数の増加 ②病床稼働率90%以上の維持 ③患者満足度(入院・外来)の向上	39	①No.36 ②効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する ③No.8	病床稼働率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>一般病床</td><td>93.9</td><td>91.1</td><td>84.8</td><td>88.2</td><td>82.6</td><td>85.4</td><td>90以上</td></tr><tr><td>全体</td><td>89.8</td><td>86.6</td><td>80.7</td><td>83.7</td><td>78.0</td><td>80.5</td><td>-</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	一般病床	93.9	91.1	84.8	88.2	82.6	85.4	90以上	全体	89.8	86.6	80.7	83.7	78.0	80.5	-	B	令和5年度は、目標値を下回るが、昨年度よりも増加する結果となった。5月8日以降、一般病床にて新型コロナウイルス感染症患者を受け入れている。入院中に発生した患者も含め新型コロナウイルス発症入院患者数は420名となる。																																																				
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																												
一般病床	93.9	91.1	84.8	88.2	82.6	85.4	90以上																																																																												
全体	89.8	86.6	80.7	83.7	78.0	80.5	-																																																																												
	【目標値】 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合)	【目標値】県立総合病院 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合) ・ハイブリッド手術件数(総合) ・放射線治療症例件数(総合) ・外来化学療法件数(総合) ・ロボット支援手術件数 (ダヴィンチ等使用手術件数)	—	—	—	—	—	—	3	1	△	39																																																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																															
						評価	説明																																																																				
	県立こころの医療センター	<sup>(4)</sup> 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療 ＜業務予定量＞ 病床数 274床 精神病床 274床 外来患者 39,647人 入院患者 55,551人	40	—	入院・外来患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>57,217</td><td>54,037</td><td>53,246</td><td>49,296</td><td>50,282</td><td>52,898</td><td>55,551</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>42,454</td><td>39,647</td><td>37,285</td><td>36,692</td><td>36,761</td><td>36,865</td><td>39,647</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	入院患者数	57,217	54,037	53,246	49,296	50,282	52,898	55,551	外来患者数	42,454	39,647	37,285	36,692	36,761	36,865	39,647	B	入院患者数、外来患者数ともに前年度を上回っており、コロナ前の状況に近づいているが、目標値には到達しなかった。 引き続き、他の医療機関では対応困難な重症患者などを積極的に受け入れ、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしていく。																																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																				
入院患者数	57,217	54,037	53,246	49,296	50,282	52,898	55,551																																																																				
外来患者数	42,454	39,647	37,285	36,692	36,761	36,865	39,647																																																																				
	・常時精神科救急医療相談に応じ、患者の支援体制の充実を図る。 ・救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の充実を図る。	○精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①常時精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備 ②救急患者を常時受入可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備	41	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	平成15年4月より、県の委託事業として県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応している。 年4回発行し、関係機関、公的機関及び就労支援施設等に配布する当センター広報誌「ぬくもり」や、当センターホームページへ「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し、周知を図っている。  精神科救急ダイヤル件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>全相談件数</td><td>2,718</td><td>3,957</td><td>3,649</td><td>1,857</td><td>2,111</td><td>2,063</td></tr><tr><td>うち時間外</td><td>1,482</td><td>2,153</td><td>2,678</td><td>1,288</td><td>1,530</td><td>1,517</td></tr></table>  時間外における救急診療件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>件 数</td><td>331</td><td>390</td><td>335</td><td>313</td><td>252</td><td>249</td><td>300以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	全相談件数	2,718	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063	うち時間外	1,482	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	件 数	331	390	335	313	252	249	300以上	B	24時間365日対応可能な相談・診療体制を整え、県との委託契約により全県の精神科救急の窓口となる「精神科救急ダイヤル」を運営しており、必要時に必要な相談を受け、必要な診療を実施出来る体制を整えている。令和5年4月からは、県の精神科救急医療対策事業において、従来の志太榛原圏域の病院群輪番型に加え、全圏域常時対応型の後方支援施設としての指定を受けており、よりスピード感を持った対応と、断らない精神科救急の実践が求められている。																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																					
全相談件数	2,718	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063																																																																					
うち時間外	1,482	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																				
件 数	331	390	335	313	252	249	300以上																																																																				
			42	①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	早期治療、早期退院の実践により、救急病棟（南2・北2）における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たすことができた。  新規患者率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>施設基準</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>救 急</td><td>南2</td><td>40%以上</td><td>71.3</td><td>73.4</td><td>61.7</td><td>68.7</td><td>69.0</td><td>72.0</td></tr><tr><td>救 急</td><td>北2</td><td>40%以上</td><td>72.4</td><td>64.8</td><td>60.8</td><td>67.4</td><td>67.0</td><td>59.0</td></tr></table>  新規患者3ヶ月以内在宅移行率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>施設基準</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>救 急</td><td>南2</td><td>60%以上</td><td>73.0</td><td>78.7</td><td>89.4</td><td>82.9</td><td>86.0</td><td>86.9</td></tr><tr><td>救 急</td><td>北2</td><td>60%以上</td><td>85.4</td><td>79.7</td><td>86.7</td><td>86.3</td><td>77.4</td><td>77.9</td></tr></table>	区 分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	救 急	南2	40%以上	71.3	73.4	61.7	68.7	69.0	72.0	救 急	北2	40%以上	72.4	64.8	60.8	67.4	67.0	59.0	区 分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	救 急	南2	60%以上	73.0	78.7	89.4	82.9	86.0	86.9	救 急	北2	60%以上	85.4	79.7	86.7	86.3	77.4	77.9	A	令和5年の新規患者率及び新規患者3か月以内在宅移行率ともにほぼ前年度並みであり、基準を満たしている。 救急・急性期治療病棟の役割を適切に果たすとともに、精神科救急入院料の施設基準を維持することができた。																
区 分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																				
救 急	南2	40%以上	71.3	73.4	61.7	68.7	69.0	72.0																																																																			
救 急	北2	40%以上	72.4	64.8	60.8	67.4	67.0	59.0																																																																			
区 分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																				
救 急	南2	60%以上	73.0	78.7	89.4	82.9	86.0	86.9																																																																			
救 急	北2	60%以上	85.4	79.7	86.7	86.3	77.4	77.9																																																																			
	・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。	○他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度専門医療(クロザピン、m－ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組	43	①薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。 高度・専門医療の積極的な実施	m-ECT実施件数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>延件数(件)</td><td>832</td><td>870</td><td>737</td><td>827</td><td>665</td><td>715</td><td>700以上</td></tr><tr><td>実患者数</td><td>66</td><td>70</td><td>59</td><td>56</td><td>54</td><td>62</td><td>—</td></tr><tr><td>中部地区</td><td>58</td><td>62</td><td>55</td><td>53</td><td>51</td><td>56</td><td>—</td></tr><tr><td>(静岡市)</td><td>43</td><td>50</td><td>45</td><td>43</td><td>43</td><td>48</td><td>—</td></tr><tr><td>東部地区</td><td>3</td><td>5</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>5</td><td>—</td></tr><tr><td>西部地区</td><td>4</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>—</td></tr><tr><td>その他</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	延件数(件)	832	870	737	827	665	715	700以上	実患者数	66	70	59	56	54	62	—	中部地区	58	62	55	53	51	56	—	(静岡市)	43	50	45	43	43	48	—	東部地区	3	5	3	1	2	5	—	西部地区	4	2	1	2	1	1	—	その他	1	1	0	0	0	0	—	A	m-ECT治療については、令和5年度は715件の治療を実施し、前年度、目標数値ともに上回った。				
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																				
延件数(件)	832	870	737	827	665	715	700以上																																																																				
実患者数	66	70	59	56	54	62	—																																																																				
中部地区	58	62	55	53	51	56	—																																																																				
(静岡市)	43	50	45	43	43	48	—																																																																				
東部地区	3	5	3	1	2	5	—																																																																				
西部地区	4	2	1	2	1	1	—																																																																				
その他	1	1	0	0	0	0	—																																																																				
								・県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療、精神科救急医療、司法精神医療を提供している。 ・新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床確保等の影響により、入院・外来患者数は、コロナ前までの回復に至っていない。 ・一方で、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、専用病床の確保数の縮小や、デイケアの活動制限の解除等により、令和5年度は、入院患者数は、昨年度を上回り、外来患者数は同水準となる。 ・今後も感染症対策を継続しつつ、県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療、精神科救急医療、司法精神医療を提供していくことを期待する。	7	1	○	40																																																															
								・県からこころの医療センターへの業務委託により実施されている、精神科救急ダイヤルは、24時間体制で「よろず相談スタッフ」に一元化されており、精神保健福祉士等15人がローテーションを組んで運用している。 ・相談件数は、特定の患者から頻回の相談があること等の理由で、年度により増減があるが、令和5年度は令和4年度と同程度である。 ・相談内容への的確な対応や、新患予約の迅速化などの効果のほかにも、外来看護師が他院での対応が困難な支援度が高い通院患者へのケアに集中できるようになるなど、外来業務の充実にも寄与している。 ・県の精神科救急医療体制において、従来の志太榛原圏域の病院群輪番型への指定に加え、令和5年度から新たに全県を対象とした常時対応型の後方支援施設に指定された。24時間体制で急性憎悪等に対応できる精神科救急医療体制の構築に向けて、県内唯一の後方支援施設としての取組が期待される。	7	1	○	41																																																															
								・通常の入院医療と比べて多くのマンパワーと厳しい算定基準が課される精神科救急入院料を算定する南2(43床)・北2(45床)病棟においては、算定基準である新規患者率40%以上、新規患者3か月以内在宅移行率60%を大幅に上回る水準となっており、再入院等の課題はあるものの、引き続き早期退院の促進及び地域移行支援が期待される。				42																																																															
								・m－ECT実施件数については、令和5年度においては目標値を上回り、他の医療機関から患者を積極的に受け入れている。 ・m－ECTの実施にあたっては、麻酔科医の確保が必要となるが、対応可能な麻酔科医は全国的にも少なく、機構内部での確保が困難であるため、現状は外部の麻酔科医の協力で対応している。引き続き安定した実施体制の確保が期待される (参考) ・m－ECT(修正型電気けいれん療法)は、頭部への電気刺激により、脳内に治療的影響を与える治療法である。麻酔科医による全身麻	7	1	○	43																																																															



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																															
						評価	説明																																				
			44	①先端薬物療法（クロザピンなど）を積極的に実施する。	平成23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、令和5年度末現在91名に対して継続投与中である。 静岡県内においては、現在10件の登録機関があるが、当院は3番目に承認を受けている。  クロザピン投与患者数 (単位：人) <table><tr><th>項目</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>患者数</td><td>55</td><td>60</td><td>65</td><td>73</td><td>83</td><td>91</td><td>75</td></tr></table>	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	患者数	55	60	65	73	83	91	75	A	令和5年度末現在で投与患者数は91人となっており、目標を大きく上回っている。			・クロザピンは、令和2年度診療報酬改定における算定要件の見直し等によって普及促進が図られ、令和5年度のクロザピン投与患者数は91件で、令和4年度実績及び目標値を上回った。 (参考) ・クロザピンは、難知性の統合失調症に高い効果を示す抗精神病薬である。 ・平成21年に発売開始されたが、高い治療効果の反面、白血球の減少といった重篤な副作用が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられており、適正使用委員会の事前承認を受け、施設登録された機関のみが使用できる。 ・登録の要件として、精神病床を有する医療機関の血液内科医との連携が求められていることから、静岡市立静岡病院と緊急時の連携体制を構築している。	7	1	○	44													
項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																				
患者数	55	60	65	73	83	91	75																																				
			45	①心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。  心理教育参加者数 (単位：人) <table><tr><th>項目</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>210</td><td>154</td><td>86</td><td>93</td><td>83</td><td>142</td></tr></table>  心理教育研修会参加者数 (単位：人) <table><tr><th>項目</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>136</td><td>66</td><td>35</td><td>29</td><td>0</td><td>26</td></tr></table>	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	参加者数	210	154	86	93	83	142	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	参加者数	136	66	35	29	0	26	A	令和5年度は外部活動を徐々に再開し、研修参加者数は前年度実績を上回った。院内の心理教育研修会についても後期に実施した。			・第3期中期目標期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響による活動縮小が続いているが、令和5年度は、心理教育参加者数は令和4年度実績を上回った。 ・今後も、継続的な開催ができるよう期待する。 (参考) ・心理教育とは、病気に関する知識を提供し、地域で暮らしていく力量を身に付けさせ、医療機関での治療から精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行われる支援法である。				45	
項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																					
参加者数	210	154	86	93	83	142																																					
項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																					
参加者数	136	66	35	29	0	26																																					
	・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。	○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようにするための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	46	①在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。 平成22年2月の支援開始以来延べ28名の支援活動を実施している。  ACT実施状況 <table><tr><th></th><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td rowspan="2">対象者</td><td>外来</td><td>11人</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td></tr><tr><td>入院</td><td>0人</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td></tr><tr><td rowspan="2">活動状況</td><td>外来</td><td colspan="6" rowspan="2">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td></tr><tr><td>入院</td></tr></table>			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	対象者	外来	11人	4	4	4	4	3	入院	0人	2	1	1	1	3	活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス						入院	A	令和5年度は入院患者3人及び外来患者3人に対して支援活動を実施した。	8		○	46
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																				
対象者	外来	11人	4	4	4	4	3																																				
	入院	0人	2	1	1	1	3																																				
活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																									
	入院																																										
	・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。	○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への指定医療機関としての積極的な関与	47	①医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	令和5年度については、9月末現在で、2名の退院、1名の新規入院があった。  医療観察法病棟の稼働状況 (単位：床・%) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>病床数（床）</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td></tr><tr><td>病床利用率（%）</td><td>96.0</td><td>84.1</td><td>98.2</td><td>102.4</td><td>110.3</td><td>100.1</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	病床数（床）	12	12	12	12	12	12	病床利用率（%）	96.0	84.1	98.2	102.4	110.3	100.1	A	令和5年度末現在の医療観察法病床は12床が満床となっている。なお、5月まで司法患者1名が特定病床に在院していたことから、稼働率は100%を超えている。			・医療観察法は、心神喪失等の状態で重大な他害行為を犯してしまった人に対して、必要な医療提供や社会復帰促進を図るための法律であり、こころの医療センターは、県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として、12床で稼働している。 ・入院は地方裁判所の処遇決定のもと、厚生労働省からの要請に基づき行われるが、退院後は地域社会における適切な処遇が必要となることから、通院医療提供、生活保護、社会復帰支援、訪問指導等を担う関連行政機関との連携も重要である。 ・稼働率の増減は、厚生労働省からの入院要請の有無次第であるが、令和5年度は満床の状態を維持しており、社会的要請である司法精神医療に対応している。	9		○	47								
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																					
病床数（床）	12	12	12	12	12	12																																					
病床利用率（%）	96.0	84.1	98.2	102.4	110.3	100.1																																					

- 16 -



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																															
						評価	説明																																				
	・認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応を図る。	○認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応 ①多様な精神疾患及び小児から成人への移行期における精神疾患等に対応するための体制の構築に向けた取組	48	①総合病院における身体合併症患者への精神科医療の提供体制を整備する。 ・公立病院経営強化プラン等の精神医療の方針を踏まえ、県内精神医療の中核病院としての役割を担う体制を整備する。 また、病棟整備計画の策定や県民要望に対応した新たな体制を構築し、休床病床の解消を行う。 ・総合病院、こども病院などと連携し、児童精神分野における精神科医療の提供体制の整備を図る。	令和2年4月より総合病院へ精神科医師1名を追加配置し、医師2名の体制とし、身体合併症の精神科リエゾン機能を強化するとともに、病棟整備に向けた検討会に参画している。	A	身体合併症の精神科リエゾン機能を強化するため、精神科医2名を当院と総合病院の兼務としている。 今後、認知症や依存症、発達障害、思春期における症状等の多様な精神疾患への対応するため、必要な施設整備を進めていく。	・こころの医療センターと総合病院で精神科医師2名を兼務とし、身体合併症患者への精神科リエゾン機能の強化などチーム医療の充実に効果を上げている。 ・病棟全体の整備については、将来的な医療需要や、病院機構3病院の精神科医療提供体制のあり方を踏まえた検討及び方針決定を期待する。	16	○	48																																
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①国の公立病院経営強化政策指針や県、病院機構における精神科のあり方検討を踏まえた医療体制及び病棟の整備 ②クロザピン投与患者数の増加 ③病床稼働率85%以上の維持 ④患者満足度(外来)の向上	49	①No.48 ②No.44 ③常時、救急患者を受け入れる体制の維持と、多職種連携による早期退院促進による効率的な病院運営に努める。 ④No.8	病床稼働率 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>稼働率</td><td>91.1</td><td>85.8</td><td>84.8</td><td>78.5</td><td>80.1</td><td>84.0</td><td>85以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	稼働率	91.1	85.8	84.8	78.5	80.1	84.0	85以上	B	新型コロナウイルス感染症の感染対策を継続しつつ、効率的な病床運営を行ったことにより、令和5年度末時点の病床稼働率は昨年度より改善されたものの目標値には達しなかった。	・新型コロナウイルス感染症の専用病床の確保等の影響により、病床稼働率は低下しており、令和5年度は目標値を下回る。 ・一方で、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、専用病床の確保数を縮小したことから、昨年度を上回る。引き続き、稼働率の向上に努めることを期待する。	71	△	49																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																				
稼働率	91.1	85.8	84.8	78.5	80.1	84.0	85以上																																				
	【目標値】 ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ)	【目標値】県立こころの医療センター ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ) ・時間外診療件数(こころ) ・m－ECT実施件数(こころ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																															
	県立こども病院	<sup>(9)</sup> 県立こども病院診療事業 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療を提供する。また、小児期から成人期への移行期医療に取組む。 県民に提供する医療 ＜業務予定量＞ 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 121,675人 入院患者 75,900人	50	—	入院・外来患者数 (単位：人) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>5年度目標</td></tr><tr><td>入院患者数</td><td>75,395</td><td>75,736</td><td>65,681</td><td>66,476</td><td>67,877</td><td>68,088</td><td>75,900</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>110,185</td><td>111,874</td><td>103,773</td><td>121,675</td><td>117,697</td><td>115,904</td><td>121,675</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	入院患者数	75,395	75,736	65,681	66,476	67,877	68,088	75,900	外来患者数	110,185	111,874	103,773	121,675	117,697	115,904	121,675	B	令和5年5月の電子カルテの更新に伴い、安全確保を優先し、入院及び外来患者の受入れ調整を行ったこともあり、入院患者数、外来患者数ともに、目標値には届かなかったが、令和4年度並の患者数となった。 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療の提供に努めた。	・県内小児医療の中核病院として、総合的・専門的な小児・周産期医療を提供している。 ・入院患者数及び外来患者数は、新型コロナウイルス感染症専用病床の確保等の影響により、昨年度と同水準となっている。県内全域の小児・周産期医療ニーズへの適切な対応や県と協働した医療提供体制の構築、患者者数増加に向けて地域の医療機関との連携強化に取り組んでいる。	10	1	○	50							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																				
入院患者数	75,395	75,736	65,681	66,476	67,877	68,088	75,900																																				
外来患者数	110,185	111,874	103,773	121,675	117,697	115,904	121,675																																				
	・小児重症心疾患患者に対してハイブリッド手術室等の先進設備を活用し、常時高度な先進的治療を提供する。小児心疾患治療の先導的施設として専門医等の育成に努める。	○小児重症心疾患患者に対し、常時高度な専門的治療を提供する体制の充実及び小児心疾患治療の先進的な施設としての専門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ常時対応による専門的治療の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療スタッフに対する教育体制の充実や小児集中治療室(PICU)及び新生児集中治療室(NICU)及び循環器集中治療室(CCU)の相互研修の実施を通じた治療レベルの向上による循環器センターの機能強化		①心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後管理を行う小児集中治療室(PICU)を加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。 ②新生児集中治療室(NICU)・小児集中治療室(PICU)と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。 ③小児用補助人工心臓装置の活用のために職員を研修に派遣する。 ④心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ⑤心臓カテーテル室及び心臓カテーテル室の稼働率を向上させる	平成28年に循環器病棟に設置した準重症患者対応病室は、順調に運用されている。今後も効果的な運用を継続していく。	心臓カテーテル治療実績 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>5年度目標</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>179</td><td>206</td><td>192</td><td>204</td><td>187</td><td>245</td><td>230以上</td></tr></table>  ハイブリッド手術実績 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td></td></tr><tr><td>件数</td><td>8</td><td>5</td><td>8</td><td>6</td><td>4</td><td>8</td><td></td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	実施件数	179	206	192	204	187	245	230以上	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		件数	8	5	8	6	4	8		循環器科、心臓血管外科を中心とした連携により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れた。 令和5年度のハイブリッド手術室における心臓カテーテル治療件数は、245件と目標値を上回る推移結果となった。また、同手術室におけるハイブリッド手術実績も8件と高水準であった。 令和4年度に県内初の治療を行った経皮的肺動脈弁置換術(TPVI)についても、令和5年度も着実に件数を伸ばした。 カテーテル室について、当院の小児心臓カテーテル治療件数は全国トップレベルであり、令和5年度は全国トップレベルを維持する。	・スタッフ教育に関しては、循環器センター所属医師による合同カンファレンスや勉強会等の開催、循環器科・心臓血管外科・循環器集中治療科をローテートする「循環器センター総合修練医」の育成など、高度な循環器疾患医療の専門医を育成している。 ・令和3年6月にPICUとCCUを統合したことにより、令和4年度及び令和5年度の稼働率は大幅に上昇しており、患者の一元管理による効率的な治療が行われている。 ・心臓カテーテル治療実績は、第3期中期目標期間において、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一定程度の件数を保つに留まっていたが、令和5年度には全国トップレベルを維持する。			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																				
実施件数	179	206	192	204	187	245	230以上																																				
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																					
件数	8	5	8	6	4	8																																					

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No
						評価	説明					
		③の機能を強化 ③小児用補助人工心臓装置の活用に向けた体制整備 ④心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ⑤血管撮影装置の2台化による循環器治療の提供体制の整備	51		⑤カテーテル2室化工事及び血管撮影装置を設置する。	こども	A	更なる件数の増加を見込めることから、部署の増設及び血管撮影装置の設置についても検討していく。 小児用補助人工装置活用の再開に向けた取組として、当院循環器科の医師1名が国立成育医療研究センターにて継続的に研修を受けており、臨床工学技士、看護師等も関連する研修を受講した。院内においても、委員会を開催し、マニュアル整備、組織作り等について検討した。 また、令和3年度にPICUとCCUを統合し、CCU病棟はHCUの役割を持たせた後方病棟とした。令和5年度も効率的な病棟運用が行われ90％近い病床稼働率を維持した。 さらに、心エコー画像の遠隔診断実績7件と高水準であるった。 なお、循環器センターにおいて、令和5年度、12名の研修医を受け入れた。	10	1	○	51
	・地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるほか、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する。	○地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対しての高度な専門的治療を提供する体制の拡充 ①先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置のための機器整備 ②新生児集中治療室(NICU)における低侵襲手術の実施	52		①最新式の超音波診断装置を導入する。 ②必要に応じNICU内での手術を継続実施する。	こども	A	最新式の超音波診断装置など最先端の医療機器を整備し、先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置等を適切に行った。 こども病院は、他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を数多く受け入れている。令和5年度も、1,500g未満の新生児入院患者について、受入れ実績を着実に重ねた。 また、令和5年度、NICUの入院延患者数及び病床稼働率はコロナ流行前の令和元年度を上回る数値となった。結果、新生児回復室であるGCUの入院患者数及び病床稼働率も高水準となった。 令和5年度の産科入院患者数は前年度を上回り、4000人台となった。 なお、地域医療機関を対象とした研修会、検討会については、令和5年度は2回開催した。	11		○	52
	・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。	○小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、がん診療の機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化 ④AYA世代がん診療の連携等を推進 ⑤がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等の開催		小児がん拠点病院として、整備した施設及び体制の活用により、小児がん診療の更なる充実を行う。 ①②静岡県小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。 ③小児がん連携病院を指定し、地域医療機関との連携を図り、拠点病院としての役割を		こども		こども病院は、平成31年4月に、全国で15施設しか選定されない厚生労働省指定の小児がん拠点病院に初めて指定され、指定期間の4年間に於いて着実にその責任を果たした。このことにより、拠点病院としての指定を令和4年度に再度受け、令和5年4月から、2期目の取組を開始した。 令和5年度、小児がん登録件数は45件であり、院内がん登録を推進するとともに、造血幹細胞移植は計9件で、各種治療法を利用して対応した。また、がんセンターとの共同カンファレンスは12回実施し、連携強化を図った。 令和5年度、AYA世代がん連携医療機関				



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																									
						評価	説明																																																																																																														
			53	未だ不 ④AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を開催する。 ⑤がん公開講座や研修会（脳腫瘍関連）等を開催する。	がんセンターとの共同カンファレンス回数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>3</td><td>3</td><td>7</td><td>3</td><td>9</td><td>12</td></tr></table> AYA世代がん研修会実施回数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr></table> がん公開講座件数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>-</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> 【参考】北5病棟改修にかかる打ち合わせ回数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>-</td><td>-</td><td>17</td><td>25</td></tr></table> 令和3年度7月に完成済  研修会（脳腫瘍関係）（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>開催回数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>64</td><td>61</td><td>66</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	3	3	7	3	9	12	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	1	4	2	2	2	3	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	-	1	0	1	1	1	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	-	-	17	25	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催回数	-	-	-	1	1	1	参加人数	-	-	-	64	61	66	A	令和5年度、AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を3回実施した。また、がん公開講座及び研修会（脳腫瘍関連）も各1回開催し、小児がん拠点病院としての役割を果たした。 さらには、以下取組を実施した。 ・ドラッグラグの解消、難治性疾患の治療開発のため、小児がん拠点病院として臨床試験、治験に積極的に取り組み、症例のリクルートにあたって県内の小児がん連携病院と連携した。具体的には、医師主導治験2件、企業治験1件（国際共同治験で国内参加施設は5施設のみ）、国際共同特定臨床研究1件に参加しており、今後も増加が見込まれる。治験参加施設が限られていることから当院の小児がん患者が他施設では使用できない薬剤を使用する機会が増加するなど、治験参加のメリットは非常に大きい。 ・小児がんに対するがんゲノム医療を実践し、臨床研究を通じてゲノム医療の開発を行った。 ・遺伝染色体科と協同し、遺伝性腫瘍の診療を行った。 ・神経線維腫症1型に伴う叢状神経線維腫に対し、分子標的薬MEK阻害剤の使用を開始し、適用実績を重ねている。	催し、AYA世代患者への相談対応の強化に取り組んでいる。 ・研修や公開講座については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け件数が減少していたが、令和5年度は回復がみられる。 ・病棟におけるオンライン学習の支援に積極的に取り組み、高校生を中心とした患者の修学機会の拡充など、小児がん拠点病院として、療養環境の向上に取り組んでいる。 ・また、がんゲノム医療連携病院として、令和5年度も引き続きがん遺伝子パネル検査を実施している。 ・今後も、小児がん拠点病院として、院内がん登録中級認定者資格を有する専従職員の確保に努め、診療体制の整備、地域医療機関との連携、AYA世代の成人移行・長期フォローアップへの対応など、更なる機能強化を図ることが期待される。 （参考） ・小児がんは、14歳以下の小児に発生する悪性新生物であり、白血病や脳（脊髄）腫瘍等が多数を占める。 ・成人がんに多い臓器がんとは異なる疾患構成や、未分化で急速に進行する腫瘍が多いこと、発育途中であるが故の後年における合併症等が特徴であり、継続した治療、移行期医療が重要となる。	12	1	○	53																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																															
回数	3	3	7	3	9	12																																																																																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																															
回数	1	4	2	2	2	3																																																																																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																															
件数	-	1	0	1	1	1																																																																																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																	
回数	-	-	17	25																																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																															
開催回数	-	-	-	1	1	1																																																																																																															
参加人数	-	-	-	64	61	66																																																																																																															
	・重篤な小児救命救急患者を常時受入れ可能な体制を維持・強化し、救急医療全般にわたって地域の医療機関と連携して受け入れる体制を整備する。	○重篤な小児救急患者を常時受入可能な体制を維持・強化及び地域で不足する小児救急医療体制の補完等、小児救急医療のモデルとなる体制整備 ①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充 ②小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力 ③小児救急専門スタッフの教育の充実 ④患者家族宿泊施設の建替え	54	①PICU（小児集中治療センター）・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ①小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。 ③院内の小児救急専門スタッフ（医師、看護師）育成に努める。 ④患者家族宿泊施設の工事に着手する。	小児救急センターの患者数（単位：人、％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>5,661</td><td>5,916</td><td>3,619</td><td>4,612</td><td>4,328</td><td>4,930</td></tr></table> PICU診療実績（単位：人、％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>2,539</td><td>2,416</td><td>2,083</td><td>2,949</td><td>3,752</td><td>3,915</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>87.0</td><td>82.5</td><td>71.3</td><td>73.4</td><td>85.7</td><td>89.1</td></tr></table> ER診療実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>1,386</td><td>1,695</td><td>1,254</td><td>1,504</td><td>1,269</td><td>1,550</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>4,275</td><td>4,221</td><td>2,365</td><td>3,108</td><td>3,059</td><td>3,380</td></tr></table> ドクターヘリ搬送実績（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>41</td><td>33</td><td>22</td><td>19</td><td>21</td><td>24</td></tr></table> ドクターカー出動実績（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>274</td><td>291</td><td>193</td><td>212</td><td>222</td><td>172</td></tr></table> PICU配置医師・看護師（年平均、人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>医師（有期含む）</td><td>8</td><td>9</td><td>8</td><td>10</td><td>14</td><td>13</td></tr><tr><td>看護師</td><td>30</td><td>29</td><td>33</td><td>43</td><td>45</td><td>42</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	5,661	5,916	3,619	4,612	4,328	4,930	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	2,539	2,416	2,083	2,949	3,752	3,915	病床稼働率	87.0	82.5	71.3	73.4	85.7	89.1	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院患者数	1,386	1,695	1,254	1,504	1,269	1,550	外来患者数	4,275	4,221	2,365	3,108	3,059	3,380	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	41	33	22	19	21	24	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	274	291	193	212	222	172	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	医師（有期含む）	8	9	8	10	14	13	看護師	30	29	33	43	45	42	A	PICU入院延患者数は、令和3年6月に実施したICUの統合（PICUとCCUの統合）の結果、心臓重症患者の受入を開始したこと等により大幅に増加しており、令和5年度は令和4年度をさらに上回る数値となった。 病床稼働率についても、PICU患者数が増加したことに加え、CCU病棟をHCUの役割を持たせた後方病棟としたことにより集中治療系の効率的な病棟運用が可能となった結果、令和5年度は令和4年度を上回る90％近い病床稼働率となった。 また、ER患者数も前年度を上回り、富士・富士宮、志太榛原等の地域の小児救急体制を補完した。 なお、令和5年度においても、PICU病棟の医師確保に努め、専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図った。	・ドクターカー・ドクターヘリの出動・搬送は、交通事故による負傷、病態の急変による搬送などのほか、産科クリニック等で出生した重篤な状況の新生児のことも病院への搬送等での使用が多い。 ・令和3年度のPICUとCCUの統合により、令和4年度に引き続き、令和5年度もPICU診療実績が増加している。 ・PICU配置医師数は増加傾向であるが、医師の時間外労働規制が導入される令和6年度やさらにその先を見据えた救急医療体制の確保に向けて、更なる医療従事者の確保と勤務環境改善のための制度・工夫の充実が求められる。 （参考） ・小児救命救急センターの指定を受けているPICU（小児集中治療室）と小児救急センターを中心に、24時間365日を通して小児救急患者を受け入れている。	13		○	54
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																															
入院延患者数	5,661	5,916	3,619	4,612	4,328	4,930																																																																																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																															
入院延患者数	2,539	2,416	2,083	2,949	3,752	3,915																																																																																																															
病床稼働率	87.0	82.5	71.3	73.4	85.7	89.1																																																																																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																															
入院患者数	1,386	1,695	1,254	1,504	1,269	1,550																																																																																																															
外来患者数	4,275	4,221	2,365	3,108	3,059	3,380																																																																																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																															
回数	41	33	22	19	21	24																																																																																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																															
回数	274	291	193	212	222	172																																																																																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																															
医師（有期含む）	8	9	8	10	14	13																																																																																																															
看護師	30	29	33	43	45	42																																																																																																															
			55	②地域の医療・消防機関で構成されるメディカルコントロール協議会に参加するとともに、PICUの主催により、救急医療・救急（消防）業務従事者向けの研究会、実習講習を行う。	各地域の医療機関、消防機関が参加するメディカルコントロール協議会に集中治療科、小児救急科等の医師が参加した。救急隊員等を対象とした研修会等は、新型コロナウイルス感染症の影響等により実施できなかった。  救急関係研修会等開催実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>対象</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>小児救命救急研究会</td><td>小児医療、救急医療関係者</td><td>161</td><td>86</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>救急救命士再教育病院実習</td><td>救急救命士</td><td>6</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>	区 分	対象	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	161	86	0	0	0	0	救急救命士再教育病院実習	救急救命士	6	0	0	0	0	0	B	令和5年度は、県メディカルコントロール推進作業部会に集中治療科医師が参加した。また、静岡市消防局が主催する静岡地域メディカルコントロール協議会についても小児救急科等の医師が参加し、体制整備に協力した。 救急隊員等を対象とした研修会等は実施していないが、重篤な小児患者の受入れ等救急体制を継続的に整備しており、小児救命救急センターとしての責務を果たした。	・地域のメディカルコントロール協議会（MC協議会）に参加し、その開催要請等に従い、小児・救急医療関係者を対象とした研修を定期的に開催して関係者のスキルアップに貢献している。 ・令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催要請等がなく、実施できていない実習等もあるが、県や市のMC協議会には集中治療科、小児救急医療科、総合診療科の医師が継続して参加している。 ・中期目標で示した「高度な救急医療の充実」に向けて、今後の活動を期待する。 （参考） ・MC協議会は、救急現場から医療機関等へ搬送されるまでの間に救急隊員が行う応急処置等の質を保証するため、医学的見地から助言・指導・事後検証・再教育等の充実を図る体制である。				55																																																																																	
区 分	対象	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																														
小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	161	86	0	0	0	0																																																																																																														
救急救命士再教育病院実習	救急救命士	6	0	0	0	0	0																																																																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																												
						評価	説明																																																																																	
	・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。	○子どものこころの診療分野について、総合病院、こころの医療センターとの連携を図り、県内の児童精神医療に貢献 ①「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実 ②臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成	56	①児童精神科医療について、県立病院機構精神科あり方検討を踏まえ、総合病院、こころの医療センターなどと連携し、体制の見直し・充実を図る。	<div>こころの診療科診療実績（単位：人）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>10,011</td><td>9,445</td><td>7,890</td><td>10,353</td><td>11,258</td><td>10,698</td></tr><tr><td>入院新患者数</td><td>57</td><td>50</td><td>63</td><td>71</td><td>63</td><td>69</td></tr><tr><td>外来延患者数</td><td>12,376</td><td>11,604</td><td>11,416</td><td>13,211</td><td>12,506</td><td>12,150</td></tr><tr><td>外来初診患者数</td><td>466</td><td>514</td><td>579</td><td>617</td><td>542</td><td>543</td></tr></table> <div>こころの診療科地域別実患者数実績（単位：人）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>東部</td><td>779</td><td>759</td><td>744</td><td>829</td><td>796</td><td>784</td></tr><tr><td>中部</td><td>1,190</td><td>1,227</td><td>1,329</td><td>1,423</td><td>1,424</td><td>1,477</td></tr><tr><td>西部</td><td>56</td><td>59</td><td>56</td><td>53</td><td>44</td><td>54</td></tr><tr><td>県外</td><td>10</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>9</td><td>9</td></tr><tr><td>合計</td><td>2,035</td><td>2,059</td><td>2,142</td><td>2,318</td><td>2,273</td><td>2,324</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	10,011	9,445	7,890	10,353	11,258	10,698	入院新患者数	57	50	63	71	63	69	外来延患者数	12,376	11,604	11,416	13,211	12,506	12,150	外来初診患者数	466	514	579	617	542	543	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	東部	779	759	744	829	796	784	中部	1,190	1,227	1,329	1,423	1,424	1,477	西部	56	59	56	53	44	54	県外	10	14	13	13	9	9	合計	2,035	2,059	2,142	2,318	2,273	2,324	A	こころの診療科の令和5年度入院延患者数及び外来延患者数は、コロナ禍から回復した令和4年度並の数値となった。 また、県内の児童精神科医療の中核機関として、中部地域はもちろんのこと、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れた。	・児童精神科医療に対して、児童精神科病棟（36 床）において、外来から入院まで一貫した治療体制を整えている。 ・県内全域から患者を受け入れており、令和5年度のこころの診療科における患者数は令和4年度と同水準となる。 ・専門スタッフによるきめ細かな医療サービスの提供や、急増する子どもの心の問題に関する地域連携の強化に取り組んでいる。			56
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																		
入院延患者数	10,011	9,445	7,890	10,353	11,258	10,698																																																																																		
入院新患者数	57	50	63	71	63	69																																																																																		
外来延患者数	12,376	11,604	11,416	13,211	12,506	12,150																																																																																		
外来初診患者数	466	514	579	617	542	543																																																																																		
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																		
東部	779	759	744	829	796	784																																																																																		
中部	1,190	1,227	1,329	1,423	1,424	1,477																																																																																		
西部	56	59	56	53	44	54																																																																																		
県外	10	14	13	13	9	9																																																																																		
合計	2,035	2,059	2,142	2,318	2,273	2,324																																																																																		
			57	②厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加する。	<div>事業を行っている全国19都府県 1 政令指定都市にある29の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。 （拠点病院を配置している都府県等） 岩手県、千葉県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、沖縄県、札幌市</div> <div>精神保健講座等開催実績</div> <table><tr><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>区分</td><td>精神保健 児童養護</td><td>精神保健 児童養護</td><td>精神保健 児童養護</td><td>精神保健 児童養護</td><td>精神保健 児童養護</td><td>精神保健 児童養護</td></tr><tr><td>対象</td><td>県内小中 こども</td><td>県内小中 こども</td><td>県内小中 こども</td><td>県内小中 こども</td><td>県内小中 こども</td><td>県内小中 こども</td></tr><tr><td>参加者数等</td><td>5回 159人</td><td>10回 10施設</td><td>5回 96人</td><td>11回 11施設</td><td>2回 49人</td><td>11回 140人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>3回 75人</td><td>11回 131人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>5回 10施設</td></tr></table>		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	区分	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	対象	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	参加者数等	5回 159人	10回 10施設	5回 96人	11回 11施設	2回 49人	11回 140人						3回 75人	11回 131人							5回 10施設	A	こども病院は、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加しており、令和5年度も医療機関、学校、地域等との連携強化に努め、児童養護施設の巡回事業は10施設10回実施した。 また、診療関係者の研修・育成事業に取り組み、研修医や学生を受入れるとともに、教員を対象とした精神保健講座を5回実施した。	・様々な子どもの心の問題に加え、児童虐待や発達障害に対応するため、国が国立成育医療センターを中央拠点病院として全国的に推進している「子どもの心の診療ネットワーク」事業において、静岡県の拠点病院として業務受託している。 ・地域医療機関や保健福祉関係機関等からの相談・診療支援に加え、小中学校教諭を対象とした精神保健講座の開催や、児童擁護施設巡回相談を実施しており、他の医療機関や保健福祉関係機関と連携した、医学的支援・診療支援が実施されている。			57																																			
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																		
区分	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護																																																																																		
対象	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども																																																																																		
参加者数等	5回 159人	10回 10施設	5回 96人	11回 11施設	2回 49人	11回 140人																																																																																		
					3回 75人	11回 131人																																																																																		
						5回 10施設																																																																																		
			58	③児童精神科医の育成に努める。	<div>有期職員医師を 1 名採用し（平成25年度から延べ10名）、専門的な児童精神科医を育成した。</div> <div>有期職員医師採用実績（単位：人）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>採用人数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	採用人数	1	1	1	1	1	1	A	児童精神科臨床研修として有期職員医師を1名採用し、児童精神科医の育成を行った。	・子どもの心の診療ネットワーク事業の一環として、有期職員医師1名を採用し、診療やカンファレンスを通じて指導を行い、児童精神科医の育成に努めている。			58																																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																		
採用人数	1	1	1	1	1	1																																																																																		
	・重症心身障害児等の医療的ケア児の退院、在宅移行を支援する体制について、県と連携して整備を図る。	○重症心身障害児等の医療的ケア児の退院、在宅移行を支援する体制を県と連携して具体化 ①医療的ケア児のレスパイト対応のため、障害者総合支援法に基づく「短期入所サービス」の実施	59	①言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。 ①医療的ケア児の在宅移行支援病棟の設置を検討する。 ①「短期入所サービス」事業の実施	<div>医療的ケア児に関する検討会開催実績（単位：回）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>5</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>1</td></tr></table> <div>リハビリ実施実績（単位：件）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	5	3	6	6	3	1	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標		こども病院では、言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォローなどを行っており、令和5年度のリハビリ実施件数は、過去最大件数であった令和4年度を上回った。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応については、令和2年度に指定障害福祉サービスによる、短期入所事業者の指定を受け、令和5年度は3人（延人数）の利用があった。 県内唯一の小児専門病院として小児の高度専門医療を担っているが、慢性期医療・福祉の分野となる医療的ケア児については、在宅移行や在宅移行後の生活支援、退院後のフォロー	・こども病院においては、県から委託されている移行期医療支援事業の一環として、重症心身障害児の在宅以降後の移行フォロー等の課題に対して医療的ケア児に関する検討会を実施している。 ・令和2年度に障害福祉サービス事業所（短期入所者）の指定を受け、医療的ケア児及びその家族への支援体制の強化に努めている。令和5年度は、延3人の利用があった。 ・在宅移行後のフォローにも取り組んでおり、リハビリ実施件数は理学療法、作業療法、言語聴覚療法のいずれも第3期中期目標期間を通じて高い水準にあり、令和5年度は合計件数が目標を上回った。																																																										
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																		
回数	5	3	6	6	3	1																																																																																		
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																	



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																					
						評価	説明																																																																																																																																										
					<table><tr><td>理学療法</td><td>17,309</td><td>22,829</td><td>22,985</td><td>24,683</td><td>25,770</td><td>26,886</td><td>15,000</td></tr><tr><td>作業療法</td><td>6,039</td><td>4,546</td><td>3,813</td><td>7,794</td><td>11,495</td><td>11,333</td><td>－</td></tr><tr><td>言語聴覚療法</td><td>7,901</td><td>9,744</td><td>10,162</td><td>10,045</td><td>9,555</td><td>10,332</td><td>－</td></tr><tr><td>計</td><td>31,249</td><td>37,119</td><td>36,960</td><td>42,522</td><td>46,820</td><td>48,551</td><td>－</td></tr></table> <table><tr><td colspan="8">短期入所利用者数（単位：人）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td></td></tr><tr><td>利用者数</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>0</td><td>3</td><td>3</td><td></td></tr></table>	理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000	作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	－	言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	－	計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	－	短期入所利用者数（単位：人）								区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		利用者数	－	－	－	0	3	3		A				数か過去最大となる。 ・理学療法は、令和5年度も目標値を上回る。 ・作業療法は、令和3年度に作業療法士を増員しており、令和5年度の作業療法件数は、これまでに引き続き高い件数を維持している。 ・理学療法においては、PICUでの早期離床・リハビリテーション加算算定件数の増加が増収にもつながるなど、患者の機能回復に対する質の高い医療の提供と経営面の両方に寄与している。 ・実績件数の増加に伴い、これまで対応できなかった集中治療室の患者への対応が可能となるなど、患者の早期機能回復に寄与している。 （参考） ・重症心身障害児は、重度の肢体不自由と知的障害を併せ持ち、経管栄養やたん吸引等の医療的なケアを必要とする。 ・近年、在宅者の割合が増加していることから、県の支援のあり方も、従来の入所型の重症心身障害児施設等の確保から、在宅における患者や家族の生活支援としてのショートステイ実施施設確保や人材育成等へ移行してきている。 ・具体的には、医療機関における短期入所サービス提供事業実施の支援、通所施設への看護師配置、家族のレスパイトのための訪問看護に対する支援等が挙げられる。	16	1	○	59																																																																											
理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000																																																																																																																																										
作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	－																																																																																																																																										
言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	－																																																																																																																																										
計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	－																																																																																																																																										
短期入所利用者数（単位：人）																																																																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																											
利用者数	－	－	－	0	3	3																																																																																																																																											
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①医療安全体制の徹底 ②入退院支援センターを活用した患者サービスの向上 ③心臓カテーテル治療数の増加 ④病床稼働率75%以上の維持 ⑤患者満足度(入院・外来)の向上 ⑥遠隔医療の適切な推進	60	①医療安全体制を徹底し、国際的な医療機能評価であるJCI取得を視野に入れた、院内機能強化を進める ②入退院支援センターの業務の推進 ③Na51 ④効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する。 ⑤Na8 ⑥遠隔による外来診療、セカンドオピニオンを実施する ⑥専門の指導医により、隣接する医療圏の小児二次救急医療機関が行う診療を遠隔で支援する。	100%	<table><tr><td colspan="7">J C I ワーキングの設置と開催回数（単位：回）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td></td></tr><tr><td>開催回数</td><td>－</td><td>－</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">病棟運営ワーキング開催回数(入退院支援センターに係る検討)（単位：回）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td></td></tr><tr><td>開催回数</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>5</td><td>4</td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">入退院支援センター設置ワーキング開催実績※（単位：回）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>回数</td><td>－</td><td>13</td><td>12</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td></tr></table> ※令和4年度以降は病棟運営ワーキングにて運用を検討 <table><tr><td colspan="8">病床稼働率（単位：％）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>稼働率</td><td>76.2</td><td>76.4</td><td>66.4</td><td>76.7</td><td>75.9</td><td>75.9</td><td>75以上</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">入退院支援センター利用者数（単位：人）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td></td></tr><tr><td>利用者数</td><td>－</td><td>－</td><td>5,382</td><td>4,573</td><td>4,814</td><td>4,918</td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">遠隔外来患者数（単位：人）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td></td></tr><tr><td>患者数</td><td>－</td><td>－</td><td>117</td><td>217</td><td>181</td><td>204</td><td></td></tr></table>	J C I ワーキングの設置と開催回数（単位：回）							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		開催回数	－	－	3	1	0		病棟運営ワーキング開催回数(入退院支援センターに係る検討)（単位：回）							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		開催回数	－	－	－	5	4		入退院支援センター設置ワーキング開催実績※（単位：回）							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	－	13	12	4	0	0	病床稼働率（単位：％）								区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	稼働率	76.2	76.4	66.4	76.7	75.9	75.9	75以上	入退院支援センター利用者数（単位：人）							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		利用者数	－	－	5,382	4,573	4,814	4,918		遠隔外来患者数（単位：人）							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		患者数	－	－	117	217	181	204		A	令和5年度の病床稼働率は、4年度と同値の75.9%であり、目標を上回った。これは、4月及び5月に電子カルテ更新に伴う入院患者の受入れ調整を行った中での数値であるため、特に下半期には稼働率80%を超える月も複数あり、効率的な病床運営が推進された。 こども病院は極めて広域性があり、遠方から来院する患者の負担を軽減しながら安全で質の高い医療を提供するため、令和2年9月からオンラインによる外来診療体制を全国に先駆けて構築しており、令和5年度も継続して診療を実施した。 また、地域・小児夜間救急における地域病院群オンライン連携による365日対応を試行する「小児救急リモート指導医相談支援事業」について、関係者会議での報告・協議を行いつつ、実証試験を進めている。課題である運用に乗せるための各病院への周知を進め、先行病院については令和5年12月に運用を開始した。 国際的な医療機能評価であるJCIの取得に向けた取組として、まずは令和6年6月に受審予定の日本医療機能評価機構による病院機能評価に向けた「病院の質向上プロジェクト」を実施し、病院の理念・基本方針の実現に向けて継続的に取り組んだ。	10	1	○	60
J C I ワーキングの設置と開催回数（単位：回）																																																																																																																																																	
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																												
開催回数	－	－	3	1	0																																																																																																																																												
病棟運営ワーキング開催回数(入退院支援センターに係る検討)（単位：回）																																																																																																																																																	
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																												
開催回数	－	－	－	5	4																																																																																																																																												
入退院支援センター設置ワーキング開催実績※（単位：回）																																																																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																											
回数	－	13	12	4	0	0																																																																																																																																											
病床稼働率（単位：％）																																																																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																																																																										
稼働率	76.2	76.4	66.4	76.7	75.9	75.9	75以上																																																																																																																																										
入退院支援センター利用者数（単位：人）																																																																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																											
利用者数	－	－	5,382	4,573	4,814	4,918																																																																																																																																											
遠隔外来患者数（単位：人）																																																																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																											
患者数	－	－	117	217	181	204																																																																																																																																											
	【目標値】 ・心臓カテーテル治療実績(こども) ・病床稼働率(こども) ・患者満足度[入院・外来](こども)	【目標値】県立こども病院 ・心臓カテーテル治療実績(こども) ・病床稼働率(こども) ・患者満足度[入院・外来](こども) ・小児がん登録件数(こども) ・リハ実施件数(こども)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－																																																																																																																																					
2 医療従事者の確保及び質の向上 各病院及び地域の医療水準の維持・向上を図るため、医師、看護師等医療従事者の確保に努めること。また、優秀な人材を育成するため、院内研修及び国内外との交流による研修機能の充実を図ること。さらに、医療従事者が働きやすい環境の整備に努めること。	2 医療従事者の確保及び質の向上 県立病院が提供する医療の質の向上を図り、最適な医療を安全に提供するため、医療従事者が専門業務に専念できる体制や働きやすい環境の整備に努めることにより、優秀な人材の確保を行う。また、教育研修機能の充実や国内外の医療機関との交流などを推進し、医療従事者の育成に積極的に取り組む。	2 医療従事者の確保及び質の向上	－	－ ・業務運営に必要な人材の確保に努める。	－ <table><tr><td colspan="8">職員の確保状況(各年度4月1日現在)（単位：人）</td></tr><tr><td colspan="2">区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>6年度目標</td></tr><tr><td rowspan="3">総合</td><td>医 師</td><td>173</td><td>177</td><td>180</td><td>185</td><td>193</td><td>198</td><td>197</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td><td>6</td><td>5</td><td>5</td><td>－</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>738</td><td>761</td><td>754</td><td>755</td><td>770</td><td>789</td><td>799</td></tr><tr><td rowspan="3">こころ</td><td>医 師</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>15</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>117</td><td>120</td><td>116</td><td>120</td><td>121</td><td>123</td><td>119</td></tr><tr><td rowspan="3">こども</td><td>医 師</td><td>90</td><td>91</td><td>92</td><td>99</td><td>106</td><td>119</td><td>100</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>－</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>395</td><td>398</td><td>410</td><td>398</td><td>390</td><td>382</td><td>381</td></tr><tr><td></td><td>医 師</td><td>977</td><td>981</td><td>995</td><td>997</td><td>919</td><td>999</td><td>919</td></tr></table>	職員の確保状況(各年度4月1日現在)（単位：人）								区分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	総合	医 師	173	177	180	185	193	198	197	歯科医師	4	6	5	6	5	5	－	看護 師	738	761	754	755	770	789	799	こころ	医 師	14	13	13	13	14	15	15	歯科医師	－	－	－	－	－	－	－	看護 師	117	120	116	120	121	123	119	こども	医 師	90	91	92	99	106	119	100	歯科医師	1	1	2	2	2	2	－	看護 師	395	398	410	398	390	382	381		医 師	977	981	995	997	919	999	919	－	－	－	－	令和5年度について、医師に関しては、派遣医局等への働きかけ等を行い、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝えるなど、確保に努めている。 看護師の募集については、修学資金の貸与など確保対策を進めている。 病院説明会や養成校訪問、県内外の合同就職説明会への積極的な参加を行っているが、総合病院の看護師が定数に達しなかった。	－	－	－	－	・職員数の管理においては、現状を踏まえた適正な人員規模を検討しつつ、職員採用を行うなど、収支状況を勘案して臨機応変に対応している。今後も、地方独立行政法人としての機動性・柔軟性を発揮していくことが期待される。 ・目標値の看護師数(正規職員)に達していないが、不足する人員については、有期職員の採用等により対応している。 ・今後も、救急医療や小児・周産期医療等の現場における医師の働き方改革の影響や、人件費の増加が経営状況に及ぼす影響等を注視しつつ、安全で質の高い医療の提供の根幹と	－	－	－	－																									
職員の確保状況(各年度4月1日現在)（単位：人）																																																																																																																																																	
区分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																																																																									
総合	医 師	173	177	180	185	193	198	197																																																																																																																																									
	歯科医師	4	6	5	6	5	5	－																																																																																																																																									
	看護 師	738	761	754	755	770	789	799																																																																																																																																									
こころ	医 師	14	13	13	13	14	15	15																																																																																																																																									
	歯科医師	－	－	－	－	－	－	－																																																																																																																																									
	看護 師	117	120	116	120	121	123	119																																																																																																																																									
こども	医 師	90	91	92	99	106	119	100																																																																																																																																									
	歯科医師	1	1	2	2	2	2	－																																																																																																																																									
	看護 師	395	398	410	398	390	382	381																																																																																																																																									
	医 師	977	981	995	997	919	999	919																																																																																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																																																																																																																															
						評価	説明																																																																																																																																																																																																																																																				
			61		<div>本部・各病院</div> <table><tr><td rowspan="2">計</td><td>歯科医師</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>7</td><td>7</td><td>－</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>1,250</td><td>1,279</td><td>1,280</td><td>1,273</td><td>1,281</td><td>1,294</td><td>1,299</td></tr><tr><td rowspan="2">総合</td><td>医 師</td><td>91</td><td>96</td><td>99</td><td>110</td><td>104</td><td>112</td><td>－</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>看護 師</td><td>64</td><td>62</td><td>61</td><td>60</td><td>69</td><td>74</td><td>－</td></tr><tr><td>医 師</td><td>3</td><td>4</td><td>6</td><td>11</td><td>7</td><td>10</td><td>－</td></tr><tr><td rowspan="2">有期職員</td><td>歯科医師</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>9</td><td>10</td><td>10</td><td>8</td><td>7</td><td>7</td><td>－</td></tr><tr><td rowspan="2">こども</td><td>医 師</td><td>58</td><td>48</td><td>50</td><td>45</td><td>41</td><td>38</td><td>－</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td rowspan="2">計</td><td>看護 師</td><td>14</td><td>16</td><td>18</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>－</td></tr><tr><td>医 師</td><td>152</td><td>148</td><td>155</td><td>166</td><td>152</td><td>160</td><td>－</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>歯科医師</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>87</td><td>88</td><td>89</td><td>83</td><td>92</td><td>98</td><td>－</td></tr></table> <p>※有期職員は、正規職員の状況により必要人員を確保するため、目標は設定しない。 ※正規職員の看護師は、現員から休職者等を除いた実働数を記載している。 ※有期職員は、正規職員の状況により必要人員を確保するため、目標は設定しない。 ※年度計画数値と本表の定数は一致しない。</p>	計	歯科医師	5	7	7	8	7	7	－	看護 師	1,250	1,279	1,280	1,273	1,281	1,294	1,299	総合	医 師	91	96	99	110	104	112	－	歯科医師	－	－	－	－	－	－	－	こころ	看護 師	64	62	61	60	69	74	－	医 師	3	4	6	11	7	10	－	有期職員	歯科医師	－	－	－	－	－	－	－	看護 師	9	10	10	8	7	7	－	こども	医 師	58	48	50	45	41	38	－	歯科医師	－	－	－	－	－	－	－	計	看護 師	14	16	18	15	16	17	－	医 師	152	148	155	166	152	160	－		歯科医師	－	－	－	－	－	－	－	看護 師	87	88	89	83	92	98	－	B		なる医療従事者の確保が期待される。	18	1	○	61																																																																																																																								
計	歯科医師	5	7	7	8		7	7	－																																																																																																																																																																																																																																																		
	看護 師	1,250	1,279	1,280	1,273	1,281	1,294	1,299																																																																																																																																																																																																																																																			
総合	医 師	91	96	99	110	104	112	－																																																																																																																																																																																																																																																			
	歯科医師	－	－	－	－	－	－	－																																																																																																																																																																																																																																																			
こころ	看護 師	64	62	61	60	69	74	－																																																																																																																																																																																																																																																			
	医 師	3	4	6	11	7	10	－																																																																																																																																																																																																																																																			
有期職員	歯科医師	－	－	－	－	－	－	－																																																																																																																																																																																																																																																			
	看護 師	9	10	10	8	7	7	－																																																																																																																																																																																																																																																			
こども	医 師	58	48	50	45	41	38	－																																																																																																																																																																																																																																																			
	歯科医師	－	－	－	－	－	－	－																																																																																																																																																																																																																																																			
計	看護 師	14	16	18	15	16	17	－																																																																																																																																																																																																																																																			
	医 師	152	148	155	166	152	160	－																																																																																																																																																																																																																																																			
	歯科医師	－	－	－	－	－	－	－																																																																																																																																																																																																																																																			
	看護 師	87	88	89	83	92	98	－																																																																																																																																																																																																																																																			
			62	・研修医の確保に努める。	<div>各病院</div> <table><tr><td colspan="7">初期臨床研修医数（総合病院）（単位：人）</td></tr><tr><td>初期臨床研修医</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>1年生</td><td>24（3）</td><td>23（1）</td><td>20（1）</td><td>25（3）</td><td>21（2）</td><td>22（2）</td></tr><tr><td>2年生</td><td>20（2）</td><td>23（3）</td><td>19（4）</td><td>20（1）</td><td>23（3）</td><td>20（3）</td></tr><tr><td>計</td><td>44（5）</td><td>46（4）</td><td>39（5）</td><td>45（4）</td><td>44（5）</td><td>42（5）</td></tr><tr><td colspan="7">※（ ）うち自治医大学出身者</td></tr><tr><td colspan="7">後期臨床研修医数（単位：人）</td></tr><tr><td>後期臨床研修医</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>総 合</td><td>46</td><td>48</td><td>58</td><td>53</td><td>54</td><td>57</td></tr><tr><td>こころ</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>3</td><td>11</td><td>10</td></tr><tr><td>こども</td><td>14</td><td>15</td><td>9</td><td>12</td><td>8</td><td>12</td></tr><tr><td>計</td><td>62</td><td>65</td><td>71</td><td>68</td><td>73</td><td>79</td></tr></table>	初期臨床研修医数（総合病院）（単位：人）							初期臨床研修医	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	1年生	24（3）	23（1）	20（1）	25（3）	21（2）	22（2）	2年生	20（2）	23（3）	19（4）	20（1）	23（3）	20（3）	計	44（5）	46（4）	39（5）	45（4）	44（5）	42（5）	※（ ）うち自治医大学出身者							後期臨床研修医数（単位：人）							後期臨床研修医	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総 合	46	48	58	53	54	57	こころ	2	2	4	3	11	10	こども	14	15	9	12	8	12	計	62	65	71	68	73	79	A	総合病院では、対面式の合同説明会が開催され、東京および浜松でPR活動を行った。また、専攻医確保活動として、遠方で見学に来るのが難しい研修医等をターゲットにオンライン会議システムを活用した面談を実施し、PRを行った。	・総合病院の初期臨床研修医確保は、計画人数（1年目24名、2年目22名）と同程度を確保している。 ・後期研修医（専攻医）については、新専門医制度のもと、研修医に対する専門医研修プログラム説明会の開催、PR動画やホームページ等を通じた広報など、積極的な広報により確保に努めている。 ・大都市圏への専攻医の集中は制度的な要因も大きく、シーリング（募集定員の上限）による地方への分散等の影響を注視し、十分な確保ができるよう、積極的な採用活動や医師にとって魅力的な病院を目指す取組の継続が期待される。	18		○	62																																																																																																																																																											
初期臨床研修医数（総合病院）（単位：人）																																																																																																																																																																																																																																																											
初期臨床研修医	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																					
1年生	24（3）	23（1）	20（1）	25（3）	21（2）	22（2）																																																																																																																																																																																																																																																					
2年生	20（2）	23（3）	19（4）	20（1）	23（3）	20（3）																																																																																																																																																																																																																																																					
計	44（5）	46（4）	39（5）	45（4）	44（5）	42（5）																																																																																																																																																																																																																																																					
※（ ）うち自治医大学出身者																																																																																																																																																																																																																																																											
後期臨床研修医数（単位：人）																																																																																																																																																																																																																																																											
後期臨床研修医	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																					
総 合	46	48	58	53	54	57																																																																																																																																																																																																																																																					
こころ	2	2	4	3	11	10																																																																																																																																																																																																																																																					
こども	14	15	9	12	8	12																																																																																																																																																																																																																																																					
計	62	65	71	68	73	79																																																																																																																																																																																																																																																					
			63	・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	<div>本部（総務）</div> <p>看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。さらに優秀な人材確保のためコメディカルのアソシエイトの公募試験を実施した。</p> <table><tr><td colspan="8">正規職員の確保状況（各年度4月1日現在）（単位：人）</td></tr><tr><td>区分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td rowspan="7">法人合計</td><td>医 師</td><td>269</td><td>283</td><td>289</td><td>293</td><td>307</td><td>322</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>4</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>7</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>1,370</td><td>1,366</td><td>1,398</td><td>1,403</td><td>1,398</td><td>1,408</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>319</td><td>333</td><td>347</td><td>362</td><td>369</td><td>373</td></tr><tr><td>研究員</td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>事 務</td><td>126</td><td>123</td><td>131</td><td>136</td><td>140</td><td>139</td></tr><tr><td>計</td><td>2,088</td><td>2,112</td><td>2,174</td><td>2,201</td><td>2,223</td><td>2,250</td></tr><tr><td rowspan="5">本部</td><td>医 師</td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>医療技術</td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>事 務</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td><td>34</td><td>33</td></tr><tr><td>計</td><td>34</td><td>35</td><td>34</td><td>36</td><td>38</td><td>34</td></tr><tr><td rowspan="7">総合</td><td>医 師</td><td>165</td><td>179</td><td>184</td><td>188</td><td>195</td><td>202</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>3</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td><td>6</td><td>5</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>806</td><td>807</td><td>829</td><td>826</td><td>837</td><td>847</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>214</td><td>226</td><td>237</td><td>249</td><td>255</td><td>260</td></tr><tr><td>研究員</td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事 務</td><td>54</td><td>53</td><td>59</td><td>63</td><td>65</td><td>69</td></tr><tr><td>計</td><td>1,242</td><td>1,271</td><td>1,317</td><td>1,331</td><td>1,359</td><td>1,380</td></tr><tr><td rowspan="5">こころ</td><td>医 師</td><td>14</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>14</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>看護 師</td><td>118</td><td>120</td><td>124</td><td>122</td><td>122</td><td>127</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>25</td><td>25</td><td>26</td><td>26</td><td>27</td><td>27</td></tr><tr><td>事 務</td><td>13</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>14</td></tr><tr><td rowspan="5">こども</td><td>計</td><td>170</td><td>170</td><td>175</td><td>174</td><td>176</td><td>182</td></tr><tr><td>医 師</td><td>90</td><td>90</td><td>91</td><td>92</td><td>99</td><td>106</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>444</td><td>436</td><td>444</td><td>452</td><td>436</td><td>432</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>80</td><td>82</td><td>84</td><td>86</td><td>86</td><td>85</td></tr><tr><td rowspan="2">計</td><td>事 務</td><td>27</td><td>27</td><td>28</td><td>28</td><td>27</td><td>27</td></tr><tr><td>計</td><td>642</td><td>636</td><td>648</td><td>660</td><td>650</td><td>652</td></tr></table>	正規職員の確保状況（各年度4月1日現在）（単位：人）								区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	法人合計	医 師	269	283	289	293	307	322	歯科医師	4	5	7	7	8	7	看護 師	1,370	1,366	1,398	1,403	1,398	1,408	医療技術	319	333	347	362	369	373	研究員		2	2		1	0	事 務	126	123	131	136	140	139	計	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250	本部	医 師			1			1	看護 師	2	3	1	3	2	1	医療技術				1	1	2	事 務	32	32	32	32	34	33	計	34	35	34	36	38	34	総合	医 師	165	179	184	188	195	202	歯科医師	3	4	6	5	6	5	看護 師	806	807	829	826	837	847	医療技術	214	226	237	249	255	260	研究員		2	2		1	1	事 務	54	53	59	63	65	69	計	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380	こころ	医 師	14	14	13	13	13	14	歯科医師							看護 師	118	120	124	122	122	127	医療技術	25	25	26	26	27	27	事 務	13	11	12	13	14	14	こども	計	170	170	175	174	176	182	医 師	90	90	91	92	99	106	歯科医師	1	1	1	2	2	2	看護 師	444	436	444	452	436	432	医療技術	80	82	84	86	86	85	計	事 務	27	27	28	28	27	27	計	642	636	648	660	650	652	A	医師については、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝え、募集に努めている。今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、医学生向け説明会への参加や病院見学の受入などを行い確保に努める。 令和5年度は、看護師募集について、定時募集を第1回から3病院対象に実施し、計4回実施予定。 また、経験者を対象とした月次募集を毎月実施することにより切れ目のない募集を実施している。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、養成校訪問、病院説明会など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋げている。 コメディカルは、必要な職種について適時、募集を実施しており、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、医療ソーシャルワーカー、心理療法士、歯科衛生士、遺伝カウンセラーについて公募試験を実施し優秀な人材の確保に努めている。 事務についても、正規職員の公募試験を実施し、優秀な人材の確保に努めている。	・全国的に看護師不足が問題となる中、積極的な看護師確保対策、柔軟な採用試験の実施、勤務環境の改善、多様な勤務条件の設定等の努力により、各病院が高度・専門・特殊医療の提供に必要な水準の職員数が確保されている。 ・看護師定時募集方法については、第1期募集から勤務先を3病院として実施し、看護学生の就職活動の早期化と勤務先の希望に柔軟に対応している。 ・職員の募集については、県広報（県民だより）に登載エントリーを行っているほか、パンフレットを県施設で配布するなど周知に努めている。	18		○	63
正規職員の確保状況（各年度4月1日現在）（単位：人）																																																																																																																																																																																																																																																											
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																																				
法人合計	医 師	269	283	289	293	307	322																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯科医師	4	5	7	7	8	7																																																																																																																																																																																																																																																				
	看護 師	1,370	1,366	1,398	1,403	1,398	1,408																																																																																																																																																																																																																																																				
	医療技術	319	333	347	362	369	373																																																																																																																																																																																																																																																				
	研究員		2	2		1	0																																																																																																																																																																																																																																																				
	事 務	126	123	131	136	140	139																																																																																																																																																																																																																																																				
	計	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250																																																																																																																																																																																																																																																				
本部	医 師			1			1																																																																																																																																																																																																																																																				
	看護 師	2	3	1	3	2	1																																																																																																																																																																																																																																																				
	医療技術				1	1	2																																																																																																																																																																																																																																																				
	事 務	32	32	32	32	34	33																																																																																																																																																																																																																																																				
	計	34	35	34	36	38	34																																																																																																																																																																																																																																																				
総合	医 師	165	179	184	188	195	202																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯科医師	3	4	6	5	6	5																																																																																																																																																																																																																																																				
	看護 師	806	807	829	826	837	847																																																																																																																																																																																																																																																				
	医療技術	214	226	237	249	255	260																																																																																																																																																																																																																																																				
	研究員		2	2		1	1																																																																																																																																																																																																																																																				
	事 務	54	53	59	63	65	69																																																																																																																																																																																																																																																				
	計	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380																																																																																																																																																																																																																																																				
こころ	医 師	14	14	13	13	13	14																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯科医師																																																																																																																																																																																																																																																										
	看護 師	118	120	124	122	122	127																																																																																																																																																																																																																																																				
	医療技術	25	25	26	26	27	27																																																																																																																																																																																																																																																				
	事 務	13	11	12	13	14	14																																																																																																																																																																																																																																																				
こども	計	170	170	175	174	176	182																																																																																																																																																																																																																																																				
	医 師	90	90	91	92	99	106																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯科医師	1	1	1	2	2	2																																																																																																																																																																																																																																																				
	看護 師	444	436	444	452	436	432																																																																																																																																																																																																																																																				
	医療技術	80	82	84	86	86	85																																																																																																																																																																																																																																																				
計	事 務	27	27	28	28	27	27																																																																																																																																																																																																																																																				
	計	642	636	648	660	650	652																																																																																																																																																																																																																																																				



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点 数値	評価	No																																																																																				
						評価	説明																																																																																								
				・就職説明会への参加、多角的な広報の実施や養成校の訪問などにより、必要な職員の確保を目指す。	<div>看護学生向け就職説明会（R5末時点）（単位：人）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>来場者数</th><th>訪問者数</th><th>受験者数</th></tr><tr><td>ナース専科（静岡）</td><td>49</td><td>74</td><td>11</td></tr><tr><td>ナースナビ（浜松）</td><td>174</td><td>65</td><td>0</td></tr><tr><td>マイナビ（静岡）</td><td>219</td><td>160</td><td>30</td></tr><tr><td>（沼津）</td><td>103</td><td>82</td><td>8</td></tr><tr><td></td><td></td><td>業者計</td><td>49</td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>71</td><td>127</td><td>23</td></tr><tr><td>常葉大学</td><td>-</td><td>54</td><td>27</td></tr><tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>160</td><td>—</td><td>4</td></tr><tr><td>順天堂大学</td><td>-</td><td>-</td><td>11</td></tr><tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>81</td><td>56</td><td>6</td></tr><tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td>104</td><td>57</td><td>10</td></tr><tr><td></td><td></td><td>養成校計</td><td>81</td></tr><tr><td></td><td></td><td>計</td><td>130</td></tr></table> <div>※訪問者数は病院間の重複あり</div> <div>看護学生向け就職説明会（単位：人）</div> <table><tr><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>来場者数</td><td>業者 226 養成校 602</td><td>709 35</td><td>709 35</td><td>582 137</td><td>0 416</td><td>545 416</td></tr><tr><td>訪問者数</td><td>業者 64 養成校 345</td><td>645 316</td><td>645 316</td><td>438 120</td><td>545 294</td><td>381 294</td></tr><tr><td>受験者数</td><td>業者 3 養成校 73</td><td>112 92</td><td>112 92</td><td>82 72</td><td>381 67</td><td>49 81</td></tr></table>	区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科（静岡）	49	74	11	ナースナビ（浜松）	174	65	0	マイナビ（静岡）	219	160	30	（沼津）	103	82	8			業者計	49	静岡県立大学	71	127	23	常葉大学	-	54	27	聖隷クリストファー大学	160	—	4	順天堂大学	-	-	11	静岡市立看護専門学校	81	56	6	静岡県立看護専門学校	104	57	10			養成校計	81			計	130		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	来場者数	業者 226 養成校 602	709 35	709 35	582 137	0 416	545 416	訪問者数	業者 64 養成校 345	645 316	645 316	438 120	545 294	381 294	受験者数	業者 3 養成校 73	112 92	112 92	82 72	381 67	49 81	A	少しでも学生の知りたい情報を提供するため、積極的に説明会への参加を予定している。 総合病院の看護師不足は続いているため、県外の就職説明会にも参加を予定している。 看護師確保対策の中でも企業・養成校主催の就職説明会は、看護学生が看護部長や先輩看護師等と直接話ができることから、病院の宣伝だけでなく、看護学生個人が知りたい情報を直接伝えることができる利点がある。 説明会での内容は内定者からのアンケート結果を参考に検討をし、病院内での様子が伝わるよう動画などを用いて説明を行っている。今後も昨年に引き続き企業・養成校主催の説明会へ参加し、現在の学生の動向等をつかむことで、看護師確保に努める。	・WEBを利用し広く情報を提供するとともに、学生と病院とのミスマッチを減らすために積極的に対面での説明会等を開催するなど、様々な工夫を行いつつ看護師確保に努めている。	19	○	64
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																												
ナース専科（静岡）	49	74	11																																																																																												
ナースナビ（浜松）	174	65	0																																																																																												
マイナビ（静岡）	219	160	30																																																																																												
（沼津）	103	82	8																																																																																												
		業者計	49																																																																																												
静岡県立大学	71	127	23																																																																																												
常葉大学	-	54	27																																																																																												
聖隷クリストファー大学	160	—	4																																																																																												
順天堂大学	-	-	11																																																																																												
静岡市立看護専門学校	81	56	6																																																																																												
静岡県立看護専門学校	104	57	10																																																																																												
		養成校計	81																																																																																												
		計	130																																																																																												
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																									
来場者数	業者 226 養成校 602	709 35	709 35	582 137	0 416	545 416																																																																																									
訪問者数	業者 64 養成校 345	645 316	645 316	438 120	545 294	381 294																																																																																									
受験者数	業者 3 養成校 73	112 92	112 92	82 72	381 67	49 81																																																																																									
(1) 医療従事者の確保・育成	(1) 医療従事者の確保・育成	(1) 医療従事者の確保・育成	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																				
各病院が有する物的・人的資源を活用した研修プログラムを充実させることにより、各病院において臨床研修医や専攻医の確保・育成に取り組むほか、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。また、看護師及びその他の医療従事者の資質向上のため、所有施設を有効活用した研修の充実を図るとともに、看護師養成施設等からの実習生受入れなど、県内の看護師の養成に協力すること。	県立病院が中心となり、医療技術向上と医師養成の特色のある取組を設け、充実した研修体制を整備し、臨床研修医や専攻医の技能や知識の向上に努めるほか、県との協働による本県の医師確保対策に取り組む。また、県立総合病院のメディカルスキルアップセンターの機能拡充や、県立こども病院のラーニングセンターを活用して、医師、看護師及びその他の医療従事者の教育研修体制の強化に努める。実習生の受入れや職員の派遣などを通じて国内外の医療機関と交流を進める。	①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②地域医療連携推進法人の参画医療機関等との連携による医療従事者の確保 ③医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ④県立総合病院メディカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施 ⑤県立こども病院フーニングセンターの改修 ⑥国際交流の推進 ⑦認定看護師等の資格取得への支援 ⑧看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑨コメディカル・事務職員の研修	○医師 ①③医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。 ①③医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。 ②地域医療連携推進法人ふじのくに社会健康医療連合の円滑な運営に寄与する。	○医師 ①③医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。 ①③医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。 ②地域医療連携推進法人ふじのくに社会健康医療連合の円滑な運営に寄与する。	<div>（総合）海外研修の実績（5年度時点）（単位：人）</div> <table><tr><th>内 容</th><th>人数</th><th>内 容</th><th>人数</th></tr><tr><td>30年度</td><td>—</td><td>3年度</td><td>—</td></tr><tr><td>元年度</td><td>—</td><td>4年度</td><td>—</td></tr><tr><td>2年度</td><td>—</td><td>5年度</td><td>—</td></tr></table> <div>海外での学会発表実績（単位：件）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>33</td><td>65</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td><td>13</td></tr><tr><td>こども</td><td>31</td><td>31</td><td>3</td><td>19</td><td>27</td><td>22</td></tr></table> <div>海外研修の主な実績（単位：人）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>内 容</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>UCLA研修 その他 海外学会</td><td>12 17</td><td>11 19</td></tr><tr><td>こころ</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>こども</td><td>The Asia-Pacific Cardiovascular Intervention &amp; Surgery 2023 (APCIS 2023) その他 海外学会</td><td>0 8</td><td>8 22</td></tr></table>	内 容	人数	内 容	人数	30年度	—	3年度	—	元年度	—	4年度	—	2年度	—	5年度	—	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	33	65	0	0	11	13	こども	31	31	3	19	27	22	区 分	内 容	4年度	5年度	総合	UCLA研修 その他 海外学会	12 17	11 19	こころ	—	—	—	こども	The Asia-Pacific Cardiovascular Intervention & Surgery 2023 (APCIS 2023) その他 海外学会	0 8	8 22	A	（総合） 毎月、基礎臨床講座を開催し、各指導医から研修医等へ講義を行っているほか、医療英語・海外学会発表研修など臨床研修機能の充実を図っている。 この他、医師の技術力向上を目指し海外研修を奨励している。 また、海外学会発表を積極的に行っており、技術力の高さを示している。 令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、海外での学会発表や研修の実績はなかったが、令和4年度から徐々に増加しており、令和5年度も前年度を上回る件数となった。 （こども） 令和5年度の海外での学会発表件数は22件であった。 また、6月には浙江省衛生健康委員会による当院視察が実施され、高度かつ先進的な質の高い小児医療を紹介した。	・国際学会における演題発表や、医療先進国状況調査等に医師を派遣しており、その成果は院内外での研修講師として共有されるなど医療水準の向上に寄与している。 ・また、海外研修の報告をホームページに掲載しており、研修医の募集にあたって病院機構が魅力的な環境であることをPRしている。 ・第3期中期目標期間では、新型コロナウイルス感染症の影響により、WEBを活用しての参加に留めた期間もあったが、令和4年度からは海外研修が再開され、令和5年度も感染対策を講じながら積極的に取り組んでいる。 ・引き続き、医師の技術力の向上を目指して、海外研修等を奨励する体制が期待される。	65																																	
内 容	人数	内 容	人数																																																																																												
30年度	—	3年度	—																																																																																												
元年度	—	4年度	—																																																																																												
2年度	—	5年度	—																																																																																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																									
総合	33	65	0	0	11	13																																																																																									
こども	31	31	3	19	27	22																																																																																									
区 分	内 容	4年度	5年度																																																																																												
総合	UCLA研修 その他 海外学会	12 17	11 19																																																																																												
こころ	—	—	—																																																																																												
こども	The Asia-Pacific Cardiovascular Intervention & Surgery 2023 (APCIS 2023) その他 海外学会	0 8	8 22																																																																																												
		④メディカルスキルアップセンターの活用を促進を図る。	66	総合	メディカルスキルアップセンター利用状況（単位：回、人）	A	メディカルスキルアップセンターでは、各種シミュレーターを導入し、研修医を始めとする医師や看護師等の医療従事者によるトレーニングや講習に活用している。外部利用については、医師会主催の研修会や高校生の見学ツアー時の診療体験などで活用されている。 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類になったことから、前年比べ増加傾向となった。 今後も医師をはじめとする院内利用だけでなく、外部利用の拡大に努める。	・メディカルスキルアップセンターは、平成29年度に先端医学棟内への移転に伴い、従来の2.8倍の約332㎡に拡張し、採血等の基本手技、心配蘇生等の救急訓練、内視鏡下手術訓練等の臨床各科に応じたシミュレーター整備など、研修環境の充実が図られている。 ・令和5年度はセンターの利用者数は、令和4年度を上回る。第3期中期目標期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、一定数の利用者数は確保されており、現場に即した実践的な研修が提供されている。	20	○	66																																																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																			
						評価	説明																																								
			67	⑤大会議室を改修し、ラーニングセンターの機能を付加する。	<div>ラーニングセンター利用状況</div> <div>(単位：件)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>利用件数</td><td>33</td><td>13</td><td>0</td><td>18</td><td>28</td><td>27</td></tr></table> ※各年度とも正確な研修実施回数の集計はできていない。 ※3年度以降はラーニングセンターが使用中止のため、代替施設（病室等）での研修回数を記載。	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	利用件数	33	13	0	18	28	27	A	従来のラーニングセンターは、令和2年度以降の病棟工事や新型コロナ対策物品の保管場所となるなど使用できない期間が続いたことから、会議室や空き病室を利用した研修を実施してきた。 ラーニングセンター再開に向け、令和3年度からワーキンググループで検討を行い、令和4年度に1棟3階の大会議室にラーニングセンター機能を付加することを中心に検討していくことに決めた。 令和5年度には、大会議室周辺の会議室の1つにポータブル医療ガス装置を整備し、実技研修を常時実施可能な環境とするとともに、大会議室等の改修を行うことで、研修内容や受講人数に応じて研修会場としても使用できるようにすることを決定し、当該工事を実施した。 この整備及び改修により、研修機能を集約化した。	20	○	67	・令和5年度は、大会議室を改修し、ラーニングセンターとしての機能を集約した。令和6年度からの運用にあたり、積極的な活用を期待する。																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																									
利用件数	33	13	0	18	28	27																																									
		【目標値】 ・医師数(総合、こころ、こども) ・看護師数(総合、こころ、こども)	68	⑥海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。 ⑥静岡社会健康医学大学院大学と連携し、海外大学等との交流を図る。	<div>海外視察・講演等の派遣・受入</div> <div>(単位：人)</div> <table><tr><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>視察・講演等派遣</td><td>60</td><td>73</td><td>0</td><td>0</td><td>29</td><td>72</td></tr><tr><td>視察・研修等受入</td><td>51</td><td>35</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>29</td></tr></table> <div>総合病院では、平成23年度より中国浙江省からの研修受入を行っており、中国浙江省7医院と友好協力協定及び覚書を締結し、研修生を受け入れている。 令和4年度11月に機構と浙江省衛生健康委員会と友好協定を締結した。</div>		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	視察・講演等派遣	60	73	0	0	29	72	視察・研修等受入	51	35	0	0	3	29	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣研修及び相互訪問は中止していたが、令和4年度から徐々に再開し、令和5年6月には浙江省衛生健康委員会の孫副主任をはじめとする6名が来訪するなどの交流を行った。			68	・第3期中期目標期間は、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの研修生の派遣・受入れを実施しできない期間が続いたが、令和5年度には、浙江省衛生健康委員会の視察を受けたほか、研修生を受け入れるなど、良好な友好関係を築いている。															
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																									
視察・講演等派遣	60	73	0	0	29	72																																									
視察・研修等受入	51	35	0	0	3	29																																									
			69	⑦看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ⑦認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	<div>主な医療職種の資格取得者数（R5末までの累計）</div> <table><tr><th>職種</th><th>人数</th><th>専門・認定領域</th></tr><tr><td>専門看護師</td><td>3</td><td>がん看護、急性・重症患者看護</td></tr><tr><td>認定看護師</td><td>16</td><td>救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、認知症看護、がん放射線療法</td></tr><tr><td>薬剤師</td><td>43</td><td>がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、静岡中部糖尿病療養指導士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト</td></tr><tr><td>検査技師</td><td>36</td><td>緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者肝炎医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理師、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート</td></tr><tr><td>放射線技師</td><td>39</td><td>放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影(介入)専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士</td></tr><tr><td>その他</td><td>22</td><td>糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、専門理学療法士（運動器、呼吸器、内部障害、循環器）</td></tr><tr><td>計</td><td>159</td><td></td></tr></table> <div>認定看護師取得者数（5年度末時点）</div> <div>(単位：人)</div> <table><tr><th>区分</th><th>人数</th><th>専門・認定領域</th></tr><tr><td>専門看護師</td><td>0</td><td>精神看護（リエゾン領域）</td></tr><tr><td>認定看護師</td><td>6</td><td>精神科</td></tr><tr><td></td><td>0</td><td>感染管理</td></tr></table>	職種	人数	専門・認定領域	専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護	認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、認知症看護、がん放射線療法	薬剤師	43	がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、静岡中部糖尿病療養指導士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト	検査技師	36	緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者肝炎医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理師、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート	放射線技師	39	放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影(介入)専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士	その他	22	糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、専門理学療法士（運動器、呼吸器、内部障害、循環器）	計	159		区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	0	精神看護（リエゾン領域）	認定看護師	6	精神科		0	感染管理	A	感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織横断的に活動することができている。 また、認定看護師等の病院運営に寄与する資格については、資格等取得資金貸付要綱を改定し、取得支援制度を拡充するなど、資格取得者の増員を図った。			69	・高度・専門医療を提供する県立病院において、医療の質の向上のため、優れた看護技術と知識を備え高水準の看護を実践する専門看護師や認定看護師を育成することが必要とされる。 ・令和5年度の看護師の資格者数は、総合19人(専門3人、認定16人)、こころ6人(専門0人、認定6人)、こども12人(専門2人、認定10人)と、育成が図られている。
職種	人数	専門・認定領域																																													
専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護																																													
認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、認知症看護、がん放射線療法																																													
薬剤師	43	がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、静岡中部糖尿病療養指導士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト																																													
検査技師	36	緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者肝炎医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理師、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート																																													
放射線技師	39	放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影(介入)専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士																																													
その他	22	糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、専門理学療法士（運動器、呼吸器、内部障害、循環器）																																													
計	159																																														
区分	人数	専門・認定領域																																													
専門看護師	0	精神看護（リエゾン領域）																																													
認定看護師	6	精神科																																													
	0	感染管理																																													
					<div>認定看護師取得者数（5年度末時点）</div> <div>(単位：人)</div> <table><tr><th>区分</th><th>人数</th><th>専門・認定領域</th></tr><tr><td>専門看護師</td><td>2</td><td>小児看護</td></tr><tr><td>認定看護師</td><td>10</td><td>皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護</td></tr></table>	区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	2	小児看護	認定看護師	10	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護																																	
区分	人数	専門・認定領域																																													
専門看護師	2	小児看護																																													
認定看護師	10	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護																																													



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																											
						評価	説明																																																																																																																																
			70	⑧臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	各病院 実習・アルバイト研修等の受入れ（単位：人） <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="6">5 年度</th></tr><tr><th>医師</th><th>医学生</th><th>看護師</th><th>看護学生</th><th>コメディカル</th><th>計</th></tr><tr><td>総 合</td><td>86</td><td>377</td><td>0</td><td>591</td><td>75</td><td>1,129</td></tr><tr><td>こころ</td><td>43</td><td>2</td><td>1</td><td>416</td><td>8</td><td>470</td></tr><tr><td>こども</td><td>94</td><td>38</td><td>9</td><td>306</td><td>60</td><td>507</td></tr><tr><td>計</td><td>223</td><td>417</td><td>10</td><td>1,313</td><td>143</td><td>2,106</td></tr></table>	区 分	5 年度						医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総 合	86	377	0	591	75	1,129	こころ	43	2	1	416	8	470	こども	94	38	9	306	60	507	計	223	417	10	1,313	143	2,106	A	各病院では、例年医師、医学生、看護師、看護学生等を積極的に受け入れ、メディカルスキルアップセンター等を活用した臨床現場に即した実践的な研修を提供している。 令和4年度(1,486人)より大幅に増加しており積極的な受け入れが実施出来た。				70																																																																																			
区 分	5 年度																																																																																																																																						
	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																																																																																	
総 合	86	377	0	591	75	1,129																																																																																																																																	
こころ	43	2	1	416	8	470																																																																																																																																	
こども	94	38	9	306	60	507																																																																																																																																	
計	223	417	10	1,313	143	2,106																																																																																																																																	
			71	⑨研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	本部・各病院 職員研修参加者数（単位：人） <table><tr><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>新規採用職員研修</td><td>125</td><td>139</td><td>160</td><td>130</td><td>147</td><td>149</td></tr><tr><td>新規役付職員研修</td><td>6</td><td>7</td><td>10</td><td>271</td><td>80</td><td>54</td></tr><tr><td>新規監督者研修</td><td>18</td><td>11</td><td>16</td><td>10</td><td>16</td><td>16</td></tr><tr><td>労務管理者研修</td><td>-</td><td>-</td><td>120</td><td>96</td><td>96</td><td>55</td></tr><tr><td>新任管理者・新任監督者研修</td><td>35</td><td>21</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>133</td></tr><tr><td>コミュニケーション講座</td><td>30</td><td>19</td><td>31</td><td>27</td><td>24</td><td>19</td></tr><tr><td>接遇・クレーム対応講座</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>17</td></tr><tr><td>ファシリテーション講座</td><td>20</td><td>25</td><td>29</td><td>30</td><td>26</td><td>19</td></tr><tr><td>コーチング講座</td><td>22</td><td>20</td><td>29</td><td>19</td><td>32</td><td>20</td></tr><tr><td>メンタルサポート講座</td><td>14</td><td>29</td><td>24</td><td>21</td><td>18</td><td>14</td></tr></table> ※ 令和3年度以降は職務級制度の改正により新規役付き職員研修の対象者が増加した。		30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	新規採用職員研修	125	139	160	130	147	149	新規役付職員研修	6	7	10	271	80	54	新規監督者研修	18	11	16	10	16	16	労務管理者研修	-	-	120	96	96	55	新任管理者・新任監督者研修	35	21	-	-	-	133	コミュニケーション講座	30	19	31	27	24	19	接遇・クレーム対応講座	-	-	-	-	-	17	ファシリテーション講座	20	25	29	30	26	19	コーチング講座	22	20	29	19	32	20	メンタルサポート講座	14	29	24	21	18	14	A	令和5年度についても、階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。 令和5年度は、引続き働き方改革関連法に対応するための労務管理者研修を実施している。				71																																															
	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																	
新規採用職員研修	125	139	160	130	147	149																																																																																																																																	
新規役付職員研修	6	7	10	271	80	54																																																																																																																																	
新規監督者研修	18	11	16	10	16	16																																																																																																																																	
労務管理者研修	-	-	120	96	96	55																																																																																																																																	
新任管理者・新任監督者研修	35	21	-	-	-	133																																																																																																																																	
コミュニケーション講座	30	19	31	27	24	19																																																																																																																																	
接遇・クレーム対応講座	-	-	-	-	-	17																																																																																																																																	
ファシリテーション講座	20	25	29	30	26	19																																																																																																																																	
コーチング講座	22	20	29	19	32	20																																																																																																																																	
メンタルサポート講座	14	29	24	21	18	14																																																																																																																																	
(2) 勤務環境の向上 優秀な医療従事者を確保するため、働きやすく、また、働きがいのある病院となるよう、ワーク・ライフ・バランスの向上の推進や職員の精神面を含めた健康保持に配慮するほか、医師をはじめとした医療従事者の業務分担を行うなど、勤務環境の向上を図ること。	(2) 勤務環境の向上 医師をはじめとした医療従事者の業務分担をはじめ、仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の縮減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など、職員が働きやすく、働きがいを実感できる勤務環境づくりを進める。	(2) 勤務環境の向上 ①ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ④職員が働きやすい施設等の環境整備 ⑤県立病院院内保育所の活用	-	- ①柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。	- 看護師の2交代制勤務については、総合病院18部署、こころの医療センター3部署、こども病院10部署となっている。看護師の夜勤専従について、3病院で試行を行っている。 アソシエイト採用実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>看護師</td><td>3</td><td>-</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事務</td><td>10</td><td>3</td><td>8</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>3</td><td>1</td><td>5</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>16</td><td>4</td><td>14</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	看護師	3	-	1	1	1	事務	10	3	8	1	2	コメディカル	3	1	5	1	1	計	16	4	14	3	4	-	- 令和5年度については、効果的な職員採用に繋げるため、看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図っている。 平成29年4月以降、診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となっている。																																																																																																		
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																		
看護師	3	-	1	1	1																																																																																																																																		
事務	10	3	8	1	2																																																																																																																																		
コメディカル	3	1	5	1	1																																																																																																																																		
計	16	4	14	3	4																																																																																																																																		
			72		本部（総務）	A		-	21	○		72																																																																																																																											
			73	②医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	本部・各病院 補助職員の配置状況（各年度4月1日現在）（単位：人） <table><tr><th colspan="2">区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td rowspan="4">総合</td><td>医師事務補助</td><td>73</td><td>71</td><td>70</td><td>76</td><td>72</td><td>70</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>73</td><td>66</td><td>61</td><td>58</td><td>56</td><td>59</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>19</td><td>22</td><td>20</td><td>23</td><td>26</td><td>27</td></tr><tr><td>小計</td><td>165</td><td>159</td><td>151</td><td>157</td><td>154</td><td>156</td></tr><tr><td rowspan="4">こころ</td><td>医師事務補助</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>7</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>小計</td><td>12</td><td>12</td><td>13</td><td>12</td><td>13</td><td>10</td></tr><tr><td rowspan="4">こども</td><td>医師事務補助</td><td>19</td><td>19</td><td>20</td><td>19</td><td>20</td><td>18</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>21</td><td>25</td><td>22</td><td>21</td><td>21</td><td>20</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>5</td><td>5</td><td>6</td><td>8</td><td>6</td><td>5</td></tr><tr><td>小計</td><td>45</td><td>49</td><td>48</td><td>48</td><td>47</td><td>43</td></tr><tr><td rowspan="4">計</td><td>医師事務補助</td><td>94</td><td>92</td><td>92</td><td>96</td><td>94</td><td>89</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>102</td><td>99</td><td>92</td><td>88</td><td>86</td><td>86</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>26</td><td>29</td><td>28</td><td>33</td><td>34</td><td>34</td></tr><tr><td>小計</td><td>222</td><td>220</td><td>212</td><td>217</td><td>214</td><td>209</td></tr></table>	区 分		30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	総合	医師事務補助	73	71	70	76	72	70	看護助手	73	66	61	58	56	59	コメディカル助手	19	22	20	23	26	27	小計	165	159	151	157	154	156	こころ	医師事務補助	2	2	2	1	2	1	看護助手	8	8	9	9	9	7	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2	小計	12	12	13	12	13	10	こども	医師事務補助	19	19	20	19	20	18	看護助手	21	25	22	21	21	20	コメディカル助手	5	5	6	8	6	5	小計	45	49	48	48	47	43	計	医師事務補助	94	92	92	96	94	89	看護助手	102	99	92	88	86	86	コメディカル助手	26	29	28	33	34	34	小計	222	220	212	217	214	209	A	医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合病院では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて、医療従事者が診療に専念できるように医師事務作業補助者を配置しており、令和5年度においても、診療報酬の施設基準上、最上位基準を維持している。 なお、令和4年度から派遣会社を活用した夜間看護補助者の配置を開始し、看護師の負担軽減および診療報酬上の加算も併せて取得することができている。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。				73
区 分		30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																
総合	医師事務補助	73	71	70	76	72	70																																																																																																																																
	看護助手	73	66	61	58	56	59																																																																																																																																
	コメディカル助手	19	22	20	23	26	27																																																																																																																																
	小計	165	159	151	157	154	156																																																																																																																																
こころ	医師事務補助	2	2	2	1	2	1																																																																																																																																
	看護助手	8	8	9	9	9	7																																																																																																																																
	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2																																																																																																																																
	小計	12	12	13	12	13	10																																																																																																																																
こども	医師事務補助	19	19	20	19	20	18																																																																																																																																
	看護助手	21	25	22	21	21	20																																																																																																																																
	コメディカル助手	5	5	6	8	6	5																																																																																																																																
	小計	45	49	48	48	47	43																																																																																																																																
計	医師事務補助	94	92	92	96	94	89																																																																																																																																
	看護助手	102	99	92	88	86	86																																																																																																																																
	コメディカル助手	26	29	28	33	34	34																																																																																																																																
	小計	222	220	212	217	214	209																																																																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No
						評価	説明					
			74	③全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。	県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度から昇給に活用し(令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用)、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。	A	平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度から昇給に活用し(令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用)、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。	・県に準拠した人事評価制度を導入しており、職員の意欲が反映される仕組みづくりに取り組んでいる。	21		○	74
			75	④就労環境の改善に向けた院内施設、子育て支援や相談など福利厚生の実施を進める。	【総合病院】 ・総合病院では、令和5年9月に静岡県から特定及び連携型特定地域医療提供機関の指定を受けたため、許可された医師の労働時間短縮計画等に基づき、医師の労働時間短縮の取組等を推進する。 ・院内保育所については、保育所運営協議会において、事務局、委託先、利用者間の意見交換を行い、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を令和5年度も実施した。 【こころの医療センター】 ・新電子カルテへの入力をスムーズに行うため、端末と移動カートを配備した。 【こども病院】 ・会議でのタブレット端末(ipad)の活用や、オンライン会議でのZoomRoomsの活用により、会議に係る業務の効率化を図った。 ・職員研修にeラーニングツールであるSafetyPlusを導入し、受講や受講管理の効率化を図った。	本部・各病院	S  総合病院では、令和5年9月に静岡県から特定及び連携型特定地域医療提供機関の指定を受けたため、許可された医師の労働時間短縮計画等に基づき、医師の労働時間短縮の取組等を推進した。 チーム制・複数主治医制の導入を推進し、患者・家族等への時間外の説明などを原則禁止し、休暇の取得も推進した。 現在継続している医師から看護・メディカルスタッフ・事務等への業務のタスクシフト(看護師特定行為の推進、持続皮下グルコース検査の推進他)を推進し、併せて、タスクシフトを行う、看護・メディカルスタッフ・事務等の労働環境の改善を推進した。 医師の労働時間短縮計画に基づき、水準指定医師で勤務間インターバルが取得できなかった医師を毎月検証し、当該医師及び及び当該上司(診療科部長)に対し、代償休息の取得を依頼し、その実績について毎月検証(令和5年4月1日以降、試行中)した。 令和6年4月から月の法定外時間外労働＋休日労働時間数が100時間を超える見込みの医師について、毎月当該医師の時間外労働時間数が80時間を超えた時点で面接指導実施医師により(面接指導実施医師は現在5人)、面接指導を実施した。 なお、毎月の時間外労働時間数が100時間を超える見込みの医師は毎月1日等の日を決めて、面接を実施する。令和6年度計画について検証し、時点修正を行う等、PDCAサイクルを回していく。  こころの医療センターでは、病棟に新型電子カルテに対応した端末と移動カートを配架し、患者情報の入力を迅速に行えるよう改善した。  こども病院では、タブレット端末(ipad)を活用した会議運営を拡大するとともに、オンライン会議におけるZoomRoomsの活用を継続して行った。また、令和5年5月から、職員研修にeラーニングツールであるSafetyPlusを導入し、受講や受講管理の効率化を図った。  看護師等が離職することを防止するため、こころのケアだけでなく体力低下で看護業務へ支障を来さないよう日常生活相談を含め、心身に対するきめ細かい対応を行い、長期に渡り勤務できる環境を整える取組を行っている。 また、国に先駆けて「就学前児童の養育資金貸付制度」を創設し、独立行政法人ならではの画期的な取組であるとして、全国の自治体から注目を集めた。当機構の制度をモデルケースとして同様の制度が制定される動きが広がっている。 なお、政府が、子育てと職場復帰の両立のための支援のために、育児短時間勤務で働く人向けに、新たな現金給付を創設する方向で検討に入った旨の報道もなされている。 引き続き、院内施設の充実や、就労環境の向上に取り組んでいく。	・職員の就労環境の向上に向けた院内施設の充実に取り組んでいる。 ・施設整備だけでなく、院内保育所入所者向けのインフルエンザ予防接種の実施など、ソフト面での対応も行っており、今後も職員家族にも配慮した就労環境向上の取組が期待される。 ・令和元年度から供用開始したこども病院の院内保育所は、二重保育や病後児保育などの新たな保育サービスに対応しており、利用者数の段階的な増加に向けて、職員への広報や利用の働きかけなど、有効な活用に向けた取組が期待される。 ・令和3年9月には総合病院でカフェ棟が開業し、令和4年4月に薬局・レストラン棟が開業した。職員が気軽に休憩・交流できるスペースができたことで、職員の士気向上に寄与することが期待される。 ・医師の働き方改革について、総合病院では、チーム制・複数主治医制の導入、タスクシフトの推進、勤務間インターバル制度の試行など、病院全体で積極的な取組を進めている。 ・また、医師からタスクシフトを受ける看護師等の増員だけでなく、さらにその補助を行う看護助手等についても増員を図るなど、タスクシフトの受け手についても、勤務環境の向上も推進している。 ・こころの医療センター、こども病院についても、DXに関する取組やタスクシフトの推進など、効率的な運営による業務の省力化を図っている。	21		☆	75



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																															
						評価	説明																																																																																																																																																				
			76	⑤院内保育の活用を図る。	保育所利用者数 (単位：人) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th rowspan="2">定員</th><th colspan="6">平均利用者数</th></tr><tr><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総合「おひさま」</td><td>100</td><td>82</td><td>75</td><td>65</td><td>65</td><td>70</td><td>60</td></tr><tr><td>こども「ことり」</td><td>80</td><td>13</td><td>16</td><td>17</td><td>19</td><td>32</td><td>32</td></tr><tr><td>計</td><td>180</td><td>95</td><td>91</td><td>82</td><td>84</td><td>102</td><td>92</td></tr></table>	区 分	定員	平均利用者数						30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合「おひさま」	100	82	75	65	65	70	60	こども「ことり」	80	13	16	17	19	32	32	計	180	95	91	82	84	102	92	A	各病院の院内保育所では、育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実に努めている。 総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。幼保無償化の影響により入所者数が減少しているため、有期コメディカル・正規事務の入所を開始した。また、院内保育所利用者を対象としたインフルエンザ予防接種も実施している。 こども病院では、令和5年度は45人を上限に運用し、二重保育や病後児保育等の保育サービスに対応した。				76																																																																																																										
区 分	定員	平均利用者数																																																																																																																																																									
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																				
総合「おひさま」	100	82	75	65	65	70	60																																																																																																																																																				
こども「ことり」	80	13	16	17	19	32	32																																																																																																																																																				
計	180	95	91	82	84	102	92																																																																																																																																																				
3 医療に関する調査及び研究	3 医療に関する調査及び研究	3 医療に関する調査及び研究	—	—	—	—	—					—																																																																																																																																															
			—	—	—	—	—					—																																																																																																																																															
(1) 研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	—	—	—	—	—					—																																																																																																																																															
各病院が臨床研究に取り組み、その研究成果の発信等により、県内医療水準の向上及び医療人材の確保に努めること。また、県立総合病院のリサーチサポートセンターにおいて、医療ビッグデータを活用した疫学、ゲノム研究など県が推進する社会健康医学研究に協力すること。さらに、産学官との連携による共同研究や治験に取り組むこと。	県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用し、各病院が臨床研究に取り組み、その成果を発信することなどにより、県内医療水準の向上と医療人材の確保に努める。また、県が定めた社会健康医学研究推進計画に基づき、社会健康医学の研究推進に協力する。治験や調査研究事業の推進に参画できるよう引き続き体制の整備を行い、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。	①各大学院や研究所等との連携を強化し、病院機構が行う特色ある研究の推進・発展 ②県立総合病院リサーチサポートセンターの臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ③静岡社会健康医学大学院大学と連携した社会健康医学研究の充実・推進 ④聴覚障害児における言語獲得の研究実施と早期治療体制の構築 ⑤県立総合病院リサーチサポートセンターにおいて、静岡県県からの受託研究として、「県民の健康寿命の更なる延伸」に向けた社会健康医学研究の実施 ⑥治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ⑦県立大学等の研究機関との共同研究	77	①②臨床研究や疫学研究の充実 ・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ③④⑤研究体制を充実させ、研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ④聴覚障害児における言語獲得の研究支援について、外部機関との連携を推進する。 ④研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ⑥研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 ⑥研究支援室による臨床研究の支援を行う。 ⑦県立大学との共同研究を行う。	臨床研究数 (単位：件、％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>研究数</td><td>332</td><td>376</td><td>399</td><td>329</td><td>409</td><td>449</td><td>280以上</td></tr><tr><td>支援研究数</td><td>38</td><td>50</td><td>57</td><td>68</td><td>67</td><td>71</td><td>—</td></tr><tr><td>支援率</td><td>11.4</td><td>13.3</td><td>14.3</td><td>20.7</td><td>16.4</td><td>15.8</td><td>—</td></tr></table> 客員研究員受入状況 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>14</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td>外部</td><td>11</td><td>22</td><td>25</td><td>16</td><td>16</td><td>15</td></tr></table> 社会健康医学受託研究の実施状況 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>11</td><td>11</td><td>35</td><td>3</td><td>3</td><td>1</td></tr></table> 奨学寄附金受入件数・金額 <table><tr><th>区分</th><th>寄附者</th><th>目的</th><th>金額 (千円)</th></tr><tr><td rowspan="3">元年度</td><td>日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr><tr><td>合計</td><td></td><td>400</td></tr><tr><td rowspan="4">2年度</td><td>日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr><tr><td>アミコス・セピューティックス株式会社</td><td>遺伝性疾患に関する研究支援</td><td>500</td></tr><tr><td>株式会社ジャパン・ディッシュ・エンジニアリング</td><td>整形外科疾患における研究</td><td>1,000</td></tr><tr><td rowspan="4">3年度</td><td>合計</td><td></td><td>1,900</td></tr><tr><td>日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr><tr><td>大正製薬株式会社</td><td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td><td>300</td></tr><tr><td rowspan="5">4年度</td><td>合計</td><td></td><td>700</td></tr><tr><td>日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>100</td></tr><tr><td>京セラ株式会社</td><td>変形関節症に関する研究</td><td>1,500</td></tr><tr><td>第10回日本婦人科ロボット手術学会</td><td>産婦人科の診断治療に関する研究</td><td>500</td></tr><tr><td rowspan="5">5年度</td><td>合計</td><td></td><td>2,300</td></tr><tr><td>日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>100</td></tr><tr><td>日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>100</td></tr><tr><td>パイタル株式会社</td><td>心臓血管外科における研究</td><td>100</td></tr><tr><td>京セラ株式会社</td><td>変形関節症に関する研究</td><td>1,500</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>合計</td><td></td><td>1,800</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	研究数	332	376	399	329	409	449	280以上	支援研究数	38	50	57	68	67	71	—	支援率	11.4	13.3	14.3	20.7	16.4	15.8	—	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	静岡県立大学	14	15	15	15	13	13	外部	11	22	25	16	16	15	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	11	11	35	3	3	1	区分	寄附者	目的	金額 (千円)	元年度	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	呼吸器疾患における研究	200	合計		400	2年度	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	呼吸器疾患における研究	200	アミコス・セピューティックス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500	株式会社ジャパン・ディッシュ・エンジニアリング	整形外科疾患における研究	1,000	3年度	合計		1,900	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	呼吸器疾患における研究	200	大正製薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	300	4年度	合計		700	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	呼吸器疾患における研究	100	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500	第10回日本婦人科ロボット手術学会	産婦人科の診断治療に関する研究	500	5年度	合計		2,300	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	糖尿病治療に関する研究	100	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	呼吸器疾患における研究	100	パイタル株式会社	心臓血管外科における研究	100	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500		合計		1,800	S	病院機構では、リサーチサポートセンターを活用した研究に取り組んでおり、文部科学省科学研究費についてはすべての診療部門が申請対象となっている。令和5年度における文部科学省科学研究費の応募状況は、応募件数3件で、総合病院採択分の過年度からの研究継続件数は5件、他施設分担研究の継続件数は4件、他施設で採択され異動に伴い当院に移管した件数が1件と、合計10件の研究を取り扱っている。 また、静岡社会健康医学大学院大学との連携も引き続き強化しており、令和5年度に博士前期課程に1名、博士後期課程に1名を選定している。 きこえとことばのセンター（静岡県乳幼児聴覚支援センター）では、乳幼児期の難聴や人工内耳の装用による脳の発達メカニズムに関する研究をNTTコミュニケーション科学基礎研究所と共同で実施している。 また、難聴児の音声言語獲得に高い実績を持つ、オーストラリアのシェパードセンターの療育プログラムによるパイロットセンター立ち上げの準備を静岡県と共に現地スタッフとのオンラインミーティングを重ねながら進めている。 また、並行して新生児聴覚スクリーニング検査をオンサイト入力することで、関係機関との情報共有を可能にし、難聴の早期発見、早期介入、その後の支援につなげるための一元化された情報管理システムを開発し、県下での導入を進めるなど、きこえとことばのセンターの事業について積極的に取り組んでいる。	・リサーチサポートセンターにおいては、令和3年4月に静岡社会健康医学大学院大学が開学した後も、引き続き研究が行われており、社会健康医学研究の推進に貢献しており、今後引き続き連携し、県民への成果還元を期待する。 ・客員研究員の受入れや機器整備などの研究体制強化の成果が現れており、臨床研究数は、令和5年度で449件であり、目標値及び昨年度を上回る。 ・文部科学省科学研究費補助金の受入れが可能となる研究機関としてリサーチサポートセンターを含む14部門が指定を受けており、令和5年度は3件応募、うち0件採択、5件継続となっている。 ・意欲ある医師に対して研究や学術交流の機会を提供することで今後の医療水準の向上と、魅力的な臨床研究環境をPRすることによる医師確保への貢献が期待される。  ・きこえとことばのセンター（静岡県乳幼児聴覚支援センター）は、平成22年に県の委託により総合病院に設置し、聴覚異常の早期発見と早期治療に係る専門的支援を実施してきた。 ・令和5年度には、聴覚支援に先進的であるオーストラリアの機関とオンラインミーティングを重ね、難聴児の療育プログラムの確立に向けた検討会や親子教室での検証を実施している。 ・また、難聴児への早期介入・支援のため、関係機関との情報共有を可能にする、新生児聴覚スクリーニング検査を一元化した情報管理システムの開発を行い、令和5年度は県内のクリニックでの導入を開始した。 ・これらの取組による、今後の県民への成果還元が期待される。	22	1	☆	77
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																																																																																				
研究数	332	376	399	329	409	449	280以上																																																																																																																																																				
支援研究数	38	50	57	68	67	71	—																																																																																																																																																				
支援率	11.4	13.3	14.3	20.7	16.4	15.8	—																																																																																																																																																				
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																					
静岡県立大学	14	15	15	15	13	13																																																																																																																																																					
外部	11	22	25	16	16	15																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																					
件数	11	11	35	3	3	1																																																																																																																																																					
区分	寄附者	目的	金額 (千円)																																																																																																																																																								
元年度	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																								
	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																								
	合計		400																																																																																																																																																								
2年度	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																								
	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																								
	アミコス・セピューティックス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500																																																																																																																																																								
	株式会社ジャパン・ディッシュ・エンジニアリング	整形外科疾患における研究	1,000																																																																																																																																																								
3年度	合計		1,900																																																																																																																																																								
	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																								
	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																								
	大正製薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	300																																																																																																																																																								
4年度	合計		700																																																																																																																																																								
	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																								
	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	呼吸器疾患における研究	100																																																																																																																																																								
	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500																																																																																																																																																								
	第10回日本婦人科ロボット手術学会	産婦人科の診断治療に関する研究	500																																																																																																																																																								
5年度	合計		2,300																																																																																																																																																								
	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	糖尿病治療に関する研究	100																																																																																																																																																								
	日本ヘーリンガー・インゲルハイト株式会社	呼吸器疾患における研究	100																																																																																																																																																								
	パイタル株式会社	心臓血管外科における研究	100																																																																																																																																																								
	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500																																																																																																																																																								
	合計		1,800																																																																																																																																																								

— 27 —





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No
						評価	説明					
		の配置 ⑥専門医制度への対応 ⑦医療機器の共同利用の推進 ⑧ICT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	81	医療提供体制を構築する。	（こども） 静岡市立静岡病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市立総合医療センター、中東遠総合医療センター、県中西部発達障害者支援センター、静岡赤十字病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設つばさ静岡にも医師を派遣した。	A	院機構のこころの医療センターとこども病院を加えた。 （総合） 医療機関等に対しては、桜ヶ丘病院、島田市立総合医療センター、富士宮市立病院、伊豆赤十字病院、佐久間病院、川根本町いやしの里診療所、静岡赤十字病院、静岡市立病院、沼津市立病院、つばさ静岡の計10箇所に医師派遣を行った。 （こども） 令和5年度、県内の8医療機関等に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たした。小児科医が不足する医療機関からの派遣要請には可能な限り対応していく必要があり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えた。	医療圏における救急医療体制の維持に貢献している。	24	○	81	
			82	②小児1次救急医療への応援を行う。	静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。	A	令和5年度は、静岡市急病センター及び志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援した。小児1次救急医療の成立のため、派遣要請には可能な限り対応していく方針であり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えた。		24	○	82	
			83	④静岡社会健康大学院大学と連携して、医師の配置調整など「ふじのくに地域医療支援センター」業務を支援する。	『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」の業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。	A	静岡社会健康大学院大学と連携して、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。				83	
		⑥専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	84		（総合） 令和5年度中に2領域増設し、令和6年度以降は全19領域中12領域においてプログラムを実施することとなった。令和6年度は、21名が当院の専門研修プログラムに所属予定となっている。新型コロナウイルス感染症以降、当院ホームページにプログラム説明動画を公開のうえ専門研修プログラムの魅力を発信した。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。 （こころ） 病院見学の受入を積極的に行い、専攻医の確保に努めている。 （こども） 平成29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹研修施設として、新制度に則った研修を実施しており、令和5年度は12名が本研修に取り組んだ。	A	（総合） 19領域中10領域の専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行っている。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。 （こころ） 令和5年度は3人の専攻医を受け入れている。また病院見学は9名を受け入れている。 （こども） 小児科専攻医研修の基幹研修施設として、県中東部の連携施設10病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに指導を行い、令和5年度は12名が本研修に取り組んだ。	・新専門医制度の開始以降、各病院で研修プログラムを作成し受入体制を整備するとともに、院内外研修医・学生に向けたプログラム説明会の開催や、首都圏等のレジナビへの参加、PR動画の作成など、積極的なPR活動を通じて、専攻医の確保に努めている。 ・令和5年度は、総合病院は10プログラムの定員57人に対し21人の採用、こころの医療センターは1プログラムの定員6人に対し3人の採用、こども病院は1プログラムの定員8人に対し12人の採用となっている。 ・各病院の研修プログラムにおいては、充実した医療施設・設備のもと、専門医・指導医による指導体制を構築するとともに、他診療科とのチーム医療も研修できるように配慮するなど、充実を図っている。 ・大都市圏への専攻医の集中は制度的な要因も大きく、今後、シーリング(募集定員の上限)による地方への専攻医の分散等の影響も見据え、地域の連携病院との協力のもと、専攻医にとって魅力的な指導体制と研修プログラムを確保し、積極的な採用活動のもと、地域医療にも貢献する専攻医を安定的に確保できるよう努めることが期待される。	25	○	84	
		⑦地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	85		地域における医療機器の効率的な活用のため、CT・MRIの共同利用に取り組んでおり、地域医療の支援に貢献している。市内他施設における機器整備が進められており、共同利用件数も令和2年度を底に持ち直している。	A	令和5年度のCT・MRI共同利用件数は、前年度件数には達しない結果となった。桜ヶ丘病院と令和3年度に改めて協定を締結している。	・CT・MRIの共同利用件数は市内他病院の機器整備が進んだ影響を受けつつも、一定程度の件数を維持しており、、地域医療を支援する役割を果たしている。			85	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																	
						評価	説明																																						
			86	総合	⑧ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。  地域医療連携推進事業費補助金を活用し、ふじのくにねっと参加施設の新規システム構築及び機器更新を実施している（令和5年度にはデータセンター及び県立病院機構3病院の機器更新を実施）。 また、令和2年3月からは、地域医療情報連携ネットワークにおける同意取得方法に関する厚生労働省通知を受け、患者への参加同意取得手続等の運用の見直しを進め、令和3年度についても、ふじのくにねっと参加施設の利便性に貢献した。令和4年度以降は協議会の会長を中東連総合医療センターから選出して運営を継続している。	A	ネットワーク全体で病病・病診連携における積極開示をルール化することを理事会で方針として採択し、先進事例の共有等の取組を推進している。	・総合病院においては、県内各医療圏の地域性や医療機関の特性に幅広く対応する地域医療情報連携ネットワークの効果的な運用体制を引き続き確保するとともに、参画医療機関に対する適切な運用支援等が期待される。 （参考） ・「ふじのくにねっと」とは、ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会において、県内各医療施設間で患者・診療情報を共有するためのICTネットワーク基盤を構築し、病診連携・病病連携を始め、薬局や訪問看護等の関連施設との情報共有の利便性向上と効率化・迅速化を図り医療提供体制を強化するものである。県は平成28年度からシステム整備費用を補助金として助成している。				86																																	
			87	こども	⑧国内外の医療機関との映像情報システムを用い、カンファレンス等を実施する。  小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター（IJN）との接続試験を兼ねた症例検討会を実施した。また、他医療機関（4施設）と連携し、心エコー画像遠隔診断を実施した。  心エコー画像遠隔診断実績（単位：件） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>症例数</td><td>5</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td><td>5</td><td>7</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	症例数	5	3	0	2	5	7	A	小児循環器科専門医研修施設として、浜松医科大学等との映像情報を通じたカンファレンスを実施した。また、マレーシア国立循環器病センターともカンファレンスを実施した。 令和5年度、連携医療機関との心エコー画像遠隔診断を7件実施し、医療機関からの相談について映像情報を活用して対応した。	・心エコー遠隔診断については、順天堂静岡病院、富士宮市立病院、沼津市立病院、藤枝市立総合病院を連携機関として実施しており、令和5年度は7件実施している。また、各医療機関からの相談に応じるなど、ICT技術を通じた、こども病院における高度専門医療技術・知見の地域等への還元に努めている。				87																			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																							
症例数	5	3	0	2	5	7																																							
(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及  鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に対し、県立病院が有する人材や知見を積極的に提供し、県内の医療従事者の養成に貢献すること。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及  公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していくほか、医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参画しやすい体制づくりに取り組む。また、院内研修等の教育研修を県内の医療従事者へ積極的に開放していく。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及  ①公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応 ②学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ③認定看護師等の資格保有者の活用 ④県内の医療従事者への教育研修機能の開放 ⑤県児童虐待早期発見医療体制整備事業を推進	－	総合	－  ①院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。  拡大がんサージボード実績 <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>回数（回）</td><td>6</td><td>5</td><td>3</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td rowspan="3">参加人数（人）</td><td>院内</td><td>194</td><td>178</td><td>73</td><td>78</td><td>101</td></tr><tr><td>院外</td><td>162</td><td>108</td><td>49</td><td>36</td><td>49</td></tr><tr><td>合計</td><td>356</td><td>286</td><td>122</td><td>114</td><td>150</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数（回）	6	5	3	2	4	4	参加人数（人）	院内	194	178	73	78	101	院外	162	108	49	36	49	合計	356	286	122	114	150	A	がん診療部主催の拡大がんサージボード（多職種カンファレンス）では、がん症例の診断や治療方法等について、院内外の多職種による包括的な議論が行われている。 令和5年度も、新型コロナウイルス・インフルエンザ感染症等を考慮し、開催回数を制限して開催している。	・多職種の医療チームが参加してがんの症例検討を行う「拡大がんサージボード」、他団体等主体の講演会への講師派遣、医療観察法に基づく鑑定対応、子どもの心の診療ネットワーク事業における静岡県の拠点病院としての診療支援・研修事業など、地域の医療従事者の養成への貢献や県立病院としての社会的役割に応じた取組が行われており、病院機構の有する高度・専門医療の技術や知見が積極的に地域に共有・還元されている。 ・講師派遣依頼に対し、機構として適切に対応している。 ・医療観察法による鑑定入院受入件数は、令和5年度は7件の受入れを行っており、社会的要請に機構として適切に対応している。 ・こども病院においては、令和4年度から、虐待が疑われる事案に対する医療機関からの相談を受け付ける、児童虐待早期発見医療体制整備事業を県から受託し、令和5年度は相談及び助言を61件行っている。				－
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																							
回数（回）	6	5	3	2	4	4																																							
参加人数（人）	院内	194	178	73	78	101																																							
	院外	162	108	49	36	49																																							
	合計	356	286	122	114	150																																							
			88	総合	①他団体の講師派遣依頼に協力する。  講師派遣実績（単位：件） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>医師</td><td>43</td><td>56</td><td>58</td><td>43</td><td>51</td><td>63</td></tr><tr><td>その他</td><td>40</td><td>38</td><td>34</td><td>21</td><td>41</td><td>44</td></tr><tr><td>計</td><td>83</td><td>94</td><td>92</td><td>64</td><td>92</td><td>107</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	医師	43	56	58	43	51	63	その他	40	38	34	21	41	44	計	83	94	92	64	92	107	A	他団体等が主催する講演会の講師として、医師や認定看護師を派遣しており、令和5年度も、令和4年度に引き続き、積極的に実施している。				88						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																							
医師	43	56	58	43	51	63																																							
その他	40	38	34	21	41	44																																							
計	83	94	92	64	92	107																																							
			89	総合	①②他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。  院外講演会講師派遣状況（医師）（単位：回） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>派遣回数</td><td>21</td><td>22</td><td>4</td><td>9</td><td>23</td><td>21</td></tr></table> 院外講演会講師派遣状況（看護師）（単位：回） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>派遣回数</td><td>26</td><td>33</td><td>17</td><td>30</td><td>37</td><td>25</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	派遣回数	21	22	4	9	23	21	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	派遣回数	26	33	17	30	37	25	A	他団体等が主催する講演会の講師やアドバイザーとして医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行っている。派遣実績は前年度のペースを上回っている。また、令和5年7月に全国自治体病院協議会の精神科部会を静岡市内で開催し、他の病院の先進的な取り組みについて知見を得る機会となった。				89						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																							
派遣回数	21	22	4	9	23	21																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																							
派遣回数	26	33	17	30	37	25																																							
			90	こども		A						90																																	





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																												
						評価	説明																																																																																																																																	
			95	③院内における資格取得を支援し、活用を促進する。 ④No.66 ⑤児童虐待早期発見医療体制整備事業を県から受託し、相談窓口の設置や教育研修など地域の医療機関を支援する。	本部 資格等取得助成制度利用者（単位：人） <table><tr><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td rowspan="3">総合</td><td>看護師</td><td>0</td><td>0</td><td>9</td><td>10</td><td>13</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>9</td></tr><tr><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="3">計</td><td></td><td>0</td><td>0</td><td>10</td><td>13</td><td>22</td></tr><tr><td>看護師</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>0</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="3">こころ</td><td>事務</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>0</td><td>8</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>看護師</td><td>4</td><td>6</td><td>2</td><td>2</td><td>5</td></tr><tr><td rowspan="3">こども</td><td>コメディカル</td><td>4</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>11</td><td>10</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td></tr><tr><td rowspan="3">本部</td><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>看護師</td><td>7</td><td>8</td><td>12</td><td>13</td><td>15</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>4</td><td>9</td><td>1</td><td>1</td><td>11</td></tr><tr><td rowspan="3">計</td><td>事務</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>11</td><td>18</td><td>13</td><td>16</td><td>26</td></tr></table>		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	看護師	0	0	9	10	13	コメディカル	0	0	1	1	9	事務	0	0	0	2	0	計		0	0	10	13	22	看護師	0	2	1	1	0	コメディカル	0	5	0	0	0	こころ	事務	0	1	0	0	0	計	0	8	1	1	0	看護師	4	6	2	2	5	こども	コメディカル	4	4	0	0	2	事務	0	0	0	0	0	計	11	10	2	2	4	本部	事務	0	0	0	0	0	看護師	7	8	12	13	15	コメディカル	4	9	1	1	11	計	事務	0	1	0	2	0	計	11	18	13	16	26	A	平成24年度以降、資格等取得助成制度により資格取得を支援している。 これまで、毎年度一定数の利用者がおり、令和5年度については認定一般検査技師等で24人が利用した。 意欲ある職員の資質向上に資することが来ている。	・職員の資格取得の動機付けとなっていると考えられ、専門的知識を有する職員の育成と能力を発揮できるよう、緩和ケアやがん看護の認定看護師をがん相談センターに配置するなど、資格の特性が人事配置にあたって考慮されている。 （参考） ・資格等助成制度は、看護師、コメディカル、事務職員が、診療情報管理士資格等の新たな免許・資格等の積極的取得促進のために、原則として3万円を上限として、支給する助成金である。				95									
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																		
総合	看護師	0	0	9	10	13																																																																																																																																		
	コメディカル	0	0	1	1	9																																																																																																																																		
	事務	0	0	0	2	0																																																																																																																																		
計		0	0	10	13	22																																																																																																																																		
	看護師	0	2	1	1	0																																																																																																																																		
	コメディカル	0	5	0	0	0																																																																																																																																		
こころ	事務	0	1	0	0	0																																																																																																																																		
	計	0	8	1	1	0																																																																																																																																		
	看護師	4	6	2	2	5																																																																																																																																		
こども	コメディカル	4	4	0	0	2																																																																																																																																		
	事務	0	0	0	0	0																																																																																																																																		
	計	11	10	2	2	4																																																																																																																																		
本部	事務	0	0	0	0	0																																																																																																																																		
	看護師	7	8	12	13	15																																																																																																																																		
	コメディカル	4	9	1	1	11																																																																																																																																		
計	事務	0	1	0	2	0																																																																																																																																		
	計	11	18	13	16	26																																																																																																																																		
	③ 県民への情報提供の充実  公開講座や医療相談の開催、ホームページの活用などを通じて県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。	③ 県民への情報提供の充実  定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	③ 県民への情報提供の充実  ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供 ③報道機関等への情報発信	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																											
			96	①県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。	各病院 特色を活かした公開講座等を企画、開催している。  公開講座（単位：件、人） <table><tr><th>病院</th><th>区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td rowspan="3">総合</td><td>県民向け</td><td>実施件数</td><td>6</td><td>9</td><td>3</td><td>5</td><td>7</td><td>27</td></tr><tr><td>参加者</td><td>524</td><td>349</td><td>125</td><td>104</td><td>176</td><td>649</td><td>—</td></tr><tr><td>医療機関向け</td><td>実施件数</td><td>21</td><td>27</td><td>10</td><td>9</td><td>21</td><td>27</td></tr><tr><td rowspan="3">こころ</td><td>参加者</td><td>1,193</td><td>1,441</td><td>371</td><td>379</td><td>1,083</td><td>1,461</td><td>—</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>参加者</td><td>28</td><td>21</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td><td>23</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="3">こども</td><td>医療機関向け</td><td>実施件数</td><td>3</td><td>8</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>5</td></tr><tr><td>参加者</td><td>88</td><td>115</td><td>20</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>3</td><td>6</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr><tr><td rowspan="3">こども</td><td>参加者</td><td>195</td><td>188</td><td>20</td><td>127</td><td>125</td><td>173</td><td>—</td></tr><tr><td>医療機関向け</td><td>実施件数</td><td>13</td><td>6</td><td>10</td><td>15</td><td>12</td><td>18</td><td>20</td></tr><tr><td>参加者</td><td>698</td><td>218</td><td>422</td><td>721</td><td>606</td><td>972</td><td>—</td></tr></table>  きこえとことばのセンター主催研修会等の開催件数（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>8</td><td>5</td><td>32</td><td>33</td><td>34</td><td>19</td></tr></table>	病院	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	総合	県民向け	実施件数	6	9	3	5	7	27	参加者	524	349	125	104	176	649	—	医療機関向け	実施件数	21	27	10	9	21	27	こころ	参加者	1,193	1,441	371	379	1,083	1,461	—	実施件数	2	2	0	0	2	2	2	参加者	28	21	0	0	7	23	—	こども	医療機関向け	実施件数	3	8	3	0	0	5	参加者	88	115	20	0	0	0	—	実施件数	3	6	1	3	3	4	5	こども	参加者	195	188	20	127	125	173	—	医療機関向け	実施件数	13	6	10	15	12	18	20	参加者	698	218	422	721	606	972	—	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	8	5	32	33	34	19	—	—	—	—	—	—	—
病院	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																																																																
総合	県民向け	実施件数	6	9	3	5	7	27																																																																																																																																
	参加者	524	349	125	104	176	649	—																																																																																																																																
	医療機関向け	実施件数	21	27	10	9	21	27																																																																																																																																
こころ	参加者	1,193	1,441	371	379	1,083	1,461	—																																																																																																																																
	実施件数	2	2	0	0	2	2	2																																																																																																																																
	参加者	28	21	0	0	7	23	—																																																																																																																																
こども	医療機関向け	実施件数	3	8	3	0	0	5																																																																																																																																
	参加者	88	115	20	0	0	0	—																																																																																																																																
	実施件数	3	6	1	3	3	4	5																																																																																																																																
こども	参加者	195	188	20	127	125	173	—																																																																																																																																
	医療機関向け	実施件数	13	6	10	15	12	18	20																																																																																																																															
	参加者	698	218	422	721	606	972	—																																																																																																																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																		
件数	8	5	32	33	34	19																																																																																																																																		
			97	①【総/子】・県民向けイベントの開催や参加に努める。	総合、こども （総合） オープンホスピタル来場者数（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>来場者数</td><td>1,200</td><td>1,200</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>1,400</td></tr></table>  （こども） 「I Loveしずおか協議会」主催の「おまち・ワンダーランド・青葉シンボルロードイルミネーション企画」に参加し、「いのりの木」を設置。入院患者や医療従事者へのメッセージを投函できる仕組とするなど、こども病院の周知を図った。 なお、以前参加していた(株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり inツインメッセ」は、イベントの開催が終了となった。	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	来場者数	1,200	1,200	—	—	—	1,400	A	オープンホスピタルの開催などにより、県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実につなげている。令和5年度は4年ぶりにオープンホスピタルを開催しコロナ以前の開催と比べ来場者数は増加した。	・総合病院のオープンホスピタルは、令和5年度は開催し、1400人程度が来場した。 ・こども病院は、令和5年度は、「おまち・ワンダーランド・青葉シンボルロードイルミネーション企画」に参加した。				97																																																																																																														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																		
来場者数	1,200	1,200	—	—	—	1,400																																																																																																																																		
			98	②県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	各病院 機構全体のトピックスやプレスリリース等をホームページに掲載し積極的に情報発信を行った。  セクション別アクセス件数（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度 ※</th></tr><tr><td>本部</td><td>226,519</td><td>232,673</td><td>246,234</td><td>234,744</td><td>214,098</td><td>131,077</td></tr><tr><td>総合</td><td>2,322,348</td><td>2,902,755</td><td>2,751,715</td><td>2,542,438</td><td>2,297,492</td><td>697,708</td></tr><tr><td>こころ</td><td>376,258</td><td>662,762</td><td>659,939</td><td>674,386</td><td>689,495</td><td>203,172</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,690,943</td><td>1,772,069</td><td>1,800,380</td><td>1,810,951</td><td>1,545,737</td><td>433,318</td></tr><tr><td>合計</td><td>4,616,068</td><td>5,570,259</td><td>5,458,268</td><td>5,262,519</td><td>4,746,822</td><td>1,465,275</td></tr></table> ※サイト側で集計方法変更があったため、令和4年度以前と比較ができない（集計は、7月～3月分）	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度 ※	本部	226,519	232,673	246,234	234,744	214,098	131,077	総合	2,322,348	2,902,755	2,751,715	2,542,438	2,297,492	697,708	こころ	376,258	662,762	659,939	674,386	689,495	203,172	こども	1,690,943	1,772,069	1,800,380	1,810,951	1,545,737	433,318	合計	4,616,068	5,570,259	5,458,268	5,262,519	4,746,822	1,465,275	A	機構全体のトピックスやプレスリリース等をホームページに掲載し積極的に情報発信を行っている。 各病院において、診療内容やイベント開催等の基本的な情報を掲載し業務活動の広報に努めているほか、感染症に係る情報等の突発的な情報についても丁寧かつ迅速に伝えるため、ホームページを積極的に活用している。	・機構ホームページは、最新情報が随時更新されている。 ・各病院における感染症対策の情報等も随時更新し、積極的な情報発信に努めている。 ・今後も迅速かつ正確な情報提供に努めるとともに、県民、採用希望者、医療従事者等、閲覧者の特性に応じ、分かりやすい内容・構成等への配慮が期待される。				98																																																																																		
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度 ※																																																																																																																																		
本部	226,519	232,673	246,234	234,744	214,098	131,077																																																																																																																																		
総合	2,322,348	2,902,755	2,751,715	2,542,438	2,297,492	697,708																																																																																																																																		
こころ	376,258	662,762	659,939	674,386	689,495	203,172																																																																																																																																		
こども	1,690,943	1,772,069	1,800,380	1,810,951	1,545,737	433,318																																																																																																																																		
合計	4,616,068	5,570,259	5,458,268	5,262,519	4,746,822	1,465,275																																																																																																																																		
			99	③県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	各病院 最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。  記者情報提供件数（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>提供件数</td><td>43</td><td>36</td><td>19</td><td>29</td><td>21</td><td>42</td></tr><tr><td>掲載件数</td><td>30</td><td>24</td><td>13</td><td>20</td><td>14</td><td>25</td></tr></table>  ※提供件数1件に対し、掲載件数が複数あった場合も掲載件数1件とカウントする	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	提供件数	43	36	19	29	21	42	掲載件数	30	24	13	20	14	25	A	新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、イベントに関する情報等がコロナ下比べ増加している。 引き続き、適切な時期に情報発信することを継続して取組を実施していく。	・県政記者クラブへの情報提供は、イベント開催告知にとどまらず、令和5年度はこども病院のTPVI初期導入施設への指定、科学雑誌への研究論文の掲載、オープンホスピタルの開催など、病院機構が提供する高度・専門医療に対して県民の理解や共感を得るための効果的・効率的な発信ツールとなっている。 ・報道機関や一般の県民にとって理解が難しい医療に関する専門用語や複雑な医療制度等については、わかりやすさに配慮した情報発信が期待される。				99																																																																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																		
提供件数	43	36	19	29	21	42																																																																																																																																		
掲載件数	30	24	13	20	14	25																																																																																																																																		
5 災害等における医療救護	5 災害等における医療救護	5 災害等における医療救護	—	—	—	—	—	—				—																																																																																																																												



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																															
						評価	説明																																																																																				
県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担い、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。	地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県の県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時においては静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。	県立病院として、県内外の災害等の発生に対し十分な備えをするとともに、医療救護活動の拠点としての役割を果たす。	—	—	—	—	—	—				—																																																																															
(1) 医療救護活動の拠点機能	(1) 医療救護活動の拠点機能	(1) 医療救護活動の拠点機能	—	—	—	—	—	—				—																																																																															
災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は、基幹災害拠点病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことができるよう機能強化を図ること。あわせて、国の原子力災害対策指針に基づく新たな原子力災害医療体制の整備に努めること。また、県立こころの医療センターは災害時における精神医療分野の、県立こども病院は災害時における小児医療分野の、それぞれにおける基幹的役割を果たすよう、日頃から備えること。	日頃から実戦的な災害医療訓練を定期的に開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上し、災害等の発生時には重篤患者の受入れ、県内外のDMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	①災害拠点病院（小児分野を含む）等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②災害時における精神医療分野の拠点病院として、中心的な役割を担う ③小児専門医療機関間の災害時情報交換システムと相互協力関係の構築	—	①災害医療訓練を実施する。 ①災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発災時に迅速な対応ができるようにする。 ①【心】・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。 ①【子】・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ②【心】・一時避難所機能等災害時における精神医療分野の拠点病院としての役割を担うための訓練を実施する。 ③【子】・小児医療総合施設協議会において実施する小児専門医療機関間の災害時における情報交換システムに参加、協力していく。	総合	年度別実績 <table><tr><td rowspan="5">元年度</td><td>令和6.6.20</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加</td><td>令和7.7.13</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加</td></tr><tr><td>令和7.7.3</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加</td><td>令和7.7.13</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td></tr><tr><td>令和7.7.11</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td><td>令和7.7.30</td><td>第1回静岡県DMAT看護師研修オンライン開催（受講者17名）</td></tr><tr><td>令和11.2-3</td><td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td><td>令和12.9.28・10.1</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（受講者15名、他職員15名）</td></tr><tr><td>令和12.1</td><td>県立総合病院防災訓練</td><td>令和12.10・11</td><td>院内防災訓練実施（参加者61名）</td></tr><tr><td rowspan="5">2年度</td><td>令和2.1.26</td><td>静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施</td><td>令和12.10・11</td><td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催（受講者65名）</td></tr><tr><td>令和2.7.10</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加</td><td>令和12.15</td><td>第2回静岡県DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催（受講者15名）</td></tr><tr><td>令和2.7.16</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td><td>令和5.2.4</td><td>静岡県原子力災害医療訓練に参加（10名）</td></tr><tr><td>令和2.9.17</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施</td><td>令和5.2.19</td><td>静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて開催（受講者21名）</td></tr><tr><td>令和3.7.7</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を実施</td><td>令和5.2.23</td><td>第3回静岡県DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催（受講者17名）</td></tr><tr><td rowspan="5">3年度</td><td>令和3.10.30</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（受講者1名）</td><td>令和5.6.18</td><td>第1回静岡県DMAT看護師研修（西部）を開催（受講者17名）</td></tr><tr><td>令和3.11.27</td><td>静岡県DMAT看護師研修を県立総合病院で実施</td><td>令和5.7.7・13</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を実施（受講者10名）</td></tr><tr><td>令和3.12.5</td><td>院内防災訓練実施（参加者46名）</td><td>令和5.9.30</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（参加者2名）</td></tr><tr><td>令和4.3.18</td><td>静岡県DMAT通信訓練を企画・実施</td><td>令和5.10.28・29</td><td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td></tr><tr><td></td><td></td><td>令和5.12.17</td><td>第2回静岡県DMAT看護師研修（東部）を開催（受講者16名）</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>令和6.3.2</td><td>第3回静岡県DMAT看護師研修（中部）を開催（受講者15名）</td></tr></table> 主な活動実績 <table><tr><td rowspan="2">3年度</td><td>令和3.4～</td><td>新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣（県対策本部・保健所等）（DMAT隊員2名）</td></tr><tr><td>令和3.7～</td><td>熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣（県対策本部・熱海被災地）（DMAT隊員19名）</td></tr><tr><td>4年度</td><td>令和4.4～</td><td>新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣（宿泊療養施設・保健所）（DMAT隊員2名）</td></tr><tr><td>5年度</td><td>令和6.1～</td><td>能登半島地震へのDMAT派遣（県対策本部・被災地）（DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名）</td></tr></table>	元年度	令和6.6.20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	令和7.7.13	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	令和7.7.3	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	令和7.7.13	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令和7.7.11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令和7.7.30	第1回静岡県DMAT看護師研修オンライン開催（受講者17名）	令和11.2-3	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施	令和12.9.28・10.1	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（受講者15名、他職員15名）	令和12.1	県立総合病院防災訓練	令和12.10・11	院内防災訓練実施（参加者61名）	2年度	令和2.1.26	静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施	令和12.10・11	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催（受講者65名）	令和2.7.10	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	令和12.15	第2回静岡県DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催（受講者15名）	令和2.7.16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令和5.2.4	静岡県原子力災害医療訓練に参加（10名）	令和2.9.17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施	令和5.2.19	静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて開催（受講者21名）	令和3.7.7	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を実施	令和5.2.23	第3回静岡県DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催（受講者17名）	3年度	令和3.10.30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（受講者1名）	令和5.6.18	第1回静岡県DMAT看護師研修（西部）を開催（受講者17名）	令和3.11.27	静岡県DMAT看護師研修を県立総合病院で実施	令和5.7.7・13	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を実施（受講者10名）	令和3.12.5	院内防災訓練実施（参加者46名）	令和5.9.30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（参加者2名）	令和4.3.18	静岡県DMAT通信訓練を企画・実施	令和5.10.28・29	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施			令和5.12.17	第2回静岡県DMAT看護師研修（東部）を開催（受講者16名）				令和6.3.2	第3回静岡県DMAT看護師研修（中部）を開催（受講者15名）	3年度	令和3.4～	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣（県対策本部・保健所等）（DMAT隊員2名）	令和3.7～	熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣（県対策本部・熱海被災地）（DMAT隊員19名）	4年度	令和4.4～	新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣（宿泊療養施設・保健所）（DMAT隊員2名）	5年度	令和6.1～	能登半島地震へのDMAT派遣（県対策本部・被災地）（DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名）	S	情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、基幹災害拠点病院の役割を果たすべく各種訓練（政府訓練・総合防災訓練・2023年度静岡空港航空機事故対応部分訓練・中部ブロック実働訓練）に参加及び研修を企画、実施している。 静岡県DMAT-L隊員養成研修は、昨年よりも約10名多く55名の受講生を受け入れ、県下のDMAT隊員を増加させた。静岡県DMAT看護師研修を年3回実施し、東部、中部、西部で各1回ずつ実施することにより、県下のDMAT隊員が参加しやすくなった。静岡県DMAT看護師部会を通じて各課題の検討や意見交換をする等、基幹災害拠点病院として、県全体の連携向上に努めている。能登半島地震に伴うDMAT派遣においては、3チーム（1チームは他の病院との混合）派遣し、ロジスティックチームの派遣として、1名を派遣した。また、県対策本部に延べ38名を派遣した。 原子力災害拠点病院としての役割を果たすため、放射線部を中心に設備・備品の整備・更新を進めている。 引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。	・総合病院は基幹災害拠点病院として、こころの医療センターは災害拠点精神科病院として、こども病院は災害時における小児の拠点病院として、災害医療訓練の実施、国・県等が実施する訓練への参加、災害対応マニュアルの整備等、県民の安全・安心を守る医療救護活動の拠点としての体制整備と取組の充実が図られている。 ・令和5年度は、静岡県DMAT-L隊員養成研修で55名の受講生を受入れたほか、DMAT看護師研修の開始に伴い、看護師が参加しやすいよう県内3地域での開催や看護師部会の発足など、県内でのDMAT体制整備強化に貢献した。 ・令和5年度においては、令和6年能登半島地震の被災地域へDMAT・DPAT等を派遣したほか、関係団体からの要請により、災害支援ナース等を派遣するほか、県災害対策本部にも延38名を派遣するなど、災害対応の基幹的役割を果たしている。	28	☆	100
元年度	令和6.6.20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	令和7.7.13	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加																																																																																							
	令和7.7.3	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	令和7.7.13	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加																																																																																							
	令和7.7.11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令和7.7.30	第1回静岡県DMAT看護師研修オンライン開催（受講者17名）																																																																																							
	令和11.2-3	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施	令和12.9.28・10.1	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（受講者15名、他職員15名）																																																																																							
	令和12.1	県立総合病院防災訓練	令和12.10・11	院内防災訓練実施（参加者61名）																																																																																							
2年度	令和2.1.26	静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施	令和12.10・11	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催（受講者65名）																																																																																							
	令和2.7.10	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	令和12.15	第2回静岡県DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催（受講者15名）																																																																																							
	令和2.7.16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令和5.2.4	静岡県原子力災害医療訓練に参加（10名）																																																																																							
	令和2.9.17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施	令和5.2.19	静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて開催（受講者21名）																																																																																							
	令和3.7.7	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を実施	令和5.2.23	第3回静岡県DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催（受講者17名）																																																																																							
3年度	令和3.10.30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（受講者1名）	令和5.6.18	第1回静岡県DMAT看護師研修（西部）を開催（受講者17名）																																																																																							
	令和3.11.27	静岡県DMAT看護師研修を県立総合病院で実施	令和5.7.7・13	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を実施（受講者10名）																																																																																							
	令和3.12.5	院内防災訓練実施（参加者46名）	令和5.9.30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（参加者2名）																																																																																							
	令和4.3.18	静岡県DMAT通信訓練を企画・実施	令和5.10.28・29	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施																																																																																							
			令和5.12.17	第2回静岡県DMAT看護師研修（東部）を開催（受講者16名）																																																																																							
			令和6.3.2	第3回静岡県DMAT看護師研修（中部）を開催（受講者15名）																																																																																							
3年度	令和3.4～	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣（県対策本部・保健所等）（DMAT隊員2名）																																																																																									
	令和3.7～	熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣（県対策本部・熱海被災地）（DMAT隊員19名）																																																																																									
4年度	令和4.4～	新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣（宿泊療養施設・保健所）（DMAT隊員2名）																																																																																									
5年度	令和6.1～	能登半島地震へのDMAT派遣（県対策本部・被災地）（DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名）																																																																																									
		100 ～ 102		100 ～ 102	100 ～ 102				28	☆	101																																																																																
		</																																																																																									





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																																											
						評価	説明																																																																																																																																																																
	業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価し、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。	実施 ⑦効果的な職員採用 ⑧柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ⑨看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様かつ多角的な確保対策の実施 ⑩経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑪経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 ⑫業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	104	本部・各病院	<table><tr><td>元年度</td><td>令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定</td><td rowspan="2">4年度</td><td rowspan="2">令和5年3月 本館非常用発電機更新工事完工</td></tr><tr><td>2年度</td><td>令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%</td></tr><tr><td>3年度</td><td>令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅱ期リニューアル工事完了</td><td>5年度</td><td>令和6年3月 劣化改修工事設計完了 令和6年3月 BS劣化改修工事(緊急分)完了</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">病棟再編検討会(WG)開催数（こども病院）（単位：回）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>開催件数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>11</td><td>5</td><td>4</td></tr></table> ※令和4年度、病棟運営WGに改称	元年度	令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定	4年度	令和5年3月 本館非常用発電機更新工事完工	2年度	令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%	3年度	令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅱ期リニューアル工事完了	5年度	令和6年3月 劣化改修工事設計完了 令和6年3月 BS劣化改修工事(緊急分)完了	病棟再編検討会(WG)開催数（こども病院）（単位：回）							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催件数	—	—	—	11	5	4	A	用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く）を対象に令和2年度から給与（勤勉手当）に活用、令和3年度の評価から昇給に活用を開始した。（令和3年度前期、後期の評価を令和5年1月1日昇給に活用）  総合病院では、主に本館は40年以上が経過し、設備配管やエアコン等空調機器等の設備機器などは、老朽化により故障などのトラブルが発生している。そのため、劣化度が高いものについて実施設計を行い、緊急的に防水工事、設備配管や設備機器等の劣化改修工事を行った。 第4期中期計画についても、引き続き工事を行う予定である。		29	○	104																																																																																																																													
元年度	令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定	4年度	令和5年3月 本館非常用発電機更新工事完工																																																																																																																																																																				
2年度	令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%																																																																																																																																																																						
3年度	令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅱ期リニューアル工事完了	5年度	令和6年3月 劣化改修工事設計完了 令和6年3月 BS劣化改修工事(緊急分)完了																																																																																																																																																																				
病棟再編検討会(WG)開催数（こども病院）（単位：回）																																																																																																																																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																	
開催件数	—	—	—	11	5	4																																																																																																																																																																	
		⑦優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 ・職員の採用に対し、広報等様々な取組みを行うことで、必要な職員数の確保に努める。 ⑧柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 ⑨パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 ・看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	105	本部・各病院	<table><tr><td colspan="6">アソシエイト採用実績（単位：人）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>看護師</td><td>3</td><td>—</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事務</td><td>10</td><td>3</td><td>8</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>3</td><td>1</td><td>5</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>16</td><td>4</td><td>14</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> <table><tr><td colspan="6">正規職員数の状況(各年度4月1日現在)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>本部</td><td>34</td><td>35</td><td>34</td><td>36</td><td>38</td><td>36</td></tr><tr><td>総合</td><td>1,242</td><td>1,271</td><td>1,317</td><td>1,331</td><td>1,359</td><td>1,380</td></tr><tr><td>こころ</td><td>170</td><td>170</td><td>175</td><td>174</td><td>176</td><td>182</td></tr><tr><td>こども</td><td>642</td><td>636</td><td>648</td><td>660</td><td>650</td><td>652</td></tr><tr><td>合計</td><td>2,088</td><td>2,112</td><td>2,174</td><td>2,201</td><td>2,223</td><td>2,250</td></tr></table> <table><tr><td colspan="6">看護師修学資金の状況（単位：人）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>決定</td><td>55</td><td>50</td><td>36</td><td>40</td><td>51</td><td>90</td></tr><tr><td>継続</td><td>182</td><td>147</td><td>128</td><td>104</td><td>89</td><td>128</td></tr><tr><td>取消</td><td>▲8</td><td>▲7</td><td>▲4</td><td>▲5</td><td>▲2</td><td>▲5</td></tr><tr><td>貸与計</td><td>229</td><td>190</td><td>160</td><td>139</td><td>138</td><td>213</td></tr><tr><td>採用</td><td>62</td><td>53</td><td>46</td><td>44</td><td>44</td><td>29</td></tr></table> <p>看護師募集における広報等の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・人材広告業者の求人情報ウェブサイト、雑誌への求人情報掲載</li><li>・静岡新聞求人情報掲載（看護の日）</li><li>・県民だより求人情報掲載</li><li>・県内コンビニ、ショッピングモールへの看護師募集ポスター掲示</li></ul> <table><tr><td colspan="4">看護学生向け就職説明会（R5末時点）（単位：人）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>来場者数</td><td>訪問者数</td><td>受験者数</td></tr><tr><td>ナース専科（静岡）</td><td>49</td><td>74</td><td>11</td></tr><tr><td>ナースナビ（浜松）</td><td>174</td><td>65</td><td>0</td></tr><tr><td>マイナビ（静岡）</td><td>219</td><td>160</td><td>30</td></tr><tr><td>（沼津）</td><td>103</td><td>82</td><td>8</td></tr></table>	アソシエイト採用実績（単位：人）						区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	看護師	3	—	1	1	1	事務	10	3	8	1	2	コメディカル	3	1	5	1	1	計	16	4	14	3	4	正規職員数の状況(各年度4月1日現在)						区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	本部	34	35	34	36	38	36	総合	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380	こころ	170	170	175	174	176	182	こども	642	636	648	660	650	652	合計	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250	看護師修学資金の状況（単位：人）						区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	決定	55	50	36	40	51	90	継続	182	147	128	104	89	128	取消	▲8	▲7	▲4	▲5	▲2	▲5	貸与計	229	190	160	139	138	213	採用	62	53	46	44	44	29	看護学生向け就職説明会（R5末時点）（単位：人）				区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科（静岡）	49	74	11	ナースナビ（浜松）	174	65	0	マイナビ（静岡）	219	160	30	（沼津）	103	82	8	A	令和5年度については、効果的な職員採用に繋げるため、看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 また、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問に加えて、病院説明会など様々な確保対策を進めた。新たな確保策として3病院見学ツアーを企画・実施した。 今後も職員確保に向けた取組みを継続していく。	・看護師修学資金は、機構への就職を希望する看護学生の資質の向上に資することを目的に月5万円を貸与する制度であり、就職期間に相当する額の返還が免除される。 ・令和5年度も、安定した制度運用を継続しており、将来、地域医療を支える高い意欲を持つ看護師の継続的な確保に寄与している。 ・企業主催の看護学生向けの就職説明会参加や養成校訪問等を実施するなど、看護師確保に取り組んでおり、令和5年度も実施されている。 ・ホームページ、広報誌、ラジオ、ポスター掲示等、各種広報媒体を通じた採用試験情報の周知にも積極的に取り組んでいる。	19	○	105
アソシエイト採用実績（単位：人）																																																																																																																																																																							
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
看護師	3	—	1	1	1																																																																																																																																																																		
事務	10	3	8	1	2																																																																																																																																																																		
コメディカル	3	1	5	1	1																																																																																																																																																																		
計	16	4	14	3	4																																																																																																																																																																		
正規職員数の状況(各年度4月1日現在)																																																																																																																																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																	
本部	34	35	34	36	38	36																																																																																																																																																																	
総合	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380																																																																																																																																																																	
こころ	170	170	175	174	176	182																																																																																																																																																																	
こども	642	636	648	660	650	652																																																																																																																																																																	
合計	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250																																																																																																																																																																	
看護師修学資金の状況（単位：人）																																																																																																																																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																	
決定	55	50	36	40	51	90																																																																																																																																																																	
継続	182	147	128	104	89	128																																																																																																																																																																	
取消	▲8	▲7	▲4	▲5	▲2	▲5																																																																																																																																																																	
貸与計	229	190	160	139	138	213																																																																																																																																																																	
採用	62	53	46	44	44	29																																																																																																																																																																	
看護学生向け就職説明会（R5末時点）（単位：人）																																																																																																																																																																							
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																				
ナース専科（静岡）	49	74	11																																																																																																																																																																				
ナースナビ（浜松）	174	65	0																																																																																																																																																																				
マイナビ（静岡）	219	160	30																																																																																																																																																																				
（沼津）	103	82	8																																																																																																																																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																
						評価	説明																																																																																					
					<table><tr><td colspan="4">業者計</td><td>49</td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>71</td><td>127</td><td>23</td><td></td></tr><tr><td>常葉大学</td><td>－</td><td>54</td><td>27</td><td></td></tr><tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>160</td><td>－</td><td>4</td><td></td></tr><tr><td>順天堂大学</td><td>－</td><td>－</td><td>11</td><td></td></tr><tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>81</td><td>56</td><td>6</td><td></td></tr><tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td>104</td><td>57</td><td>10</td><td></td></tr><tr><td colspan="4">養成校計</td><td>81</td></tr><tr><td colspan="4">計</td><td>130</td></tr></table> ※訪問者数は病院間の重複あり  柔軟な採用試験の実施状況（単位：件） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>件数</td><td>6</td><td>7</td><td>9</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td></tr></table>  ホームページアクセス数 <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度※</td></tr><tr><td>アクセス数</td><td>年間</td><td>88,655</td><td>104,100</td><td>107,956</td><td>96,782</td><td>91,367</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>54,104</td><td></td></tr></table> ※サイト側で集計方法変更があったため、令和4年度以前と比較ができない（集計は、7月～3月分）	業者計				49	静岡県立大学	71	127	23		常葉大学	－	54	27		聖隷クリストファー大学	160	－	4		順天堂大学	－	－	11		静岡市立看護専門学校	81	56	6		静岡県立看護専門学校	104	57	10		養成校計				81	計				130	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	6	7	9	6	9	12	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度※	アクセス数	年間	88,655	104,100	107,956	96,782	91,367						54,104								
業者計				49																																																																																								
静岡県立大学	71	127	23																																																																																									
常葉大学	－	54	27																																																																																									
聖隷クリストファー大学	160	－	4																																																																																									
順天堂大学	－	－	11																																																																																									
静岡市立看護専門学校	81	56	6																																																																																									
静岡県立看護専門学校	104	57	10																																																																																									
養成校計				81																																																																																								
計				130																																																																																								
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																						
件数	6	7	9	6	9	12																																																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度※																																																																																						
アクセス数	年間	88,655	104,100	107,956	96,782	91,367																																																																																						
					54,104																																																																																							
			106	⑩月次決算の集計等により、病院の経営状況の早期把握を図る。	本部  理事会等における月次決算の報告回数（単位：回） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>回数</td><td>6</td><td>6</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>8</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	6	6	10	10	10	8	A	理事会開催の度に月次決算の報告を実施し、病院の経営状況の早期把握及び機構内の情報共有を円滑に行うことができた。				106																																																																			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																						
回数	6	6	10	10	10	8																																																																																						
			107	⑩⑪毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ⑩機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。	各病院  理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。 職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。 院内コミュニケーションシステムや職員報（トライアングル等）を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。 上記取り組みを継続して行い、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制整備を図っている。	A	月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。 また、会議や職員報を通じた経営分析結果の職員への周知、理事長、副理事長自らによる研修等により、職員の経営に対する意識啓発を図っている。 令和4年度は、コロナ禍による診療収益の減と、補助金の見込額を随時把握し、月次決算報告に反映させた。				107																																																																																	
	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数(総合、こころ、こども、本部)	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数(総合、こころ、こども、本部)	108	⑫院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。	各病院  業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。  業務改善運動推進制度実績件数（単位：件） <table><tr><td>区分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>総合</td><td>72</td><td>113</td><td>27</td><td>164</td><td>95</td><td>98</td><td>80件以上</td></tr><tr><td>こころ</td><td>24</td><td>32</td><td>4</td><td>53</td><td>36</td><td>37</td><td>36件以上</td></tr><tr><td>こども</td><td>34</td><td>50</td><td>29</td><td>38</td><td>75</td><td>72</td><td>71件以上</td></tr><tr><td>本 部</td><td>10</td><td>8</td><td>8</td><td>21</td><td>20</td><td>20</td><td>19件以上</td></tr><tr><td>計</td><td>140</td><td>203</td><td>68</td><td>276</td><td>226</td><td>227</td><td>－</td></tr></table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	総合	72	113	27	164	95	98	80件以上	こころ	24	32	4	53	36	37	36件以上	こども	34	50	29	38	75	72	71件以上	本 部	10	8	8	21	20	20	19件以上	計	140	203	68	276	226	227	－	A	令和5年度については、各病院・所属で取組を実施しており、優れた取組については、ホームページやマスコミを活用し、他の医療機関に広く周知を図った。 総合病院においては目標件数80件に対して98件が報告された。				108																																	
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																					
総合	72	113	27	164	95	98	80件以上																																																																																					
こころ	24	32	4	53	36	37	36件以上																																																																																					
こども	34	50	29	38	75	72	71件以上																																																																																					
本 部	10	8	8	21	20	20	19件以上																																																																																					
計	140	203	68	276	226	227	－																																																																																					
2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	109	①階層や職務に応じた各種研修を実施する。 ・また、事務職員の機構外研修への積極的な参加を促す。 ②職員の適性等を考慮した弾力的な人事異動を行う。	本部  事務職員に対する研修状況 <table><tr><td>受講時期</td><td>研修名</td><td colspan="2">開催状況</td></tr><tr><td>新採年度</td><td>新規採用職員研修</td><td>6月</td><td>2日間</td></tr><tr><td>係長級昇任時</td><td>新規役付職員研修</td><td>5月</td><td>3時間</td></tr><tr><td rowspan="3">管理者</td><td>新任監督者研修</td><td>6月</td><td>1日間</td></tr><tr><td>労務管理者研修</td><td>6月</td><td>2時間</td></tr><tr><td>コーチング研修</td><td>9月</td><td>1日間</td></tr><tr><td rowspan="8">希望により任意参加</td><td>コミュニケーション研修</td><td>9月</td><td>1日間</td></tr><tr><td>ファシリテーション研修</td><td>9月</td><td>1日間</td></tr><tr><td>メンタルサポート研修</td><td>12月</td><td>4時間</td></tr><tr><td>接遇・クレーム応対講座</td><td>8月</td><td>4時間</td></tr><tr><td>事務職員基礎研修</td><td>4月</td><td>0.5時間</td></tr><tr><td>内部統制講座（会計実務編）</td><td>4月</td><td>2時間</td></tr><tr><td>内部統制講座（簿記・財務諸表編）</td><td>8月</td><td>3時間</td></tr><tr><td>医療現場基礎講座</td><td>9月</td><td>3時間</td></tr></table> 36	受講時期	研修名	開催状況		新採年度	新規採用職員研修	6月	2日間	係長級昇任時	新規役付職員研修	5月	3時間	管理者	新任監督者研修	6月	1日間	労務管理者研修	6月	2時間	コーチング研修	9月	1日間	希望により任意参加	コミュニケーション研修	9月	1日間	ファシリテーション研修	9月	1日間	メンタルサポート研修	12月	4時間	接遇・クレーム応対講座	8月	4時間	事務職員基礎研修	4月	0.5時間	内部統制講座（会計実務編）	4月	2時間	内部統制講座（簿記・財務諸表編）	8月	3時間	医療現場基礎講座	9月	3時間	A	階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施している。				109																																		
受講時期	研修名	開催状況																																																																																										
新採年度	新規採用職員研修	6月	2日間																																																																																									
係長級昇任時	新規役付職員研修	5月	3時間																																																																																									
管理者	新任監督者研修	6月	1日間																																																																																									
	労務管理者研修	6月	2時間																																																																																									
	コーチング研修	9月	1日間																																																																																									
希望により任意参加	コミュニケーション研修	9月	1日間																																																																																									
	ファシリテーション研修	9月	1日間																																																																																									
	メンタルサポート研修	12月	4時間																																																																																									
	接遇・クレーム応対講座	8月	4時間																																																																																									
	事務職員基礎研修	4月	0.5時間																																																																																									
	内部統制講座（会計実務編）	4月	2時間																																																																																									
	内部統制講座（簿記・財務諸表編）	8月	3時間																																																																																									
	医療現場基礎講座	9月	3時間																																																																																									



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																										
						評価	説明																																																																																															
			110	③診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。	診療情報管理士資格取得状況 (単位:人) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="2">30年度</th><th colspan="2">元年度</th><th colspan="2">2年度</th><th colspan="2">3年度</th><th colspan="2">4年度</th><th colspan="2">5年度</th></tr><tr><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th></tr><tr><td>総 合</td><td>7</td><td>10</td><td>7</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>こころ</td><td>1</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>こども</td><td>3</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>本 部</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>13</td><td>17</td><td>13</td><td>14</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td></tr></table> ※ 専門課程修了者：資格試験受験資格を有する者	区 分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	総 合	7	10	7	9	9	9	9	9	9	9	7	7	こころ	1	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	こども	3	4	3	3	5	5	5	5	5	5	7	7	本 部	2	0	1	0	1	1	2	2	2	2	2	2	計	13	17	13	14	17	17	17	17	17	17	17	17	A	令和5年度については、診療情報管理機能の強化をするため、引き続き診療情報管理士資格の取得支援制度を活用するなど、必要な資格者を育成するとともに、適切な人員配置を行った。	・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、診療報酬の適正算定に寄与する診療情報管理士資格取得者の育成と効果的な配置に努めている。				110
区 分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度																																																																																											
	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者																																																																																										
総 合	7	10	7	9	9	9	9	9	9	9	7	7																																																																																										
こころ	1	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1																																																																																										
こども	3	4	3	3	5	5	5	5	5	5	7	7																																																																																										
本 部	2	0	1	0	1	1	2	2	2	2	2	2																																																																																										
計	13	17	13	14	17	17	17	17	17	17	17	17																																																																																										
3 収益の確保と費用の節減 新たな診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的に検討を行うほか、診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図ること。また、診療報酬請求漏れの防止や未収金の発生防止及び早期回収に努めること。 費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組むこと。	3 収益の確保と費用の節減 診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図る。また、様々な診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的な検討を行うほか、診療報酬請求漏れの防止、未収金の発生防止や早期回収に努める。 費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組む。	3 収益の確保と費用の節減 ①平均在院日数の短縮に向けた取り組み ②医薬品、診療材料の適正かつ計画的な購入 ③診療報酬など収入の適正な確保 ④業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト縮減 ⑤未収金対策の実施	—	—	—	—	（総合） DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合を高めるため、定例医局会で月次報告を行い、入院期間Ⅱ以内の退院について協力を求めるとともに、クリニカルパス見直し等の取組を行っている。 （こころ） 患者の早期入院・早期退院に努めており、長期入院患者率が前年度を下回った。 （こども） DPC部会を開催し、状況確認や課題の解決について取り組んだ。	・DPC入院期間ⅡはDPC病院の平均在院日数を表しており、この日数内の退院割合は、診療の効率性の観点における指標となりうるが、DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合は、令和5年度において、令和4年度と同程度となっている。 ・こころの医療センターの長期入院患者率は、令和4年度並みとなっている。 ・引き続き、地域と連携した退院支援に取り組むことを期待する。	—	—	—	—																																																																																										
			111	②診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。	DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合 (単位:％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総 合</td><td>66.2</td><td>68.8</td><td>68.9</td><td>71.8</td><td>68.8</td><td>68.3</td></tr><tr><td>こども</td><td>67.0</td><td>67.8</td><td>67.6</td><td>68.1</td><td>74.2</td><td>70.5</td></tr></table> 長期入院患者率 (単位:％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こころ</td><td>38.9</td><td>37.5</td><td>43.1</td><td>44.0</td><td>42.0</td><td>41.7</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総 合	66.2	68.8	68.9	71.8	68.8	68.3	こども	67.0	67.8	67.6	68.1	74.2	70.5	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ	38.9	37.5	43.1	44.0	42.0	41.7	A	（総合） 破棄・破損については、部署、原因、金額等の記録を徹底し、特に高額なものはインシデントレポートの提出を義務化している。また、委員会において事象報告を行い、対応策を議論することにより、破棄・破損の削減に努めている。前年同期に比べ▲1,007千円となっている。 （こころ） 薬品類については、前年度までの取組に引き続き、破棄・破損額の抑制のため、3病院間での薬品の譲受譲渡を推進し、不動在庫の軽減に繋がった。 診療材料については、病棟内における在庫の適正化をすすめ、病棟内の在庫を減らし必要時に度発注することとして、前年度までの取組を継続して、期限切れによる廃棄の削減に努めた。 （こども） 各部署と金額等の情報共有を徹底するとともに、委員会等で破棄・破損額の情報共有、適切な在庫管理の周知を行い、破棄・破損の削減に努めた。	・経費節減の観点のみならず、使用期限切れ材料・薬品による医療事故の予防等、医療安全上の要請からも、在庫管理の徹底が求められるが、診療材料、薬品の破棄・破損を抑制し経費節減を図るため、記録の徹底、院内の薬剤部における委員会での情報共有等を徹底し、有効な在庫管理に努めている。				111																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																
総 合	66.2	68.8	68.9	71.8	68.8	68.3																																																																																																
こども	67.0	67.8	67.6	68.1	74.2	70.5																																																																																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																
こころ	38.9	37.5	43.1	44.0	42.0	41.7																																																																																																
			112	③積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかわる研修会等を実施する。	破棄・破損額（5年度3月末） (単位:千円) <table><tr><th>区 分</th><th>診療材料費</th><th>薬品費</th><th>合計</th></tr><tr><td>総合</td><td>5,446</td><td>1,945</td><td>7,391</td></tr><tr><td>こころ</td><td>321</td><td>119</td><td>440</td></tr><tr><td>こども</td><td>2,930</td><td>3,290</td><td>6,220</td></tr><tr><td>合 計</td><td>8,697</td><td>5,354</td><td>14,051</td></tr></table>	区 分	診療材料費	薬品費	合計	総合	5,446	1,945	7,391	こころ	321	119	440	こども	2,930	3,290	6,220	合 計	8,697	5,354	14,051	A	（総合） 各病院において、施設基準の新規及び変更の届出を積極的にに行い、診療単価の向上に寄与している。 また、研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識を高めるよう努めている。	・新たに導入した医療技術にかかる施設基準の届出など、医療の提供体制や内容に応じた診療報酬を適正に請求するため、研修を通じた職員養成など体制づくりに取り組んでいる。 ・派遣会社を活用した夜間看護師補助者の配置など、新たな施設基準の取得等に積極的に取り組んでいる。 ・今後も、診療報酬制度の改定に際して、早期の情報収集に基づく迅速な院内体制の確保と、診療報酬事務職員の養成、医療現場への周知徹底が期待される。	30	○		112																																																																						
区 分	診療材料費	薬品費	合計																																																																																																			
総合	5,446	1,945	7,391																																																																																																			
こころ	321	119	440																																																																																																			
こども	2,930	3,290	6,220																																																																																																			
合 計	8,697	5,354	14,051																																																																																																			
				③積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかわる研修会等を実施する。	（総合） 4月から精神科病棟を開棟した。1ヶ月間の実績をもって5月から10対1看護の届出を行うことが出来た。また精神科病棟の開棟に伴い、総合入院体制加算も2から1へランクアップすることができた。看護補助者の活用に関する所定の研修を受講した看護師長等の配置等が整ったため、急性期看護補助体制加算（看護補助体制充実加算）の新規届出を行った。派遣による看護補助者の増員等により基準を満たせる月においては、急性期看護補助体制加算を50対1から25対1にランクアップするなど状況に応じて変更の届出を行った。下肢創傷処置や静脈圧迫処置など、新しい医療技術についても導入を進め、要件を満たすことができたため、届出を行った。生殖補助医療管理料、一般不妊治療管理料など、人員要件、診療実績、体制整備などの調整及び確認を行い、要件を満たすことができたため、届出を行った。外部のコンサルタント等に研修会の講師を依頼することで、適切かつ最新の情報で研修会を開催出来ている。またこの研修会を行うことで、臨床研修病院の施設基準の要件も維持することが出来ている。  （こども） ▲施設基準への新規届出																																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																					
						評価	説明																																																																																																										
			113	各病院	<p>●施設基準の新規取得 人員要件、診療実績、他施設との連携構築、院内施設整備、運用構築等含めたマニュアルの整備を実施。 ・クラウンブリッジ維持管理料 ・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAAV)抗体 ・情報通信機器を用いた診療に係る基準 ・西2A病棟にかかゝる療養環境加算 ・歯科口腔リハビリテーション料2 ・ロービジョン検査判断料</p> <p>●施設基準の変更申請 診療実績、人員要件を都度確認し、診療実態に合わせて、随時施設基準の変更申請を実施 ・看護処遇改善評価料(109)→(96)へ ・救急搬送看護体制加算2→1へ ・麻酔管理料1、2</p> <p>●研修会等の実施 ・東海北陸厚生局主催の診療報酬改定説明会に参加 ・令和6年の診療報酬改定WGを開催し、改定内容の説明及び新規取得項目の検討を実施。</p>	A			30	○	113																																																																																																						
			114	総合	<p>④SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。</p> <table><tr><td colspan="7">薬品、診療材料期限切れ廃棄額（単位：千円）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>薬品</td><td>2,931</td><td>2,279</td><td>2,553</td><td>2,638</td><td>2,031</td><td>3,526</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>969</td><td>973</td><td>627</td><td>1,631</td><td>979</td><td>668</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">薬品・診療材料在庫額（単位：千円）</td></tr><tr><td>区分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>薬品</td><td>92,244</td><td>136,694</td><td>153,688</td><td>160,916</td><td>168,436</td><td>188,840</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>224,292</td><td>221,511</td><td>227,708</td><td>239,545</td><td>251,101</td><td>263,420</td></tr></table>	薬品、診療材料期限切れ廃棄額（単位：千円）							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	薬品	2,931	2,279	2,553	2,638	2,031	3,526	診療材料	969	973	627	1,631	979	668	薬品・診療材料在庫額（単位：千円）							区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	薬品	92,244	136,694	153,688	160,916	168,436	188,840	診療材料	224,292	221,511	227,708	239,545	251,101	263,420	A	<p>薬品及び診療材料については、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、ロスを防ぐなどSPD業務の改善を図っている。しかしながら、稀な症例に使用する物品(ただし緊急時には困るもの)が期限切れになっており、今後も管理方法について検討を行っていく。 薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の関与により、期限切れ廃棄額の削減と在庫額減少に努めている。</p> <p>診療材料は、手術室において期限切迫品カートを設置し、使用を促している。医療の高度化により高額材料が増加したが、ピッキングリストの見直し提案等、在庫の削減に努めている。</p> <p>マスクや手袋等、供給体制が不安定な物品については、在庫量を一時的に増やす対応を実施した。</p> <p>また、原材料価格の上昇による値上げ物品の増加に伴い在庫額が増えている。</p>	・SPD(Supply Processing Distribution)は、薬品・診療材料等の発注、調達、物流、棚卸等を一元管理する仕組みであり、在庫の適正種類・量の確保、期限切れ廃棄の削減等に寄与している。 ・薬品在庫額については、高度な手術や高額薬剤を使用する化学療法の件数増加等の要因により増加しているが、期限切迫品の可視化による周知、使用状況に応じた他部署への移管、不動在庫のリスト化など、期限切れの抑止に努めている。	30	○	114																																														
薬品、診療材料期限切れ廃棄額（単位：千円）																																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																											
薬品	2,931	2,279	2,553	2,638	2,031	3,526																																																																																																											
診療材料	969	973	627	1,631	979	668																																																																																																											
薬品・診療材料在庫額（単位：千円）																																																																																																																	
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																											
薬品	92,244	136,694	153,688	160,916	168,436	188,840																																																																																																											
診療材料	224,292	221,511	227,708	239,545	251,101	263,420																																																																																																											
			115	各病院	<p>④材料費等の節減のための対策を実施する。</p> <table><tr><td colspan="7">診療材料コスト縮減実績（単位：千円）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>総 合</td><td>85,869</td><td>82,971</td><td>71,680</td><td>132,620</td><td>81,872</td><td>116,931</td></tr><tr><td>こころ</td><td>95</td><td>13</td><td>3</td><td>105</td><td>99</td><td>38</td></tr><tr><td>こども</td><td>15,458</td><td>16,734</td><td>12,229</td><td>22,956</td><td>24,366</td><td>21,529</td></tr><tr><td>合 計</td><td>101,422</td><td>99,718</td><td>83,912</td><td>155,681</td><td>106,337</td><td>138,498</td></tr></table> <table><tr><td colspan="8">5年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績（単位：件）</td></tr><tr><td rowspan="2">区 分</td><td colspan="4">診療材料品目数</td><td colspan="3">薬品品目数</td></tr><tr><td>5年度当初 契約数(a)</td><td>新規採用数 (b)</td><td>廃止数 (c)</td><td>契約数 (a+b-c)</td><td>5年度当初 契約数(a)</td><td>新規採用数 (b)</td><td>廃止数 (c)</td><td>契約数 (a+b-c)</td></tr><tr><td>総合</td><td>17,429</td><td>592</td><td>356</td><td>17,665</td><td>2,076</td><td>220</td><td>120</td><td>2,176</td></tr><tr><td>こころ</td><td>418</td><td>23</td><td>36</td><td>405</td><td>613</td><td>54</td><td>27</td><td>640</td></tr><tr><td>こども</td><td>3,827</td><td>151</td><td>91</td><td>3,887</td><td>1,335</td><td>55</td><td>31</td><td>1,359</td></tr><tr><td>合 計</td><td>21,674</td><td>766</td><td>483</td><td>21,957</td><td>4,024</td><td>329</td><td>178</td><td>4,175</td></tr></table>	診療材料コスト縮減実績（単位：千円）							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総 合	85,869	82,971	71,680	132,620	81,872	116,931	こころ	95	13	3	105	99	38	こども	15,458	16,734	12,229	22,956	24,366	21,529	合 計	101,422	99,718	83,912	155,681	106,337	138,498	5年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績（単位：件）								区 分	診療材料品目数				薬品品目数			5年度当初 契約数(a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)	5年度当初 契約数(a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)	総合	17,429	592	356	17,665	2,076	220	120	2,176	こころ	418	23	36	405	613	54	27	640	こども	3,827	151	91	3,887	1,335	55	31	1,359	合 計	21,674	766	483	21,957	4,024	329	178	4,175	A	<p>診療材料は共同購入の取組を継続しており、一層の価格削減を進めているほか、令和4年度以降、燃料費の高騰を受け、電気料金が上昇していることから、3病院に空調・照明をはじめとした節電対策への呼びかけを行い、電気使用量について継続的に情報共有を図るなど、経費の削減に努めている。</p> <p>（総合） 診療材料の値上げ物品増加に伴いなかなか価格交渉ができない中、共同購入では、切替活動を積極的に行った結果、還元額が104,356千円になり、初めて還元額が1億円超え過去最高の還元額となった。価格交渉とあわせたコスト縮減実績は前年同期と比較すると35,059千円増加した。</p> <p>（こころ） 診療材料、薬品とも適正な在庫管理とコスト縮減に努めている。</p> <p>（こども） 後発医薬品への切り替えに当たっては、小児病院の特性から、先発品との同等性を十分に確認することが必要であるため、安全性・使用性・生物学的同等性の視点を重視し、他の小児専門病院の採用状況を参考にしながら切替え候補品目を選定した。</p>	・材料費の節減については、「トップダウン」としての診療材料採用の「一増、一減」方針の徹底、「ミドルマネジメント」としての診療材料委員会と中央材料室の機能向上、「ボトムアップ」としての全国的なベンチマークデータを活用した価格交渉など、一貫した節減努力の方向性のもとに取り組んでいる。 ・総合病院及びこども病院では、共同購入組織(一般社団法人日本ホスピタルアライアンス)に加盟して節減に努めている。 ・こころの医療センターにおいても、入院患者の持参薬への対応を見直し、臨時購入から3病院間の採用薬に切り替えるなど、在庫の削減に取り組んでいる。 ・診療報酬改定等の外的要因が病院経営に及ぼす影響を迅速・的確に把握し、分析結果を業務運営に反映することが重要である。 ・特に令和5年度においては、薬品費、材料費が高騰するなか、品目の切り替えや採用品の増加、参加分野の拡大を行うなど、積極的に経費節減に取り組んでいる。	30	○	115
診療材料コスト縮減実績（単位：千円）																																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																											
総 合	85,869	82,971	71,680	132,620	81,872	116,931																																																																																																											
こころ	95	13	3	105	99	38																																																																																																											
こども	15,458	16,734	12,229	22,956	24,366	21,529																																																																																																											
合 計	101,422	99,718	83,912	155,681	106,337	138,498																																																																																																											
5年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績（単位：件）																																																																																																																	
区 分	診療材料品目数				薬品品目数																																																																																																												
	5年度当初 契約数(a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)	5年度当初 契約数(a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)																																																																																																									
総合	17,429	592	356	17,665	2,076	220	120	2,176																																																																																																									
こころ	418	23	36	405	613	54	27	640																																																																																																									
こども	3,827	151	91	3,887	1,335	55	31	1,359																																																																																																									
合 計	21,674	766	483	21,957	4,024	329	178	4,175																																																																																																									



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																												
						評価	説明																																																																																	
			116	各病院	④効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。  各病院において、徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めている。 価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。 価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。 医療機器保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や不要になった保守機器の随時の見直しを行いコスト低減を図っている。	A	総合病院では、仕様の見直し、入札、見積合わせによる交渉の結果、今年度購入予定機器全体の予算に対して、約140,000千円の削減ができた。 3病院一括での契約については、保守の必要性が低下した機器につき、随時必要性の見直しを行い変更契約している。 引き続き各病院と連携し、コスト低減を図っていく。	・医療機器導入にあたっては、業者間・機種間の競争性を確保するとともに、ベンチマークの活用、保守契約の見直し等により、効率的な調達を図っている。	30	○	116																																																																													
					④複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。  委託費の節減を図るため、契約更新時に引き続き一括化・複数年化を行うか適するか検討している。 コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期的にモニタリング（委託業者の業務を評価）を行い、質の維持・向上を図っている。		複数病院で集約化した委託費等の契約は20件、うち複数年化を行ったものは、16件に上っており、一括化・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。 医事や警備を始めた一部の委託については、定期的にモニタリング（委託業者の業務を評価）を行い、質の維持・向上が図られている。					・委託業務については、複数年契約、複数病院一括契約等の工夫により、経費節減を図っている。 ・委託モニタリング制度は、成績不良の場合、契約解除や委託料の減額等の対応が取られる一方、企業側も努力すれば契約延長等のメリットがあることから、緊張感を持った業務執行により、業務の質の向上が期待できる工夫である。																																																																												
						117	各病院	5年度 委託契約等の見直し状況（単年度ベース・令和5年度末時点） (単位：千円)	A			30	○	117																																																																										
								<table><tr><th>業務名(連携)</th><th>連携</th><th>年数</th><th>期間</th><th>種類</th><th>令5決議額</th></tr><tr><td>感染性産業廃棄物処理業務委託</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>単価</td><td>64,758</td></tr><tr><td>寝具類貸借</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>単価</td><td>104,128</td></tr><tr><td>消防設備点検業務委託</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>定額</td><td>10,658</td></tr><tr><td>庭園管理業務委託</td><td>心・子</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>定額</td><td>9,864</td></tr><tr><td>医療機器等保守点検業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令5.4～令6.3</td><td>定額</td><td>274,197</td></tr><tr><td>放射線機器保守管理等業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令5.4～令6.3</td><td>定額</td><td>234,834</td></tr><tr><td>シーメンス社製医療機器保守業務委託</td><td>総・子</td><td>1年</td><td>令5.4～令6.3</td><td>定額</td><td>85,293</td></tr><tr><td>建築基準法の定期報告業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令5.5～令6.3</td><td>定額</td><td>6,600</td></tr><tr><td colspan="5">合 計</td><td>790,332</td></tr></table> 5年度 委託モニタリング評価結果（令和5年度末時点） <table><tr><th>区 分</th><th>第1期</th><th>第2期</th><th>第3期</th></tr><tr><td>給食</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr></table> <table><tr><th>区 分</th><th>第1四半期</th><th>第2四半期</th><th>第3四半期</th><th>第4四半期</th></tr><tr><td>清掃</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr><tr><td>警備（心・子）</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr><tr><td>医事（総・心）</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr></table> ※業務に関するアンケートや業務提案の有無などにより業務内容进行评估。 ※-○％：業務実績が不良だったため、契約に基づき委託料を一部減額したもの							業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令5決議額	感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	64,758	寝具類貸借	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	104,128	消防設備点検業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	定額	10,658	庭園管理業務委託	心・子	3年	令5.4～令8.3	定額	9,864	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令5.4～令6.3	定額	274,197	放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令5.4～令6.3	定額	234,834	シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令5.4～令6.3	定額	85,293	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令5.5～令6.3	定額	6,600	合 計					790,332	区 分	第1期	第2期	第3期	給食	可	可	可	区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃
業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令5決議額																																																																																			
感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	64,758																																																																																			
寝具類貸借	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	104,128																																																																																			
消防設備点検業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	定額	10,658																																																																																			
庭園管理業務委託	心・子	3年	令5.4～令8.3	定額	9,864																																																																																			
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令5.4～令6.3	定額	274,197																																																																																			
放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令5.4～令6.3	定額	234,834																																																																																			
シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令5.4～令6.3	定額	85,293																																																																																			
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令5.5～令6.3	定額	6,600																																																																																			
合 計					790,332																																																																																			
区 分	第1期	第2期	第3期																																																																																					
給食	可	可	可																																																																																					
区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																																																																				
清掃	可	可	可	可																																																																																				
警備（心・子）	可	可	可	可																																																																																				
医事（総・心）	可	可	可	可																																																																																				
			118	本部・各病院	⑤弁護士事務所への未収金回収業務委託を活用し、未収金の縮減、効率的な回収を実施する。 ⑤未収金に関する研修や、弁護士事務所への相談等により、事務担当者のレベルアップを図る。  平成24年度から弁護士法人へ委託先を変更。  未収金回収実績（弁護士事務所委託分） 単位：百万円 <table><tr><th>年度</th><th>新規 委任金額</th><th>回収額</th><th>累計回収率</th></tr><tr><td>24～29年度</td><td>224</td><td>105</td><td>47.1%</td></tr><tr><td>30年度</td><td>23</td><td>16</td><td>49.4%</td></tr><tr><td>元年度</td><td>26</td><td>20</td><td>52.0%</td></tr><tr><td>2年度</td><td>30</td><td>16</td><td>52.0%</td></tr><tr><td>3年度</td><td>24</td><td>12</td><td>52.0%</td></tr><tr><td>4年度</td><td>32</td><td>17</td><td>52.1%</td></tr><tr><td>5年度</td><td>24</td><td>13</td><td>52.2%</td></tr></table>	年度	新規 委任金額	回収額	累計回収率	24～29年度	224	105	47.1%	30年度	23	16	49.4%	元年度	26	20	52.0%	2年度	30	16	52.0%	3年度	24	12	52.0%	4年度	32	17	52.1%	5年度	24	13	52.2%	A	累計回収率については、令和元年度以降50%を超えており、令和5年末時点で52.2%となった。 平成23年度以前に委託していたサービスの回収率が20.4%であったのに対して、高い回収率を維持している。	・平成24年度に未収金回収業務の委託先を債権回収会社から弁護士法人に変更して以降、回収率は高水準を維持している。 ・未収金が発生した場合の処理マニュアルから最終的な貸倒損失処理対応に至るまで、一貫して適切な手順が取れるよう体制が整備されている。			118																																													
年度	新規 委任金額	回収額	累計回収率																																																																																					
24～29年度	224	105	47.1%																																																																																					
30年度	23	16	49.4%																																																																																					
元年度	26	20	52.0%																																																																																					
2年度	30	16	52.0%																																																																																					
3年度	24	12	52.0%																																																																																					
4年度	32	17	52.1%																																																																																					
5年度	24	13	52.2%																																																																																					
第4 財務内容の改善に関する事項	第4 予算、収支計画及び資金計画	第3 予算、収支計画、資金計画及び収支予算等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																												





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																																																																																																																														
						評価	説明																																																																																																																																																																																																																																																			
			5	③チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	<div>チーム医療の推進（カンファレンスの開催）</div> <div>5年度</div> <table><tr><th>区分</th><th>チーム名</th><th>開催頻度</th><th>主要メンバー</th></tr><tr><td rowspan="10">総合</td><td>栄養サポートチーム</td><td>2回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師</td></tr><tr><td>感染制御チーム</td><td>院内2回 院外4回/年</td><td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td></tr><tr><td>抗菌薬適正使用支援チーム</td><td>毎日</td><td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>1回/月</td><td>医師、看護師、栄養士</td></tr><tr><td>呼吸ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士</td></tr><tr><td>認知症ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師</td></tr><tr><td>精神科リエゾンチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士</td></tr><tr><td>糖尿病透析予防診療チーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、栄養士</td></tr><tr><td>排尿ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師</td></tr><tr><td rowspan="5">こころ</td><td>認知症ケアチーム</td><td>1回/3ヶ月</td><td>医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士</td></tr><tr><td>嚥下対策チーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、言語聴覚士、栄養士</td></tr><tr><td>要介護患者支援管理チーム</td><td>第1・3・5火木曜日</td><td>医師、看護師、理学療法士、社会福祉士</td></tr><tr><td>栄養サポートチーム</td><td>週1回</td><td>医師・看護師・薬剤師・栄養士</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>院内週1回 院外2回/年</td><td>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師</td></tr><tr><td rowspan="5">こども</td><td>褥瘡対策チーム</td><td>1回/月</td><td>医師・看護師、薬剤師、栄養士</td></tr><tr><td>アレルギー（食物アレルギー）対策チーム</td><td>随時</td><td>医師・看護師・精神保健福祉士等</td></tr><tr><td>栄養サポートチーム</td><td>週1回</td><td>医師・看護師・栄養士等</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>院内2回 院外4回/年</td><td>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士</td></tr><tr><td rowspan="2">各病院</td><td>褥瘡対策部会</td><td>1回/月</td><td>医師・看護師</td></tr><tr><td>リハビリテーション</td><td>随時・週1回 随時</td><td>医師・看護師・理学療法士等</td></tr></table> <div>チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況</div> <div>（単位：千円）</div> <table><tr><th>病院</th><th>項目</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td rowspan="10">総合</td><td>栄養サポートチーム</td><td>1,154</td><td>904</td><td>1,246</td><td>1,092</td><td>879</td><td>1,040</td></tr><tr><td>感染制御チーム</td><td>93,168</td><td>92,879</td><td>86,309</td><td>86,701</td><td>123,703</td><td>132,299</td></tr><tr><td>抗菌薬適正使用支援チーム</td><td>15,985</td><td>19,122</td><td>17,563</td><td>17,643</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>4,815</td><td>2,085</td><td>755</td><td>1,630</td><td>2,545</td><td>1,160</td></tr><tr><td>呼吸ケアチーム</td><td>1</td><td>92</td><td>143</td><td>224</td><td>159</td><td>134</td></tr><tr><td>認知症ケアチーム</td><td>4,462</td><td>4,456</td><td>4,445</td><td>4,287</td><td>4,313</td><td>4,514</td></tr><tr><td>精神科リエゾンチーム</td><td>-</td><td>580</td><td>772</td><td>4,164</td><td>3,852</td><td>3,483</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>3,163</td><td>20,389</td><td>17,965</td><td>20,600</td><td>18,704</td><td>16,206</td></tr><tr><td>糖尿病透析予防診療チーム</td><td>508</td><td>998</td><td>431</td><td>235</td><td>168</td><td>294</td></tr><tr><td>排尿ケアチーム</td><td>200</td><td>212</td><td>388</td><td>536</td><td>350</td><td>500</td></tr><tr><td rowspan="6">こころ</td><td>R4（精神科リエゾンサービス）チーム</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1,360</td></tr><tr><td>嚥下対策チーム</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>517</td></tr><tr><td>要介護患者支援管理チーム</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>84</td></tr><tr><td>計</td><td>123,456</td><td>142,880</td><td>131,561</td><td>137,112</td><td>154,673</td><td>161,591</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>352</td><td>368</td><td>290</td><td>347</td><td>344</td><td>515</td></tr><tr><td>計</td><td>352</td><td>368</td><td>290</td><td>347</td><td>344</td><td>515</td></tr><tr><td rowspan="6">こども</td><td>栄養サポートチーム</td><td>2</td><td>8</td><td>40</td><td>20</td><td>34</td><td>176</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>27,610</td><td>27,460</td><td>25,090</td><td>23,660</td><td>29,540</td><td>2,741</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>2,200</td><td>2,535</td><td>2,550</td><td>2,470</td><td>1,280</td><td>1,575</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>-</td><td>136</td><td>590</td><td>310</td><td>340</td><td>728</td></tr><tr><td>リハビリテーション</td><td>52,394</td><td>58,836</td><td>59,137</td><td>72,397</td><td>71,689</td><td>75,490</td></tr><tr><td>計</td><td>82,206</td><td>88,975</td><td>87,407</td><td>98,857</td><td>102,883</td><td>80,710</td></tr></table>	区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師	感染制御チーム	院内2回 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士	糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師	こころ	認知症ケアチーム	1回/3ヶ月	医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士	嚥下対策チーム	1回/週	医師、看護師、言語聴覚士、栄養士	要介護患者支援管理チーム	第1・3・5火木曜日	医師、看護師、理学療法士、社会福祉士	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・薬剤師・栄養士	感染防止対策チーム	院内週1回 院外2回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	こども	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護師、薬剤師、栄養士	アレルギー（食物アレルギー）対策チーム	随時	医師・看護師・精神保健福祉士等	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・栄養士等	感染防止対策チーム	院内2回 院外4回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士	各病院	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護師	リハビリテーション	随時・週1回 随時	医師・看護師・理学療法士等	病院	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	栄養サポートチーム	1,154	904	1,246	1,092	879	1,040	感染制御チーム	93,168	92,879	86,309	86,701	123,703	132,299	抗菌薬適正使用支援チーム	15,985	19,122	17,563	17,643	-	-	褥瘡対策チーム	4,815	2,085	755	1,630	2,545	1,160	呼吸ケアチーム	1	92	143	224	159	134	認知症ケアチーム	4,462	4,456	4,445	4,287	4,313	4,514	精神科リエゾンチーム	-	580	772	4,164	3,852	3,483	緩和ケアチーム	3,163	20,389	17,965	20,600	18,704	16,206	糖尿病透析予防診療チーム	508	998	431	235	168	294	排尿ケアチーム	200	212	388	536	350	500	こころ	R4（精神科リエゾンサービス）チーム						1,360	嚥下対策チーム						517	要介護患者支援管理チーム						84	計	123,456	142,880	131,561	137,112	154,673	161,591	感染防止対策チーム	352	368	290	347	344	515	計	352	368	290	347	344	515	こども	栄養サポートチーム	2	8	40	20	34	176	感染防止対策チーム	27,610	27,460	25,090	23,660	29,540	2,741	褥瘡対策チーム	2,200	2,535	2,550	2,470	1,280	1,575	緩和ケアチーム	-	136	590	310	340	728	リハビリテーション	52,394	58,836	59,137	72,397	71,689	75,490	計	82,206	88,975	87,407	98,857	102,883	80,710	S	<p>SARS-CoV-2(以下、「新型コロナウイルス」という。)感染症への対応のため、各部署の医師、看護師等の多職種による院内感染対策のチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が5類に分類された後も、各病院では引き続き、新型コロナウイルス感染症対応時には、当該チームが各種感染症への対応を行っている。</p> <p>また、総合病院では令和元年度の精神科医師の着任以降、緩和ケアチーム及び精神科リエゾンチームによる診療報酬上の評価加算が高い水準で推移しており、収益面においても大きく貢献した。</p> <p>令和5年度は、精神科リエゾンチーム及び認知症ケアチームが中心となって認知症や精神科患者の身体合併症等に対して適切な医療を提供できる体制を整備し、精神科病棟(精神科身体合併症病棟)を開棟し運用を開始した。</p> <p>これにより、精神疾患及び身体疾患への専門治療を同時に提供することが可能となった。</p>	<p>・各病院ととも多職種によるチーム医療が推進されており、患者の状況に的確に対応できる体制が確保されている。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症への対応に当たっては、令和2年度から継続して、総合病院に感染症対策室を中心とした院内感染対策チームを設置しており、各病院においても多職種からなるチームが感染防止の取組や情報収集を行うなど、院内感染対策に取り組み、県立病院として、本県の新型コロナウイルス感染症対策において重要な役割を果たし、医療提供体制の確保に貢献している。</p> <p>・診療報酬上の評価加算も堅調に増加しており、収益面においても貢献している。</p> <p>・精神身体合併症については、総合病院の精神科リエゾンチーム及び認知症ケアチームが中心となって体制整備を進め、令和4年度に開催した県立病院機構精神科あり方検討ワーキンググループを経て、令和5年度には、総合病院に精神科身体合併症病棟を設置した。</p> <p>・精神身体合併症の患者に対しては、精神科医師と一般科医師が相互に治療計画等の共有を行い、双方の症状に対応できる入院治療体制が必要である。精神科身体合併症病棟の設置により、早期に精神科・一般科の専門的治療を同時に行えるため、患者の負担軽減に寄与している。</p> <p>・精神科救急医療においては、精神身体合併症病棟の設置に伴い、県から、身体合併症の入院治療が必要かつ措置入院等が必要な患者の受入れができる病床を1床確保する身体合併症事業を受託した。これまで県内1病院のみでの対応であり、今回の総合病院の病棟設置が診療科の地域偏在の解消に寄与している。</p>	14	☆	5
区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																																																																																																																																																																																																																							
総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																							
	感染制御チーム	院内2回 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																							
	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																							
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																							
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士																																																																																																																																																																																																																																																							
	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師																																																																																																																																																																																																																																																							
	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師																																																																																																																																																																																																																																																							
	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																							
	糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																							
	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師																																																																																																																																																																																																																																																							
こころ	認知症ケアチーム	1回/3ヶ月	医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																							
	嚥下対策チーム	1回/週	医師、看護師、言語聴覚士、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																							
	要介護患者支援管理チーム	第1・3・5火木曜日	医師、看護師、理学療法士、社会福祉士																																																																																																																																																																																																																																																							
	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・薬剤師・栄養士																																																																																																																																																																																																																																																							
	感染防止対策チーム	院内週1回 院外2回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																							
こども	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護師、薬剤師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																							
	アレルギー（食物アレルギー）対策チーム	随時	医師・看護師・精神保健福祉士等																																																																																																																																																																																																																																																							
	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・栄養士等																																																																																																																																																																																																																																																							
	感染防止対策チーム	院内2回 院外4回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																							
	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																							
各病院	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護師																																																																																																																																																																																																																																																							
	リハビリテーション	随時・週1回 随時	医師・看護師・理学療法士等																																																																																																																																																																																																																																																							
病院	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																			
総合	栄養サポートチーム	1,154	904	1,246	1,092	879	1,040																																																																																																																																																																																																																																																			
	感染制御チーム	93,168	92,879	86,309	86,701	123,703	132,299																																																																																																																																																																																																																																																			
	抗菌薬適正使用支援チーム	15,985	19,122	17,563	17,643	-	-																																																																																																																																																																																																																																																			
	褥瘡対策チーム	4,815	2,085	755	1,630	2,545	1,160																																																																																																																																																																																																																																																			
	呼吸ケアチーム	1	92	143	224	159	134																																																																																																																																																																																																																																																			
	認知症ケアチーム	4,462	4,456	4,445	4,287	4,313	4,514																																																																																																																																																																																																																																																			
	精神科リエゾンチーム	-	580	772	4,164	3,852	3,483																																																																																																																																																																																																																																																			
	緩和ケアチーム	3,163	20,389	17,965	20,600	18,704	16,206																																																																																																																																																																																																																																																			
	糖尿病透析予防診療チーム	508	998	431	235	168	294																																																																																																																																																																																																																																																			
	排尿ケアチーム	200	212	388	536	350	500																																																																																																																																																																																																																																																			
こころ	R4（精神科リエゾンサービス）チーム						1,360																																																																																																																																																																																																																																																			
	嚥下対策チーム						517																																																																																																																																																																																																																																																			
	要介護患者支援管理チーム						84																																																																																																																																																																																																																																																			
	計	123,456	142,880	131,561	137,112	154,673	161,591																																																																																																																																																																																																																																																			
	感染防止対策チーム	352	368	290	347	344	515																																																																																																																																																																																																																																																			
	計	352	368	290	347	344	515																																																																																																																																																																																																																																																			
こども	栄養サポートチーム	2	8	40	20	34	176																																																																																																																																																																																																																																																			
	感染防止対策チーム	27,610	27,460	25,090	23,660	29,540	2,741																																																																																																																																																																																																																																																			
	褥瘡対策チーム	2,200	2,535	2,550	2,470	1,280	1,575																																																																																																																																																																																																																																																			
	緩和ケアチーム	-	136	590	310	340	728																																																																																																																																																																																																																																																			
	リハビリテーション	52,394	58,836	59,137	72,397	71,689	75,490																																																																																																																																																																																																																																																			
	計	82,206	88,975	87,407	98,857	102,883	80,710																																																																																																																																																																																																																																																			
			6	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	<p>3病院で、以下のとおり研修等を実施し安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>医療安全対策、院内感染対策研修等</p> <table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="7">集団感染数（件）</th><th colspan="2">院内感染対策研修</th><th colspan="2">医療安全対策研修</th></tr><tr><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度9月末</th><th>5年度</th><th colspan="2">5年度</th><th colspan="2">5年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>24</td><td>4</td><td>12</td><td>4</td><td>4,054</td><td>24</td><td>9,480</td></tr><tr><td>こころ</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>3</td><td>435</td><td>6</td><td>791</td></tr><tr><td>こども</td><td>4</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>1,254</td><td>2</td><td>1,214</td></tr><tr><td>計</td><td>5</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>27</td><td>6</td><td>17</td><td>9</td><td>5,743</td><td>32</td><td>11,485</td></tr></table>	区分	集団感染数（件）							院内感染対策研修		医療安全対策研修		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度9月末	5年度	5年度		5年度		総合	0	1	0	1	24	4	12	4	4,054	24	9,480	こころ	1	0	0	0	0	0	2	3	435	6	791	こども	4	0	1	0	3	2	3	2	1,254	2	1,214	計	5	1	1	1	27	6	17	9	5,743	32	11,485	A	<p>各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。</p> <p>医療安全研修については、前年参加者数を大幅に上回り(R4:10,486人)、積極的に取り組んだことが評価できる。</p> <p>令和5年度も、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として、感染対策室を中心に感染防止に関する取組や情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行った。</p>	<p>・院内感染対策・医療安全対策研修を継続的に実施しており、安全・安心な医療の提供に関する職員への意識付けが行われている。</p> <p>・令和5年度も、法定回数をはるかに超える回数を実施している。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症等の院内感染対策として、感染対策室をはじめとするチームにより対応している。県立病院として、本県の新型コロナウイルス対策において重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献している。</p>	14	○	6																																																																																																																																																																								
区分	集団感染数（件）							院内感染対策研修		医療安全対策研修																																																																																																																																																																																																																																																
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度9月末	5年度	5年度		5年度																																																																																																																																																																																																																																																
総合	0	1	0	1	24	4	12	4	4,054	24	9,480																																																																																																																																																																																																																																															
こころ	1	0	0	0	0	0	2	3	435	6	791																																																																																																																																																																																																																																															
こども	4	0	1	0	3	2	3	2	1,254	2	1,214																																																																																																																																																																																																																																															
計	5	1	1	1	27	6	17	9	5,743	32	11,485																																																																																																																																																																																																																																															

各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。

医療安全研修については、前年参加者数を大幅に上回り(R4:10,486人)、積極的に取り組んだことが評価できる。

令和5年度も、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として、感染対策室を中心に感染防止に関する取組や情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行った。





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																											
						評価	説明																																																																
			7	④⑤固定チームナーシングによる看護提供を行うことで、看護の継続性を図り、患者の安心を高める。	総合 「患者様の声」の推移（看護師）（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th></th></tr><tr><td>ご意見</td><td>85</td><td>81</td><td>53</td><td>79</td><td>85</td><td>67</td><td></td></tr><tr><td>感謝</td><td>29</td><td>40</td><td>34</td><td>37</td><td>44</td><td>38</td><td></td></tr></table> 患者満足度調査（単位：％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>入院</td><td>98.9</td><td>98.0</td><td>98.2</td><td>97.6</td><td>99.0</td><td>98.4</td><td>90以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		ご意見	85	81	53	79	85	67		感謝	29	40	34	37	44	38		区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	入院	98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上	A	令和5年度の看護師に対する「患者様の声」の件数は、感謝の件数は例年並に推移したものの、ご意見の件数は減少した。 今後も寄せられた意見を参考に質の高い看護を提供できるよう努める。	「患者様の声」の合計件数は、令和5年度は105件と例年並みの件数である。 ・固定したチームメンバーで受け持ち患者を分担して看護を行う「固定チームナーシング方式」のもと、入院から退院まで看護が展開されている。 ・看護師メンバーが固定されることで、患者に寄り添った質の高い看護の提供が可能となり、患者との間に信頼関係が強くなるものと考えられる。				7																			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																	
ご意見	85	81	53	79	85	67																																																																	
感謝	29	40	34	37	44	38																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																
入院	98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上																																																																
			8	⑤患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	各病院 患者満足度調査（単位：％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td rowspan="2">総 合</td><td>入院</td><td>98.9</td><td>98.0</td><td>98.2</td><td>97.6</td><td>99.0</td><td>98.4</td><td>90以上</td></tr><tr><td>外来</td><td>94.3</td><td>93.6</td><td>94.3</td><td>95.6</td><td>95.9</td><td>94.7</td><td>85以上</td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>入院</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>外来</td><td>91.0</td><td>95.7</td><td>92.7</td><td>100.0</td><td>92.3</td><td>90.7</td><td>85以上</td></tr><tr><td rowspan="2">子ども</td><td>入院</td><td>96.1</td><td>99.0</td><td>95.3</td><td>100.0</td><td>95.9</td><td>93.5</td><td>90以上</td></tr><tr><td>外来</td><td>98.9</td><td>98.1</td><td>96.5</td><td>97.3</td><td>100.0</td><td>97.1</td><td>90以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	総 合	入院	98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上	外来	94.3	93.6	94.3	95.6	95.9	94.7	85以上	こころ	入院	—	—	—	—	—	—	—	外来	91.0	95.7	92.7	100.0	92.3	90.7	85以上	子ども	入院	96.1	99.0	95.3	100.0	95.9	93.5	90以上	外来	98.9	98.1	96.5	97.3	100.0	97.1	90以上	A	各病院の満足度は高い水準を維持しており、令和5年度についても各病院で患者満足度の向上に努め、目標値を超えている。	・患者満足度調査を毎年実施し、調査結果をもとに患者サービスの向上につながるよう、きめ細かい改善策が講じられている。 ・令和5年度の患者満足度は、3病院とも目標値を上回っている。	1	1	○	8
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																
総 合	入院	98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上																																																															
	外来	94.3	93.6	94.3	95.6	95.9	94.7	85以上																																																															
こころ	入院	—	—	—	—	—	—	—																																																															
	外来	91.0	95.7	92.7	100.0	92.3	90.7	85以上																																																															
子ども	入院	96.1	99.0	95.3	100.0	95.9	93.5	90以上																																																															
	外来	98.9	98.1	96.5	97.3	100.0	97.1	90以上																																																															
⑵ 県立病院が担う役割  他の医療機関では対応困難な高度・特殊医療など、県の保健医療施策として求められている医療を誠実に提供するとともに、地域連携に努め、県内医療機関の中核病院としての役割を果たすこと。また、医療技術の進展等に対応し、高度・専門医療等の更なる充実・強化に努めること。	⑵ 県立病院が担う役割  他の医療機関では対応困難な高度・専門・特殊医療が確実に提供できるように、先進的技術・治療法の導入に努める。情報通信技術を活用した医療連携や疾患ごとの地域連携を推進する。 県内医療機関の中核病院として、緊急時における後方病床の確保や人材育成などの支援体制の整備を行うとともに、地域の医療機関との機能分担や紹介率・逆紹介率の向上により、地域連携の強化を図る。  【目標値】 ・紹介率（総合、こころ、子ども） ・逆紹介率（総合、こころ、子ども）	⑵ 県立病院が担う役割  県内の中核的病院として高度・専門・特殊医療を提供するため、地域の医療機関との機能分担を推進し、地域の医療機関との連携を強化する。 ①紹介・逆紹介の推進 ②地域連携クリニカルパスの推進 ③かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル（ふじのくにねっと）の推進  【目標値】 ・紹介率（総合、こころ、子ども） ・逆紹介率（総合、こころ、子ども）	—	—	—	—	—	—				—																																																											
			9	①かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。地域の医療機関との連携強化を図る	総合 紹介率・逆紹介率実績（単位：％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>92.7</td><td>92.4</td><td>93.8</td><td>93.5</td><td>91.3</td><td>89.7</td><td>90以上</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>171.3</td><td>174.7</td><td>195.4</td><td>200.3</td><td>188.2</td><td>173.0</td><td>175以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	紹介率	92.7	92.4	93.8	93.5	91.3	89.7	90以上	逆紹介率	171.3	174.7	195.4	200.3	188.2	173.0	175以上	B	紹介先、逆紹介先となる地域のクリニックとの情報共有、広報及び訪問等を積極的に行って連携強化に努めたが、若干の減少を見せている。施設訪問など行い連携強化に努めることとしている。	・紹介率は、目標値を下回ったが、地域医療支援病院の承認基準である紹介率80％を大きく上回っている。 ・逆紹介率は、非常に高く、県内医療機関の中核病院として、地域の医療機関との連携が積極的に図られている。一方で、分母となる初診患者数が昨年度に比べて増加したこともあり、目標値を下回っているため、診療所訪問等による病診連携の更なる促進を期待する。	2	1	○	9																																			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																
紹介率	92.7	92.4	93.8	93.5	91.3	89.7	90以上																																																																
逆紹介率	171.3	174.7	195.4	200.3	188.2	173.0	175以上																																																																
			10	①地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	こころ 紹介率・逆紹介率実績（単位：％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>51.0</td><td>56.1</td><td>51.2</td><td>45.6</td><td>53.6</td><td>54.8</td><td>57以上</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>37.0</td><td>33.7</td><td>30.1</td><td>25.2</td><td>26.9</td><td>27.0</td><td>30以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	紹介率	51.0	56.1	51.2	45.6	53.6	54.8	57以上	逆紹介率	37.0	33.7	30.1	25.2	26.9	27.0	30以上	B	紹介率・逆紹介率ともに目標値には達していないものの、紹介率、逆紹介率ともに前年度実績を上回った。 今後も他の医療機関や公的機関との連携を強めながら、当院への新規患者獲得を進めていく。	・他の医療機関では対応が困難な患者を受け入れており、継続して治療を続ける患者が多いため、逆紹介率が伸びにくい。 ・近年の紹介率・逆紹介率は新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向にあり、紹介率・逆紹介率ともに目標値を下回るものの、令和5年度は令和4年度と同程度を維持した。 ・引き続き精神科患者の地域移行に努め、高度精神科医療を担う県立病院としての役割を果たすことを期待する。	2	1	○	10																																			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																
紹介率	51.0	56.1	51.2	45.6	53.6	54.8	57以上																																																																
逆紹介率	37.0	33.7	30.1	25.2	26.9	27.0	30以上																																																																
			11	①地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	こころ 紹介率・逆紹介率実績（単位：％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>92.6</td><td>90.9</td><td>90.7</td><td>91.1</td><td>91.1</td><td>90.1</td><td>94以上</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>43.7</td><td>47.7</td><td>44.8</td><td>46.2</td><td>61.4</td><td>47.8</td><td>53以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	紹介率	92.6	90.9	90.7	91.1	91.1	90.1	94以上	逆紹介率	43.7	47.7	44.8	46.2	61.4	47.8	53以上	B	令和5年度は、紹介率については前年度並の数値を維持した。一方で、逆紹介率については、前年度を下回ったが、第3期中期目標期間中で2番目に高い数値であった。今後はより一層、地域医療機関との連携強化等を図っていく。	・紹介率は、目標値を下回ったが、地域医療支援病院の承認基準である紹介率80％を大きく上回っており、県内小児医療の中核病院として、地域の医療機関との連携が積極的に図られている。 ・逆紹介率は、今後の少子化を見据えて分母となる初診患者数の増加に努めたこともあり、目標値を下回っているが、こども病院は重篤な患者が多く、逆紹介せずに継続して診療を続ける患者が多く、新型コロナウイルス感染症の影響で重症患者の割合が上がっている状況にある。 ・なお、紹介率・逆紹介率は、第2期中期目標期間実績の最高値を目標値に設定している。	2	1	○	11																																			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																
紹介率	92.6	90.9	90.7	91.1	91.1	90.1	94以上																																																																
逆紹介率	43.7	47.7	44.8	46.2	61.4	47.8	53以上																																																																





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																	
						評価	説明																																																																																																						
			12	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	地域連携クリニカルパス (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>脳 卒 中</td><td>62</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td><td>49</td><td>8</td></tr><tr><td>大 腿 骨 頸 部 骨 折</td><td>57</td><td>82</td><td>104</td><td>90</td><td>85</td><td>82</td></tr><tr><td>胃 が ん</td><td>61</td><td>55</td><td>51</td><td>55</td><td>54</td><td>40</td></tr><tr><td>大 腸 が ん</td><td>124</td><td>122</td><td>102</td><td>135</td><td>138</td><td>127</td></tr><tr><td>乳 が ん</td><td>105</td><td>128</td><td>102</td><td>116</td><td>103</td><td>108</td></tr><tr><td>前 立 腺 が ん</td><td>10</td><td>16</td><td>20</td><td>35</td><td>43</td><td>45</td></tr><tr><td>虚 血 性 心 疾 患</td><td>92</td><td>73</td><td>67</td><td>33</td><td>32</td><td>27</td></tr><tr><td>心 房 細 動</td><td>7</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>慢 性 腎 臓 病</td><td>43</td><td>40</td><td>29</td><td>25</td><td>31</td><td>30</td></tr><tr><td>肺 が ん</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>肝 が ん</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>潰 瘍 性 大 腸 炎</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>561</td><td>605</td><td>578</td><td>585</td><td>537</td><td>468</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	脳 卒 中	62	83	102	92	49	8	大 腿 骨 頸 部 骨 折	57	82	104	90	85	82	胃 が ん	61	55	51	55	54	40	大 腸 が ん	124	122	102	135	138	127	乳 が ん	105	128	102	116	103	108	前 立 腺 が ん	10	16	20	35	43	45	虚 血 性 心 疾 患	92	73	67	33	32	27	心 房 細 動	7	4	1	2	1	0	慢 性 腎 臓 病	43	40	29	25	31	30	肺 が ん	0	2	0	0	0	0	肝 が ん	-	-	-	2	0	1	潰 瘍 性 大 腸 炎	-	-	-	-	1	0	計	561	605	578	585	537	468	A	令和5年度も、地域の医療機関等との連携により、地域連携クリニカルパスの適用を推進し、円滑な運用に努めた。				12
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																							
脳 卒 中	62	83	102	92	49	8																																																																																																							
大 腿 骨 頸 部 骨 折	57	82	104	90	85	82																																																																																																							
胃 が ん	61	55	51	55	54	40																																																																																																							
大 腸 が ん	124	122	102	135	138	127																																																																																																							
乳 が ん	105	128	102	116	103	108																																																																																																							
前 立 腺 が ん	10	16	20	35	43	45																																																																																																							
虚 血 性 心 疾 患	92	73	67	33	32	27																																																																																																							
心 房 細 動	7	4	1	2	1	0																																																																																																							
慢 性 腎 臓 病	43	40	29	25	31	30																																																																																																							
肺 が ん	0	2	0	0	0	0																																																																																																							
肝 が ん	-	-	-	2	0	1																																																																																																							
潰 瘍 性 大 腸 炎	-	-	-	-	1	0																																																																																																							
計	561	605	578	585	537	468																																																																																																							
			13	③④地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	ネットワーク実績 (単位：件) <table><tr><th>区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>開示施設数</td><td>17</td><td>16</td><td>19</td><td>19</td><td>20</td><td>20</td></tr><tr><td>開示件数（累計）</td><td>28,732</td><td>33,400</td><td>38,366</td><td>44,142</td><td>52,030</td><td>59,871</td></tr><tr><td>開示件数（新規）</td><td>4,357</td><td>4,668</td><td>4,966</td><td>5,776</td><td>7,888</td><td>8,226</td></tr><tr><td>参照施設数</td><td>126</td><td>118</td><td>123</td><td>129</td><td>129</td><td>123</td></tr><tr><td>病院</td><td>13</td><td>13</td><td>15</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td></tr><tr><td>診療所</td><td>76</td><td>72</td><td>73</td><td>77</td><td>78</td><td>76</td></tr><tr><td>保険薬局</td><td>27</td><td>25</td><td>29</td><td>31</td><td>31</td><td>27</td></tr><tr><td>訪問看護ステーション</td><td>8</td><td>7</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>介護福祉施設</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> <p>「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。</p>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開示施設数	17	16	19	19	20	20	開示件数（累計）	28,732	33,400	38,366	44,142	52,030	59,871	開示件数（新規）	4,357	4,668	4,966	5,776	7,888	8,226	参照施設数	126	118	123	129	129	123	病院	13	13	15	16	16	16	診療所	76	72	73	77	78	76	保険薬局	27	25	29	31	31	27	訪問看護ステーション	8	7	5	4	3	3	介護福祉施設	2	1	1	1	1	1	A	医療機関を標的としたサイバー攻撃が発生していることから、開示施設と協力してネットワーク遮断の初動訓練を実施し、ふじのくにねっとのセキュリティ対策に努めた。	・開示件数は堅調な増加傾向にある。 ・近年の医療機関に対するサイバー攻撃の発生を受け、令和5年度には開示施設とともにセキュリティ対策訓練を行った。 ・協議会事務局として、地域特性に応じた優良な活用事例の横展開等による更なる参加促進、ネットワークの利用価値を高めていくことが期待される。 (参考) ・ふじのくにねっとは、県内医療機関における病病連携・病診連携の促進に向けた地域医療情報連携ネットワークであり、総合病院は、運営主体である参加医療機関で構成する協議会の事務局を担っている。 ・総合病院は、運営主体である参加医療機関で構成する協議会の事務局を担っている。				13																											
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																							
開示施設数	17	16	19	19	20	20																																																																																																							
開示件数（累計）	28,732	33,400	38,366	44,142	52,030	59,871																																																																																																							
開示件数（新規）	4,357	4,668	4,966	5,776	7,888	8,226																																																																																																							
参照施設数	126	118	123	129	129	123																																																																																																							
病院	13	13	15	16	16	16																																																																																																							
診療所	76	72	73	77	78	76																																																																																																							
保険薬局	27	25	29	31	31	27																																																																																																							
訪問看護ステーション	8	7	5	4	3	3																																																																																																							
介護福祉施設	2	1	1	1	1	1																																																																																																							





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																
						評価	説明																																																																																																																																					
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、3大疾患（がん、脳血管疾患、心疾患）を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供すること。また、高度救命救急センターの運用による広範囲熱傷等の特殊疾病患者の受入れ等、高度救急医療を継続して提供するほか、広域的な救急医療の提供への対応を図ること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率90％以上、入院患者満足度90％以上、外来患者満足度85％以上の達成を目指すこと。 県立こころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図るほか、多様な精神疾患への対応や早期入院・早期社会復帰を支援する医療提供体制の充実に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率85％以上、外来患者満足度85％以上の達成を目指すこと。 県立こども病院においては、小児重症心疾患患者やハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度・先進医療を提供すること。また、小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図るほか、患者の円滑な退院・在宅移行を支援する体制整備に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率75％以上、入院患者満足度90％以上、外来患者満足度90％以上の達成を目指すこと。 さらに、県立3病院は、結核、エイズ等の感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供すること。また、認知症をはじめとした精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症及び二次的障害を含む発達障害への対応など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を活かし、相互に連携を取り、適切な対応を図ること。 その他、移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題に取り組み、今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県が掲げる6疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																	
	ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																
	イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	14	・周産期医療、精神科患者の身体合併症、認知症に対して、機構内3病院が連携し、より適切な医療の提供を行う。	児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。  周産期医療における搬送実績（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こども→総合</td><td>8</td><td>7</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>総合→こども</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>9</td><td>9</td><td>6</td></tr></table>  こころの医療センターの精神科医師の総合病院への配置状況（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こころ→総合</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td></tr></table>  こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こころ→総合</td><td>9</td><td>6</td><td>4</td><td>8</td><td>8</td><td>12</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こども→総合	8	7	3	3	2	2	総合→こども	13	13	13	9	9	6	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ→総合	0	1	2	2	3	2	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ→総合	9	6	4	8	8	12	A	3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制等病院間の連携協力体制を構築している。 総合病院に常勤の精神科医師を5名配置（うち2名がこころの医療センターと兼務）し、精神科医療体制の構築に向けた連携を実施しており、令和5年度は、精神科患者の身体合併症に対応した病棟を開棟した。 入院患者で身体障害を持つ患者の総合病院への搬送は12件行われており、同一機構内の病院同士との連携が図られている。 こども病院から総合病院に母体搬送が行われた。同一法人のメリットを活かし、搬送時のスムーズな医師の応援派遣や設備の有効活用が図られた。	・精神科患者における身体合併症や、周産期医療における合併症への対応など、3病院の各特性を活かした相互連携が図られているほか、こども病院から総合病院へ母体搬送、医師の応援派遣、設備の有効活用といった、同一法人の利点が活かされている。 ・また、機構3病院で連携して重篤な身体合併症患者の受入れのための体制整備を行い、令和5年度に総合病院において精神科身体合併症病棟を設置した。 ・精神科については、総合病院に、こころの医療センターとの兼務となる精神科医2名を含む5名の精神科医を配置し、精神科リハビリチーム、認知症ケアチーム、緩和ケアチームに参画することにより、診療報酬加算の算定件数増に貢献している。 ・精神身体合併症病棟の運営にあたっては、これまでの精神科医師の配置がチーム医療等の各方面に及ぼした効果等も十分に分析の上、機構3病院の連携体制の更なる強化が進むことを期待する。	14	○	14																																																																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																						
こども→総合	8	7	3	3	2	2																																																																																																																																						
総合→こども	13	13	13	9	9	6																																																																																																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																						
こころ→総合	0	1	2	2	3	2																																																																																																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																						
こころ→総合	9	6	4	8	8	12																																																																																																																																						
ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。	ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。 特に、SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）など新興感染症については、感染拡大防止のため、県との連携・協力体制を整備し、診療機能の強化に努める。	15	・SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）などの新興感染症について、県との連携・協力体制を整備し、診療機能の強化に努める。 【総】・結核病棟を維持する。また各種感染症や難病、アレルギー疾患医療は県内医療機関との連携・協力関係を進める。 ・新興感染症について、県と連携・協力して病床を確保するなど拡大防止に対応できる体制を充実し、県の中核病院としての役割を果たす。 【総・子】・腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成（総合病院のみ）等への取組みを継続する。 【子】・アレルギー疾患拠点病院として、講習会の実施等の取組みを継続する。	(総合) 結核病棟は50床で運用している。 エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。  入院患者数（総合）（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>エイズ</td><td colspan="6">非公開</td></tr><tr><td>結 核</td><td>111</td><td>92</td><td>95</td><td>85</td><td>48</td><td>54</td></tr></table>  移植実績（総合）（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>腎移植</td><td>14</td><td>17</td><td>12</td><td>10</td><td>13</td><td>12</td></tr><tr><td>造血幹細胞移植</td><td>17</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>14</td><td>16</td></tr><tr><td>強角膜片作成</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>33</td><td>34</td><td>26</td><td>22</td><td>29</td><td>29</td></tr></table>  造血幹細胞移植実績（こども）（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>骨髄移植</td><td>5</td><td>2</td><td>8</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>臍帯血</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>自家末梢血</td><td>4</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td></tr><tr><td>同種末梢血</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>14</td><td>10</td><td>12</td><td>6</td><td>10</td><td>9</td></tr></table>  アレルギー疾患に関する研修会・講演会開催件数（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総 合</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>こども</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr></table>  新型コロナウイルス感染症受入体制（令和5年時点） <table><tr><th></th><th>病床数</th><th>時 期</th><th>備 考</th></tr><tr><td>総 合</td><td>24床</td><td>令和4年12月～4月</td><td>6A病棟 最大24床（※令和5年5月から一般病棟で受入れ）</td></tr><tr><td>こころ</td><td>4床</td><td>令和2年4月～</td><td>2床はスタッフ用（※令和5年5月より解除）</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	エイズ	非公開						結 核	111	92	95	85	48	54	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	腎移植	14	17	12	10	13	12	造血幹細胞移植	17	14	13	12	14	16	強角膜片作成	2	3	1	0	2	1	計	33	34	26	22	29	29	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	骨髄移植	5	2	8	3	3	3	臍帯血	3	3	2	2	2	2	自家末梢血	4	4	1	1	4	2	同種末梢血	2	1	1	0	1	2	計	14	10	12	6	10	9	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総 合	1	1	0	1	1	1	こども	4	3	2	2	2	3		病床数	時 期	備 考	総 合	24床	令和4年12月～4月	6A病棟 最大24床（※令和5年5月から一般病棟で受入れ）	こころ	4床	令和2年4月～	2床はスタッフ用（※令和5年5月より解除）	A	(総合) 新型コロナウイルス感染症患者の受入について、令和5年5月8日より5類に移行後は、国の方針に基づき、一般病棟での対応を行い、地域の新型コロナウイルス感染症患者の受入を行っている。 結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況において、当院は50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。 移植については、生体移植を含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を実施している。令和5年度も、前年度に引き続き同水準で移植をしている。 (こころ) 県の要請により新型コロナウイルス感染症に対応する病床を4床(うち2床をスタッフ用)を整備し、令和2年4月から令和5年5月まで運用した。なお、令和5年度中の患者受け入れ実績はなかった。 (こども) 新型コロナウイルス感染症に対応するため、令和5年度は8床(PICU1床、MFICU1床、NICU1床、北4病棟3床、CCU2床)を確保し、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れた。 今回の日本における新型コロナウイルス感染パンデミックの経験を踏まえ、第8次静岡県県保健医療計画中間見直しにおいて新興・再興感染症対策が追加されたことから、当院が県内小児医療の最後の砦としての役割を果たすべく、県と感染症指定医療機関の指定に向けた調整を行っている。 また、移植医療に関しては、先進的医療である造血幹細胞移植に取り組む、令和4年度実績並の9件を実施した。 その他、アレルギー疾患に関する県民向け・医療者向けの講習会を実施しており、令和5年度は3回開催した。	14	○	15
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																						
エイズ	非公開																																																																																																																																											
結 核	111	92	95	85	48	54																																																																																																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																						
腎移植	14	17	12	10	13	12																																																																																																																																						
造血幹細胞移植	17	14	13	12	14	16																																																																																																																																						
強角膜片作成	2	3	1	0	2	1																																																																																																																																						
計	33	34	26	22	29	29																																																																																																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																						
骨髄移植	5	2	8	3	3	3																																																																																																																																						
臍帯血	3	3	2	2	2	2																																																																																																																																						
自家末梢血	4	4	1	1	4	2																																																																																																																																						
同種末梢血	2	1	1	0	1	2																																																																																																																																						
計	14	10	12	6	10	9																																																																																																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																						
総 合	1	1	0	1	1	1																																																																																																																																						
こども	4	3	2	2	2	3																																																																																																																																						
	病床数	時 期	備 考																																																																																																																																									
総 合	24床	令和4年12月～4月	6A病棟 最大24床（※令和5年5月から一般病棟で受入れ）																																																																																																																																									
こころ	4床	令和2年4月～	2床はスタッフ用（※令和5年5月より解除）																																																																																																																																									





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																								
						評価	説明																																																													
	エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	16 ～ 18	【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。 【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。 【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。	総合  患者サポートセンター退院調整件数（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>6,810</td><td>5,217</td><td>6,007</td><td>6,517</td><td>6,661</td><td>6,618</td></tr></table>  退院支援関係診療報酬算定件数実績（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>退院調整加算（旧）</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>退院支援加算1（新）</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>入退院支援加算1※</td><td>4,816</td><td>3,987</td><td>5,403</td><td>6,008</td><td>5,890</td><td>6,004</td></tr><tr><td>退院時リハビリテーション指導料</td><td>530</td><td>1,113</td><td>3,529</td><td>2,957</td><td>2,839</td><td>2,979</td></tr><tr><td>計</td><td>5,346</td><td>5,100</td><td>8,932</td><td>8,965</td><td>8,729</td><td>8,983</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	6,810	5,217	6,007	6,517	6,661	6,618	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	退院調整加算（旧）	－	－	－	－	－	－	退院支援加算1（新）	－	－	－	－	－	－	入退院支援加算1※	4,816	3,987	5,403	6,008	5,890	6,004	退院時リハビリテーション指導料	530	1,113	3,529	2,957	2,839	2,979	計	5,346	5,100	8,932	8,965	8,729	8,983	A	患者サポートセンターの看護師、MSWや理学療法士等が中心となり、入院早期から退院調整を積極的に支援している。	・入退院調整の窓口である地域医療ネットワークセンターにおいては、各種会議・勉強会への参加、地域連携バスの運用などを通じて地域の医療機関との顔の見える関係を構築している。 ・退院調整件数や診療報酬算定件数としての入退院支援加算は令和4年度並みを維持した。				16
区 分	30年度	元年度			2年度	3年度	4年度	5年度																																																												
件数	6,810	5,217			6,007	6,517	6,661	6,618																																																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																														
退院調整加算（旧）	－	－	－	－	－	－																																																														
退院支援加算1（新）	－	－	－	－	－	－																																																														
入退院支援加算1※	4,816	3,987	5,403	6,008	5,890	6,004																																																														
退院時リハビリテーション指導料	530	1,113	3,529	2,957	2,839	2,979																																																														
計	5,346	5,100	8,932	8,965	8,729	8,983																																																														
					ミニ  リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてよりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。  リハビリテーション活動実施件数（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>精神科作業療法</td><td>5,494</td><td>4,483</td><td>5,427</td><td>4,552</td><td>4,010</td><td>3,969</td></tr><tr><td>デイケア</td><td>6,023</td><td>4,462</td><td>2,653</td><td>1,388</td><td>1,875</td><td>2,595</td></tr><tr><td>計</td><td>11,517</td><td>8,945</td><td>8,080</td><td>5,949</td><td>5,885</td><td>6,564</td></tr></table>  訪問看護実施件数（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>訪問看護実施件数</td><td>3,996</td><td>3,704</td><td>3,841</td><td>3,643</td><td>3,726</td><td>4,121</td></tr><tr><td>（うち複数訪問）</td><td>31</td><td>38</td><td>46</td><td>37</td><td>71</td><td>57</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	精神科作業療法	5,494	4,483	5,427	4,552	4,010	3,969	デイケア	6,023	4,462	2,653	1,388	1,875	2,595	計	11,517	8,945	8,080	5,949	5,885	6,564	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	訪問看護実施件数	3,996	3,704	3,841	3,643	3,726	4,121	（うち複数訪問）	31	38	46	37	71	57	B	令和5年度は、デイケア活動を中止することなく継続出来ており、徐々にコロナ流行前の実施体制に移行している。また、院内の窓口や売店などで案内ポスターの掲示やパンフレットの配架を行う等の広報活動により、患者の増加に努めている。 訪問看護活動については、各部署の活動が再開されたことにより複数の職種での訪問が難しくなったが、積極的に訪問を行い、コロナ前の実績を上回った。今後も積極的な実施に努めていく。	・リハビリ実施件数は、近年、減少傾向にある。特に精神科作業療法は主に入院患者を対象としたものであるが、入院患者数の減少や重症患者の比率増加により、年々件数が減少している。 ・特にデイケアは、新型コロナウイルス感染症対策として受入人数を制限していたため、減少していたが、令和5年度は従来の活動を再開したことから、実施件数は令和4年度を上回った。 ・また、平均在院日数を短縮し、社会復帰に向けたリハビリや地域での生活を支援する訪問看護も重要であり、訪問看護実施件数は、コロナ前まで回復している。 ・精神疾患患者の社会復帰と在宅医療の支援について、デイケア等の利用者増加に向け、今後も継続した取組を期待する。	15	△	17								
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																														
精神科作業療法	5,494	4,483	5,427	4,552	4,010	3,969																																																														
デイケア	6,023	4,462	2,653	1,388	1,875	2,595																																																														
計	11,517	8,945	8,080	5,949	5,885	6,564																																																														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																														
訪問看護実施件数	3,996	3,704	3,841	3,643	3,726	4,121																																																														
（うち複数訪問）	31	38	46	37	71	57																																																														
					ミニ  リハビリ実施実績（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>理学療法</td><td>17,309</td><td>22,829</td><td>22,985</td><td>24,683</td><td>25,770</td><td>26,886</td><td>15,000</td></tr><tr><td>作業療法</td><td>6,039</td><td>4,546</td><td>3,813</td><td>7,794</td><td>11,495</td><td>11,333</td><td>－</td></tr><tr><td>言語聴覚療法</td><td>7,901</td><td>9,744</td><td>10,162</td><td>10,045</td><td>9,555</td><td>10,332</td><td>－</td></tr><tr><td>計</td><td>31,249</td><td>37,119</td><td>36,960</td><td>42,522</td><td>46,820</td><td>48,551</td><td>－</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000	作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	－	言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	－	計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	－	S	令和5年度リハビリ実施件数は、過去最大件数であった令和4年度の数値を上回る結果となった。令和4年度に件数が大幅に増えた作業療法は、令和5年度もその件数を維持し、理学療法及び言語聴覚療法は前年度を上回る件数となった。 作業療法に関しては、令和3年度に増員された療法士が経験を積むことにより運用の幅が広がり、入院患者のうち集中治療系病棟の患者にも対応することで件数が増加している。 また、理学療法に関して、令和4年4月から算定可能となったPICUでの早期離床・リハビリテーション加算（入室後14日間に500点/人/日）について、令和5年度もPICU入室患者のほぼ全例に早期離床の介入ができた。早期離床への意識も高まりPICU退室後もシームレスな機能回復の継続を目的に各主治医からのリハビリの処方が増加した。 今後もさらなる質の向上を図っていく。	・リハビリ実施件数は理学療法、作業療法、言語聴覚療法のいずれも第3期中期目標期間を通じて高い水準を維持しており、令和5年度は3療法の合計件数で過去最大となった。 ・理学療法については、小児集中治療室患者への早期離床の介入等により、令和5年度も目標値を上回った。 ・作業療法については、令和3年度に作業療法士を増員しており、これまで対応できなかった集中治療系病棟患者への対応が可能となるなど、令和5年度の作業療法件数は、前年度並みである。 ・リハビリ全体の実施件数については、令和5年度において過去最大となり、体制強化による患者の早期機能回復に寄与している。	15	☆	18																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																													
理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000																																																													
作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	－																																																													
言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	－																																																													
計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	－																																																													





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																		
						評価	説明																																							
	オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	19	・遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。	<div>遺伝診療科受診者数（単位：人）</div> <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>受診者数</td><td>101</td><td>146</td><td>227</td><td>233</td><td>270</td><td>266</td></tr></table> <div>【参考】エキスパートパネル実施件数（単位：人）</div> <table><tr><td>区 分</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>受診者数</td><td>38</td><td>46</td><td>46</td><td>94</td></tr></table> <div>【参考】遺伝カウンセリング件数（単位：人）</div> <table><tr><td>区 分</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>受診者数</td><td>227</td><td>233</td><td>270</td><td>266</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	受診者数	101	146	227	233	270	266	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	受診者数	38	46	46	94	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	受診者数	227	233	270	266	A	遺伝診療に関する診療は年々増加傾向にあったが、令和5年度の受診者数及び遺伝カウンセリングの件数は、令和4年度と同程度の高い水準を維持した。	・遺伝診療科受診者数、エキスパートパネル、遺伝カウンセリングの件数は増加傾向にあり、遺伝子解析・診断を活用した相談支援の充実による効果が現れている。令和5年度においても、令和4年度と同水準を維持した。 (参考) ・平成27年度の遺伝診療科開設以降、平成30年3月のがんゲノム医療連携拠点病院指定、令和元年9月のゲノム医療センター新設等の体制強化に加え、令和元年6月からのがん遺伝子パネル検査の保険適用開始も影響し、遺伝診療科受診者数は増加傾向にある。 ・がんゲノム医療連携病院として、令和2年度から静岡がんセンターと連携してエキスパートパネル(がん遺伝子パネル検査の結果を医学的に解釈するための多職種による検討会)を開始している。 ・令和3年度には、ゲノム医療センターにおける臨床遺伝専門医を1人増員し、更なる体制強化を図った。			○	19
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																								
受診者数	101	146	227	233	270	266																																								
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度																																										
受診者数	38	46	46	94																																										
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度																																										
受診者数	227	233	270	266																																										









中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																						
						評価	説明																																																																																																																											
	キ 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	キ 移行期医療支援センターの運用などによる移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	23	・SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)などの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。(No.15再掲) ・機構内各病院や他医療機関、県などと連携して移行期医療及び成人期医療を提供する。 ・【こころ】総合病院、こども病院と連携した県立3病院の精神科医療体制構築を進める。 ・【子】県担当課と協議しつつ、受託した移行期医療支援センターの運営を行い、業務内容の充実を図る ・【子】No.59	<table><tr><td colspan="7">移行期医療件数</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2 年度</td><td>3 年度</td><td>4 年度</td><td>5 年度</td><td></td></tr><tr><td>こども→総合</td><td>610</td><td>666</td><td>995</td><td>1,367</td><td>1,100</td><td>918</td><td></td></tr><tr><td>こども→こころ</td><td>-</td><td>19</td><td>18</td><td>15</td><td>28</td><td>31</td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">関連するカンファレンス等の開催実績</td><td>(単位：回)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2 年度</td><td>3 年度</td><td>4 年度</td><td>5 年度</td><td></td></tr><tr><td>こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績</td><td>2</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td>移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数</td><td>1</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数</td><td>5</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>4</td><td></td></tr></table> ※ 令和2年度に短期入所事業者の指定を受け、令和4年度から入所している  <table><tr><td colspan="7">移行期医療推進協議会の開催</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2 年度</td><td>3 年度</td><td>4 年度</td><td>5 年度</td><td></td></tr><tr><td>移行期医療推進協議会の開催</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>0</td><td></td></tr></table>  <table><tr><td colspan="7">移行期医療センターに関する委員会等の実施回数</td><td>(単位：件数)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2 年度</td><td>3 年度</td><td>4 年度</td><td>5 年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>移行期医療センターに関する委員会等の実施回数</td><td>-</td><td>11</td><td>18</td><td>9</td><td>7</td><td></td><td></td></tr></table>	移行期医療件数							(単位：件)	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度		こども→総合	610	666	995	1,367	1,100	918		こども→こころ	-	19	18	15	28	31		関連するカンファレンス等の開催実績							(単位：回)	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度		こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	2	5	0	0	0	0		移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	1	6	4	3	2	2		医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	5	3	6	6	3	4		移行期医療推進協議会の開催							(単位：件)	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度		移行期医療推進協議会の開催	-	-	-	-	1	0		移行期医療センターに関する委員会等の実施回数							(単位：件数)	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度			移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	-	11	18	9	7			A  新型コロナウイルス感染症への対応については、総合病院及びこども病院が県から重点医療機関に指定されており、各病院において患者受入体制を整備し、県と調整のうえ患者の受入を行ってきた。 移行期医療への対応については、機構内における医療情報システム(電子カルテシステム)の統合を進め、令和5年5月に稼働を開始した。これにより、今後患者情報の病院間の相互参照が可能となり、医療サービスの向上が期待される。 (総合) 令和5年度の実診患者数は、令和4年度実績とほぼ横這いとなった。 (こころ) 当院とこども病院間での医師による合同カンファレンスについては実施していないものの、相互の医局間で連携したことにより、こども病院で対応出来ない重篤な精神疾患症例の児童の受け入れを実施し、期間中最高件数の受入ができた。 (こども) 県から移行期医療支援センター運営事業を受託し、県と連携して移行期医療支援体制の推進に取り組んだ。 令和5年度は小児科から成人医療施設への紹介実績調査のほか、こども病院として、患者の自立を促すための自立支援外来の実施、静岡市医師会と重症心身障がい児の移行のためのカンファレンスを行った。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応について、令和2年度に指定障害福祉サービスによる短期入所事業者の指定を受け、令和5年度は3人(延人数)の利用があった。	・こども病院は県の受託事業として、令和2年9月に静岡県移行期医療支援センターを開設し、医療機関関連マップの作成などを移行期医療支援体制の拡充に取り組んでいる。 ・総合病院、こども病院では移行期医療関連部署を令和2年度に設置しており、令和5年度における病院間の移行期医療件数は、こども病院と総合病院間、こども病院とこころの医療センター間のいずれも令和4年度と同水準となっている。 (参考) ・医療の発達により、小児期の慢性疾患による死亡率が減少する一方で、原疾患治療や合併症への対応が長期化し、思春期・成人期を迎える患者が増えているが、小児期と成人期の診療科・医療機関の連携は十分ではない。 ・国は、移行期医療に対応可能な医療機関情報を把握・公表し、小児期と成人期の医療機関等の連絡調整・連携支援、患者の自律支援等を担う総合的なセンター機能を、各都道府県に1箇所以上設置することを求めている。 ・移行期医療は、小児診療科から成人診療科に完全に移行する疾病、両方でケアが必要な疾病、小児診療科で継続してケアが必要な疾病と、疾病の種類や状況に応じて、求められる診療体制が異なる点が特徴である。	15	○	23
移行期医療件数							(単位：件)																																																																																																																											
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																												
こども→総合	610	666	995	1,367	1,100	918																																																																																																																												
こども→こころ	-	19	18	15	28	31																																																																																																																												
関連するカンファレンス等の開催実績							(単位：回)																																																																																																																											
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																												
こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	2	5	0	0	0	0																																																																																																																												
移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	1	6	4	3	2	2																																																																																																																												
医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	5	3	6	6	3	4																																																																																																																												
移行期医療推進協議会の開催							(単位：件)																																																																																																																											
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																												
移行期医療推進協議会の開催	-	-	-	-	1	0																																																																																																																												
移行期医療センターに関する委員会等の実施回数							(単位：件数)																																																																																																																											
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																													
移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	-	11	18	9	7																																																																																																																													





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																													
						評価	説明																																																																																																																		
	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療に取り組む。質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システム統合をはじめとした医療情報の共有化に取り組む。 また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	24	・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。 ・3病院の医療情報システム統合を実施し、セキュリティを強化した上で、地域医療連携などICTを利用したサービスの向上を目指す。	施設及び機器等の整備状況 <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="7">施設整備</th></tr><tr><th>第2期累計 (実績)</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>第3期累計</th></tr><tr><td>総合</td><td>16,132</td><td>1,091</td><td>1,472</td><td>1,866</td><td>383</td><td>685</td><td>4,813</td></tr><tr><td>こころ</td><td>992</td><td>139</td><td>246</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>390</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,764</td><td>148</td><td>829</td><td>190</td><td>136</td><td>282</td><td>1,303</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>0</td><td>78</td><td>395</td><td>358</td><td>3,304</td><td>831</td></tr><tr><td>合計</td><td>18,887</td><td>1,379</td><td>2,626</td><td>2,456</td><td>877</td><td>4,271</td><td>7,338</td></tr></table> <div>(単位：百万円)</div> <table><tr><th colspan="8">器械備品等</th></tr><tr><th></th><th>第2期累計 (実績)</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>第3期累計</th></tr><tr><td>総合</td><td>6,788</td><td>706</td><td>894</td><td>708</td><td>1,049</td><td>1,724</td><td>3,356</td></tr><tr><td>こころ</td><td>169</td><td>31</td><td>31</td><td>8</td><td>14</td><td>24</td><td>84</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,834</td><td>308</td><td>747</td><td>567</td><td>717</td><td>454</td><td>2,339</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>0</td><td>44</td><td>0</td><td>1</td><td>1,166</td><td>45</td></tr><tr><td>合計</td><td>8,791</td><td>1,045</td><td>1,716</td><td>1,283</td><td>1,780</td><td>3,368</td><td>5,824</td></tr></table> 医療情報システム統合の実施状況 ・質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムを統合、令和5年5月から稼働を開始した。	区 分	施設整備							第2期累計 (実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	総合	16,132	1,091	1,472	1,866	383	685	4,813	こころ	992	139	246	5	0	0	390	こども	1,764	148	829	190	136	282	1,303	本部	0	0	78	395	358	3,304	831	合計	18,887	1,379	2,626	2,456	877	4,271	7,338	器械備品等									第2期累計 (実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	総合	6,788	706	894	708	1,049	1,724	3,356	こころ	169	31	31	8	14	24	84	こども	1,834	308	747	567	717	454	2,339	本部	0	0	44	0	1	1,166	45	合計	8,791	1,045	1,716	1,283	1,780	3,368	5,824	A	(総合) 施設整備に関しては、本館電気設備改修工事が完了した。令和6年度は引き続き、本館非常用発電機更新工事及び劣化改修工事を行う予定である。 器械備品に関しては、超電導磁石式全身用MR装置、据置型デジタル式循環器用X線透視診断装置等の更新を行った。 (こころ) 施設整備に関しては、厨房改修や設備改修等に関する検討を進めた。 器械備品に関しては、多項目自動血球分析装置、歯科用パノラマX線撮影装置等の更新を行った。 (こども) 施設整備に関しては、昇降機改修工事及び外来天井改修工事が完了した。 器械備品に関しては、生体情報モニター及びドクターカーの更新を行った。 (本部) 質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、機構内における医療情報システムの統合を行い、令和5年5月に3病院共通電子カルテシステムの稼働を開始した。	17	○	24
区 分	施設整備																																																																																																																								
	第2期累計 (実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計																																																																																																																		
総合	16,132	1,091	1,472	1,866	383	685	4,813																																																																																																																		
こころ	992	139	246	5	0	0	390																																																																																																																		
こども	1,764	148	829	190	136	282	1,303																																																																																																																		
本部	0	0	78	395	358	3,304	831																																																																																																																		
合計	18,887	1,379	2,626	2,456	877	4,271	7,338																																																																																																																		
器械備品等																																																																																																																									
	第2期累計 (実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計																																																																																																																		
総合	6,788	706	894	708	1,049	1,724	3,356																																																																																																																		
こころ	169	31	31	8	14	24	84																																																																																																																		
こども	1,834	308	747	567	717	454	2,339																																																																																																																		
本部	0	0	44	0	1	1,166	45																																																																																																																		
合計	8,791	1,045	1,716	1,283	1,780	3,368	5,824																																																																																																																		



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																
						評価	説明																																					
	ケ 各県立病院は、質の高い医療を継続的に提供するため、次のとおり重点的に取り組む。	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																
	県立総合病院	<sup>(ウ)</sup> 県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患（心疾患、脳血管疾患、がん疾患）に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療 県民に提供する医療＜業務予定量＞ 病床数 718床 一般病床 662床 結核病床 50床 精神病床 6床 外来患者 455,056人 入院患者 227,436人	25	総合	入院・外来患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>233,305</td><td>225,595</td><td>203,298</td><td>207,398</td><td>199,210</td><td>211,603</td><td>227,436</td></tr><tr><td>(うち結核病床)</td><td>6,406</td><td>4,967</td><td>5,223</td><td>4,918</td><td>3,260</td><td>3,977</td><td>-</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>436,699</td><td>448,945</td><td>425,092</td><td>455,056</td><td>455,776</td><td>457,778</td><td>455,056</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	入院患者数	233,305	225,595	203,298	207,398	199,210	211,603	227,436	(うち結核病床)	6,406	4,967	5,223	4,918	3,260	3,977	-	外来患者数	436,699	448,945	425,092	455,056	455,776	457,778	455,056	B	入院患者数については、新型コロナウイルス感染症の対応を継続しながら、令和2年度以前の数字まで戻りつつあり、順調に増加している。 一方、外来患者数については、令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度実績を超え過去最高を更新した。	・入院患者数については、目標値を下回るが、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、専用病床の確保数を縮小していることから、昨年度を上回る。 ・一方で、外来患者数は、目標値を上回る増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染症からの回復が見られる。	3	1	○	25
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																					
入院患者数	233,305	225,595	203,298	207,398	199,210	211,603	227,436																																					
(うち結核病床)	6,406	4,967	5,223	4,918	3,260	3,977	-																																					
外来患者数	436,699	448,945	425,092	455,056	455,776	457,778	455,056																																					
	・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、常時高度な専門的治療を提供する。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	○循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を活かした常時高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠動脈疾患集中治療室（CCU／ICU）機能を最大限に活かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する常時救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用による経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術（Mitra Clip）等の低侵襲かつ高度な手術の実施	26	総合	CCU/ICUは平成30年9月より14床で運用している。  CCU／ICU稼働率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>稼働率(％)</td><td>119.1</td><td>100.3</td><td>88.6</td><td>95.7</td><td>87.4</td><td>96.3</td></tr><tr><td>入室患者数(人)</td><td>771</td><td>866</td><td>802</td><td>925</td><td>795</td><td>853</td></tr><tr><td>1日平均(人)</td><td>14.3</td><td>14.0</td><td>12.4</td><td>13.4</td><td>12.2</td><td>13.5</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	稼働率(％)	119.1	100.3	88.6	95.7	87.4	96.3	入室患者数(人)	771	866	802	925	795	853	1日平均(人)	14.3	14.0	12.4	13.4	12.2	13.5	A	CCU/ICUの稼働率及び1日平均入室患者数は、令和4年度は新型肺炎患者の重症化に伴い、一時的に稼働の制限を行っていたが、令和5年度は制限はなくなり、稼働率、入室患者数ともに増加した。	・循環器病センターのCCUは24時間体制で運用され、心臓血管外科や脳神経外科等における侵襲性が高い手術実施にかかる周術期管理を要する患者の増加等により、高い稼働率で治療が行われている。 ・第3期中期目標期間においては、新型コロナウイルス感染症専門病床の診療体制を強化するための看護師配置に伴い、一時的に稼働を制限したことにより、稼働率がやや低下している。 ・令和5年度は、稼働制限を行わなかったことから、令和4年度に比べ稼働率等が上昇した。	3		○	26				
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																						
稼働率(％)	119.1	100.3	88.6	95.7	87.4	96.3																																						
入室患者数(人)	771	866	802	925	795	853																																						
1日平均(人)	14.3	14.0	12.4	13.4	12.2	13.5																																						
			27	総合	脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>62</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td><td>49</td><td>8</td></tr></table> 超急性期脳卒中加算 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>16</td><td>35</td><td>28</td><td>32</td><td>20</td><td>28</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	算定件数	62	83	102	92	49	8	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	算定件数	16	35	28	32	20	28	A	脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数について、対象となる患者が減少したことにより、令和5年度は前年度に引き続き減少した。院内においては地域連携パスについて再周知し、引き続き、地域の医療機関等との連携により、パスの適用を推進し、円滑な運用に努める。 しかしながら超急性期脳卒中加算は前年度を上回る結果となった。 また、今後も、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。	・脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数は令和4年度を下回っているため、院内における制度の再周知等にも取り組んでいる。地域の医療機関等との連携による、クリニカルパスの円滑な運用を期待する。				27				
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																						
算定件数	62	83	102	92	49	8																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																						
算定件数	16	35	28	32	20	28																																						
		③生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	28	総合	糖尿病透析予防指導管理料 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>145</td><td>285</td><td>123</td><td>67</td><td>48</td><td>91</td></tr></table> (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>腎代替療法指導管理料</td><td>211</td><td>164</td><td>177</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	算定件数	145	285	123	67	48	91	区 分	3年度	4年度	5年度	腎代替療法指導管理料	211	164	177	A	糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病・内分泌内科外来、そらまめ外来、透析室における指導により算定する。また、糖尿病透析予防指導管理料と腎代替療法指導管理料の対象患者は重複しているため、腎代替療法患者の増加に伴い、糖尿病透析予防管理料の患者数は減少している。 令和4年度の算定件数は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、人員配置の変更が大きく影響したが、令和5年度は、昨年度を上回る結果となった。	・令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響や診療報酬改定で新設された腎代替療法指導管理料との算定患者の重複により、減少しているが、令和5年度は令和4年度を上回り、堅調に推移している。				28										
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																						
算定件数	145	285	123	67	48	91																																						
区 分	3年度	4年度	5年度																																									
腎代替療法指導管理料	211	164	177																																									





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																						
						評価	説明																																																																											
			29	④ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	<div>ハイブリッド手術室稼動状況（単位：件）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>ハイブリッド手術室使用件数</td><td>706</td><td>486</td><td>484</td><td>512</td><td>525</td><td>563</td><td>400以上</td></tr><tr><td>TAVI実施件数 ※上記の内数</td><td>74</td><td>67</td><td>65</td><td>105</td><td>81</td><td>84</td><td>－</td></tr><tr><td>ステントグラフト挿入術 ※上記の内数</td><td>91</td><td>125</td><td>76</td><td>99</td><td>120</td><td>108</td><td>－</td></tr><tr><td>Mitra Clip件数 ※上記の内数</td><td>12</td><td>24</td><td>14</td><td>21</td><td>11</td><td>14</td><td>－</td></tr></table> <div>参考（単位：件）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>P C I</td><td>450</td><td>368</td><td>363</td><td>349</td><td>333</td><td>274</td></tr><tr><td>アブレーション</td><td>253</td><td>284</td><td>267</td><td>305</td><td>262</td><td>282</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	ハイブリッド手術室使用件数	706	486	484	512	525	563	400以上	TAVI実施件数 ※上記の内数	74	67	65	105	81	84	－	ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	91	125	76	99	120	108	－	Mitra Clip件数 ※上記の内数	12	24	14	21	11	14	－	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	P C I	450	368	363	349	333	274	アブレーション	253	284	267	305	262	282	A	MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管撮影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト内挿術、MitraClip等の手術に使用される。 ハイブリッド手術室の稼動状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇し、令和5年度は令和4年度を上回る結果となった。 令和5年度の稼動状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は令和4年度実績と同程度を維持している。	・ハイブリッド手術室使用件数については、令和5年度は目標値を上回っている。高度な施設基準等が要求される中、心臓血管外科や循環器内科の連携のもと実績を伸ばしており、高度・専門医療の提供による県の医療水準の向上に貢献している。 （参考） ・先端医学棟内に、MRI・CT・血管造影の3種類のハイブリッド手術室が整備されており、特徴に応じた施術内容に活用されている。 ・TAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）は大動脈弁狭窄症に対して、カテーテルにより人口弁を心臓に装着する治療、MitraClip（経皮的僧帽弁クリップ術）は僧帽弁閉鎖不全に対して、カテーテルにより僧帽弁逆流を制御する治療、PCI（経皮的冠動脈形成術）は、動脈硬化等による冠動脈の狭窄等に対して、カテーテル治療を行うものである。 ・ハイブリッド手術室使用件数については、令和元年度から、検査のみの使用を除いた件数に算定方法を変更している。	3	1	○	29									
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																											
ハイブリッド手術室使用件数	706	486	484	512	525	563	400以上																																																																											
TAVI実施件数 ※上記の内数	74	67	65	105	81	84	－																																																																											
ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	91	125	76	99	120	108	－																																																																											
Mitra Clip件数 ※上記の内数	12	24	14	21	11	14	－																																																																											
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																												
P C I	450	368	363	349	333	274																																																																												
アブレーション	253	284	267	305	262	282																																																																												
	・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備し、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供していく。	○がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、手術、放射線治療、化学療法に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用	30	①がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	<div>がん手術件数（単位：件、％）</div> <table><tr><th>区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>胃がん</td><td>340</td><td>366</td><td>351</td><td>351</td><td>392</td><td>347</td></tr><tr><td>大腸がん</td><td>687</td><td>696</td><td>759</td><td>776</td><td>732</td><td>787</td></tr><tr><td>肝がん</td><td>366</td><td>260</td><td>328</td><td>255</td><td>232</td><td>264</td></tr><tr><td>肺がん</td><td>134</td><td>194</td><td>213</td><td>180</td><td>184</td><td>169</td></tr><tr><td>乳がん</td><td>449</td><td>511</td><td>440</td><td>454</td><td>441</td><td>448</td></tr><tr><td>その他</td><td>1,241</td><td>1,549</td><td>1,355</td><td>1,630</td><td>1,600</td><td>1,509</td></tr><tr><td>がん手術合計</td><td>3,217</td><td>3,576</td><td>3,446</td><td>3,646</td><td>3,581</td><td>3,524</td></tr><tr><td>手術全体</td><td>8,651</td><td>9,225</td><td>8,513</td><td>8,798</td><td>8,525</td><td>8,931</td></tr><tr><td>がん手術割合</td><td>37.2</td><td>38.8</td><td>40.5</td><td>41.4</td><td>42.0</td><td>39.5</td></tr></table> ※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	胃がん	340	366	351	351	392	347	大腸がん	687	696	759	776	732	787	肝がん	366	260	328	255	232	264	肺がん	134	194	213	180	184	169	乳がん	449	511	440	454	441	448	その他	1,241	1,549	1,355	1,630	1,600	1,509	がん手術合計	3,217	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524	手術全体	8,651	9,225	8,513	8,798	8,525	8,931	がん手術割合	37.2	38.8	40.5	41.4	42.0	39.5	B	がん手術件数は、令和4年度若干減少したものの、令和5年度の件数は順調に推移しており、コロナ禍前の令和元年度当時の水準と同等となった。  放射線治療件数は、高精度放射線治療に比重を置いていることで件数自体は抑えられているが、その中でも件数は順調に推移しており、目標値と同程度の件数となった。	・手術室を拡充し手術支援ロボットを追加整備した先端医学棟の開棟後、リニアック3台体制による高精度な治療の提供などにより、がん手術件数は増加している。令和5年度は、がん手術件数において令和4年度と同程度を維持している。 ・放射線治療件数は978件と目標値(1,000件)と同程度となる見込みである。 ・引き続き、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用した、高度・専門医療の提供が期待される。	4	1	○	30
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																												
胃がん	340	366	351	351	392	347																																																																												
大腸がん	687	696	759	776	732	787																																																																												
肝がん	366	260	328	255	232	264																																																																												
肺がん	134	194	213	180	184	169																																																																												
乳がん	449	511	440	454	441	448																																																																												
その他	1,241	1,549	1,355	1,630	1,600	1,509																																																																												
がん手術合計	3,217	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524																																																																												
手術全体	8,651	9,225	8,513	8,798	8,525	8,931																																																																												
がん手術割合	37.2	38.8	40.5	41.4	42.0	39.5																																																																												





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																															
						評価	説明																																				
			31	①外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。	外来化学療法加算 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>5年度目標</td></tr><tr><td>件数</td><td>12,159</td><td>12,707</td><td>12,660</td><td>12,812</td><td>13,854</td><td>13,862</td><td>12,000以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	件数	12,159	12,707	12,660	12,812	13,854	13,862	12,000以上	S	外来化学療法については、外来化学療法センターの移転リニューアルや前日採血の運用を導入するなど、患者の療養環境や利便性が大幅に向上し、令和5年度の外来化学療法加算算定件数は13,000件を上回り、過去最多の実施件数となった。 また、がん薬物療法(抗がん剤治療)による脱毛抑制のための頭部冷却装置(PAXMAN)を導入し乳がん患者を対象に治療を開始している。乳がんを含む固形癌に対する薬物療法を受ける患者の、治療中及び治療後の脱毛抑制が期待でき、患者サービスの向上、及び対象患者のQOLの向上が図られる。				・抗がん剤療法を主とする化学療法は、外科的療法である手術、内科的療法である放射線治療と並ぶ、がん治療の3本柱の1つである。 ・令和2年度に実施した外来化学療養センターの移転リニューアルを経て、令和5年度の外来化学療法加算件数は、過去最大件数となった。 ・外来化学療法センターのリニューアルや、前日採血の実施、抗がん剤治療の副作用である脱毛を抑制する頭部冷却装置(PAXMAN)の導入など、第3期中期目標期間を通じたハード・ソフト両面での取り組みの効果が現れている。 ・日常生活を送りながら治療を行うことができる、外来化学療法の充実は、がん患者に対する質の高い医療の提供だけでなく、治療と生活の両立などQOLの向上に大きく寄与している。	4	1	☆	31												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																				
件数	12,159	12,707	12,660	12,812	13,854	13,862	12,000以上																																				
			32	②地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	緩和ケアチーム介入症例数 (単位：件) <table><tr><td>区分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>症例数</td><td>418</td><td>527</td><td>482</td><td>548</td><td>396</td><td>383</td></tr></table> 緩和ケア診療加算算定件数 (単位：件) <table><tr><td>区分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>件数</td><td>812</td><td>5249</td><td>4,417</td><td>5,308</td><td>4,796</td><td>4,372</td></tr></table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	症例数	418	527	482	548	396	383	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	812	5249	4,417	5,308	4,796	4,372	A	緩和ケアチームは、緩和医療科医師、精神科医師、がんに関連する専門・認定看護師等で構成され、院内のがん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。 また、がん患者等の社会復帰を支援するため、院内にハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携による就労支援出張相談窓口を設置し、通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフによる無料の就労相談を行っている。				・「緩和ケア」は終末期医療のみならず、近年は、がん治療におけるできるだけ早い段階での開始の必要性が認識されている。 ・がんに伴う身体や精神の苦痛があっても患者が自分らしく生活できるよう、緩和医療科医と精神科医、専門知識を有する看護師・薬剤師等が連携する緩和ケアチームが、身体面・精神面の症状を軽減するための医療を提供している。 ・令和5年度の診療加算算定件数は令和4年度と同程度となり、地域がん診療連携拠点病院として、今後も、高度な集学的治療や適切な緩和医療の提供が期待される。				32
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																					
症例数	418	527	482	548	396	383																																					
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																					
件数	812	5249	4,417	5,308	4,796	4,372																																					
			33	③がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	がん相談件数 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>がん相談</td><td>4,374</td><td>4,742</td><td>4,458</td><td>3,493</td><td>2,456</td><td>2,241</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	がん相談	4,374	4,742	4,458	3,493	2,456	2,241	A	がん相談支援センターにおいて、がんに関連する専門・認定看護師を中心に対面及び電話による相談を実施している。 がん相談件数については、令和5年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での相談件数が減少傾向であるため、前年度と同水準となった。				・がん相談支援センターには国立がん研究センター主催の相談員研修を修了した相談員2人(専従1人・専任1人)を配置している。その他、がん看護専門看護師1人(専任)、緩和ケア認定看護師1人(専任)、がん化学療法認定看護師1人(専任)、乳がん認定看護師2人(専任)が外来、病棟において相談業務を行っており、がん患者が相談しやすい体制が確保されている。				33														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																					
がん相談	4,374	4,742	4,458	3,493	2,456	2,241																																					









中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点 点	数 値	評 価	No																																																																											
						評 価	説 明																																																																																
	・先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用により、適切な治療を提供していく。	○先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用による適切な治療の提供 ①ハイブリッド手術室を活用した高度専門医療の推進 ②高度放射線治療の推進	36	先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する。 ①No.29 ②No.30	手術件数（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>手術件数</td><td>9,327</td><td>9,814</td><td>9,126</td><td>9,395</td><td>9,160</td><td>9,459</td><td>9,400以上</td></tr></table> HCU延患者数（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>人数</td><td>6,872</td><td>6,426</td><td>5,569</td><td>5,759</td><td>5,669</td><td>6,537</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	手術件数	9,327	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,400以上	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	人数	6,872	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537	A	先端医学棟では、最新の設備と医療機器を最大限に活用した高度・先進医療を実施している。特に、3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室と術後管理を行うHCU20床の一体的かつ効率的な運用に努めている。なお、令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度以前と同様の件数まで回復し、目標件数を達成した。 令和4年9月に総合病院先端医学棟で発生した火災により、病理学部機能をリサーチ・サポート・センターに移転して診療を継続していたが、令和5年9月末に復旧工事が完了した。		510	36																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																
手術件数	9,327	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,400以上																																																																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																	
人数	6,872	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537																																																																																	
	・高度救命救急センターとして一層の充実を図り、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応していく。	○重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①救急搬送患者の受入体制の充実	37	①②医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。	医師の変則勤務試行状況（単位：％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>該当者（人）</td><td>1,717</td><td>1,784</td><td>1,893</td><td>1,838</td><td>1,864</td><td>1,909</td></tr><tr><td>利用者（人）</td><td>966</td><td>1,047</td><td>1,224</td><td>1,139</td><td>1,176</td><td>1,197</td></tr><tr><td>利用率（％）</td><td>56.3</td><td>58.7</td><td>64.7</td><td>61.9</td><td>63.1</td><td>62.7</td></tr></table> ※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	該当者（人）	1,717	1,784	1,893	1,838	1,864	1,909	利用者（人）	966	1,047	1,224	1,139	1,176	1,197	利用率（％）	56.3	58.7	64.7	61.9	63.1	62.7	A	救急患者の円滑な受入体制を維持するため、各診療科の協力のもと、医師の変則勤務を進めている。令和5年度の利用者数は前年度をやや上回った。		60	37																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																	
該当者（人）	1,717	1,784	1,893	1,838	1,864	1,909																																																																																	
利用者（人）	966	1,047	1,224	1,139	1,176	1,197																																																																																	
利用率（％）	56.3	58.7	64.7	61.9	63.1	62.7																																																																																	
			38	③救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。	救急科医師9名体制で稼働 救急車受入率（単位：％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>当番日</td><td>97.1</td><td>90.9</td><td>87.7</td><td>94.4</td><td>93.3</td><td>92.0</td></tr><tr><td>全 日</td><td>97.4</td><td>92.3</td><td>92.5</td><td>94.4</td><td>93.4</td><td>93.3</td></tr></table> 特殊疾病患者受入数（単位：件） <table><tr><th>疾病名</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>重症熱傷</td><td>14</td><td>11</td><td>9</td><td>4</td><td>14</td><td>21</td></tr><tr><td>重症外傷</td><td>378</td><td>380</td><td>431</td><td>335</td><td>410</td><td>480</td></tr><tr><td>急性中毒</td><td>30</td><td>46</td><td>26</td><td>39</td><td>60</td><td>64</td></tr><tr><td>病院外心停止</td><td>186</td><td>174</td><td>201</td><td>182</td><td>236</td><td>236</td></tr><tr><td>計</td><td>608</td><td>611</td><td>667</td><td>560</td><td>720</td><td>801</td></tr></table> ドクターカー出動状況（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>12</td><td>12</td><td>8</td><td>11</td><td>9</td><td>13</td></tr></table> 【参考】救急患者数 令4：11,245人 令5：11,813人	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	当番日	97.1	90.9	87.7	94.4	93.3	92.0	全 日	97.4	92.3	92.5	94.4	93.4	93.3	疾病名	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	重症熱傷	14	11	9	4	14	21	重症外傷	378	380	431	335	410	480	急性中毒	30	46	26	39	60	64	病院外心停止	186	174	201	182	236	236	計	608	611	667	560	720	801	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	12	12	8	11	9	13	A	救急科医師数に変化はない。救急当直体制の見直しを行っているが、現在も医師数が充足しているとは言えない状況である。 令和5年度の救急患者数及び救急車受入件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、令和4年度実績と同水準で推移した。特殊疾患患者も積極的に受け入れ、高度救命救急センターとしての機能を果たしている。 ドクターカーは事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対して出動している。令和5年度の出動件数は13件と、令和4年度に比べ増加した。		60	38
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																	
当番日	97.1	90.9	87.7	94.4	93.3	92.0																																																																																	
全 日	97.4	92.3	92.5	94.4	93.4	93.3																																																																																	
疾病名	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																	
重症熱傷	14	11	9	4	14	21																																																																																	
重症外傷	378	380	431	335	410	480																																																																																	
急性中毒	30	46	26	39	60	64																																																																																	
病院外心停止	186	174	201	182	236	236																																																																																	
計	608	611	667	560	720	801																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																	
件数	12	12	8	11	9	13																																																																																	





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																					
						評価	説明																																										
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①手術件数の増加 ②病床稼働率90%以上の維持 ③患者満足度（入院・外来）の向上	39	①No.36 ②効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する ③No.8	病床稼働率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>一般病床</td><td>93.9</td><td>91.1</td><td>84.8</td><td>88.2</td><td>82.6</td><td>85.4</td><td>90以上</td></tr><tr><td>全体</td><td>89.8</td><td>86.6</td><td>80.7</td><td>83.7</td><td>78.0</td><td>80.5</td><td>-</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	一般病床	93.9	91.1	84.8	88.2	82.6	85.4	90以上	全体	89.8	86.6	80.7	83.7	78.0	80.5	-	B	令和5年度は、目標値を下回るが、昨年度よりも増加する結果となった。5月8日以降、一般病床にて新型コロナウイルス感染症患者を受け入れている。入院中に発生した患者も含め新型コロナウイルス発症入院患者数は420名となる。	・新型コロナウイルス感染症専用病床確保の影響により、一般病床の稼働率は低下し、目標値を下回っている。 ・一方で、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、専用病床の確保数を縮小していることから、昨年度を上回る。引き続き、稼働率の向上に努めることを期待する。	3	1	△	39													
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																										
一般病床	93.9	91.1	84.8	88.2	82.6	85.4	90以上																																										
全体	89.8	86.6	80.7	83.7	78.0	80.5	-																																										
	【目標値】 ・手術件数（総合） ・病床稼働率（総合） ・患者満足度[入院・外来]（総合）	【目標値】県立総合病院 ・手術件数（総合） ・病床稼働率（総合） ・患者満足度[入院・外来]（総合） ・ハイブリッド手術件数（総合） ・放射線治療症例件数（総合） ・外来化学療法件数（総合） ・ロボット支援手術件数（ダヴィンチ等使用手術件数）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																					
	県立こころの医療センター	(4) 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療 ＜業務予定量＞ 病床数 274床 精神病床 274床 外来患者 39,647人 入院患者 55,551人	40	—	入院・外来患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>57,217</td><td>54,037</td><td>53,246</td><td>49,296</td><td>50,282</td><td>52,898</td><td>55,551</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>42,454</td><td>39,647</td><td>37,285</td><td>36,692</td><td>36,761</td><td>36,865</td><td>39,647</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	入院患者数	57,217	54,037	53,246	49,296	50,282	52,898	55,551	外来患者数	42,454	39,647	37,285	36,692	36,761	36,865	39,647	B	入院患者数、外来患者数ともに前年度を上回っており、コロナ前の状況に近づいているが、目標値には到達しなかった。 引き続き、他の医療機関では対応困難な重症患者などを積極的に受け入れ、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしていく。	・県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療、精神科救急医療、司法精神医療を提供している。 ・新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床確保等の影響により、入院・外来患者数は、コロナ前までの回復に至っていない。 ・一方で、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、専用病床の確保数の縮小や、デイケアの活動制限の解除等により、令和5年度は、入院患者数は、昨年度を上回り、外来患者数は同水準となる。 ・今後も感染症対策を継続しつつ、県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療、精神科救急医療、司法精神医療を提供していくことを期待する。	7	1	○	40													
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																										
入院患者数	57,217	54,037	53,246	49,296	50,282	52,898	55,551																																										
外来患者数	42,454	39,647	37,285	36,692	36,761	36,865	39,647																																										
	・常時精神科救急医療相談に応じ、患者の支援体制の充実を図る。 ・救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の充実を図る。	○精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①常時精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備 ②救急患者を常時受入可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備	41	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	平成15年4月より、県の委託事業として県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応している。 年4回発行し、関係機関、公的機関及び就労支援施設等に配布する当センター広報誌「ぬくもり」や、当センターホームページへ「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し、周知を図っている。  精神科救急ダイヤル件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>全相談件数</td><td>2,718</td><td>3,957</td><td>3,649</td><td>1,857</td><td>2,111</td><td>2,063</td></tr><tr><td>うち時間外</td><td>1,482</td><td>2,153</td><td>2,678</td><td>1,288</td><td>1,530</td><td>1,517</td></tr></table>  時間外における救急診療件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>件 数</td><td>331</td><td>390</td><td>335</td><td>313</td><td>252</td><td>249</td><td>300以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	全相談件数	2,718	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063	うち時間外	1,482	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	件 数	331	390	335	313	252	249	300以上	B	24時間365日対応可能な相談・診療体制を整え、県との委託契約により全県の精神科救急の窓口となる「精神科救急ダイヤル」を運営しており、必要時に必要な相談を受け、必要な診療を実施出来る体制を整えている。令和5年4月からは、県の精神科救急医療対策事業において、従来の志太榛原圏域の病院群輪番型に加え、全圏域常時対応型の後方支援施設としての指定を受けており、よりスピード感を持った対応と、断らない精神科救急の実践が求められている。	・県からこころの医療センターへの業務委託により実施されている、精神科救急ダイヤルは、24時間体制で「よろず相談スタッフ」に一元化されており、精神保健福祉士等15人がローテーションを組んで運用している。 ・相談件数は、特定の患者から頻回の相談があること等の理由で、年度により増減があるが、令和5年度は令和4年度と同程度である。 ・相談内容への的確な対応や、新患予約の迅速化などの効果のほかにも、外来看護師が他院での対応が困難な支援度が高い通院患者へのケアに集中できるようになるなど、外来業務の充実にも寄与している。 ・県の精神科救急医療体制において、従来の志太榛原圏域の病院群輪番型への指定に加え、令和5年度から新たに全県を対象とした常時対応型の後方支援施設に指定された。24時間体制で急性増悪等に対応できる精神科救急医療体制の構築に向けて、県内唯一の後方支援施設としての取組が期待される。	7	1	○	41
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																											
全相談件数	2,718	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063																																											
うち時間外	1,482	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517																																											
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																										
件 数	331	390	335	313	252	249	300以上																																										



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																
						評価	説明																																																																					
	・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。	○他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度専門医療(クロザピン、m－ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組	42	①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	<div>早期治療、早期退院の実践により、救急病棟（南2・北2）における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たすことができた。</div> <div>新規患者率 (単位：％)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>施設基準</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>救 急 南2</td><td>40%以上</td><td>71.3</td><td>73.4</td><td>61.7</td><td>68.7</td><td>69.0</td><td>72.0</td></tr><tr><td>救 急 北2</td><td>40%以上</td><td>72.4</td><td>64.8</td><td>60.8</td><td>67.4</td><td>67.0</td><td>59.0</td></tr></table> <div>新規患者3ヶ月以内在宅移行率 (単位：％)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>施設基準</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>救 急 南2</td><td>60%以上</td><td>73.0</td><td>78.7</td><td>89.4</td><td>82.9</td><td>86.0</td><td>86.9</td></tr><tr><td>救 急 北2</td><td>60%以上</td><td>85.4</td><td>79.7</td><td>86.7</td><td>86.3</td><td>77.4</td><td>77.9</td></tr></table>	区 分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	救 急 南2	40%以上	71.3	73.4	61.7	68.7	69.0	72.0	救 急 北2	40%以上	72.4	64.8	60.8	67.4	67.0	59.0	区 分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	救 急 南2	60%以上	73.0	78.7	89.4	82.9	86.0	86.9	救 急 北2	60%以上	85.4	79.7	86.7	86.3	77.4	77.9	A	令和5年の新規患者率及び新規患者3か月以内在宅移行率ともにほぼ前年度並みであり、基準を満たしている。 救急・急性期治療病棟の役割を適切に果たすとともに、精神科救急入院料の施設基準を維持することができた。				42																	
区 分			施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																			
救 急 南2			40%以上	71.3	73.4	61.7	68.7	69.0	72.0																																																																			
救 急 北2			40%以上	72.4	64.8	60.8	67.4	67.0	59.0																																																																			
区 分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																					
救 急 南2	60%以上	73.0	78.7	89.4	82.9	86.0	86.9																																																																					
救 急 北2	60%以上	85.4	79.7	86.7	86.3	77.4	77.9																																																																					
			43	①薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。 高度・専門医療の積極的な実施	<div>m-ECT実施件数 (単位：人)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>延件数(件)</td><td>832</td><td>870</td><td>737</td><td>827</td><td>665</td><td>715</td><td>700以上</td></tr><tr><td>実患者数</td><td>66</td><td>70</td><td>59</td><td>56</td><td>54</td><td>62</td><td>－</td></tr><tr><td>中部地区</td><td>58</td><td>62</td><td>55</td><td>53</td><td>51</td><td>56</td><td>－</td></tr><tr><td>(静岡市)</td><td>43</td><td>50</td><td>45</td><td>43</td><td>43</td><td>48</td><td>－</td></tr><tr><td>東部地区</td><td>3</td><td>5</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>5</td><td>－</td></tr><tr><td>西部地区</td><td>4</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>－</td></tr><tr><td>その他</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>－</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	延件数(件)	832	870	737	827	665	715	700以上	実患者数	66	70	59	56	54	62	－	中部地区	58	62	55	53	51	56	－	(静岡市)	43	50	45	43	43	48	－	東部地区	3	5	3	1	2	5	－	西部地区	4	2	1	2	1	1	－	その他	1	1	0	0	0	0	－	A	m-ECT治療については、令和5年度は715件の治療を実施し、前年度、目標数値ともに上回った。		7	1	○	43
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																					
延件数(件)	832	870	737	827	665	715	700以上																																																																					
実患者数	66	70	59	56	54	62	－																																																																					
中部地区	58	62	55	53	51	56	－																																																																					
(静岡市)	43	50	45	43	43	48	－																																																																					
東部地区	3	5	3	1	2	5	－																																																																					
西部地区	4	2	1	2	1	1	－																																																																					
その他	1	1	0	0	0	0	－																																																																					
			44	①先端薬物療法(クロザピンなど)を積極的に実施する。	<div>平成23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、令和5年度末現在91名に対して継続投与中である。 静岡県内においては、現在10件の登録機関があるが、当院は3番目に承認を受けている。</div> <div>クロザピン投与患者数 (単位：人)</div> <table><tr><th>項目</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>患者数</td><td>55</td><td>60</td><td>65</td><td>73</td><td>83</td><td>91</td><td>75</td></tr></table>	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	患者数	55	60	65	73	83	91	75	A	令和5年度末現在で投与患者数は91人となり、目標を大きく上回っている。		7	1	○	44																																																
項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																					
患者数	55	60	65	73	83	91	75																																																																					
			45	①心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	<div>平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。</div> <div>心理教育参加者数 (単位：人)</div> <table><tr><th>項目</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>210</td><td>154</td><td>86</td><td>93</td><td>83</td><td>142</td></tr></table> <div>心理教育研修会参加者数 (単位：人)</div> <table><tr><th>項目</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>136</td><td>66</td><td>35</td><td>29</td><td>0</td><td>26</td></tr></table>	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	参加者数	210	154	86	93	83	142	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	参加者数	136	66	35	29	0	26	A	令和5年度は外部活動を徐々に再開し、研修参加者数は前年度実績を上回った。院内の心理教育研修会についても後期に実施した。					45																																				
項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																						
参加者数	210	154	86	93	83	142																																																																						
項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																						
参加者数	136	66	35	29	0	26																																																																						
	・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。	○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようにするための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	46	①在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	<div>平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。 平成22年2月の支援開始以来延べ28名の支援活動を実施している。</div> <div>ACT実施状況</div> <table><tr><th></th><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td rowspan="2">対象者</td><td>外来</td><td>11人</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td></tr><tr><td>入院</td><td>0人</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td></tr><tr><td rowspan="2">活動状況</td><td>外来</td><td colspan="6" rowspan="2">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td></tr><tr><td>入院</td></tr></table>			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	対象者	外来	11人	4	4	4	4	3	入院	0人	2	1	1	1	3	活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス						入院	A	令和5年度は入院患者3人及び外来患者3人に対して支援活動を実施した。		8	○	46																																	
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																					
対象者	外来	11人	4	4	4	4	3																																																																					
	入院	0人	2	1	1	1	3																																																																					
活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																																										
	入院																																																																											

- 71 -





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																				
						評価	説明																									
	・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。	○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への指定医療機関としての積極的な関与	47	①医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	令和5年度については、9月末現在で、2名の退院、1名の新規入院があった。 <div>医療観察法病棟の稼働状況（単位：床・％）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>病床数（床）</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td></tr><tr><td>病床利用率（％）</td><td>96.0</td><td>84.1</td><td>98.2</td><td>102.4</td><td>110.3</td><td>100.1</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	病床数（床）	12	12	12	12	12	12	病床利用率（％）	96.0	84.1	98.2	102.4	110.3	100.1	A	令和5年度末現在の医療観察法病床は12床が満床となっている。なお、5月まで司法患者1名が特定病床に在院していたことから、稼働率は100％を超えている。	・医療観察法は、心身喪失等の状態で重大な他害行為を犯してしまった人に対して、必要な医療提供や社会復帰促進を図るための法律であり、こころの医療センターは、県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として、12床で稼働している。 ・入院は地方裁判所の処遇決定のもと、厚生労働省からの要請に基づき行われるが、退院後は地域社会における適切な処遇が必要となることから、通院医療提供、生活保護、社会復帰支援、訪問指導等を担う関連行政機関との連携も重要である。 ・稼働率の増減は、厚生労働省からの入院要請の有無次第であるが、令和5年度は満床の状態を維持しており、社会的要請である司法精神医療に対応している。	9	○	47
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																										
病床数（床）	12	12	12	12	12	12																										
病床利用率（％）	96.0	84.1	98.2	102.4	110.3	100.1																										
	・認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応を図る。	○認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応 ①多様な精神疾患及び小児から成人への移行期における精神疾患等に対応するための体制の構築に向けた取組	48	①総合病院における身体合併症患者への精神科医療の提供体制を整備する。 ・公立病院経営強化プラン等の精神医療の方針を踏まえ、県内精神医療の中核病院としての役割を担う体制を整備する。 また、病棟整備計画の策定や県民要望に対応した新たな体制を構築し、休床病床の解消を行う。 ・総合病院、こども病院などと連携し、児童精神分野における精神科医療の提供体制の整備を図る。	令和2年4月より総合病院へ精神科医師1名を追加配置し、医師2名の体制とし、身体合併症の精神科リエゾン機能を強化するとともに、病棟整備に向けた検討会に参画している。	A	身体合併症の精神科リエゾン機能を強化するため、精神科医2名を当院と総合病院の兼務としている。 今後、認知症や依存症、発達障害、思春期における症状等の多様な精神疾患への対応するため、必要な施設整備を進めていく。	・こころの医療センターと総合病院で精神科医師2名を兼務とし、身体合併症患者への精神科リエゾン機能の強化などチーム医療の充実に効果を上げている。 ・病棟全体の整備については、将来的な医療需要や、病院機構3病院の精神科医療提供体制のあり方を踏まえた検討及び方針決定を期待する。	16	○	48																					
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①国の公立病院経営強化政策指針や県、病院機構における精神科のあり方検討を踏まえた医療体制及び病棟の整備 ②クロザピン投与患者数の増加 ③病床稼働率85％以上の維持 ④患者満足度(外来)の向上	49	①No.48 ②No.44 ③常時、救急患者を受け入れる体制の維持と、多職種連携による早期退院促進による効率的な病院運営に努める。 ④No.8	病床稼働率（単位：％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>稼働率</td><td>91.1</td><td>85.8</td><td>84.8</td><td>78.5</td><td>80.1</td><td>84.0</td><td>85以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	稼働率	91.1	85.8	84.8	78.5	80.1	84.0	85以上	B	新型コロナウイルス感染症の感染対策を継続しつつ、効率的な病床運営を行ったことにより、令和5年度末時点の病棟稼働率は昨年度より改善されたものの目標値には達しなかった。	・新型コロナウイルス感染症の専用病床の確保等の影響により、病床稼働率は低下しており、令和5年度は目標値を下回る。 一方で、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、専用病床の確保数を縮小したことから、昨年度を上回る。引き続き、稼働率の向上に努めることを期待する。	7	1	△	49				
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																									
稼働率	91.1	85.8	84.8	78.5	80.1	84.0	85以上																									





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																												
						評価	説明																																																																																																	
	【目標値】 ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ)	【目標値】県立こころの医療センター ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ) ・時間外診療件数(こころ) ・m-ECT実施件数(こころ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																												
	県立こども病院	<sup>(9)</sup> 県立こども病院診療事業 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療を提供する。また、小児期から成人期への移行期医療に取り組む。 県民に提供する医療 ＜業務予定量＞ 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 121,675人 入院患者 75,900人	50	—	入院・外来患者数 <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>5年度目標</td></tr><tr><td>入院患者数</td><td>75,395</td><td>75,736</td><td>65,681</td><td>66,476</td><td>67,877</td><td>68,088</td><td>75,900</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>110,185</td><td>111,874</td><td>103,773</td><td>121,675</td><td>117,697</td><td>115,904</td><td>121,675</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	入院患者数	75,395	75,736	65,681	66,476	67,877	68,088	75,900	外来患者数	110,185	111,874	103,773	121,675	117,697	115,904	121,675	B	令和5年5月の電子カルテの更新に伴い、安全確保を優先し、入院及び外来患者の受入れ調整を行ったこともあり、入院患者数、外来患者数ともに、目標値には届かなかったが、令和4年度並の患者数となった。 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療の提供に努めた。	10	1	○	50																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																	
入院患者数	75,395	75,736	65,681	66,476	67,877	68,088	75,900																																																																																																	
外来患者数	110,185	111,874	103,773	121,675	117,697	115,904	121,675																																																																																																	
	・小児重症心疾患患者に対してハイブリッド手術室等の先進設備を活用し、常時高度な先進的治療を提供する。小児心疾患治療の先導的施設として専門医等の育成に努める。	○小児重症心疾患患者に対し、常時高度な専門的治療を提供する体制の充実及び小児心疾患治療の先進的な施設としての専門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ常時対応による専門的治療の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療スタッフに対する教育体制の充実や小児集中治療室(PICU)及び新生児集中治療室(NICU)及び循環器集中治療室(CCU)の相互研修の実施を通じた治療レベルの向上による循環器センターの機能を強化 ③小児用補助人工心臓装置の活用に向けた体制整備 ④心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ⑤血管撮影装置の2台化による循環器治療の提供体制の整備	51	①心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後管理を行う小児集中治療室(PICU)を加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。 ②新生児集中治療室(NICU)・小児集中治療室(PICU)と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。 ③小児用補助人工心臓装置の活用のために職員を研修に派遣する。 ④心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ⑤カテーテル2室化工事及び血管撮影装置を設置する。	平成28年に循環器病棟に設置した準重症患者対応病室は、順調に運用されている。今後も効果的な運用を継続していく。  心臓カテーテル治療実績 <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>5年度目標</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>179</td><td>206</td><td>192</td><td>204</td><td>187</td><td>245</td><td>230以上</td></tr></table>  ハイブリッド手術実績 <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>件数</td><td>8</td><td>5</td><td>8</td><td>6</td><td>4</td><td>8</td></tr></table>  CCU稼働率 <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>3,063</td><td>3,176</td><td>3,021</td><td>3,011</td><td>3,994</td><td>3,938</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>83.9</td><td>86.8</td><td>82.8</td><td>71.7</td><td>91.2</td><td>89.7</td></tr></table>  循環器センターにおける研修医の人数 <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>人数</td><td>5</td><td>9</td><td>7</td><td>9</td><td>8</td><td>12</td></tr></table>  小児用補助人工心臓装置の使用状況 <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>件数</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>  心エコー画像遠隔診断実績 <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>症例数</td><td>5</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td><td>5</td><td>7</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	実施件数	179	206	192	204	187	245	230以上	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	8	5	8	6	4	8	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	3,063	3,176	3,021	3,011	3,994	3,938	病床稼働率	83.9	86.8	82.8	71.7	91.2	89.7	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	人数	5	9	7	9	8	12	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	1	0	0	0	0	0	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	症例数	5	3	0	2	5	7	A	循環器科、心臓血管外科を中心とした連携により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れた。 令和5年度のハイブリッド手術室における心臓カテーテル治療件数は、245件と目標値を上回る推移結果となった。また、同手術室におけるハイブリッド手術実績も8件と高水準であった。 令和4年度に県内初の治療を行った経皮的肺動脈弁置換術(TPVI)についても、令和5年度も着実に件数を伸ばした。 カテーテル室について、当院の小児心臓カテーテル治療件数は全国トップレベルであり、更なる件数の増加を見込めることから、部屋の増設及び血管撮影装置の設置についても検討していく。 小児用補助人工装置活用の再開に向けた取組として、当院循環器科の医師1名が国立成育医療研究センターにて継続的に研修を受けており、臨床工学技士、看護師等も関連する研修を受講した。院内においても、委員会を開催し、マニュアル整備、組織作り等について検討した。 また、令和3年度にPICUとCCUを統合し、CCU病棟はHCUの役割を持たせた後方病棟とした。令和5年度も効率的な病棟運用が行われ90%近い病床稼働率を維持した。 さらに、心エコー画像の遠隔診断実績7件と高水準であるった。 なお、循環器センターにおいて、令和5年度、12名の研修医を受け入れた。	10	1	○	51
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																	
実施件数	179	206	192	204	187	245	230以上																																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																		
件数	8	5	8	6	4	8																																																																																																		
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																		
入院延患者数	3,063	3,176	3,021	3,011	3,994	3,938																																																																																																		
病床稼働率	83.9	86.8	82.8	71.7	91.2	89.7																																																																																																		
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																		
人数	5	9	7	9	8	12																																																																																																		
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																		
件数	1	0	0	0	0	0																																																																																																		
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																		
症例数	5	3	0	2	5	7																																																																																																		



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																																															
						評価	説明																																																																																																																																																																				
	・地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるほか、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する。	○地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対しての高度な専門的治療を提供する体制の拡充 ①先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置のための機器整備 ②新生児集中治療室（NICU）における低侵襲手術の実施	52		産科入院患者数（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>5,850</td><td>5,810</td><td>4,461</td><td>4,823</td><td>3,642</td><td>4,003</td></tr></table> 周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績（単位：回、人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>研修会等回数</td><td>8</td><td>9</td><td>8</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>373</td><td>377</td><td>255</td><td>155</td><td>45</td><td>55</td></tr></table> NICU診療実績（単位：人、％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>5,519</td><td>5,250</td><td>5,029</td><td>5,094</td><td>5,121</td><td>5,293</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>84.0</td><td>79.7</td><td>76.5</td><td>77.5</td><td>77.9</td><td>80.3</td></tr></table> GCU診療実績（単位：人、％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>4,646</td><td>4,723</td><td>4,685</td><td>4,978</td><td>5,001</td><td>5,161</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>70.7</td><td>71.7</td><td>71.3</td><td>75.8</td><td>76.1</td><td>78.3</td></tr></table> MFICU診療実績（単位：人、％） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>1,879</td><td>1,907</td><td>1,517</td><td>1,433</td><td>1,240</td><td>1,273</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>85.8</td><td>86.8</td><td>69.3</td><td>65.4</td><td>56.6</td><td>58.0</td></tr></table> 新生児出生体重別入院患者実績（単位：人） <table><tr><th>体重(g)</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>500未満</td><td>4</td><td>8</td><td>4</td><td>6</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>500～1,000</td><td>29</td><td>41</td><td>19</td><td>22</td><td>23</td><td>13</td></tr><tr><td>1,000～1,500</td><td>26</td><td>25</td><td>28</td><td>15</td><td>24</td><td>18</td></tr><tr><td>1,500以上</td><td>165</td><td>139</td><td>168</td><td>248</td><td>180</td><td>212</td></tr><tr><td>合計</td><td>224</td><td>213</td><td>219</td><td>291</td><td>229</td><td>244</td></tr></table> 血液腫瘍科延患者数実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>入院</td><td>8,656</td><td>7,849</td><td>7,335</td><td>4,810</td><td>6,268</td><td>6,326</td></tr><tr><td>外来</td><td>3,601</td><td>3,713</td><td>3,298</td><td>3,665</td><td>3,516</td><td>3,152</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院患者数	5,850	5,810	4,461	4,823	3,642	4,003	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	研修会等回数	8	9	8	2	1	2	参加者数	373	377	255	155	45	55	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	5,519	5,250	5,029	5,094	5,121	5,293	病床稼働率	84.0	79.7	76.5	77.5	77.9	80.3	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	4,646	4,723	4,685	4,978	5,001	5,161	病床稼働率	70.7	71.7	71.3	75.8	76.1	78.3	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	1,879	1,907	1,517	1,433	1,240	1,273	病床稼働率	85.8	86.8	69.3	65.4	56.6	58.0	体重(g)	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	500未満	4	8	4	6	2	1	500～1,000	29	41	19	22	23	13	1,000～1,500	26	25	28	15	24	18	1,500以上	165	139	168	248	180	212	合計	224	213	219	291	229	244	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院	8,656	7,849	7,335	4,810	6,268	6,326	外来	3,601	3,713	3,298	3,665	3,516	3,152	A	最新式の超音波診断装置など最先端の医療機器を整備し、先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置等を適切に行った。 こども病院は、他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を数多く受け入れている。令和5年度も、1,500g未満の新生児入院患者について、受入れ実績を着実に重ねた。 また、令和5年度、NICUの入院延患者数及び病床稼働率はコロナ流行前の令和元年度を上回る数値となった。結果、新生児回復室であるGCUの入院患者数及び病床稼働率も高水準となった。 令和5年度の産科入院患者数は前年度を上回り、4000人台となった。 なお、地域医療機関を対象とした研修会、検討会については、令和5年度は2回開催した。	11	○	52
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																					
入院患者数	5,850	5,810	4,461	4,823	3,642	4,003																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																					
研修会等回数	8	9	8	2	1	2																																																																																																																																																																					
参加者数	373	377	255	155	45	55																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																					
入院延患者数	5,519	5,250	5,029	5,094	5,121	5,293																																																																																																																																																																					
病床稼働率	84.0	79.7	76.5	77.5	77.9	80.3																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																					
入院延患者数	4,646	4,723	4,685	4,978	5,001	5,161																																																																																																																																																																					
病床稼働率	70.7	71.7	71.3	75.8	76.1	78.3																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																					
入院延患者数	1,879	1,907	1,517	1,433	1,240	1,273																																																																																																																																																																					
病床稼働率	85.8	86.8	69.3	65.4	56.6	58.0																																																																																																																																																																					
体重(g)	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																					
500未満	4	8	4	6	2	1																																																																																																																																																																					
500～1,000	29	41	19	22	23	13																																																																																																																																																																					
1,000～1,500	26	25	28	15	24	18																																																																																																																																																																					
1,500以上	165	139	168	248	180	212																																																																																																																																																																					
合計	224	213	219	291	229	244																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																					
入院	8,656	7,849	7,335	4,810	6,268	6,326																																																																																																																																																																					
外来	3,601	3,713	3,298	3,665	3,516	3,152																																																																																																																																																																					
	・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。	○小児がん拠点病院（厚生労働省指定）として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、がん診療の機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化 ④AYA世代がん診療の連携等を推進 ⑤がん公開講座や研修会（脳腫瘍関連）等の開催	53		造血幹細胞移植実績（こども）（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>骨髄移植</td><td>5</td><td>2</td><td>8</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>臍帯血</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>自家末梢血</td><td>4</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td></tr><tr><td>同種末梢血</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>14</td><td>10</td><td>12</td><td>6</td><td>10</td><td>9</td></tr></table> 小児がん登録件数（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>登録件数</td><td>47</td><td>56</td><td>55</td><td>53</td><td>42</td><td>45</td><td>45</td></tr></table> がんセンターとの共同カンファレンス回数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>3</td><td>3</td><td>7</td><td>3</td><td>9</td><td>12</td></tr></table> AYA世代がん研修会実施回数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr></table> がん公開講座件数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>-</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> 【参考】北5病棟改修にかかる打ち合わせ回数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>-</td><td>-</td><td>17</td><td>25</td></tr></table> 令和3年度7月に完成済  研修会（脳腫瘍関係）（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>開催回数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>64</td><td>61</td><td>66</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	骨髄移植	5	2	8	3	3	3	臍帯血	3	3	2	2	2	2	自家末梢血	4	4	1	1	4	2	同種末梢血	2	1	1	0	1	2	計	14	10	12	6	10	9	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	登録件数	47	56	55	53	42	45	45	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	3	3	7	3	9	12	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	1	4	2	2	2	3	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	-	1	0	1	1	1	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	-	-	17	25	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催回数	-	-	-	1	1	1	参加人数	-	-	-	64	61	66	A	こども病院は、平成31年4月に、全国で15施設しか選定されない厚生労働省指定の小児がん拠点病院に初めて指定され、指定期間の4年間に於いて着実にその責任を果たした。このことにより、拠点病院としての指定を令和4年度に再度受け、令和5年4月から、2期目の取組を開始した。 令和5年度、小児がん登録件数は45件であり、院内がん登録を推進するとともに、造血幹細胞移植は計9件で、各種治療法を利用して対応した。また、がんセンターとの共同カンファレンスは12回実施し、連携強化を図った。 令和5年度、AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を3回実施した。また、がん公開講座及び研修会（脳腫瘍関連）も各1回開催し、小児がん拠点病院としての役割を果たした。 さらには、以下取組を実施した。 ・ドラッグラグの解消、難治性疾患の治療開発のため、小児がん拠点病院として臨床試験、治験に積極的に取り組み、症例のリクルートにあたって県内の小児がん連携病院と連携した。具体的には、医師主導治験2件、企業治験1件（国際共同治験で国内参加施設は5施設のみ）、国際共同特定臨床研究1件に参加しており、今後も増加が見込まれる。治験参加施設が限られていることから当院の小児がん患者が他施設では使用できない薬剤を使用する機会が増加するなど、治験参加のメリットは非常に大きい。 ・小児がんに対するがんゲノム医療を実践し、臨床研究を通じてゲノム医療の開発を行った。 ・遺伝染色体科と協同し、遺伝性腫瘍の診療を行った。 ・神経線維腫症1型に伴う叢状神経線維腫に対し、分子標的薬MEK阻害剤の使用を開始し、適用実績を重ねている。	12	1	○	53																													
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																					
骨髄移植	5	2	8	3	3	3																																																																																																																																																																					
臍帯血	3	3	2	2	2	2																																																																																																																																																																					
自家末梢血	4	4	1	1	4	2																																																																																																																																																																					
同種末梢血	2	1	1	0	1	2																																																																																																																																																																					
計	14	10	12	6	10	9																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																																																																																				
登録件数	47	56	55	53	42	45	45																																																																																																																																																																				
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																					
回数	3	3	7	3	9	12																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																					
回数	1	4	2	2	2	3																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																					
件数	-	1	0	1	1	1																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																							
回数	-	-	17	25																																																																																																																																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																					
開催回数	-	-	-	1	1	1																																																																																																																																																																					
参加人数	-	-	-	64	61	66																																																																																																																																																																					

- 77 -











中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点 数値	評価	No																																																																				
						評価	説明																																																																								
			57	②厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加する。	<div>事業を行っている全国19都府県1政令指定都市にある29の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。 （拠点病院を配置している都府県等） 岩手県、千葉県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、沖縄県、札幌市</div> <div>精神保健講座等開催実績</div> <table><tr><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>区分</td><td>精神保健 児童養護</td><td>精神保健 児童養護</td><td>精神保健 児童養護</td><td>精神保健 児童養護</td><td>精神保健 児童養護</td><td>精神保健 児童養護</td></tr><tr><td>対象</td><td>県内小中 こども</td><td>県内小中 こども</td><td>県内小中 こども</td><td>県内小中 こども</td><td>県内小中 こども</td><td>県内小中 こども</td></tr><tr><td>参加者数等</td><td>5回 159人</td><td>10回 10施設</td><td>5回 96人</td><td>11回 11施設</td><td>2回 49人</td><td>11回 11施設</td></tr></table>		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	区分	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	対象	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	参加者数等	5回 159人	10回 10施設	5回 96人	11回 11施設	2回 49人	11回 11施設	A	<div>こども病院は、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加しており、令和5年度も医療機関、学校、地域等との連携強化に努め、児童養護施設の巡回事業は10施設10回実施した。 また、診療関係者の研修・育成事業に取り組み、研修医や学生を受入れるとともに、教員を対象とした精神保健講座を5回実施した。</div>			57																																									
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																									
区分	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護	精神保健 児童養護																																																																									
対象	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども	県内小中 こども																																																																									
参加者数等	5回 159人	10回 10施設	5回 96人	11回 11施設	2回 49人	11回 11施設																																																																									
			58	③児童精神科医の育成に努める。	<div>有期職員医師を1名採用し（平成25年度から延べ10名）、専門的な児童精神科医を育成した。</div> <div>有期職員医師採用実績（単位：人）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>採用人数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	採用人数	1	1	1	1	1	1	A	<div>児童精神科臨床研修として有期職員医師を1名採用し、児童精神科医の育成を行った。</div>			58																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																									
採用人数	1	1	1	1	1	1																																																																									
	・重症心身障害児等の医療的ケア児の退院、在宅移行を支援する体制について、県と連携して整備を図る。	○重症心身障害児等の医療的ケア児の退院、在宅移行を支援する体制を県と連携して具体化 ①医療的ケア児のレスパイト対応のため、障害者総合支援法に基づく「短期入所サービス」の実施	59	①言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。 ①医療的ケア児の在宅移行支援病棟の設置を検討する。 ①「短期入所サービス」事業の実施	<div>医療的ケア児に関する検討会開催実績（単位：回）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>5</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>1</td></tr></table> <div>リハビリ実施実績（単位：件）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>理学療法</td><td>17,309</td><td>22,829</td><td>22,985</td><td>24,683</td><td>25,770</td><td>26,886</td><td>15,000</td></tr><tr><td>作業療法</td><td>6,039</td><td>4,546</td><td>3,813</td><td>7,794</td><td>11,495</td><td>11,333</td><td>—</td></tr><tr><td>言語聴覚療法</td><td>7,901</td><td>9,744</td><td>10,162</td><td>10,045</td><td>9,555</td><td>10,332</td><td>—</td></tr><tr><td>計</td><td>31,249</td><td>37,119</td><td>36,960</td><td>42,522</td><td>46,820</td><td>48,551</td><td>—</td></tr></table> <div>短期入所利用者数（単位：人）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>利用者数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>0</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	5	3	6	6	3	1	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000	作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	—	言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	—	計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	—	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	利用者数	-	-	-	0	3	3	A	<div>こども病院では、言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォローなどを行っており、令和5年度のリハビリ実施件数は、過去最大件数であった令和4年度を上回った。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応については、令和2年度に指定障害福祉サービスによる、短期入所事業者の指定を受け、令和5年度は3人（延人数）の利用があった。 県内唯一の小児専門病院として小児の高度専門医療を担っているが、慢性期医療・福祉の分野となる医療的ケア児については、在宅移行、在宅移行後の患児・家族へのフォローに関して、各分野との関係の整理や、方向性の検討を行った。</div>	16	1	○	59
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																									
回数	5	3	6	6	3	1																																																																									
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																								
理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000																																																																								
作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	—																																																																								
言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	—																																																																								
計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	—																																																																								
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																									
利用者数	-	-	-	0	3	3																																																																									
								・様々な子どもの心の問題に加え、児童虐待や発達障害に対応するため、国が国立成育医療センターを中央拠点病院として全国的に推進している「子どもの心の診療ネットワーク」事業において、静岡県の拠点病院として業務受託している。 ・地域医療機関や保健福祉関係機関等からの相談・診療支援に加え、小中学校教諭を対象とした精神保健講座の開催や、児童擁護施設巡回相談を実施しており、他の医療機関や保健福祉関係機関と連携した、医学的支援・診療支援が実施されている。																																																																							
								・子どもの心の診療ネットワーク事業の一環として、有期職員医師1名を採用し、診療やカンファレンスを通じて指導を行い、児童精神科医の育成に努めている。																																																																							
								・こども病院においては、県から委託されている移行期医療支援事業の一環として、重症心身障害児の在宅以降後の移行フォロー等の課題に対して医療的ケア児に関する検討会を実施している。 ・令和2年度に障害福祉サービス事業所（短期入所者）の指定を受け、医療的ケア児及びその家族への支援体制の強化に努めている。令和5年度は、延3人の利用があった。 ・在宅移行後のフォローにも取り組んでおり、リハビリ実施件数は理学療法、作業療法、言語聴覚療法のいずれも第3期中期目標期間を通じて高い水準にあり、令和5年度は合計件数が過去最大となる。 ・理学療法は、令和5年度も目標値を上回る。 ・作業療法は、令和3年度に作業療法士を増員しており、令和5年度の作業療法人件数は、これまでに引き続き高い件数を維持している。 ・理学療法においては、PICUでの早期離床・リハビリテーション加算算定件数の増加が増収にもつながるなど、患者の機能回復に対する質の高い医療の提供と経営面の両方に寄与している。 ・実績件数の増加に伴い、これまで対応できなかった集中治療室の患者への対応が可能となるなど、患者の早期機能回復に寄与している。 （参考） ・重症心身障害児は、重度の肢体不自由と知的障害を併せ持ち、経管栄養やたん吸引等の医療的なケアを必要とする。 ・近年、在宅者の割合が増加していることから、県の支援のあり方も、従来の入所型の重症心身障害児施設等の確保から、在宅における患者や家族の生活支援としてのショートステイ実施施設確保や人材育成等へ移行してきている。 ・具体的には、医療機関における短期入所サービス提供事業実施の支援、通所施設への看護師配置、家族のレスパイトのための訪問看護に対する支援等が挙げられる。																																																																							

- 81 -



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																																																																																															
						評価	説明																																																																																																																																																																																																																				
		・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。		○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①医療安全体制の徹底 ②入退院支援センターを活用した患者サービスの向上 ③心臓カテーテル治療数の増加 ④病床稼働率75%以上の維持 ⑤患者満足度(入院・外来)の向上 ⑥遠隔医療の適切な推進	60	①医療安全体制を徹底し、国際的な医療機能評価であるJCI取得を視野に入れた、院内機能強化を進める ②入退院支援センターの業務の推進 ③Na51 ④効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する。 ⑤Na8 ⑥遠隔による外来診療、セカンドオピニオンを実施する ⑥専門の指導医により、隣接する医療圏の小児二次救急医療機関が行う診療を遠隔で支援する。	JCIワーキングの設置と開催回数（単位：回） <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>開催回数</td><td>-</td><td>-</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td></tr></table> 病棟運営ワーキング開催回数(入退院支援センターに係る検討)（単位：回） <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>開催回数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>5</td><td>4</td></tr></table> 入退院支援センター設置ワーキング開催実績※（単位：回） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>回数</td><td>-</td><td>13</td><td>12</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td></tr></table> ※令和4年度以降は病棟運営ワーキングにて運用を検討 病床稼働率（単位：％） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>稼働率</td><td>76.2</td><td>76.4</td><td>66.4</td><td>76.7</td><td>75.9</td><td>75.9</td><td>75以上</td></tr></table> 入退院支援センター利用者数（単位：人） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>利用者数</td><td>—</td><td>—</td><td>5,382</td><td>4,573</td><td>4,814</td><td>4,918</td></tr></table> 遠隔外来患者数（単位：人） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>患者数</td><td>—</td><td>—</td><td>117</td><td>217</td><td>181</td><td>204</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催回数	-	-	3	1	0	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催回数	-	-	-	5	4	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	-	13	12	4	0	0	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	稼働率	76.2	76.4	66.4	76.7	75.9	75.9	75以上	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	利用者数	—	—	5,382	4,573	4,814	4,918	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	患者数	—	—	117	217	181	204	A	令和5年度の病床稼働率は、4年度と同値の75.9％であり、目標を上回った。これは、4月及び5月に電子カルテ更新に伴う入院患者の受け入れ調整を行った中での数値であるため、特に下半期には稼働率80％を超える月も複数あり、効率的な病床運営が推進された。 こども病院は極めて広域性があり、遠方から来院する患者の負担を軽減しながら安全で質の高い医療を提供するため、令和2年9月からオンラインによる外来診療体制を全国に先駆けて構築しており、令和5年度も継続して診療を実施した。 また、地域・小児夜間救急における地域病院群オンライン連携による365日対応を試行する「小児救急リモート指導医相談支援事業」について、関係者会議での報告・協議を行いつつ、実証試験を進めている。課題である運用にさせるための各病院への周知を進め、先行病院については令和5年12月に運用を開始した。 国際的な医療機能評価であるJCIの取得に向けた取組として、まずは令和6年6月に受審予定の日本医療機能評価機構による病院機能評価に向けた「病院の質向上プロジェクト」を実施し、病院の理念・基本方針の実現に向けて継続的に取り組んだ。	・病床稼働率は患者数の増加や、入退院支援センターの活用により回復傾向にある。 ・入退院支援センターは、従来外来や病棟で行っていた入院時の書類説明、検査説明等を一元化して行うことにより、業務効率化と各部門の負担軽減を図っており、稼働後もワーキングにて、支援対象診療科の拡大等の検討を行っている。 ・また、令和5年度も複数科でのオンラインによる外来診療体制を維持し、県東部・西部地域をはじめ、県外も含めた遠方から来院する患者の負担軽減に努めている。 ・また、安全で質の高い医療提供のため、国際的な医療機能評価であるJCIの取得に向けての取組を開始している。 ・令和5年度から、小児救急リモート指導医相談支援事業により、隣接する富士医療圏、志太療原医療圏の病院の若手医師の相談に対応し、地域における小児患者の診療体制をサポートしている。	10	1	○	60																																																																																																																											
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																						
開催回数	-	-	3	1	0																																																																																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																						
開催回数	-	-	-	5	4																																																																																																																																																																																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																					
回数	-	13	12	4	0	0																																																																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																																																																																																																																																				
稼働率	76.2	76.4	66.4	76.7	75.9	75.9	75以上																																																																																																																																																																																																																				
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																					
利用者数	—	—	5,382	4,573	4,814	4,918																																																																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																					
患者数	—	—	117	217	181	204																																																																																																																																																																																																																					
	【目標値】 ・心臓カテーテル治療実績(こども) ・病床稼働率(こども) ・患者満足度[入院・外来](こども)	【目標値】県立こども病院 ・心臓カテーテル治療実績(こども) ・病床稼働率(こども) ・患者満足度[入院・外来](こども) ・小児がん登録件数(こども) ・リハ実施件数(こども)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																															
2 医療従事者の確保及び質の向上	2 医療従事者の確保及び質の向上	2 医療従事者の確保及び質の向上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																															
各病院及び地域の医療水準の維持・向上を図るため、医師、看護師等医療従事者の確保に努めること。また、優秀な人材を育成するため、院内研修及び国内外との交流による研修機能の充実を図ること。さらに、医療従事者が働きやすい環境の整備に努めること。	県立病院が提供する医療の質の向上を図り、最適な医療を安全に提供するため、医療従事者が専門業務に専念できる体制や働きやすい環境の整備に努めることにより、優秀な人材の確保を行う。また、教育研修機能の充実や国内外の医療機関との交流などを推進し、医療従事者の育成に積極的に取り組む。		61	・業務運営に必要な人材の確保に努める。	職員の確保状況(各年度4月1日現在)（単位：人） <table><tr><td colspan="2">区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>6年度目標</td></tr><tr><td rowspan="4">総合</td><td>医 師</td><td>173</td><td>177</td><td>180</td><td>185</td><td>193</td><td>198</td><td>197</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td><td>6</td><td>5</td><td>5</td><td>—</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>738</td><td>761</td><td>754</td><td>755</td><td>770</td><td>789</td><td>799</td></tr><tr><td>医 師</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>15</td></tr><tr><td rowspan="4">正規職員</td><td>歯科医師</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>117</td><td>120</td><td>116</td><td>120</td><td>121</td><td>123</td><td>119</td></tr><tr><td>医 師</td><td>90</td><td>91</td><td>92</td><td>99</td><td>106</td><td>119</td><td>100</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="4">こども</td><td>看護 師</td><td>395</td><td>398</td><td>410</td><td>398</td><td>390</td><td>382</td><td>381</td></tr><tr><td>医 師</td><td>277</td><td>281</td><td>285</td><td>297</td><td>313</td><td>332</td><td>312</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>7</td><td>7</td><td>—</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>1,250</td><td>1,279</td><td>1,280</td><td>1,273</td><td>1,281</td><td>1,294</td><td>1,299</td></tr><tr><td rowspan="4">計</td><td>医 師</td><td>91</td><td>96</td><td>99</td><td>110</td><td>104</td><td>112</td><td>—</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>64</td><td>62</td><td>61</td><td>60</td><td>69</td><td>74</td><td>—</td></tr><tr><td>医 師</td><td>3</td><td>4</td><td>6</td><td>11</td><td>7</td><td>10</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="4">有期職員</td><td>歯科医師</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>9</td><td>10</td><td>10</td><td>8</td><td>7</td><td>7</td><td>—</td></tr><tr><td>医 師</td><td>58</td><td>48</td><td>50</td><td>45</td><td>41</td><td>38</td><td>—</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="4">こども</td><td>看護 師</td><td>14</td><td>16</td><td>18</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>—</td></tr><tr><td>医 師</td><td>152</td><td>148</td><td>155</td><td>166</td><td>152</td><td>160</td><td>—</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>87</td><td>88</td><td>89</td><td>83</td><td>92</td><td>98</td><td>—</td></tr></table> ※有期職員は、正規職員の状況により必要人員を確保するため、目標は設定しない。 ※正規職員の看護師は、現員から休職者等を除いた実働数を記載している。 ※有期職員は、正規職員の状況により必要人員を確保するため、目標は設定しない。 ※年度計画数値と本表の定数は一致しない。	区分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	総合	医 師	173	177	180	185	193	198	197	歯科医師	4	6	5	6	5	5	—	看護 師	738	761	754	755	770	789	799	医 師	14	13	13	13	14	15	15	正規職員	歯科医師	—	—	—	—	—	—	—	看護 師	117	120	116	120	121	123	119	医 師	90	91	92	99	106	119	100	歯科医師	1	1	2	2	2	2	—	こども	看護 師	395	398	410	398	390	382	381	医 師	277	281	285	297	313	332	312	歯科医師	5	7	7	8	7	7	—	看護 師	1,250	1,279	1,280	1,273	1,281	1,294	1,299	計	医 師	91	96	99	110	104	112	—	歯科医師	—	—	—	—	—	—	—	看護 師	64	62	61	60	69	74	—	医 師	3	4	6	11	7	10	—	有期職員	歯科医師	—	—	—	—	—	—	—	看護 師	9	10	10	8	7	7	—	医 師	58	48	50	45	41	38	—	歯科医師	—	—	—	—	—	—	—	こども	看護 師	14	16	18	15	16	17	—	医 師	152	148	155	166	152	160	—	歯科医師	—	—	—	—	—	—	—	看護 師	87	88	89	83	92	98	—	B	令和5年度について、医師に関しては、派遣医局等への働きかけ等を行い、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝えるなど、確保に努めている。 看護師の募集については、修学資金の貸与など確保対策を進めている。 病院説明会や養成校訪問、県内外の合同就職説明会への積極的な参加を行っているが、総合病院の看護師が定数に達しなかった。	・職員数の管理においては、現状を踏まえた適正な人員規模を検討しつつ、職員採用を行うなど、収支状況を勘案して臨機応変に対応している。今後も、地方独立行政法人としての機動性・柔軟性を発揮していくことが期待される。 ・目標値の看護師数(正規職員)に達していないが、不足する人員については、有期職員の採用等により対応している。 ・今後も、救急医療や小児・周産期医療等の現場における医師の働き方改革の影響や、人件費の増加が経営状況に及ぼす影響等を注視しつつ、安全で質の高い医療の提供の根幹となる医療従事者の確保が期待される。	18	1	○	61
区分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																																																																																																																																																			
総合	医 師	173	177	180	185	193	198	197																																																																																																																																																																																																																			
	歯科医師	4	6	5	6	5	5	—																																																																																																																																																																																																																			
	看護 師	738	761	754	755	770	789	799																																																																																																																																																																																																																			
	医 師	14	13	13	13	14	15	15																																																																																																																																																																																																																			
正規職員	歯科医師	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																			
	看護 師	117	120	116	120	121	123	119																																																																																																																																																																																																																			
	医 師	90	91	92	99	106	119	100																																																																																																																																																																																																																			
	歯科医師	1	1	2	2	2	2	—																																																																																																																																																																																																																			
こども	看護 師	395	398	410	398	390	382	381																																																																																																																																																																																																																			
	医 師	277	281	285	297	313	332	312																																																																																																																																																																																																																			
	歯科医師	5	7	7	8	7	7	—																																																																																																																																																																																																																			
	看護 師	1,250	1,279	1,280	1,273	1,281	1,294	1,299																																																																																																																																																																																																																			
計	医 師	91	96	99	110	104	112	—																																																																																																																																																																																																																			
	歯科医師	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																			
	看護 師	64	62	61	60	69	74	—																																																																																																																																																																																																																			
	医 師	3	4	6	11	7	10	—																																																																																																																																																																																																																			
有期職員	歯科医師	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																			
	看護 師	9	10	10	8	7	7	—																																																																																																																																																																																																																			
	医 師	58	48	50	45	41	38	—																																																																																																																																																																																																																			
	歯科医師	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																			
こども	看護 師	14	16	18	15	16	17	—																																																																																																																																																																																																																			
	医 師	152	148	155	166	152	160	—																																																																																																																																																																																																																			
	歯科医師	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																			
	看護 師	87	88	89	83	92	98	—																																																																																																																																																																																																																			
		・研修医の確保に努める。	62	・研修医の確保に努める。	初期臨床研修医数（総合病院）（単位：人） <table><tr><td>初期臨床研修医</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>1年生</td><td>24（3）</td><td>23（1）</td><td>20（1）</td><td>25（3）</td><td>21（2）</td><td>22（2）</td></tr><tr><td>2年生</td><td>20（2）</td><td>23（3）</td><td>19（4）</td><td>20（1）</td><td>23（3）</td><td>20（3）</td></tr><tr><td>計</td><td>44（5）</td><td>46（4）</td><td>39（5）</td><td>45（4）</td><td>44（5）</td><td>42（5）</td></tr></table> ※（ ）うち自治医大学出身者 後期臨床研修医数（単位：人） <table><tr><td>後期臨床研修医</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>総 合</td><td>46</td><td>48</td><td>58</td><td>53</td><td>54</td><td>57</td></tr><tr><td>こころ</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>3</td><td>11</td><td>10</td></tr><tr><td>こども</td><td>14</td><td>15</td><td>9</td><td>12</td><td>8</td><td>12</td></tr><tr><td>計</td><td>62</td><td>65</td><td>71</td><td>68</td><td>73</td><td>79</td></tr></table>	初期臨床研修医	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	1年生	24（3）	23（1）	20（1）	25（3）	21（2）	22（2）	2年生	20（2）	23（3）	19（4）	20（1）	23（3）	20（3）	計	44（5）	46（4）	39（5）	45（4）	44（5）	42（5）	後期臨床研修医	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総 合	46	48	58	53	54	57	こころ	2	2	4	3	11	10	こども	14	15	9	12	8	12	計	62	65	71	68	73	79	A	総合病院では、対面式の合同説明会が開催され、東京および浜松でPR活動を行った。また、専攻医確保活動として、遠方で見学に来るのが難しい研修医等をターゲットにオンライン会議システムを活用した面談を実施し、PRを行った。	・総合病院の初期臨床研修医確保は、計画人数(1年目24名、2年目22名)と同程度を確保している。 ・後期研修医(専攻医)については、新専門医制度のもと、研修医に対する専門医研修プログラム説明会の開催、PR動画やホームページ等を通じた広報など、積極的な広報により確保に努めている。 ・大都市圏への専攻医の集中は制度的な要因も大きく、シーリング(募集定員の上限)による地方への分散等の影響を注視し、十分な確保ができるよう、積極的な採用活動や医師にとって魅力的な病院を目指す取組の継続が期待される。	18		○	62																																																																																																																																																
初期臨床研修医	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																					
1年生	24（3）	23（1）	20（1）	25（3）	21（2）	22（2）																																																																																																																																																																																																																					
2年生	20（2）	23（3）	19（4）	20（1）	23（3）	20（3）																																																																																																																																																																																																																					
計	44（5）	46（4）	39（5）	45（4）	44（5）	42（5）																																																																																																																																																																																																																					
後期臨床研修医	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																					
総 合	46	48	58	53	54	57																																																																																																																																																																																																																					
こころ	2	2	4	3	11	10																																																																																																																																																																																																																					
こども	14	15	9	12	8	12																																																																																																																																																																																																																					
計	62	65	71	68	73	79																																																																																																																																																																																																																					





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																																																																																																																				
						評価	説明																																																																																																																																																																																																																																									
			63	・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	<div>看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。さらに優秀な人材確保のためコメディカルのアソシエイトの公募試験を実施した。</div> <div>正規職員の確保状況（各年度4月1日現在）（単位：人）</div> <table><tr><th>区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td rowspan="6">法人合計</td><td>医 師</td><td>269</td><td>283</td><td>289</td><td>293</td><td>307</td><td>322</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>4</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>7</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>1,370</td><td>1,366</td><td>1,398</td><td>1,403</td><td>1,398</td><td>1,408</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>319</td><td>333</td><td>347</td><td>362</td><td>369</td><td>373</td></tr><tr><td>研 究 員</td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事 務</td><td>126</td><td>123</td><td>131</td><td>136</td><td>140</td><td>139</td></tr><tr><td>計</td><td>2,088</td><td>2,112</td><td>2,174</td><td>2,201</td><td>2,223</td><td>2,250</td></tr><tr><td rowspan="4">本部</td><td>医 師</td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td>医療技術</td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>事 務</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td><td>34</td><td>33</td></tr><tr><td>計</td><td>34</td><td>35</td><td>34</td><td>36</td><td>38</td><td>34</td></tr><tr><td rowspan="6">総合</td><td>医 師</td><td>165</td><td>179</td><td>184</td><td>188</td><td>195</td><td>202</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>3</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td><td>6</td><td>5</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>806</td><td>807</td><td>829</td><td>826</td><td>837</td><td>847</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>214</td><td>226</td><td>237</td><td>249</td><td>255</td><td>260</td></tr><tr><td>研 究 員</td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事 務</td><td>54</td><td>53</td><td>59</td><td>63</td><td>65</td><td>65</td></tr><tr><td>計</td><td>1,242</td><td>1,271</td><td>1,317</td><td>1,331</td><td>1,359</td><td>1,380</td></tr><tr><td rowspan="5">こころ</td><td>医 師</td><td>14</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>14</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>看護 師</td><td>118</td><td>120</td><td>124</td><td>122</td><td>122</td><td>127</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>25</td><td>25</td><td>26</td><td>26</td><td>27</td><td>27</td></tr><tr><td>事 務</td><td>13</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>14</td></tr><tr><td>計</td><td>170</td><td>170</td><td>175</td><td>174</td><td>176</td><td>182</td></tr><tr><td rowspan="5">こども</td><td>医 師</td><td>90</td><td>90</td><td>91</td><td>92</td><td>99</td><td>106</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>444</td><td>436</td><td>444</td><td>452</td><td>436</td><td>432</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>80</td><td>82</td><td>84</td><td>86</td><td>86</td><td>85</td></tr><tr><td>事 務</td><td>27</td><td>27</td><td>28</td><td>28</td><td>27</td><td>27</td></tr><tr><td>計</td><td>642</td><td>636</td><td>648</td><td>660</td><td>650</td><td>652</td></tr></table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	法人合計	医 師	269	283	289	293	307	322	歯科医師	4	5	7	7	8	7	看護 師	1,370	1,366	1,398	1,403	1,398	1,408	医療技術	319	333	347	362	369	373	研 究 員		2	2		1	1	事 務	126	123	131	136	140	139	計	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250	本部	医 師			1			1	看護 師	2	3	1	3	3	2	医療技術				1	1	2	事 務	32	32	32	32	34	33	計	34	35	34	36	38	34	総合	医 師	165	179	184	188	195	202	歯科医師	3	4	6	5	6	5	看護 師	806	807	829	826	837	847	医療技術	214	226	237	249	255	260	研 究 員		2	2		1	1	事 務	54	53	59	63	65	65	計	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380	こころ	医 師	14	14	13	13	13	14	歯科医師							看護 師	118	120	124	122	122	127	医療技術	25	25	26	26	27	27	事 務	13	11	12	13	14	14	計	170	170	175	174	176	182	こども	医 師	90	90	91	92	99	106	歯科医師	1	1	1	2	2	2	看護 師	444	436	444	452	436	432	医療技術	80	82	84	86	86	85	事 務	27	27	28	28	27	27	計	642	636	648	660	650	652	A	<div>医師については、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝え、募集に努めている。</div> <div>今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、医学生向け説明会への参加や病院見学の受入などを行い確保に努める。</div> <div>令和5年度は、看護師募集について、定時募集を第1回から3病院対象に実施し、計4回実施予定。</div> <div>また、経験者を対象とした月次募集を毎月実施することにより切れ目のない募集を実施している。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、養成校訪問、病院説明会など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋げている。</div> <div>コメディカルは、必要な職種について適時、募集を実施しており、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、医療ソーシャルワーカー、心理療法士、歯科衛生士、遺伝カウンセラーについて公募試験を実施し優秀な人材の確保に努めている。</div> <div>事務についても、正規職員の公募試験を実施し、優秀な人材の確保に努めている。</div>	18	○	63
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																									
法人合計	医 師	269	283	289	293	307	322																																																																																																																																																																																																																																									
	歯科医師	4	5	7	7	8	7																																																																																																																																																																																																																																									
	看護 師	1,370	1,366	1,398	1,403	1,398	1,408																																																																																																																																																																																																																																									
	医療技術	319	333	347	362	369	373																																																																																																																																																																																																																																									
	研 究 員		2	2		1	1																																																																																																																																																																																																																																									
	事 務	126	123	131	136	140	139																																																																																																																																																																																																																																									
計	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250																																																																																																																																																																																																																																										
本部	医 師			1			1																																																																																																																																																																																																																																									
	看護 師	2	3	1	3	3	2																																																																																																																																																																																																																																									
	医療技術				1	1	2																																																																																																																																																																																																																																									
	事 務	32	32	32	32	34	33																																																																																																																																																																																																																																									
計	34	35	34	36	38	34																																																																																																																																																																																																																																										
総合	医 師	165	179	184	188	195	202																																																																																																																																																																																																																																									
	歯科医師	3	4	6	5	6	5																																																																																																																																																																																																																																									
	看護 師	806	807	829	826	837	847																																																																																																																																																																																																																																									
	医療技術	214	226	237	249	255	260																																																																																																																																																																																																																																									
	研 究 員		2	2		1	1																																																																																																																																																																																																																																									
	事 務	54	53	59	63	65	65																																																																																																																																																																																																																																									
計	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380																																																																																																																																																																																																																																										
こころ	医 師	14	14	13	13	13	14																																																																																																																																																																																																																																									
	歯科医師																																																																																																																																																																																																																																															
	看護 師	118	120	124	122	122	127																																																																																																																																																																																																																																									
	医療技術	25	25	26	26	27	27																																																																																																																																																																																																																																									
	事 務	13	11	12	13	14	14																																																																																																																																																																																																																																									
計	170	170	175	174	176	182																																																																																																																																																																																																																																										
こども	医 師	90	90	91	92	99	106																																																																																																																																																																																																																																									
	歯科医師	1	1	1	2	2	2																																																																																																																																																																																																																																									
	看護 師	444	436	444	452	436	432																																																																																																																																																																																																																																									
	医療技術	80	82	84	86	86	85																																																																																																																																																																																																																																									
	事 務	27	27	28	28	27	27																																																																																																																																																																																																																																									
計	642	636	648	660	650	652																																																																																																																																																																																																																																										
			64	・就職説明会への参加、多角的な広報の実施や養成校の訪問などにより、必要な職員の確保を目指す。	<div>看護学生向け就職説明会（R5末時点）（単位：人）</div> <table><tr><th>区 分</th><th>来場者数</th><th>訪問者数</th><th>受験者数</th></tr><tr><td>ナース専科（静岡）</td><td>49</td><td>74</td><td>11</td></tr><tr><td>ナースナビ（浜松）</td><td>174</td><td>65</td><td>0</td></tr><tr><td>マイナビ（静岡）</td><td>219</td><td>160</td><td>30</td></tr><tr><td>（沼津）</td><td>103</td><td>82</td><td>8</td></tr><tr><td></td><td></td><td>業者計</td><td>49</td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>71</td><td>127</td><td>23</td></tr><tr><td>常葉大学</td><td>-</td><td>54</td><td>27</td></tr><tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>160</td><td>-</td><td>4</td></tr><tr><td>順天堂大学</td><td>-</td><td>-</td><td>11</td></tr><tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>81</td><td>56</td><td>6</td></tr><tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td>104</td><td>57</td><td>10</td></tr><tr><td></td><td></td><td>養成校計</td><td>81</td></tr><tr><td></td><td></td><td>計</td><td>130</td></tr></table> <div>※訪問者数は病院間の重複あり</div> <div>看護学生向け就職説明会（単位：人）</div> <table><tr><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td rowspan="2">来場者数</td><td>業者</td><td>226</td><td>709</td><td>709</td><td>582</td><td>0</td></tr><tr><td>養成校</td><td>602</td><td>35</td><td>35</td><td>137</td><td>416</td></tr><tr><td rowspan="2">訪問者数</td><td>業者</td><td>64</td><td>645</td><td>645</td><td>438</td><td>545</td></tr><tr><td>養成校</td><td>345</td><td>316</td><td>316</td><td>120</td><td>294</td></tr><tr><td rowspan="2">受験者数</td><td>業者</td><td>3</td><td>112</td><td>112</td><td>82</td><td>381</td></tr><tr><td>養成校</td><td>73</td><td>92</td><td>92</td><td>72</td><td>67</td></tr></table>	区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科（静岡）	49	74	11	ナースナビ（浜松）	174	65	0	マイナビ（静岡）	219	160	30	（沼津）	103	82	8			業者計	49	静岡県立大学	71	127	23	常葉大学	-	54	27	聖隷クリストファー大学	160	-	4	順天堂大学	-	-	11	静岡市立看護専門学校	81	56	6	静岡県立看護専門学校	104	57	10			養成校計	81			計	130		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	来場者数	業者	226	709	709	582	0	養成校	602	35	35	137	416	訪問者数	業者	64	645	645	438	545	養成校	345	316	316	120	294	受験者数	業者	3	112	112	82	381	養成校	73	92	92	72	67	A	<div>少しでも学生の知りたい情報を提供するため、積極的に説明会への参加を予定している。</div> <div>総合病院の看護師不足は続いているため、県外の就職説明会にも参加を予定している。</div> <div>看護師確保対策の中でも企業・養成校主催の就職説明会は、看護学生が看護部長や先輩看護師等と直接話ができることから、病院の宣伝だけでなく、看護学生個人が知りたい情報を直接伝えることができる利点がある。</div> <div>説明会での内容は内定者からのアンケート結果を参考に検討をし、病院内での様子が伝わるよう動画などを用いて説明を行っている。今後も昨年に引き続き企業・養成校主催の説明会へ参加し、現在の学生の動向等をつかむことで、看護師確保に努める。</div>	19	○	64																																																																																																																																
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																																																																													
ナース専科（静岡）	49	74	11																																																																																																																																																																																																																																													
ナースナビ（浜松）	174	65	0																																																																																																																																																																																																																																													
マイナビ（静岡）	219	160	30																																																																																																																																																																																																																																													
（沼津）	103	82	8																																																																																																																																																																																																																																													
		業者計	49																																																																																																																																																																																																																																													
静岡県立大学	71	127	23																																																																																																																																																																																																																																													
常葉大学	-	54	27																																																																																																																																																																																																																																													
聖隷クリストファー大学	160	-	4																																																																																																																																																																																																																																													
順天堂大学	-	-	11																																																																																																																																																																																																																																													
静岡市立看護専門学校	81	56	6																																																																																																																																																																																																																																													
静岡県立看護専門学校	104	57	10																																																																																																																																																																																																																																													
		養成校計	81																																																																																																																																																																																																																																													
		計	130																																																																																																																																																																																																																																													
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																										
来場者数	業者	226	709	709	582	0																																																																																																																																																																																																																																										
	養成校	602	35	35	137	416																																																																																																																																																																																																																																										
訪問者数	業者	64	645	645	438	545																																																																																																																																																																																																																																										
	養成校	345	316	316	120	294																																																																																																																																																																																																																																										
受験者数	業者	3	112	112	82	381																																																																																																																																																																																																																																										
	養成校	73	92	92	72	67																																																																																																																																																																																																																																										





[illegible]



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																			
						評価	説明																																																																																								
			69	⑦看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ⑦認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	<div>総合</div> <table><tr><td colspan="3">主な医療職種の資格取得者数（R5末までの累計）</td></tr><tr><th>職種</th><th>人数</th><th>専門・認定領域</th></tr><tr><td>専門看護師</td><td>3</td><td>がん看護、急性・重症患者看護</td></tr><tr><td>認定看護師</td><td>16</td><td>救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、認知症看護、がん放射線療法</td></tr><tr><td>薬剤師</td><td>43</td><td>がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、静岡中部糖尿病療養指導士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、骨粗しょう症マネージャー腎臓療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト</td></tr><tr><td>検査技師</td><td>36</td><td>緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者肝炎医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理者、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート</td></tr><tr><td>放射線技師</td><td>39</td><td>第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影(インターベンション)専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士</td></tr><tr><td>その他</td><td>22</td><td>糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、専門理学療法士（運動器、呼吸器、内部障害、循環器）</td></tr><tr><td>計</td><td>159</td><td></td></tr></table> <div>個別</div> <table><tr><td colspan="3">認定看護師取得者数（5年度末時点）（単位：人）</td></tr><tr><th>区分</th><th>人数</th><th>専門・認定領域</th></tr><tr><td>専門看護師</td><td>0</td><td>精神看護（リエゾン領域）</td></tr><tr><td rowspan="2">認定看護師</td><td>6</td><td>精神科</td></tr><tr><td>0</td><td>感染管理</td></tr></table> <div>小児科</div> <table><tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">人数</td><td colspan="2">専門・認定領域</td></tr><tr><td colspan="2">専門看護師</td><td>2</td><td colspan="2">小児看護</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">認定看護師</td><td>10</td><td colspan="2">皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護</td><td></td></tr></table>	主な医療職種の資格取得者数（R5末までの累計）			職種	人数	専門・認定領域	専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護	認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、認知症看護、がん放射線療法	薬剤師	43	がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、静岡中部糖尿病療養指導士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、骨粗しょう症マネージャー腎臓療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト	検査技師	36	緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者肝炎医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理者、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート	放射線技師	39	第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影(インターベンション)専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士	その他	22	糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、専門理学療法士（運動器、呼吸器、内部障害、循環器）	計	159		認定看護師取得者数（5年度末時点）（単位：人）			区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	0	精神看護（リエゾン領域）	認定看護師	6	精神科	0	感染管理	区分		人数		専門・認定領域		専門看護師		2	小児看護			認定看護師		10	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護			A	感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織横断的に活動することができている。 また、認定看護師等の病院運営に寄与する資格については、資格等取得資金貸付要綱を改定し、取得支援制度を拡充するなど、資格取得者の増員を図った。	・高度・専門医療を提供する県立病院において、医療の質の向上のため、優れた看護技術と知識を備え高水準の看護を実践する専門看護師や認定看護師を育成することが必要とされる。 ・令和5年度の看護師の資格者数は、総合19人(専門3人、認定16人)、こころ6人(専門0人、認定6人)、こども12人(専門2人、認定10人)と、育成が図られている。			69																									
主な医療職種の資格取得者数（R5末までの累計）																																																																																															
職種	人数	専門・認定領域																																																																																													
専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護																																																																																													
認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、認知症看護、がん放射線療法																																																																																													
薬剤師	43	がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、静岡中部糖尿病療養指導士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、骨粗しょう症マネージャー腎臓療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト																																																																																													
検査技師	36	緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者肝炎医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理者、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート																																																																																													
放射線技師	39	第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影(インターベンション)専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士																																																																																													
その他	22	糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、専門理学療法士（運動器、呼吸器、内部障害、循環器）																																																																																													
計	159																																																																																														
認定看護師取得者数（5年度末時点）（単位：人）																																																																																															
区分	人数	専門・認定領域																																																																																													
専門看護師	0	精神看護（リエゾン領域）																																																																																													
認定看護師	6	精神科																																																																																													
	0	感染管理																																																																																													
区分		人数		専門・認定領域																																																																																											
専門看護師		2	小児看護																																																																																												
認定看護師		10	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護																																																																																												
			70	⑧臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	実習・アルバイト研修等の受入れ（単位：人） <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="6">5年度</th></tr><tr><th>医師</th><th>医学生</th><th>看護師</th><th>看護学生</th><th>コメディカル</th><th>計</th></tr><tr><td>総 合</td><td>86</td><td>377</td><td>0</td><td>591</td><td>75</td><td>1,129</td></tr><tr><td>こころ</td><td>43</td><td>2</td><td>1</td><td>416</td><td>8</td><td>470</td></tr><tr><td>こども</td><td>94</td><td>38</td><td>9</td><td>306</td><td>60</td><td>507</td></tr><tr><td>計</td><td>223</td><td>417</td><td>10</td><td>1,313</td><td>143</td><td>2,106</td></tr></table>	区 分	5年度						医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総 合	86	377	0	591	75	1,129	こころ	43	2	1	416	8	470	こども	94	38	9	306	60	507	計	223	417	10	1,313	143	2,106	A	各病院では、例年医師、医学生、看護師、看護学生等を積極的に受け入れ、メディカルスキルアップセンター等を活用した臨床現場に即した実践的な研修を提供している。 令和4年度(1,486人)より大幅に増加しており積極的な受け入れが実施出来た。	・医師、医学生、看護師、看護学生、コメディカルの実習やアルバイトを積極的に受け入れ、臨床現場に即した実践的な研修を提供している。 ・実習・アルバイトの受入れにおいては、新型コロナウイルス等の感染症対策を行いながら、令和5年度には5類移行に伴い受入数を増加させており、効果的な実践研修の場の提供に努めている。			70																																											
区 分	5年度																																																																																														
	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																																									
総 合	86	377	0	591	75	1,129																																																																																									
こころ	43	2	1	416	8	470																																																																																									
こども	94	38	9	306	60	507																																																																																									
計	223	417	10	1,313	143	2,106																																																																																									
			71	⑨研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	<div>本部・各病院</div> <table><tr><td colspan="7">職員研修参加者数（単位：人）</td></tr><tr><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>新規採用職員研修</td><td>125</td><td>139</td><td>160</td><td>130</td><td>147</td><td>149</td></tr><tr><td>新規役付職員研修</td><td>6</td><td>7</td><td>10</td><td>271</td><td>80</td><td>54</td></tr><tr><td>新規監督者研修</td><td>18</td><td>11</td><td>16</td><td>10</td><td>16</td><td>16</td></tr><tr><td>労務管理者研修</td><td>-</td><td>-</td><td>120</td><td>96</td><td>96</td><td>55</td></tr><tr><td>新任管理者・新任監督者研修</td><td>35</td><td>21</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>133</td></tr><tr><td>コミュニケーション講座</td><td>30</td><td>19</td><td>31</td><td>27</td><td>24</td><td>19</td></tr><tr><td>接遇・クレーム対応講座</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>17</td></tr><tr><td>ファシリテーション講座</td><td>20</td><td>25</td><td>29</td><td>30</td><td>26</td><td>19</td></tr><tr><td>コーチング講座</td><td>22</td><td>20</td><td>29</td><td>19</td><td>32</td><td>20</td></tr><tr><td>メンタルサポート講座</td><td>14</td><td>29</td><td>24</td><td>21</td><td>18</td><td>14</td></tr></table> ※ 令和3年度以降は職務級制度の改正により新規役付き職員研修の対象者が増加した。	職員研修参加者数（単位：人）								30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	新規採用職員研修	125	139	160	130	147	149	新規役付職員研修	6	7	10	271	80	54	新規監督者研修	18	11	16	10	16	16	労務管理者研修	-	-	120	96	96	55	新任管理者・新任監督者研修	35	21	-	-	-	133	コミュニケーション講座	30	19	31	27	24	19	接遇・クレーム対応講座	-	-	-	-	-	17	ファシリテーション講座	20	25	29	30	26	19	コーチング講座	22	20	29	19	32	20	メンタルサポート講座	14	29	24	21	18	14	A	令和5年度についても、階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。 令和5年度は、引続き働き方改革関連法に対応するための労務管理者研修を実施している。	・全ての職種に共通して必要となるコミュニケーション能力や組織マネジメント能力など、県内医療の中核を担う県立病院の職員として求められる社会的スキルの習得につながる研修や、働き方改革関連法に対応するための研修など、階層や目的に応じた研修が実施されている。			71
職員研修参加者数（単位：人）																																																																																															
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																									
新規採用職員研修	125	139	160	130	147	149																																																																																									
新規役付職員研修	6	7	10	271	80	54																																																																																									
新規監督者研修	18	11	16	10	16	16																																																																																									
労務管理者研修	-	-	120	96	96	55																																																																																									
新任管理者・新任監督者研修	35	21	-	-	-	133																																																																																									
コミュニケーション講座	30	19	31	27	24	19																																																																																									
接遇・クレーム対応講座	-	-	-	-	-	17																																																																																									
ファシリテーション講座	20	25	29	30	26	19																																																																																									
コーチング講座	22	20	29	19	32	20																																																																																									
メンタルサポート講座	14	29	24	21	18	14																																																																																									





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点 点	数 値	評 価	No																																																																																																																								
						評 価	説 明																																																																																																																													
(2) 勤務環境の向上  優秀な医療従事者を確保するため、働きやすく、また、働きがいのある病院となるよう、ワーク・ライフ・バランスの向上の推進や職員の精神面を含めた健康保持に配慮するほか、医師をはじめとした医療従事者の業務分担を行うなど、勤務環境の向上を図ること。	(2) 勤務環境の向上  医師をはじめとした医療従事者の業務分担をはじめ、仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の縮減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など、職員が働きやすく、働きがいを実感できる勤務環境づくりを進める。	(2) 勤務環境の向上  ①ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ④職員が働きやすい施設等の環境整備 ⑤県立病院内保育所の活用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																								
			72	本部（総務）	看護師の2交代制勤務については、総合病院18部署、こころの医療センター3部署、こども病院10部署となっている。看護師の夜勤専従について、3病院で試行を行っている。 アソシエイト採用実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>看護師</td><td>3</td><td>-</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事務</td><td>10</td><td>3</td><td>8</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>3</td><td>1</td><td>5</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>16</td><td>4</td><td>14</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	看護師	3	-	1	1	1	事務	10	3	8	1	2	コメディカル	3	1	5	1	1	計	16	4	14	3	4	A	令和5年度については、効果的な職員採用に繋げるため、看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図っている。 平成29年4月以降、診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となっている。	・地方独立行政法人としての柔軟性・機動性を発揮して、交替勤務制、夜勤専従、アソシエイト制度など、個々のライフスタイルに合わせた多様な勤務条件・雇用形態が設定されており、離職防止やワークライフバランスの実現に寄与している。	21	○	72																																																																																											
			区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																												
看護師	3	-	1	1	1																																																																																																																															
事務	10	3	8	1	2																																																																																																																															
コメディカル	3	1	5	1	1																																																																																																																															
計	16	4	14	3	4																																																																																																																															
73	本部・各病院	②医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。  補助職員の配置状況（各年度4月1日現在）（単位：人） <table><tr><th colspan="2">区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td rowspan="4">総合</td><td>医師事務補助</td><td>73</td><td>71</td><td>70</td><td>76</td><td>72</td><td>70</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>73</td><td>66</td><td>61</td><td>58</td><td>56</td><td>59</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>19</td><td>22</td><td>20</td><td>23</td><td>26</td><td>27</td></tr><tr><td>小計</td><td>165</td><td>159</td><td>151</td><td>157</td><td>154</td><td>156</td></tr><tr><td rowspan="4">こころ</td><td>医師事務補助</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>7</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>小計</td><td>12</td><td>12</td><td>13</td><td>12</td><td>13</td><td>10</td></tr><tr><td rowspan="4">こども</td><td>医師事務補助</td><td>19</td><td>19</td><td>20</td><td>19</td><td>20</td><td>18</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>21</td><td>25</td><td>22</td><td>21</td><td>21</td><td>20</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>5</td><td>5</td><td>6</td><td>8</td><td>6</td><td>5</td></tr><tr><td>小計</td><td>45</td><td>49</td><td>48</td><td>48</td><td>47</td><td>43</td></tr><tr><td rowspan="4">計</td><td>医師事務補助</td><td>94</td><td>92</td><td>92</td><td>96</td><td>94</td><td>89</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>102</td><td>99</td><td>92</td><td>88</td><td>86</td><td>86</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>26</td><td>29</td><td>28</td><td>33</td><td>34</td><td>34</td></tr><tr><td>小計</td><td>222</td><td>220</td><td>212</td><td>217</td><td>214</td><td>209</td></tr></table>	区 分		30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	総合	医師事務補助	73	71	70	76	72	70	看護助手	73	66	61	58	56	59	コメディカル助手	19	22	20	23	26	27	小計	165	159	151	157	154	156	こころ	医師事務補助	2	2	2	1	2	1	看護助手	8	8	9	9	9	7	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2	小計	12	12	13	12	13	10	こども	医師事務補助	19	19	20	19	20	18	看護助手	21	25	22	21	21	20	コメディカル助手	5	5	6	8	6	5	小計	45	49	48	48	47	43	計	医師事務補助	94	92	92	96	94	89	看護助手	102	99	92	88	86	86	コメディカル助手	26	29	28	33	34	34	小計	222	220	212	217	214	209	A	医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合病院では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて、医療従事者が診療に専念できるように医師事務作業補助者を配置しており、令和5年度においても、診療報酬の施設基準上、最上位基準を維持している。 なお、令和4年度から派遣会社を活用した夜間看護補助者の配置を開始し、看護師の負担軽減および診療報酬上の加算も併せて取得することができている。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。	・医師以外の職種においては、既に時間外労働時間の上限規制が導入されており、適切な人員配置や部署を超えた協力体制の構築に取り組んでいる。 ・医師については、令和6年度から適用される時間外労働上限規制に対応するため、総合病院は、令和5年9月1日付け「特定地域医療提供機関」の県指定を受けており、計画的に労働時間の短縮や勤務環境改善に取り組むこととしている。 ・令和4年度からは、派遣会社を活用して夜間に看護補助者を配置することで、医師だけでなく看護師の業務負担を軽減すると同時に、診療報酬上の加算も取得している。	21	○	73
区 分		30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																													
総合	医師事務補助	73	71	70	76	72	70																																																																																																																													
	看護助手	73	66	61	58	56	59																																																																																																																													
	コメディカル助手	19	22	20	23	26	27																																																																																																																													
	小計	165	159	151	157	154	156																																																																																																																													
こころ	医師事務補助	2	2	2	1	2	1																																																																																																																													
	看護助手	8	8	9	9	9	7																																																																																																																													
	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2																																																																																																																													
	小計	12	12	13	12	13	10																																																																																																																													
こども	医師事務補助	19	19	20	19	20	18																																																																																																																													
	看護助手	21	25	22	21	21	20																																																																																																																													
	コメディカル助手	5	5	6	8	6	5																																																																																																																													
	小計	45	49	48	48	47	43																																																																																																																													
計	医師事務補助	94	92	92	96	94	89																																																																																																																													
	看護助手	102	99	92	88	86	86																																																																																																																													
	コメディカル助手	26	29	28	33	34	34																																																																																																																													
	小計	222	220	212	217	214	209																																																																																																																													
74	本部	③全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。  県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与（勤勉手当）に活用、令和3年度から昇給に活用し（令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用）、全職員（有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く）を対象に実施している。	A	平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与（勤勉手当）に活用、令和3年度から昇給に活用し（令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用）、全職員（有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く）を対象に実施している。	・県に準拠した人事評価制度を導入しており、職員の意欲が反映される仕組みづくりに取り組んでいる。	21	○	74																																																																																																																												





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																			
						評価	説明																																								
			75	本部・各病院	【総合病院】 ・総合病院では、令和5年9月に静岡県から特定及び連携型特定地域医療提供機関の指定を受けたため、許可された医師の労働時間短縮計画等に基づき、医師の労働時間短縮の取組等を推進する。 ・院内保育所については、保育所運営協議会において、事務局、委託先、利用者間の意見交換を行い、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を令和5年度も実施した。 【こころの医療センター】 ・新電子カルテへの入力をスムーズに行うため、端末と移動カートを配備した。 【こども病院】 ・会議でのタブレット端末 (ipad) の活用や、オンライン会議でのZoomRoomsの活用により、会議に係る業務の効率化を図った。 ・職員研修にeラーニングツールであるSafetyPlusを導入し、受講や受講管理の効率化を図った。	S	総合病院では、令和5年9月に静岡県から特定及び連携型特定地域医療提供機関の指定を受けたため、許可された医師の労働時間短縮計画等に基づき、医師の労働時間短縮の取組等を推進した。 チーム制・複数主治医制の導入を推進し、患者・家族等への時間外の説明などを原則禁止し、休暇の取得も推進した。 現在継続している医師から看護・メディカルスタッフ・事務等への業務のタスクシフト（看護師特定行為の推進、持続皮下グルコース検査の推進他）を推進し、併せて、タスクシフトを行う、看護・メディカルスタッフ・事務等の労働環境の改善を推進した。 医師の労働時間短縮計画に基づき、水準指定医師で勤務間インターバルが取得できなかった医師を毎月検証し、当該医師及び及び当該上司（診療科部長）に対し、代償休息の取得を依頼し、その実績について毎月検証（令和5年4月1日以降、試行中）した。 令和6年4月から月の法定外時間外労働＋休日労働時間数が100時間を超える見込みの医師について、毎月当該医師の時間外労働時間数が80時間を超えた時点で面接指導実施医師により（面接指導実施医師は現在5人）、面接指導を実施した。 なお、毎月の時間外労働時間数が100時間を超える見込みの医師は毎月1日等の日を決めて、面接を実施する。令和6年度計画について検証し、時点修正を行う等、PDCAサイクルを回していく。  こころの医療センターでは、病棟に新型電子カルテに対応した端末と移動カートを配架し、患者情報の入力を迅速に行えるよう改善した。  こども病院では、タブレット端末 (ipad) を活用した会議運営を拡大するとともに、オンライン会議におけるZoomRoomsの活用を継続して行った。また、令和5年5月から、職員研修にeラーニングツールであるSafetyPlusを導入し、受講や受講管理の効率化を図った。  看護師等が離職することを防止するため、こころのケアだけでなく体力低下で看護業務へ支障を来さないよう日常生活相談を含め、心身に対するきめ細かい対応を行い、長期に渡り勤務できる環境を整える取組を行っている。 また、国に先駆けて「就学前児童の養育資金貸付制度」を創設し、独立行政法人ならではの画期的な取組であるとして、全国の自治体から注目を集めた。当機構の制度をモデルケースとして同様の制度が制定される動きが広がっている。 なお、政府が、子育てと職場復帰の両立のための支援のために、育児短時間勤務で働く人向けに、新たな現金給付を創設する方向で検討に入った旨の報道もなされている。 引き続き、院内施設の充実や、就労環境の向上に取り組んでいく。	21	☆	75																																					
			76		⑤院内保育の活用を図る。	A	各病院の院内保育所では、育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実に努めている。 総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。幼保無償化の影響により入所者数が減少しているため、有期コメディカル・正規事務の入所を開始した。また、院内保育所利用者を対象としたインフルエンザ予防接種も実施している。 こども病院では、令和5年度は45人を上限に運用し、二重保育や病後児保育等の保育サービスに対応した。				76																																				
				総合・こども	保育所利用者数（単位：人） <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th rowspan="2">定員</th><th colspan="6">平均利用者数</th></tr><tr><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総合「おひさま」</td><td>100</td><td>82</td><td>75</td><td>65</td><td>65</td><td>70</td><td>60</td></tr><tr><td>こども「ことり」</td><td>80</td><td>13</td><td>16</td><td>17</td><td>19</td><td>32</td><td>32</td></tr><tr><td>計</td><td>180</td><td>95</td><td>91</td><td>82</td><td>84</td><td>102</td><td>92</td></tr></table>	区 分	定員	平均利用者数						30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合「おひさま」	100	82	75	65	65	70	60	こども「ことり」	80	13	16	17	19	32	32	計	180	95	91	82	84	102	92				
区 分	定員	平均利用者数																																													
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																								
総合「おひさま」	100	82	75	65	65	70	60																																								
こども「ことり」	80	13	16	17	19	32	32																																								
計	180	95	91	82	84	102	92																																								

- 93 -



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																																																										
						評価	説明																																																																																																																																																																															
3 医療に関する調査及び研究	3 医療に関する調査及び研究	3 医療に関する調査及び研究	—	—	—	—	—					—																																																																																																																																																																										
医療や県民の健康寿命延伸に関する調査及び研究を行い、県立病院が提供する医療の高度化や本県の医療水準の向上、県民の健康寿命の延伸に寄与すること。	県内医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他の機関との連携を図りながら、調査及び研究に取り組む。また、それらを円滑に進めるため、診療録の電子化等の医療情報基盤の活用・充実強化に努める。	県内の医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、県立病院としての医療資源の活用、院外への情報発信、他機関との連携等により調査・研究に取り組む。	—	—	—	—	—					—																																																																																																																																																																										
(1) 研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	—	—	—	—	—					—																																																																																																																																																																										
各病院が臨床研究に取り組み、その研究成果の発信等により、県内医療水準の向上及び医療人材の確保に努めること。また、県立総合病院のリサーチサポートセンターにおいて、医療ビッグデータを活用した疫学、ゲノム研究など県が推進する社会健康医学研究に協力すること。さらに、産学官との連携による共同研究や治験に取り組むこと。	県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用し、各病院が臨床研究に取り組み、その成果を発信することなどにより、県内医療水準の向上と医療人材の確保に努める。また、県が定めた社会健康医学研究推進計画に基づき、社会健康医学の研究推進に協力する。治験や調査研究事業の推進に参画できるよう引き続き体制の整備を行い、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。	①各大学院や研究所等との連携を強化し、病院機構が行う特色ある研究の推進・発展 ②県立総合病院リサーチサポートセンターの臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ③静岡社会健康医学大学院大学と連携した社会健康医学研究の充実・推進 ④聴覚障害児における言語獲得の研究実施と早期治療体制の構築 ⑤県立総合病院リサーチサポートセンターにおいて、静岡県県からの受託研究として、「県民の健康寿命の更なる延伸」に向けた社会健康医学研究の実施 ⑥治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ⑦県立大学等の研究機関との共同研究	77	①②臨床研究や疫学研究の充実 ・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ③④⑤研究体制を充実させ、研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ④聴覚障害児における言語獲得の研究支援について、外部機関との連携を推進する。 ④研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ⑥研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 ⑥研究支援室による臨床研究の支援を行う。 ⑦県立大学との共同研究を行う。	総合	臨床研究数 (単位：件、％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>研究数</td><td>332</td><td>376</td><td>399</td><td>329</td><td>409</td><td>449</td><td>280以上</td></tr><tr><td>支援研究数</td><td>38</td><td>50</td><td>57</td><td>68</td><td>67</td><td>71</td><td>—</td></tr><tr><td>支援率</td><td>11.4</td><td>13.3</td><td>14.3</td><td>20.7</td><td>16.4</td><td>15.8</td><td>—</td></tr></table> 客員研究員受入状況 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>14</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td>外部</td><td>11</td><td>22</td><td>25</td><td>16</td><td>16</td><td>15</td></tr></table> 社会健康医学受託研究の実施状況 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>11</td><td>11</td><td>35</td><td>3</td><td>3</td><td>1</td></tr></table> 奨学寄附金受入件数・金額 <table><tr><th>区分</th><th>寄附者</th><th>目的</th><th>金額 (千円)</th></tr><tr><td rowspan="3">元年度</td><td>日本ベーマシンギング㈱株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ベーマシンギング㈱株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>400</td></tr><tr><td rowspan="5">2 年度</td><td>日本ベーマシンギング㈱株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ベーマシンギング㈱株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr><tr><td>アミリス・セブデュアティックス株式会社</td><td>遺伝性疾患に関する研究支援</td><td>500</td></tr><tr><td>株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング</td><td>整形外科疾患における研究</td><td>1,000</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>1,900</td></tr><tr><td rowspan="4">3 年度</td><td>日本ベーマシンギング㈱株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ベーマシンギング㈱株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr><tr><td>大正製薬株式会社</td><td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td><td>300</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>700</td></tr><tr><td rowspan="5">4 年度</td><td>日本ベーマシンギング㈱株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ベーマシンギング㈱株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>100</td></tr><tr><td>京セラ株式会社</td><td>変形関節症に関する研究</td><td>1,500</td></tr><tr><td>第10回日本婦人科ロボット手術学会</td><td>産婦人科の診断治療に関する研究</td><td>500</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>2,300</td></tr><tr><td rowspan="5">5 年度</td><td>日本ベーマシンギング㈱株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>100</td></tr><tr><td>日本ベーマシンギング㈱株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>100</td></tr><tr><td>パイタル株式会社</td><td>心臓血管外科における研究</td><td>100</td></tr><tr><td>京セラ株式会社</td><td>変形関節症に関する研究</td><td>1,500</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>1,800</td></tr> 新生児聴覚スクリーニング件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>スクリーニング件数</td><td>470</td><td>541</td><td>567</td><td>549</td><td>488</td><td>471</td></tr></table> 人工内耳埋込術件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>15</td><td>13</td><td>9</td><td>13</td><td>24</td><td>25</td></tr></table></table>	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	毎年度目標	研究数	332	376	399	329	409	449	280以上	支援研究数	38	50	57	68	67	71	—	支援率	11.4	13.3	14.3	20.7	16.4	15.8	—	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	静岡県立大学	14	15	15	15	13	13	外部	11	22	25	16	16	15	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	件数	11	11	35	3	3	1	区分	寄附者	目的	金額 (千円)	元年度	日本ベーマシンギング㈱株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ベーマシンギング㈱株式会社	呼吸器疾患における研究	200		合計	400	2 年度	日本ベーマシンギング㈱株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ベーマシンギング㈱株式会社	呼吸器疾患における研究	200	アミリス・セブデュアティックス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500	株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング	整形外科疾患における研究	1,000		合計	1,900	3 年度	日本ベーマシンギング㈱株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ベーマシンギング㈱株式会社	呼吸器疾患における研究	200	大正製薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	300		合計	700	4 年度	日本ベーマシンギング㈱株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ベーマシンギング㈱株式会社	呼吸器疾患における研究	100	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500	第10回日本婦人科ロボット手術学会	産婦人科の診断治療に関する研究	500		合計	2,300	5 年度	日本ベーマシンギング㈱株式会社	糖尿病治療に関する研究	100	日本ベーマシンギング㈱株式会社	呼吸器疾患における研究	100	パイタル株式会社	心臓血管外科における研究	100	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500		合計	1,800	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	スクリーニング件数	470	541	567	549	488	471	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	件数	15	13	9	13	24	25		令和5年度も、製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。				
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	毎年度目標																																																																																																																																																																															
研究数	332	376	399	329	409	449	280以上																																																																																																																																																																															
支援研究数	38	50	57	68	67	71	—																																																																																																																																																																															
支援率	11.4	13.3	14.3	20.7	16.4	15.8	—																																																																																																																																																																															
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																																
静岡県立大学	14	15	15	15	13	13																																																																																																																																																																																
外部	11	22	25	16	16	15																																																																																																																																																																																
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																																
件数	11	11	35	3	3	1																																																																																																																																																																																
区分	寄附者	目的	金額 (千円)																																																																																																																																																																																			
元年度	日本ベーマシンギング㈱株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																			
	日本ベーマシンギング㈱株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																			
		合計	400																																																																																																																																																																																			
2 年度	日本ベーマシンギング㈱株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																			
	日本ベーマシンギング㈱株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																			
	アミリス・セブデュアティックス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500																																																																																																																																																																																			
	株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング	整形外科疾患における研究	1,000																																																																																																																																																																																			
		合計	1,900																																																																																																																																																																																			
3 年度	日本ベーマシンギング㈱株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																			
	日本ベーマシンギング㈱株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																			
	大正製薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	300																																																																																																																																																																																			
		合計	700																																																																																																																																																																																			
4 年度	日本ベーマシンギング㈱株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																			
	日本ベーマシンギング㈱株式会社	呼吸器疾患における研究	100																																																																																																																																																																																			
	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500																																																																																																																																																																																			
	第10回日本婦人科ロボット手術学会	産婦人科の診断治療に関する研究	500																																																																																																																																																																																			
		合計	2,300																																																																																																																																																																																			
5 年度	日本ベーマシンギング㈱株式会社	糖尿病治療に関する研究	100																																																																																																																																																																																			
	日本ベーマシンギング㈱株式会社	呼吸器疾患における研究	100																																																																																																																																																																																			
	パイタル株式会社	心臓血管外科における研究	100																																																																																																																																																																																			
	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500																																																																																																																																																																																			
		合計	1,800																																																																																																																																																																																			
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																																
スクリーニング件数	470	541	567	549	488	471																																																																																																																																																																																
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																																
件数	15	13	9	13	24	25																																																																																																																																																																																
【目標値】 ・臨床研究数（総合）			78	⑤医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	各病院	医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td rowspan="2">総 合</td><td>件 数</td><td>24</td><td>17</td><td>17</td><td>23</td><td>25</td><td>27</td></tr><tr><td>契約額</td><td>101,428</td><td>42,504</td><td>27,994</td><td>58,794</td><td>91,214</td><td>57,272</td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>件 数</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>契約額</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="2">こども</td><td>件 数</td><td>26</td><td>35</td><td>23</td><td>37</td><td>58</td><td>58</td></tr><tr><td>契約額</td><td>14,018</td><td>29,479</td><td>12,041</td><td>20,531</td><td>14,282</td><td>12,143</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	総 合	件 数	24	17	17	23	25	27	契約額	101,428	42,504	27,994	58,794	91,214	57,272	こころ	件 数	0	0	0	0	0	0	契約額	0	0	0	0	0	0	こども	件 数	26	35	23	37	58	58	契約額	14,018	29,479	12,041	20,531	14,282	12,143	A	令和5年度も、製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。				78																																																																																																																						
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																																
総 合	件 数	24	17	17	23	25	27																																																																																																																																																																															
	契約額	101,428	42,504	27,994	58,794	91,214	57,272																																																																																																																																																																															
こころ	件 数	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																															
	契約額	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																															
こども	件 数	26	35	23	37	58	58																																																																																																																																																																															
	契約額	14,018	29,479	12,041	20,531	14,282	12,143																																																																																																																																																																															
								・リサーチサポートセンターにおいては、令和3年4月に静岡社会健康医学大学院大学が開学した後も、引き続き研究が行われており、社会健康医学研究の推進に貢献しており、今後も引き続き連携し、県民への成果還元を期待する。 ・客員研究員の受入れや機器整備などの研究体制強化の成果が現れており、臨床研究数は、令和5年度で449件であり、目標値及び昨年度を上回る。 ・文部科学省科学研究費補助金の受入れが可能な研究機関としてリサーチサポートセンターを含む14部門が指定を受けており、令和5年度は3件応募、うち0件採択、5件継続となっている。 ・意欲ある医師に対して研究や学術交流の機会を提供することで今後の医療水準の向上と、魅力的な臨床研究環境をPRすることによる医師確保への貢献が期待される。  ・きこえとことばのセンター（静岡県乳幼児聴覚支援センター）は、平成22年に県の委託により総合病院に設置し、聴覚異常の早期発見と早期治療に係る専門的支援を実施してきた。 ・令和5年度には、聴覚支援に先進的であるオーストラリアの機関とオンラインミーティングを重ね、難聴児の療育プログラムの確立に向けた検討会や親子教室での検証を実施している。 ・また、難聴児への早期介入・支援のため、関係機関との情報共有を可能にする、新生児聴覚スクリーニング検査を一元化した情報管理システムの開発を行い、令和5年度は県内のクリニックでの導入を開始した。 ・これらの取組による、今後の県民への成果還元が期待される。	22	1	☆	77																																																																																																																																																																										





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																			
						評価	説明																								
(2) 診療等の情報の活用  診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供する医療の質の向上のために活用するとともに、他の医療機関へ情報提供すること。	(2) 診療等の情報の活用  診療録等医療情報の電子化や管理機能の充実を図り、科学的根拠を集積・分析し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し、医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	(2) 診療等の情報の活用  ①診療情報等の分析のできるシステムの活用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																			
			79	①DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	D P Cコーディング部会開催実績 (単位：回、人) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>開催回数</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>出席者数</td><td>37</td><td>25</td><td>33</td><td>27</td><td>23</td><td>23</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催回数	4	4	4	4	4	4	出席者数	37	25	33	27	23	23	A	DPCデータの分析結果を元に、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内の退院状況や副傷病名の付与率等を報告するとともに、DPCコーディング部会における議論等により平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に努めている。	23	○	79
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																									
開催回数	4	4	4	4	4	4																									
出席者数	37	25	33	27	23	23																									
			80	①DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかるスキルアップに努める。	D P Cデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、D P C部会兼コード検討委員会を開催した。  D P C部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>開催回数</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>出席者数</td><td>49</td><td>49</td><td>58</td><td>40</td><td>42</td><td>56</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催回数	4	4	4	4	4	4	出席者数	49	49	58	40	42	56	A	早期のデータ入力を継続して促し適切なコーディングを行うことで診療報酬を漏れなく請求した。	23	○	80
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																									
開催回数	4	4	4	4	4	4																									
出席者数	49	49	58	40	42	56																									





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																						
						評価	説明																																																																											
4 医療に関する地域への支援 本県の地域医療の確保のため、県立病院がその支援に大きな役割を果たし、信頼され、必要とされる病院であり続けるよう努めること。	4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																						
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																						
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																					
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																					
(1) 地域の医療機関等との連携・支援 県が策定する医師確保計画の推進に協力し、医師不足の公的医療機関に対し医師派遣を行うこと。また、他の医療機関から紹介された患者の受入れ及び患者に適した医療機関の紹介を積極的に行うこと。さらに、高度医療機器の共同利用の促進、ICTを活用した他の医療機関等との医療情報の共有など、地域医療の確保への支援を一層推進すること。	(1) 地域の医療機関等との連携・支援 県が策定する医師確保計画の推進に協力する。 県立病院の医師の増員及び育成を図り、地域医療を支える県内医療機関への医師派遣の充実に取り組む。また、ICTを活用した医療連携、遠隔診断のネットワークづくりや、高度医療機器などの共同利用を推進し、県立病院の施設、設備や機能について地域への開放を進める。	(1) 地域の医療機関等との連携・支援 ①県内の医師確保・偏在解消等を県、浜松医科大学、静岡社会健康医学大学院大学等と連携して実施 ②県の医師派遣事業及び常勤医師の派遣への協力 ③地域医療連携推進法人制度を活用等による本県の医師確保、医師の人材育成、地域医療構想推進の支援及び病院の機能分化・連携強化 ④静岡市清水区の桜ヶ丘病院へ医師派遣等を行い清水区の病院医療の充実を支援 ⑤県内病院への常勤幹部医師の配置 ⑥専門医制度への対応 ⑦医療機器の共同利用の推進 ⑧ICT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	81	本部・各病院	①②⑤⑥県内の医師確保、偏在解消等を県、浜松医科大学、静岡社会健康医学大学院大学等と連携して実施するほか、地域医療支援病院としての使命を果たすため医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。 ③④⑦⑧地域医療連携推進法人制度を活用して、静岡市清水区の桜ヶ丘病院への医師派遣等を行い、県の地域医療構想を推進することにより、地域において質が高く効率的な医療提供体制を構築する。	（総合） 医師定数（各年度4月1日現在）（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>定数</td><td>271</td><td>283</td><td>314</td><td>320</td><td>317</td><td>317</td></tr></table> （総合） 医師派遣実績（単位：機関、科、人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td rowspan="3">総 合</td><td>医療機関等</td><td>8</td><td>9</td><td>9</td><td>6</td><td>9</td><td>10</td></tr><tr><td>診療科</td><td>9</td><td>11</td><td>11</td><td>11</td><td>9</td><td>10</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>513</td><td>752</td><td>687</td><td>501</td><td>583</td><td>726</td></tr></table> （こども） 静岡市立静岡病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市立総合医療センター、中東遠総合医療センター、県中西部発達障害者支援センター、静岡赤十字病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設つばさ静岡にも医師を派遣した。  医師派遣実績（公的病院等）（単位：機関、科、人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>医療機関等</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>診療科</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>202</td><td>282</td><td>277</td><td>351</td><td>333</td><td>381</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	定数	271	283	314	320	317	317	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総 合	医療機関等	8	9	9	6	9	10	診療科	9	11	11	11	9	10	延人員数	513	752	687	501	583	726	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	医療機関等	5	7	7	8	8	8	診療科	2	2	3	3	3	3	延人員数	202	282	277	351	333	381	A 県立病院としての役割を果たすため、継続的に医師確保に努めている一方、医師不足が顕著な公的病院等については医師派遣を行った。 令和3年4月7日、静岡県知事より、県内初の地域医療連携推進法人となる「ふじのくに社会健康医療連合」の認定を受け、当院、桜ヶ丘病院、静岡社会健康医学大学院大学の3法人が参画している。静岡市清水区の医療を支える桜ヶ丘病院を存続させるため、総合病院から桜ヶ丘病院に対して医師派遣を行った。さらに、地域医療に貢献する志を持った医師の確保・育成を推進するため、参画施設に、病院機構のこころの医療センターとこども病院を加えた。 （総合） 医療機関等に対しては、桜ヶ丘病院、島田市立総合医療センター、富士宮市立病院、伊豆赤十字病院、佐久間病院、川根本町いやしの里診療所、静岡赤十字病院、静岡市立病院、沼津市立病院、つばさ静岡の計10箇所に医師派遣を行った。 （こども） 令和5年度、県内の8医療機関等に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たした。小児科医が不足する医療機関からの派遣要請には可能な限り対応していく必要があり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えた。	・医師不足のために診療科の休・廃止を余儀なくされ、自助努力での医師確保が困難な公的医療機関に対して、診療科内の努力により、緊急避難的措置として医師を派遣することにより、地域に必要な診療部門が確保されるなど、地域の医療提供体制維持に貢献している。 ・県の医師確保対策としての補助による派遣以外にも、地域医療支援病院として自主派遣を行っている。 ・令和3年度にふじのくに社会健康医療連合が地域医療連携推進法人として認定され、総合病院から桜ヶ丘病院へ医師を派遣し、静岡医療圏における救急医療体制の維持に貢献している。	24	○	81
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																												
定数	271	283	314	320	317	317																																																																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																												
総 合	医療機関等	8	9	9	6	9	10																																																																											
	診療科	9	11	11	11	9	10																																																																											
	延人員数	513	752	687	501	583	726																																																																											
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																												
医療機関等	5	7	7	8	8	8																																																																												
診療科	2	2	3	3	3	3																																																																												
延人員数	202	282	277	351	333	381																																																																												
		②小児1次救急医療への応援を行う。	82	こども	静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。 医師派遣実績（急病センター）（単位：機関、科、人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>医療機関</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>診療科</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>218</td><td>214</td><td>197</td><td>165</td><td>194</td><td>240</td></tr></table> 【参考】医師派遣実績計 <table><tr><th>区 分</th><th>医療機関</th><th>診療科</th><th>延人員数</th></tr><tr><td>公的病院</td><td>8</td><td>3</td><td>381</td></tr><tr><td>急病センター</td><td>2</td><td>2</td><td>240</td></tr><tr><td></td><td>10</td><td>※4</td><td>621</td></tr></table> ※ 重複のため計が一致しない	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	218	214	197	165	194	240	区 分	医療機関	診療科	延人員数	公的病院	8	3	381	急病センター	2	2	240		10	※4	621	A 令和5年度は、静岡市急病センター及び志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援した。小児1次救急医療の成立のため、派遣要請には可能な限り対応していく方針であり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えた。	24	○	82																													
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																												
医療機関	2	2	2	2	2	2																																																																												
診療科	2	2	2	2	2	2																																																																												
延人員数	218	214	197	165	194	240																																																																												
区 分	医療機関	診療科	延人員数																																																																															
公的病院	8	3	381																																																																															
急病センター	2	2	240																																																																															
	10	※4	621																																																																															
		④静岡社会健康大学院大学と連携して、医師の配置調整など「ふじのくに地域医療支援センター」業務を支援する。	83	総合	『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」の業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。 配置調整医師数及び県内勤務開始者数（単位：名） <table><tr><th>勤務開始年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>配置調整医師数</td><td>64</td><td>76</td><td>108</td><td>125</td><td>160</td><td>163</td></tr><tr><td>うち県内勤務医師数</td><td>39</td><td>47</td><td>71</td><td>83</td><td>107</td><td>108</td></tr></table> ※配置調整は各前年度となる。	勤務開始年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	配置調整医師数	64	76	108	125	160	163	うち県内勤務医師数	39	47	71	83	107	108	A 静岡社会健康大学院大学と連携して、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。			83																																																				
勤務開始年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																												
配置調整医師数	64	76	108	125	160	163																																																																												
うち県内勤務医師数	39	47	71	83	107	108																																																																												
		⑥専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	84	各病院	（総合） 令和5年度中に2領域増設し、令和6年度以降は全19領域中12領域においてプログラムを実施することとなった。令和6年度は、21名が当院の専門研修プログラムに所属予定となっている。新型コロナウイルス感染症以降、当院ホームページにプログラム説明動画を公開のうえ専門研修プログラムの魅力を発信した。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。 （こころ） 病院見学の受入を積極的に行い、専攻医の確保に努めている。 （こども） 平成29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹研修施設として、新制度に則った研修を実施しており、令和5年度は12名が本研修に取り組んだ。	A （総合） 19領域中10領域の専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行っている。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。 （こころ） 令和5年度は3人の専攻医を受け入れている。また病院見学は9名を受け入れている。 （こども） 小児科専攻医研修の基幹研修施設として、県中東部の連携施設10病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに指導を行い、令和5年度は12名が本研修に取り組んだ。	・新専門医制度の開始以降、各病院で研修プログラムを作成し受入体制を整備するとともに、院内外研修医・学生に向けたプログラム説明会の開催や、首都圏等のレジナビへの参加、PR動画の作成など、積極的なPR活動を通じて、専攻医の確保に努めている。 ・令和5年度は、総合病院は10プログラムの定員57人に対し21人の採用、こころの医療センターは1プログラムの定員6人に対し3人の採用、こども病院は1プログラムの定員8人に対し12人の採用となっている。 ・各病院の研修プログラムにおいては、充実した医療施設・設備のもと、専門医・指導医による指導体制を構築するとともに、他診療科とのチーム医療も研修できるよう配慮するなど、充実を図っている。 ・大都市圏への専攻医の集中は制度的な要因も大きく、今後、シーリング（募集定員の上限）による地方への専攻医の分散等の影響も見据え、地域の連携病院との協力のもと、専攻医にとって魅力的な指導体制と研修プログラムを確保し、積極的な採用活動のもと、地域医療にも貢献する専攻医を安定的に確保できるよう努めることが期待される。	25	○	84																																																																								

— 99 —



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																					
						評価	説明																																																										
			85	⑦地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	地域における医療機器の効率的な活用のため、CT・MRIの共同利用に取り組んでおり、地域医療の支援に貢献している。市内他施設における機器整備が進められており、共同利用件数も令和2年度を底に持ち直している。 <table><tr><th colspan="7">C T、MR I 共同利用</th><th colspan="2">（単位：件）</th></tr><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th></th><th></th></tr><tr><td>C T</td><td>896</td><td>881</td><td>659</td><td>722</td><td>733</td><td>617</td><td></td><td></td></tr><tr><td>MR I</td><td>586</td><td>595</td><td>472</td><td>517</td><td>522</td><td>516</td><td></td><td></td></tr><tr><td>CT(撮影のみ)</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>MRI(撮影のみ)</td><td>24</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>18</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>	C T、MR I 共同利用							（単位：件）		区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			C T	896	881	659	722	733	617			MR I	586	595	472	517	522	516			CT(撮影のみ)	1	0	0	0	0	0			MRI(撮影のみ)	24	1	0	0	18	0			A	令和5年度のCT・MRI共同利用件数は、前年度件数には達しない結果となった。桜ヶ丘病院と令和3年度に改めて協定を締結している。	・CT・MRIの共同利用件数は市内他病院の機器整備が進んだ影響を受けつつも、一定程度の件数を維持しており、地域医療を支援する役割を果たしている。			85
C T、MR I 共同利用							（単位：件）																																																										
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																											
C T	896	881	659	722	733	617																																																											
MR I	586	595	472	517	522	516																																																											
CT(撮影のみ)	1	0	0	0	0	0																																																											
MRI(撮影のみ)	24	1	0	0	18	0																																																											
			86	⑧ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。	地域医療連携推進事業費補助金を活用し、ふじのくにねっと参加施設の新規システム構築及び機器更新を実施している（令和5年度にはデータセンター及び県立病院機構3病院の機器更新を実施）。 また、令和2年3月からは、地域医療情報連携ネットワークにおける同意取得方法に関する厚生労働省通知を受け、患者への参加同意取得手続等の運用の見直しを進め、令和3年度についても、ふじのくにねっと参加施設の利便性に貢献した。令和4年度以降は協議会の会長を中東遠総合医療センターから選出して運営を継続している。	A	ネットワーク全体で病病・病診連携における積極開示をルール化することを理事会で方針として採択し、先進事例の共有等の取組を推進している。	・総合病院においては、県内各医療圏の地域性や医療機関の特性に幅広く対応する地域医療情報連携ネットワークの効果的な運用体制を引き続き確保するとともに、参画医療機関に対する適切な運用支援等が期待される。（参考） ・「ふじのくにねっと」とは、ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会において、県内各医療施設間で患者・診療情報を共有するためのICTネットワーク基盤を構築し、病診連携・病病連携を始め、薬局や訪問看護等の関連施設との情報共有の利便性向上と効率化・迅速化を図り医療提供体制を強化するものである。県は平成28年度からシステム整備費用を補助金として助成している。			86																																																						
			87	⑧国内外の医療機関との映像情報システムを用い、カンファレンス等を実施する。	小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター（IJN）との接続試験を兼ねた症例検討会を実施した。また、他医療機関（4施設）と連携し、心エコー画像遠隔診断を実施した。  心エコー画像遠隔診断実績 <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>症例数</td><td>5</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td><td>5</td><td>7</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	症例数	5	3	0	2	5	7	A	小児循環器科専門医研修施設として、浜松医科大学等との映像情報を通じたカンファレンスを実施した。また、マレーシア国立循環器病センターともカンファレンスを実施した。 令和5年度、連携医療機関との心エコー画像遠隔診断を7件実施し、医療機関からの相談について映像情報を活用して対応した。	・心エコー遠隔診断については、順天堂静岡病院、富士宮市立病院、沼津市立病院、藤枝市立総合病院を連携機関として実施しており、令和5年度は7件実施している。また、各医療機関からの相談に応じるなど、ICT技術を通じた、こども病院における高度専門医療技術・知見の地域等への還元に努めている。			87																																								
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																											
症例数	5	3	0	2	5	7																																																											





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																					
						評価	説明																																																																																																										
(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及  鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に対し、県立病院が有する人材や知見を積極的に提供し、県内の医療従事者の養成に貢献すること。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及  公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していくほか、医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参画しやすい体制づくりに取り組む。また、院内研修等の教育研修を県内の医療従事者へ積極的に開放していく。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及  ①公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応 ②学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ③認定看護師等の資格保有者の活用 ④県内の医療従事者への教育研修機能の開放 ⑤県児童虐待早期発見医療体制整備事業を推進	—	—	—	—	—	—				—																																																																																																					
			88	①院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。	総合	拡大がんセンターボード実績 <table><tr><th colspan="2">区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><th colspan="2">回数（回）</th><td>6</td><td>5</td><td>3</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><th rowspan="3">参加人数（人）</th><td>院内</td><td>194</td><td>178</td><td>73</td><td>78</td><td>101</td><td>106</td></tr><tr><td>院外</td><td>162</td><td>108</td><td>49</td><td>36</td><td>49</td><td>25</td></tr><tr><td>合計</td><td>356</td><td>286</td><td>122</td><td>114</td><td>150</td><td>131</td></tr></table>	区分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数（回）		6	5	3	2	4	4	参加人数（人）	院内	194	178	73	78	101	106	院外	162	108	49	36	49	25	合計	356	286	122	114	150	131	A	がん診療部主催の拡大がんセンターボード（多職種カンファレンス）では、がん症例の診断や治療方法等について、院内外の多職種による包括的な議論が行われている。 令和5年度も、新型コロナウイルス・インフルエンザ感染症等を考慮し、開催回数を制限して開催している。			88																																																																
			区分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																							
			回数（回）		6	5	3	2	4	4																																																																																																							
参加人数（人）	院内	194	178	73	78	101	106																																																																																																										
	院外	162	108	49	36	49	25																																																																																																										
	合計	356	286	122	114	150	131																																																																																																										
89	①他団体の講師派遣依頼に協力する。	総合	講師派遣実績 <table><tr><th colspan="2">区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td colspan="2">医師</td><td>43</td><td>56</td><td>58</td><td>43</td><td>51</td><td>63</td></tr><tr><td colspan="2">その他</td><td>40</td><td>38</td><td>34</td><td>21</td><td>41</td><td>44</td></tr><tr><td colspan="2">計</td><td>83</td><td>94</td><td>92</td><td>64</td><td>92</td><td>107</td></tr></table>	区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	医師		43	56	58	43	51	63	その他		40	38	34	21	41	44	計		83	94	92	64	92	107	A	他団体等が主催する講演会の講師として、医師や認定看護師を派遣しており、令和5年度も、令和4年度に引き続き、積極的に実施している。			89																																																																									
区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																										
医師		43	56	58	43	51	63																																																																																																										
その他		40	38	34	21	41	44																																																																																																										
計		83	94	92	64	92	107																																																																																																										
90	①②他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。	ユニバーサル	①②他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。	ユニバーサル	院外講演会講師派遣状況（医師） <table><tr><th colspan="2">区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td colspan="2">派遣回数</td><td>21</td><td>22</td><td>4</td><td>9</td><td>23</td><td>21</td></tr></table> 院外講演会講師派遣状況（看護師） <table><tr><th colspan="2">区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td colspan="2">派遣回数</td><td>26</td><td>33</td><td>17</td><td>30</td><td>37</td><td>25</td></tr></table>	区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	派遣回数		21	22	4	9	23	21	区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	派遣回数		26	33	17	30	37	25	A	他団体等が主催する講演会の講師やアドバイザーとして医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行っている。派遣実績は前年度のベースを上回っている。また、令和5年7月に全国自治体病院協議会の精神科部会を静岡市内で開催し、他の病院の先進的な取り組みについて知見を得る機会となった。			90																																																																							
区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																										
派遣回数		21	22	4	9	23	21																																																																																																										
区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																										
派遣回数		26	33	17	30	37	25																																																																																																										
91	①医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。	ユニバーサル	①医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。	ユニバーサル	医療観察法の鑑定医として協力するなど、積極的な対応を図っている。  医療観察法による鑑定入院受入実績 <table><tr><th colspan="2">区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td colspan="2">こころ</td><td>4</td><td>5</td><td>10</td><td>8</td><td>5</td><td>7</td></tr></table>	区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ		4	5	10	8	5	7	A	医療観察法に係る鑑定入院の受入について、積極的に協力し令和5年度は7件の実績となり前年度実績を上回った。	26	○	91																																																																																							
区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																										
こころ		4	5	10	8	5	7																																																																																																										
92	①特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。	ユニバーサル	①特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。	ユニバーサル	精神保健講座等開催実績 <table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="2">30年度</th><th colspan="2">元年度</th><th colspan="2">2年度</th><th colspan="2">3年度</th><th colspan="2">4年度</th><th colspan="2">5年度</th></tr><tr><td>精神保健</td><td>児童養護</td><td>精神保健</td><td>児童養護</td><td>精神保健</td><td>児童養護</td><td>精神保健</td><td>児童養護</td><td>精神保健</td><td>児童養護</td><td>精神保健</td><td>児童養護</td></tr><tr><th rowspan="2">対象</th><td colspan="2">県内小中 とも</td><td colspan="2">県内小中 とも</td><td colspan="2">県内小中 とも</td><td colspan="2">県内小中 とも</td><td colspan="2">県内小中 とも</td><td colspan="2">県内小中 とも</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2">講座 施設巡回 学校教諭・家族</td></tr><tr><th rowspan="2">参加者数等</th><td>5回</td><td>10回</td><td>5回</td><td>11回</td><td>2回</td><td>11回</td><td>4回</td><td>10回</td><td>3回</td><td>11回</td><td>5回</td><td>10回</td></tr><tr><td>159人</td><td>10施設</td><td>96人</td><td>11施設</td><td>49人</td><td>11施設</td><td>140人</td><td>10施設</td><td>75人</td><td>11施設</td><td>131人</td><td>10施設</td></tr></table>  医療機関に対する相談・助言件数 <table><tr><th colspan="2">区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td colspan="2">件 数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>82</td><td>61</td></tr></table> 教育研修の実施回数 <table><tr><th colspan="2">区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td colspan="2">実施回数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>5</td><td>8</td></tr></table>	区分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	対象	県内小中 とも		県内小中 とも		県内小中 とも		県内小中 とも		県内小中 とも		県内小中 とも												講座 施設巡回 学校教諭・家族		参加者数等	5回	10回	5回	11回	2回	11回	4回	10回	3回	11回	5回	10回	159人	10施設	96人	11施設	49人	11施設	140人	10施設	75人	11施設	131人	10施設	区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件 数		—	—	—	82	61	区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	実施回数		—	—	—	5	8	A	こころの診療科では、教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を定期的に行い、学校・地域との連携強化を図った。 令和4年度から受託している、静岡県の児童虐待早期発見医療体制整備事業について、育児環境支援室を中心に、令和5年度も事業を実施した。医療機関向け窓口への相談に対応したり、児童虐待が疑われる事例に対する緊急子育て支援対策委員会を開催し、必要と判断した場合には児童相談所への通告を行ったりした。 また、令和5年10月及び6年3月には、県と連携して、医療従事者のための子ども虐待対応研修を実施した。			92
区分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度																																																																																																						
	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護																																																																																																					
対象	県内小中 とも		県内小中 とも		県内小中 とも		県内小中 とも		県内小中 とも		県内小中 とも																																																																																																						
											講座 施設巡回 学校教諭・家族																																																																																																						
参加者数等	5回	10回	5回	11回	2回	11回	4回	10回	3回	11回	5回	10回																																																																																																					
	159人	10施設	96人	11施設	49人	11施設	140人	10施設	75人	11施設	131人	10施設																																																																																																					
区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																											
件 数		—	—	—	82	61																																																																																																											
区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																											
実施回数		—	—	—	5	8																																																																																																											





[illegible]



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																									
						評価	説明																																														
	【目標値】 ・公開講座件数（総合、こころ、こども）	【目標値】 ・公開講座件数（総合、こころ、こども）	97	①【総/子】・県民向けイベントの開催や参加に努める。	（総合）  オープンホスピタル来場者数（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>来場者数</td><td>1,200</td><td>1,200</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>1,400</td></tr></table>  （こども） 「I Loveしずおか協議会」主催の「おまち・ワンダーランド・青葉シンボルロードイルミネーション企画」に参加し、「いのりの木」を設置。入院患者や医療従事者へのメッセージを投函できる仕組みとするなど、こども病院の周知を図った。 なお、以前参加していた（株）静岡新聞社、静岡放送（株）が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり inツインメッセ」は、イベントの開催が終了となった。	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	来場者数	1,200	1,200	－	－	－	1,400	A	オープンホスピタルの開催などにより、県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実につなげている。令和5年度は4年ぶりにオープンホスピタルを開催しコロナ以前の開催と比べ来場者数は増加した。				97																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																															
来場者数	1,200	1,200	－	－	－	1,400																																															
			98	②県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	機構全体のトピックスやプレスリリース等をホームページに掲載し積極的に情報発信を行った。  セクション別アクセス件数（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度 ※</th></tr><tr><td>本部</td><td>226,519</td><td>232,673</td><td>246,234</td><td>234,744</td><td>214,098</td><td>131,077</td></tr><tr><td>総合</td><td>2,322,348</td><td>2,902,755</td><td>2,751,715</td><td>2,542,438</td><td>2,297,492</td><td>697,708</td></tr><tr><td>こころ</td><td>376,258</td><td>662,762</td><td>659,939</td><td>674,386</td><td>689,495</td><td>203,172</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,690,943</td><td>1,772,069</td><td>1,800,380</td><td>1,810,951</td><td>1,545,737</td><td>433,318</td></tr><tr><td>合計</td><td>4,616,068</td><td>5,570,259</td><td>5,458,268</td><td>5,262,519</td><td>4,746,822</td><td>1,465,275</td></tr></table> ※サイト側で集計方法変更があったため、令和4年度以前と比較ができない（集計は、7月～3月分）	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度 ※	本部	226,519	232,673	246,234	234,744	214,098	131,077	総合	2,322,348	2,902,755	2,751,715	2,542,438	2,297,492	697,708	こころ	376,258	662,762	659,939	674,386	689,495	203,172	こども	1,690,943	1,772,069	1,800,380	1,810,951	1,545,737	433,318	合計	4,616,068	5,570,259	5,458,268	5,262,519	4,746,822	1,465,275	A	機構全体のトピックスやプレスリリース等をホームページに掲載し積極的に情報発信を行っている。 各病院において、診療内容やイベント開催等の基本的な情報を掲載し業務活動の広報に努めているほか、感染症に係る情報等の突発的な情報についても丁寧かつ迅速に伝えるため、ホームページを積極的に活用している。				98
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度 ※																																															
本部	226,519	232,673	246,234	234,744	214,098	131,077																																															
総合	2,322,348	2,902,755	2,751,715	2,542,438	2,297,492	697,708																																															
こころ	376,258	662,762	659,939	674,386	689,495	203,172																																															
こども	1,690,943	1,772,069	1,800,380	1,810,951	1,545,737	433,318																																															
合計	4,616,068	5,570,259	5,458,268	5,262,519	4,746,822	1,465,275																																															
			99	③県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。  記者情報提供件数（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>提供件数</td><td>43</td><td>36</td><td>19</td><td>29</td><td>21</td><td>42</td></tr><tr><td>掲載件数</td><td>30</td><td>24</td><td>13</td><td>20</td><td>14</td><td>25</td></tr></table>  ※提供件数1件に対し、掲載件数が複数あった場合も掲載件数1件とカウントする	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	提供件数	43	36	19	29	21	42	掲載件数	30	24	13	20	14	25	A	新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、イベントに関する情報等がコロナ下に比べ増加している。 引き続き、適切な時期に情報発信することを継続して取組を実施していく。				99																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																															
提供件数	43	36	19	29	21	42																																															
掲載件数	30	24	13	20	14	25																																															





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																	
						評価	説明																																																																						
5 災害等における医療救護	5 災害等における医療救護	5 災害等における医療救護	—	—	—	—	—	—				—																																																																	
県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担い、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。	地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県の県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時には静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。	県立病院として、県内外の災害等の発生に対し十分な備えをするとともに、医療救護活動の拠点としての役割を果たす。	—	—	—	—	—	—				—																																																																	
(1) 医療救護活動の拠点機能	(1) 医療救護活動の拠点機能	(1) 医療救護活動の拠点機能	—	—	—	—	—	—				—																																																																	
災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は、基幹災害拠点病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことができるよう機能強化を図ること。あわせて、国の原子力災害対策指針に基づく新たな原子力災害医療体制の整備に努めること。また、県立こころの医療センターは災害時における精神医療分野の、県立こども病院は災害時における小児医療分野の、それぞれにおける基幹的役割を果たすよう、日頃から備えること。	日頃から実戦的な災害医療訓練を定期的に開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上し、災害等の発生時には重篤患者の受入れ、県内外のDMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	①災害拠点病院（小児分野を含む）等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②災害時における精神医療分野の拠点病院として、中心的な役割を担う ③小児専門医療機関間の災害時情報交換システムと相互協力関係の構築	—	①災害医療訓練を実施する。 ①災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発災時に迅速な対応ができるようにする。 ①【心】・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。 ①【子】・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ②【心】・一時避難所機能等災害時における精神医療分野の拠点病院としての役割を担うための訓練を実施する。 ③【子】・小児医療総合施設協議会において実施する小児専門医療機関間の災害時における情報交換システムに参加、協力していく。	年度別実績 <table><tr><td rowspan="5">元年度</td><td>令和 6. 20</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加</td><td rowspan="5">4年度</td><td>令和 7. 7・13</td><td>府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第1回）（参加者）</td></tr><tr><td>令和 7. 3</td><td>府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第2回）（参加者）</td><td>令和 7. 13</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td></tr><tr><td>令和 7. 11</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td><td>令和 4. 7. 30</td><td>第1回静岡県DMAT看護師研修をオンライン開催（受講者17名）</td></tr><tr><td>令和 11. 2~3</td><td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td><td>令和 4. 9. 30・10. 1</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（DMAT職員2名、他職員15名）</td></tr><tr><td>令和 12. 1</td><td>県立総合病院防災訓練</td><td>令和 4. 12. 4</td><td>院内防災訓練実施（参加者61名）</td></tr><tr><td rowspan="5">2年度</td><td>令和 2. 1. 26</td><td>静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施</td><td rowspan="5">5年度</td><td>令和 4. 12. 10・11</td><td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催（受講者45名）</td></tr><tr><td>令和 2. 7. 10</td><td>府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第1回）（参加者）</td><td>令和 4. 12. 15</td><td>第2回静岡県DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催（受講者45名）</td></tr><tr><td>令和 2. 7. 16</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td><td>令和 5. 2. 4</td><td>静岡県原子力災害医療訓練に参加（10名）</td></tr><tr><td>令和 2. 9. 17</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施</td><td>令和 5. 2. 19</td><td>静岡県DMATロジスティックス研修を県立総合病院にて開催（受講者21名）</td></tr><tr><td>令和 3. 7. 7</td><td>府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第2回）（参加者）</td><td>令和 5. 2. 23</td><td>第2回静岡県DMAT看護師研修を豊田市民立総合病院にて開催（受講者17名）</td></tr><tr><td rowspan="5">3年度</td><td>令和 3. 10. 30</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（参加者）（DMAT職員1名）</td><td rowspan="5">6年度</td><td>令和 5. 6. 18</td><td>第3回静岡県DMAT看護師研修（西部）を開催（受講者17名）</td></tr><tr><td>令和 3. 11. 27</td><td>静岡県DMAT看護師研修を県立総合病院で実施</td><td>令和 5. 7. 7・13</td><td>府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第1回）（参加者）</td></tr><tr><td>令和 3. 12. 5</td><td>院内防災訓練実施（参加者46名）</td><td>令和 5. 9. 30</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（参加者1名）（DMAT職員2名）</td></tr><tr><td>令和 4. 3. 18</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td><td>令和 5. 10. 28~29</td><td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td></tr><tr><td></td><td></td><td>令和 5. 12. 17</td><td>第2回静岡県DMAT看護師研修（東部）を開催（受講者16名）</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>令和 6. 3. 2</td><td>第3回静岡県DMAT看護師研修（中部）を開催（受講者25名）</td></tr></table>	元年度	令和 6. 20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	4年度	令和 7. 7・13	府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第1回）（参加者）	令和 7. 3	府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第2回）（参加者）	令和 7. 13	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令和 7. 11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令和 4. 7. 30	第1回静岡県DMAT看護師研修をオンライン開催（受講者17名）	令和 11. 2~3	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施	令和 4. 9. 30・10. 1	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（DMAT職員2名、他職員15名）	令和 12. 1	県立総合病院防災訓練	令和 4. 12. 4	院内防災訓練実施（参加者61名）	2年度	令和 2. 1. 26	静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施	5年度	令和 4. 12. 10・11	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催（受講者45名）	令和 2. 7. 10	府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第1回）（参加者）	令和 4. 12. 15	第2回静岡県DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催（受講者45名）	令和 2. 7. 16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令和 5. 2. 4	静岡県原子力災害医療訓練に参加（10名）	令和 2. 9. 17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施	令和 5. 2. 19	静岡県DMATロジスティックス研修を県立総合病院にて開催（受講者21名）	令和 3. 7. 7	府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第2回）（参加者）	令和 5. 2. 23	第2回静岡県DMAT看護師研修を豊田市民立総合病院にて開催（受講者17名）	3年度	令和 3. 10. 30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（参加者）（DMAT職員1名）	6年度	令和 5. 6. 18	第3回静岡県DMAT看護師研修（西部）を開催（受講者17名）	令和 3. 11. 27	静岡県DMAT看護師研修を県立総合病院で実施	令和 5. 7. 7・13	府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第1回）（参加者）	令和 3. 12. 5	院内防災訓練実施（参加者46名）	令和 5. 9. 30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（参加者1名）（DMAT職員2名）	令和 4. 3. 18	静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施	令和 5. 10. 28~29	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施			令和 5. 12. 17	第2回静岡県DMAT看護師研修（東部）を開催（受講者16名）				令和 6. 3. 2	第3回静岡県DMAT看護師研修（中部）を開催（受講者25名）	S   
元年度	令和 6. 20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	4年度	令和 7. 7・13	府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第1回）（参加者）																																																																								
	令和 7. 3	府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第2回）（参加者）		令和 7. 13	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加																																																																								
	令和 7. 11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加		令和 4. 7. 30	第1回静岡県DMAT看護師研修をオンライン開催（受講者17名）																																																																								
	令和 11. 2~3	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施		令和 4. 9. 30・10. 1	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（DMAT職員2名、他職員15名）																																																																								
	令和 12. 1	県立総合病院防災訓練		令和 4. 12. 4	院内防災訓練実施（参加者61名）																																																																								
2年度	令和 2. 1. 26	静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施	5年度	令和 4. 12. 10・11	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催（受講者45名）																																																																								
	令和 2. 7. 10	府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第1回）（参加者）		令和 4. 12. 15	第2回静岡県DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催（受講者45名）																																																																								
	令和 2. 7. 16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加		令和 5. 2. 4	静岡県原子力災害医療訓練に参加（10名）																																																																								
	令和 2. 9. 17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施		令和 5. 2. 19	静岡県DMATロジスティックス研修を県立総合病院にて開催（受講者21名）																																																																								
	令和 3. 7. 7	府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第2回）（参加者）		令和 5. 2. 23	第2回静岡県DMAT看護師研修を豊田市民立総合病院にて開催（受講者17名）																																																																								
3年度	令和 3. 10. 30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（参加者）（DMAT職員1名）	6年度	令和 5. 6. 18	第3回静岡県DMAT看護師研修（西部）を開催（受講者17名）																																																																								
	令和 3. 11. 27	静岡県DMAT看護師研修を県立総合病院で実施		令和 5. 7. 7・13	府県災害及び県入者を対象に県立総合病院で避難訓練を実施（第1回）（参加者）																																																																								
	令和 3. 12. 5	院内防災訓練実施（参加者46名）		令和 5. 9. 30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（参加者1名）（DMAT職員2名）																																																																								
	令和 4. 3. 18	静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施		令和 5. 10. 28~29	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施																																																																								
				令和 5. 12. 17	第2回静岡県DMAT看護師研修（東部）を開催（受講者16名）																																																																								
			令和 6. 3. 2	第3回静岡県DMAT看護師研修（中部）を開催（受講者25名）																																																																									



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																								
						評価	説明																																																																																																																																													
					新採職員向け消火避難訓練、総合防災訓練及び夜間想定防火避難誘導訓練を実施した。		A	新採職員向け消火避難訓練では、初期消火訓練、病棟患者を想定した模擬患者の避難誘導及び避難訓練を実施した。 総合防災訓練では、平日昼間の時間帯で発災した際の初動チェック訓練、発災1日後のベッドコントロール訓練、コロナ禍にて一時中止していた災害医療ゾーンの立ち上げ訓練を実施した。 夜間想定防火避難誘導訓練では、夜間想定に限られた人的資源をできる限り生かした安全な避難経路を設定する訓練などを実施した。	28	○		102																																																																																																																																								
(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2) 他県等の医療救護への協力 災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるよう定期的な要員訓練やマニュアルの点検を行う。	(2) 他県等の医療救護への協力 ①災害発生初期におけるDMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	-	- ①災害医療救護応援班の訓練を実施する。	- 年度別実績 <table><tr><td rowspan="5">元年度</td><td>令和. 8. 23</td><td>静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）にDMAT隊員5人が参加した。</td><td rowspan="5">4年度</td><td>令和. 7. 21</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（5病院参加）</td></tr><tr><td>令和. 9. 1</td><td>静岡県総合防災訓練（実働訓練）にDMAT隊員14人が参加した。</td><td>令和. 8. 30</td><td>静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加（DMAT隊員4名）</td></tr><tr><td>令和. 8. 25</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）にDMAT隊員6人が参加した。</td><td>令和. 9. 4</td><td>静岡県総合防災訓練（実働訓練）に参加（DMAT隊員7名）</td></tr><tr><td>令和. 12. 18</td><td>国民保護共同実働訓練（実働）にDMAT隊員10人が参加した。</td><td>令和. 9. 30・10. 1</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（DMAT隊員：26名、他職員15名）</td></tr><tr><td>令和2. 1. 17</td><td>地震対策オペレーション2020（大規模屋上訓練）にDMAT隊員6人が参加した。</td><td>令和. 10. 20</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）</td></tr><tr><td rowspan="3">2年度</td><td>令和2. 9. 17</td><td>静岡県DMAT通信訓練情報伝達訓練の企画・実施（3月までに合計3回）</td><td rowspan="3">5年度</td><td>令和4. 11. 13</td><td>緊急援助隊医療支援合同訓練（実働）に参加（DMAT隊員7名）</td></tr><tr><td>令和2. 10. 7</td><td>富士山静岡空港航空機事故対応訓練（DMAT隊員5名）</td><td>令和4. 11. 26・27</td><td>中部ブロックDMAT実働訓練（石川県）に参加（DMAT隊員7名）</td></tr><tr><td>令和2. 4～3</td><td>新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT派遣支援（県対策本部等）（DMAT隊員4名）</td><td>令和5. 1. 17</td><td>地震対策オペレーション2023（大規模屋上訓練）に参加（DMAT隊員5名）</td></tr><tr><td rowspan="2">3年度</td><td>令和3. 10. 30</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（宮城県）（DMAT隊員1名）</td><td rowspan="17">5年度</td><td>令和5. 1. 19</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（5病院参加）</td></tr><tr><td>令和4. 3. 18</td><td>静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td><td>令和5. 7. 20</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（3病院参加）</td></tr><tr><td colspan="4"></td><td>令和5. 8. 29</td><td>静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加（DMAT隊員6名）</td></tr><tr><td colspan="4"></td><td>令和5. 9. 3</td><td>静岡県総合防災訓練（実働訓練）に参加（DMAT隊員8名）</td></tr><tr><td colspan="4"></td><td>令和5. 9. 26</td><td>富士山静岡空港航空機事故対応訓練（DMAT隊員4名）</td></tr><tr><td colspan="4"></td><td>令和5. 9. 30</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（香川県）（DMAT隊員2名）</td></tr><tr><td colspan="4"></td><td>令和5. 10. 14・15</td><td>中部ブロックDMAT実働訓練（山梨県）に参加（DMAT隊員6名）</td></tr><tr><td colspan="4"></td><td>令和5. 10. 19</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）</td></tr><tr><td colspan="4"></td><td>令和6. 1. 18</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（1病院参加）</td></tr><tr><td colspan="6">主な活動実績</td></tr><tr><td rowspan="2">3年度</td><td>令和3. 4～</td><td colspan="4">新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣（県対策本部・保健所等）（DMAT隊員2名）</td></tr><tr><td>令和3. 7～</td><td colspan="4">熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣（県対策本部・熱海被災地）（DMAT隊員19名）</td></tr><tr><td>4年度</td><td>令和4. 4～</td><td colspan="4">新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣（宿泊療養施設・保健所）（DMAT隊員2名）</td></tr><tr><td>5年度</td><td>令和6. 1～</td><td colspan="4">能登半島地震へのDMAT派遣（県対策本部・被災地）（DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名）</td></tr><tr><td colspan="6">DMAT訓練回数（単位：回）</td></tr><tr><td>区分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>訓練</td><td>8</td><td>8</td><td>1</td><td>4</td><td>9</td><td>8</td></tr></table>	元年度	令和. 8. 23	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）にDMAT隊員5人が参加した。	4年度	令和. 7. 21	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（5病院参加）	令和. 9. 1	静岡県総合防災訓練（実働訓練）にDMAT隊員14人が参加した。	令和. 8. 30	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加（DMAT隊員4名）	令和. 8. 25	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）にDMAT隊員6人が参加した。	令和. 9. 4	静岡県総合防災訓練（実働訓練）に参加（DMAT隊員7名）	令和. 12. 18	国民保護共同実働訓練（実働）にDMAT隊員10人が参加した。	令和. 9. 30・10. 1	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（DMAT隊員：26名、他職員15名）	令和2. 1. 17	地震対策オペレーション2020（大規模屋上訓練）にDMAT隊員6人が参加した。	令和. 10. 20	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）	2年度	令和2. 9. 17	静岡県DMAT通信訓練情報伝達訓練の企画・実施（3月までに合計3回）	5年度	令和4. 11. 13	緊急援助隊医療支援合同訓練（実働）に参加（DMAT隊員7名）	令和2. 10. 7	富士山静岡空港航空機事故対応訓練（DMAT隊員5名）	令和4. 11. 26・27	中部ブロックDMAT実働訓練（石川県）に参加（DMAT隊員7名）	令和2. 4～3	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT派遣支援（県対策本部等）（DMAT隊員4名）	令和5. 1. 17	地震対策オペレーション2023（大規模屋上訓練）に参加（DMAT隊員5名）	3年度	令和3. 10. 30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（宮城県）（DMAT隊員1名）	5年度	令和5. 1. 19	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（5病院参加）	令和4. 3. 18	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施	令和5. 7. 20	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（3病院参加）					令和5. 8. 29	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加（DMAT隊員6名）					令和5. 9. 3	静岡県総合防災訓練（実働訓練）に参加（DMAT隊員8名）					令和5. 9. 26	富士山静岡空港航空機事故対応訓練（DMAT隊員4名）					令和5. 9. 30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（香川県）（DMAT隊員2名）					令和5. 10. 14・15	中部ブロックDMAT実働訓練（山梨県）に参加（DMAT隊員6名）					令和5. 10. 19	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）					令和6. 1. 18	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（1病院参加）	主な活動実績						3年度	令和3. 4～	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣（県対策本部・保健所等）（DMAT隊員2名）				令和3. 7～	熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣（県対策本部・熱海被災地）（DMAT隊員19名）				4年度	令和4. 4～	新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣（宿泊療養施設・保健所）（DMAT隊員2名）				5年度	令和6. 1～	能登半島地震へのDMAT派遣（県対策本部・被災地）（DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名）				DMAT訓練回数（単位：回）						区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	訓練	8	8	1	4	9	8	-	（総合） 令和5年度は、総合防災訓練や各ブロック訓練に通常開催され、DMAT隊員が参加している。新型コロナの影響で、開催されていなかった富士山静岡空港の訓練に参加し、消防との連携や空港との連携を確認した。 また、本年度は、香川県で実施された大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）では、2名のDMAT隊員が参加した。 （こころ） 令和6年1月に発生した能登半島地震にDPAT隊を2度派遣した。	28	☆		103
元年度	令和. 8. 23	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）にDMAT隊員5人が参加した。	4年度	令和. 7. 21	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（5病院参加）																																																																																																																																															
	令和. 9. 1	静岡県総合防災訓練（実働訓練）にDMAT隊員14人が参加した。		令和. 8. 30	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加（DMAT隊員4名）																																																																																																																																															
	令和. 8. 25	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）にDMAT隊員6人が参加した。		令和. 9. 4	静岡県総合防災訓練（実働訓練）に参加（DMAT隊員7名）																																																																																																																																															
	令和. 12. 18	国民保護共同実働訓練（実働）にDMAT隊員10人が参加した。		令和. 9. 30・10. 1	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（DMAT隊員：26名、他職員15名）																																																																																																																																															
	令和2. 1. 17	地震対策オペレーション2020（大規模屋上訓練）にDMAT隊員6人が参加した。		令和. 10. 20	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）																																																																																																																																															
2年度	令和2. 9. 17	静岡県DMAT通信訓練情報伝達訓練の企画・実施（3月までに合計3回）	5年度	令和4. 11. 13	緊急援助隊医療支援合同訓練（実働）に参加（DMAT隊員7名）																																																																																																																																															
	令和2. 10. 7	富士山静岡空港航空機事故対応訓練（DMAT隊員5名）		令和4. 11. 26・27	中部ブロックDMAT実働訓練（石川県）に参加（DMAT隊員7名）																																																																																																																																															
	令和2. 4～3	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT派遣支援（県対策本部等）（DMAT隊員4名）		令和5. 1. 17	地震対策オペレーション2023（大規模屋上訓練）に参加（DMAT隊員5名）																																																																																																																																															
3年度	令和3. 10. 30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（宮城県）（DMAT隊員1名）	5年度	令和5. 1. 19	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（5病院参加）																																																																																																																																															
	令和4. 3. 18	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施		令和5. 7. 20	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（3病院参加）																																																																																																																																															
				令和5. 8. 29	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加（DMAT隊員6名）																																																																																																																																															
				令和5. 9. 3	静岡県総合防災訓練（実働訓練）に参加（DMAT隊員8名）																																																																																																																																															
				令和5. 9. 26	富士山静岡空港航空機事故対応訓練（DMAT隊員4名）																																																																																																																																															
				令和5. 9. 30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（香川県）（DMAT隊員2名）																																																																																																																																															
				令和5. 10. 14・15	中部ブロックDMAT実働訓練（山梨県）に参加（DMAT隊員6名）																																																																																																																																															
				令和5. 10. 19	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）																																																																																																																																															
				令和6. 1. 18	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（1病院参加）																																																																																																																																															
主な活動実績																																																																																																																																																				
3年度	令和3. 4～	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣（県対策本部・保健所等）（DMAT隊員2名）																																																																																																																																																		
	令和3. 7～	熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣（県対策本部・熱海被災地）（DMAT隊員19名）																																																																																																																																																		
4年度	令和4. 4～	新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣（宿泊療養施設・保健所）（DMAT隊員2名）																																																																																																																																																		
5年度	令和6. 1～	能登半島地震へのDMAT派遣（県対策本部・被災地）（DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名）																																																																																																																																																		
DMAT訓練回数（単位：回）																																																																																																																																																				
区分	30年度	元年度		2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																													
訓練	8	8		1	4	9	8																																																																																																																																													





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																													
						評価	説明																																		
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項  医療の質の向上を目指して、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、一層効果的・効率的な業務運営に努め、生産性の向上を図ること。	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置  業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置  業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																													
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																												
1 効率的な業務運営体制の強化  医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、医療資源の有効活用や業務の見直し、職員参加型の業務改善等を推進し、業務運営体制の強化を図ること。特に、未稼働病床については、その活用方法について検討すること。	1 効率的な業務運営体制の強化  医療環境の変化や県民の医療需要に的確に応じられるよう簡素で効果的、効率的な組織づくりを進め、適時適切な意思決定ができる組織運営に努める。 県立病院が有する人的、物的等医療資源を有効に活用するため、常に効率的な業務運営に取り組む、経営情報を共有し職員の経営意識の醸成を図る。 県立病院の病床については、未稼働病床を含め、社会経済情勢や地域医療の状況を踏まえ、最適な方法での配置や活用を図る。 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価し、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。	1 効率的な業務運営体制の強化  ①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③効率的な施設運用を行うため、県立総合病院の劣化改修工事等を計画的に施工 ④県立総合病院の施設機能が継続的、最適に活用できるよう、修繕計画の策定・実施 ⑤県立こども病院のマスタープランや小児医療をめぐる環境の変化等を踏まえ、今後のあり方などについて検討 ⑥公平・公正な人事評価制度の実施 ⑦効果的な職員採用 ⑧柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ⑨看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様かつ多角的な確保対策の実施 ⑩経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑪経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 ⑫業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	-	-	-	理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を8月を除く原則毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。 人事評価制度については、全職員（有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く）を対象に令和2年度から給与（勤勉手当）への活用を開始しており、令和3年度の評価から昇給へ活用が開始されている。  リニューアル工事、大規模修繕工事の実施計画及び進捗状況（総合病院）  年度別実績 <table><tr><td>元年度</td><td>年度末における第Ⅰ期リニューアル工事進捗率 91.8% 令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定</td><td rowspan="2">4年度</td><td>令和5年2月 精神科病棟改修工事完了 令和5年3月 本館非常用発電機更新工事着工</td></tr><tr><td>2年度</td><td>令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%</td><td></td></tr><tr><td>3年度</td><td>令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅲ期リニューアル工事完了</td><td>5年度</td><td>令和6年3月 劣化改修工事設計完了 令和6年3月 劣化改修工事（緊急分）完了</td></tr></table>  病棟再編検討会（WG）開催数（こども病院）（単位：回） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>開催件数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>11</td><td>5</td><td>4</td></tr></table> ※令和4年度、病棟運営WGに改称	元年度	年度末における第Ⅰ期リニューアル工事進捗率 91.8% 令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定	4年度	令和5年2月 精神科病棟改修工事完了 令和5年3月 本館非常用発電機更新工事着工	2年度	令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%		3年度	令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅲ期リニューアル工事完了	5年度	令和6年3月 劣化改修工事設計完了 令和6年3月 劣化改修工事（緊急分）完了	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催件数	—	—	—	11	5	4	-	-	令和5年度については、理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を原則毎月開催し、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われている。 医師確保を図るため、令和3年4月に職務に応じた適切な給与制度を構築（級別標準職務表の見直し）した。これにより、医師の確保だけでなく、「職務の級」が役職による職責に応じて適用されることで、能力や意欲の高い職員が上位の職位に登用されることとなり、職員の能力や意欲の向上につなげることができた。また、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、全職員（有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く）を対象に令和2年度から給与（勤勉手当）に活用、令和3年度の評価から昇給に活用を開始した。（令和3年度前期、後期の評価を令和5年1月1日昇給に活用）  総合病院では、主に本館は40年以上が経過し、設備配管やエアコン等空調機器等の設備機器などは、老朽化により故障などのトラブルが発生している。そのため、劣化度が高いものについて実施設計を行い、緊急的に防水工事、設備配管や設備機器等の劣化改修工事を行った。 第4期中期計画についても、引き続き工事を行う予定である。	-	-	・医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応できるよう、毎月定例的に開催する理事会や運営会議、総務・経営担当課長会議等を通じて、各病院の月次の経営状況、各種規程の新設・改廃、予算・決算状況等について、意思決定と情報共有が図られ、効率的な組織運営が行われている。 ・総合病院においては、令和4年度から、光熱水費だけでなく、施設管理費も削減することが可能となる「管理一体型ESCO事業」を導入しており、物価高騰対策として経営に寄与している。	-	-	-	-
元年度	年度末における第Ⅰ期リニューアル工事進捗率 91.8% 令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定	4年度	令和5年2月 精神科病棟改修工事完了 令和5年3月 本館非常用発電機更新工事着工																																						
2年度	令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%																																								
3年度	令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅲ期リニューアル工事完了	5年度	令和6年3月 劣化改修工事設計完了 令和6年3月 劣化改修工事（緊急分）完了																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																			
開催件数	—	—	—	11	5	4																																			



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																																																																																																																																												
						評価	説明																																																																																																																																																																																																																	
			105	⑦優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 ・職員の採用に対し、広報等様々な取組みを行うことで、必要な職員数の確保に努める。 ⑧柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 ⑨パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 ・看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	アソシエイト採用実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>看護師</td><td>3</td><td>－</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事務</td><td>10</td><td>3</td><td>8</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>3</td><td>1</td><td>5</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>16</td><td>4</td><td>14</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> 正規職員数の状況(各年度 4 月 1 日現在)（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>本部</td><td>34</td><td>35</td><td>34</td><td>36</td><td>38</td><td>36</td></tr><tr><td>総合</td><td>1,242</td><td>1,271</td><td>1,317</td><td>1,331</td><td>1,359</td><td>1,380</td></tr><tr><td>こころ</td><td>170</td><td>170</td><td>175</td><td>174</td><td>176</td><td>182</td></tr><tr><td>こども</td><td>642</td><td>636</td><td>648</td><td>660</td><td>650</td><td>652</td></tr><tr><td>合計</td><td>2,088</td><td>2,112</td><td>2,174</td><td>2,201</td><td>2,223</td><td>2,250</td></tr></table> 看護師修学資金の状況（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>決定</td><td>55</td><td>50</td><td>36</td><td>40</td><td>51</td><td>90</td></tr><tr><td>継続</td><td>182</td><td>147</td><td>128</td><td>104</td><td>89</td><td>128</td></tr><tr><td>取消</td><td>▲ 8</td><td>▲ 7</td><td>▲ 4</td><td>▲ 5</td><td>▲ 2</td><td>▲ 5</td></tr><tr><td>貸与計</td><td>229</td><td>190</td><td>160</td><td>139</td><td>138</td><td>213</td></tr><tr><td>採用</td><td>62</td><td>53</td><td>46</td><td>44</td><td>44</td><td>29</td></tr></table> 看護師募集における広報等の実施状況 ・人材広告業者の求人情報ウェブサイト、雑誌への求人情報掲載 ・静岡新聞求人情報掲載（看護の日） ・県民だより求人情報掲載 ・県内コンビニ、ショッピングモールへの看護師募集ポスター掲示  看護学生向け就職説明会（R5末時点）（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>来場者数</th><th>訪問者数</th><th>受験者数</th></tr><tr><td>ナース専科（静岡）</td><td>49</td><td>74</td><td>11</td></tr><tr><td>ナースナビ（浜松）</td><td>174</td><td>65</td><td>0</td></tr><tr><td>マイナビ（静岡）</td><td>219</td><td>160</td><td>30</td></tr><tr><td>（沼津）</td><td>103</td><td>82</td><td>8</td></tr><tr><td colspan="3">業者計</td><td>49</td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>71</td><td>127</td><td>23</td></tr><tr><td>常葉大学</td><td>－</td><td>54</td><td>27</td></tr><tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>160</td><td>－</td><td>4</td></tr><tr><td>順天堂大学</td><td>－</td><td>－</td><td>11</td></tr><tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>81</td><td>56</td><td>6</td></tr><tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td>104</td><td>57</td><td>10</td></tr><tr><td colspan="3">養成校計</td><td>81</td></tr><tr><td colspan="3">計</td><td>130</td></tr></table> ※訪問者数は病院間の重複あり  柔軟な採用試験の実施状況（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>6</td><td>7</td><td>9</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td></tr></table>  ホームページアクセス数 <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度※</th></tr><tr><td>アクセス数</td><td>年間</td><td>88,655</td><td>104,100</td><td>107,956</td><td>96,782</td><td>91,367</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>54,104</td><td></td></tr></table> ※サイト側で集計方法変更があったため、令和 4 年度以前と比較ができない（集計は、7 月～3 月分）	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	看護師	3	－	1	1	1	事務	10	3	8	1	2	コメディカル	3	1	5	1	1	計	16	4	14	3	4	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5 年度	本部	34	35	34	36	38	36	総合	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380	こころ	170	170	175	174	176	182	こども	642	636	648	660	650	652	合計	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	決定	55	50	36	40	51	90	継続	182	147	128	104	89	128	取消	▲ 8	▲ 7	▲ 4	▲ 5	▲ 2	▲ 5	貸与計	229	190	160	139	138	213	採用	62	53	46	44	44	29	区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科（静岡）	49	74	11	ナースナビ（浜松）	174	65	0	マイナビ（静岡）	219	160	30	（沼津）	103	82	8	業者計			49	静岡県立大学	71	127	23	常葉大学	－	54	27	聖隷クリストファー大学	160	－	4	順天堂大学	－	－	11	静岡市立看護専門学校	81	56	6	静岡県立看護専門学校	104	57	10	養成校計			81	計			130	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	件数	6	7	9	6	9	12	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度※	アクセス数	年間	88,655	104,100	107,956	96,782	91,367						54,104		A	令和5年度については、効果的な職員採用に繋げるため、看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 また、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問に加えて、病院説明会など様々な確保対策を進めた。新たな確保策として3病院見学ツアーを企画・実施した。 今後も職員確保に向けた取組みを継続していく。	・看護師修学資金は、機構への就職を希望する看護学生の資質の向上に資することを目的に月5万円を貸与する制度であり、就職期間に相当する額の返還が免除される。 ・令和5年度も、安定した制度運用を継続しており、将来、地域医療を支える高い意欲を持つ看護師の継続的な確保に寄与している。 ・企業主催の看護学生向けの就職説明会参加や養成校訪問等を実施するなど、看護師確保に取り組んでおり、令和5年度も実施されている。 ・ホームページ、広報誌、ラジオ、ポスター掲示等、各種広報媒体を通じた採用試験情報の周知にも積極的に取り組んでいる。	19	○	105
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																																																																			
看護師	3	－	1	1	1																																																																																																																																																																																																																			
事務	10	3	8	1	2																																																																																																																																																																																																																			
コメディカル	3	1	5	1	1																																																																																																																																																																																																																			
計	16	4	14	3	4																																																																																																																																																																																																																			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5 年度																																																																																																																																																																																																																		
本部	34	35	34	36	38	36																																																																																																																																																																																																																		
総合	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380																																																																																																																																																																																																																		
こころ	170	170	175	174	176	182																																																																																																																																																																																																																		
こども	642	636	648	660	650	652																																																																																																																																																																																																																		
合計	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250																																																																																																																																																																																																																		
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																																																																		
決定	55	50	36	40	51	90																																																																																																																																																																																																																		
継続	182	147	128	104	89	128																																																																																																																																																																																																																		
取消	▲ 8	▲ 7	▲ 4	▲ 5	▲ 2	▲ 5																																																																																																																																																																																																																		
貸与計	229	190	160	139	138	213																																																																																																																																																																																																																		
採用	62	53	46	44	44	29																																																																																																																																																																																																																		
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																																																					
ナース専科（静岡）	49	74	11																																																																																																																																																																																																																					
ナースナビ（浜松）	174	65	0																																																																																																																																																																																																																					
マイナビ（静岡）	219	160	30																																																																																																																																																																																																																					
（沼津）	103	82	8																																																																																																																																																																																																																					
業者計			49																																																																																																																																																																																																																					
静岡県立大学	71	127	23																																																																																																																																																																																																																					
常葉大学	－	54	27																																																																																																																																																																																																																					
聖隷クリストファー大学	160	－	4																																																																																																																																																																																																																					
順天堂大学	－	－	11																																																																																																																																																																																																																					
静岡市立看護専門学校	81	56	6																																																																																																																																																																																																																					
静岡県立看護専門学校	104	57	10																																																																																																																																																																																																																					
養成校計			81																																																																																																																																																																																																																					
計			130																																																																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																																																																		
件数	6	7	9	6	9	12																																																																																																																																																																																																																		
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度※																																																																																																																																																																																																																		
アクセス数	年間	88,655	104,100	107,956	96,782	91,367																																																																																																																																																																																																																		
					54,104																																																																																																																																																																																																																			
			106	⑩月次決算の集計等により、病院の経営状況の早期把握を図る。	理事会等における月次決算の報告回数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>6</td><td>6</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>8</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	回数	6	6	10	10	10	8	A	理事会開催の度に月次決算の報告を実施し、病院の経営状況の早期把握及び機構内の情報共有を円滑に行うことができた。	・月次決算報告により経営状況の早期把握が可能な体制を確保している。			106																																																																																																																																																																																															
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																																																																		
回数	6	6	10	10	10	8																																																																																																																																																																																																																		
			107	⑩⑪毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ⑩機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。	理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3 病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。 職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。 院内コミュニケーションシステムや職員報（トライアングル等）を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。 上記取り組みを継続して行い、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制整備を図っている。	A	月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。 また、会議や職員報を通じた経営分析結果の職員への周知、理事長、副理事長自らによる研修等により、職員の経営に対する意識啓発を図っている。 令和4年度は、コロナ禍による診療収益の減と、補助金の見込額を随時把握し、月次決算報告に反映させた。	・地方独立行政法人として機動性のある柔軟な経営の実現に向けて、理事会・運営会議では毎月の月次決算報告として過去実績との比較等を示して経営状況をチェックしているとともに、各職員の経営意識醸成のため、幹部職員を通じて各職員に対して経営情報を共有することで、各職員の経営意識の向上を図っている。			107																																																																																																																																																																																																													

- 115 -





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点	数値	評価	No																																																																																											
						評価	説明																																																																																																
	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数（総合、こころ、こども、本部）	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数（総合、こころ、こども、本部）	108	⑫院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。	業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。  業務改善運動推進制度実績件数（単位：件） <table><tr><th>区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>総合</td><td>72</td><td>113</td><td>27</td><td>164</td><td>95</td><td>98</td><td>80件以上</td></tr><tr><td>こころ</td><td>24</td><td>32</td><td>4</td><td>53</td><td>36</td><td>37</td><td>36件以上</td></tr><tr><td>こども</td><td>34</td><td>50</td><td>29</td><td>38</td><td>75</td><td>72</td><td>71件以上</td></tr><tr><td>本部</td><td>10</td><td>8</td><td>8</td><td>21</td><td>20</td><td>20</td><td>19件以上</td></tr><tr><td>計</td><td>140</td><td>203</td><td>68</td><td>276</td><td>226</td><td>227</td><td>—</td></tr></table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	総合	72	113	27	164	95	98	80件以上	こころ	24	32	4	53	36	37	36件以上	こども	34	50	29	38	75	72	71件以上	本部	10	8	8	21	20	20	19件以上	計	140	203	68	276	226	227	—	A	令和5年度については、各病院・所属で取組を実施しており、優れた取組については、ホームページやマスコミを活用し、他の医療機関に広く周知を図った。 総合病院においては目標件数80件に対して98件が報告された。	・令和5年度は機構全体での件数は227件で、目標値の206件を上回っている。 （参考） ・「業務改善運動推進制度」は、各職員が業務改善に積極的に参加できるよう、平成28年度から院内コミュニケーションシステム内のデータベースで情報共有する仕組みとして、運用している。 ・毎年、優良提案を病院内・機構内で審査・表彰し、職員の業務改善に向けたモチベーションの維持・向上を図るとともに、表彰事案を県職員の庁内改善運動である「ひとり一改革運動」の年間表彰に推薦している。 ・優良事例の横展開が図られるとともに、設立団体である県職員にも病院機構の取組が周知・理解される機会となっている。	29	1	○	108																																											
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																																
総合	72	113	27	164	95	98	80件以上																																																																																																
こころ	24	32	4	53	36	37	36件以上																																																																																																
こども	34	50	29	38	75	72	71件以上																																																																																																
本部	10	8	8	21	20	20	19件以上																																																																																																
計	140	203	68	276	226	227	—																																																																																																
2 事務部門の専門性の向上  事務部門において、病院特有の事務に精通した職員を確保及び育成することにより、専門性の向上を図ること。	2 事務部門の専門性の向上  経営管理機能を強化するため、引き続き法人固有の事務職員を採用して業務量に応じた柔軟な職員配置に努め、専門性を十分に発揮できるよう体制を整備する。また、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるように病院運営や医療事務等に精通した人材の確保にも努める。	2 事務部門の専門性の向上  ①階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等への事務職員の参加など ②異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT（on-the-job training）をはじめとする人材の育成・研修の推進 ③診療情報管理機能の強化	109	①階層や職務に応じた各種研修を実施する。 ・また、事務職員の機構外研修への積極的な参加を促す。  ②職員の適性等を考慮した弾力的な人事異動を行う。	事務職員に対する研修状況 <table><tr><th>受講時期</th><th>研修名</th><th colspan="2">開催状況</th></tr><tr><td>新採年度</td><td>新規採用職員研修</td><td>6月</td><td>2日間</td></tr><tr><td>係長級昇任時</td><td>新規役付職員研修</td><td>5月</td><td>3時間</td></tr><tr><td></td><td>新任監督者研修</td><td>6月</td><td>1日間</td></tr><tr><td>管理者</td><td>業務管理者研修</td><td>6月</td><td>2時間</td></tr><tr><td></td><td>コーチング研修</td><td>9月</td><td>1日間</td></tr><tr><td></td><td>コミュニケーション研修</td><td>9月</td><td>1日間</td></tr><tr><td></td><td>ファシリテーション研修</td><td>9月</td><td>1日間</td></tr><tr><td></td><td>メンタルサポート研修</td><td>12月</td><td>4時間</td></tr><tr><td>希望により任意参加</td><td>接遇・クレーム応対講座</td><td>8月</td><td>4時間</td></tr><tr><td></td><td>事務職員基礎研修</td><td>4月</td><td>0.5時間</td></tr><tr><td></td><td>内部統制講座（会計実務編）</td><td>4月</td><td>2時間</td></tr><tr><td></td><td>内部統制講座（簿記・財務諸表編）</td><td>8月</td><td>3時間</td></tr><tr><td></td><td>医療保険制度・診療報酬基礎講座</td><td>9月</td><td>3時間</td></tr></table>	受講時期	研修名	開催状況		新採年度	新規採用職員研修	6月	2日間	係長級昇任時	新規役付職員研修	5月	3時間		新任監督者研修	6月	1日間	管理者	業務管理者研修	6月	2時間		コーチング研修	9月	1日間		コミュニケーション研修	9月	1日間		ファシリテーション研修	9月	1日間		メンタルサポート研修	12月	4時間	希望により任意参加	接遇・クレーム応対講座	8月	4時間		事務職員基礎研修	4月	0.5時間		内部統制講座（会計実務編）	4月	2時間		内部統制講座（簿記・財務諸表編）	8月	3時間		医療保険制度・診療報酬基礎講座	9月	3時間	A	階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施している。	・事務職員の定期的な必修研修以外にも、直接的な実務能力の向上に向けて、会計や簿記、財務諸表等に関する研修等を実施するなど、事務部門の専門性の向上に努めている。 ・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、通信教育の団体割引や診療情報管理士資格取得に向けた助成制度を設けるなど、自己啓発支援を行っている。					109																																		
受講時期	研修名	開催状況																																																																																																					
新採年度	新規採用職員研修	6月	2日間																																																																																																				
係長級昇任時	新規役付職員研修	5月	3時間																																																																																																				
	新任監督者研修	6月	1日間																																																																																																				
管理者	業務管理者研修	6月	2時間																																																																																																				
	コーチング研修	9月	1日間																																																																																																				
	コミュニケーション研修	9月	1日間																																																																																																				
	ファシリテーション研修	9月	1日間																																																																																																				
	メンタルサポート研修	12月	4時間																																																																																																				
希望により任意参加	接遇・クレーム応対講座	8月	4時間																																																																																																				
	事務職員基礎研修	4月	0.5時間																																																																																																				
	内部統制講座（会計実務編）	4月	2時間																																																																																																				
	内部統制講座（簿記・財務諸表編）	8月	3時間																																																																																																				
	医療保険制度・診療報酬基礎講座	9月	3時間																																																																																																				
		③診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。	110		診療情報管理士資格取得状況（単位：人） <table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="2">30年度</th><th colspan="2">元年度</th><th colspan="2">2年度</th><th colspan="2">3年度</th><th colspan="2">4年度</th><th colspan="2">5年度</th></tr><tr><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th></tr><tr><td>総合</td><td>7</td><td>10</td><td>7</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>こころ</td><td>1</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>こども</td><td>3</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>本部</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>13</td><td>17</td><td>13</td><td>14</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td></tr></table> ※ 専門課程修了者：資格試験受験資格を有する者	区分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	総合	7	10	7	9	9	9	9	9	9	9	7	7	こころ	1	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	こども	3	4	3	3	5	5	5	5	5	5	7	7	本部	2	0	1	0	1	1	2	2	2	2	2	2	計	13	17	13	14	17	17	17	17	17	17	17	17	A	令和5年度については、診療情報管理機能の強化をするため、引き続き診療情報管理士資格の取得支援制度を活用するなど、必要な資格者を育成するとともに、適切な人員配置を行った。	・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、診療報酬の適正算定に寄与する診療情報管理士資格取得者の育成と効果的な配置に努めている。					110
区分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度																																																																																												
	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者																																																																																											
総合	7	10	7	9	9	9	9	9	9	9	7	7																																																																																											
こころ	1	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1																																																																																											
こども	3	4	3	3	5	5	5	5	5	5	7	7																																																																																											
本部	2	0	1	0	1	1	2	2	2	2	2	2																																																																																											
計	13	17	13	14	17	17	17	17	17	17	17	17																																																																																											
3 収益の確保と費用の節減  新たな診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的に検討を行うほか、診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図ること。また、診療報酬請求漏れの防止や未収金の発生防止及び早期回収に努めること。 費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組むこと。	3 収益の確保と費用の節減  診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図る。また、様々な診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的に検討を行うほか、診療報酬請求漏れの防止、未収金の発生防止や早期回収に努める。 費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組む。	3 収益の確保と費用の節減  ①平均在院日数の短縮に向けた取り組み ②医薬品、診療材料の適正かつ計画的な購入 ③診療報酬など収入の適正な確保 ④業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 ⑤未収金対策の実施	111	①平均在院日数の短縮に向けた取り組み DPC入院期間Ⅱ以内での退院を促進する。 【こころ】①長期入院患者の退院促進に取り組む。	DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合（単位：％） <table><tr><th>区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>66.2</td><td>68.8</td><td>68.9</td><td>71.8</td><td>68.8</td><td>68.3</td></tr><tr><td>こども</td><td>67.0</td><td>67.8</td><td>67.6</td><td>68.1</td><td>74.2</td><td>70.5</td></tr></table> 長期入院患者率（単位：％） <table><tr><th>区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こころ</td><td>38.9</td><td>37.5</td><td>43.1</td><td>44.0</td><td>42.0</td><td>41.7</td></tr></table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	66.2	68.8	68.9	71.8	68.8	68.3	こども	67.0	67.8	67.6	68.1	74.2	70.5	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ	38.9	37.5	43.1	44.0	42.0	41.7	A	（総合） DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合を高めるため、定例医局会で月次報告を行い、入院期間Ⅱ以内の退院について協力を求めるとともに、クリニカルパス見直し等の取組を行っている。 （こころ） 患者の早期入院・早期退院に努めており、長期入院患者率が前年度を下回った。 （こども） DPC部会を開催し、状況確認や課題の解決について取り組んだ。	・DPC入院期間ⅡはDPC病院の平均在院日数を表しており、この日数内の退院割合は、診療の効率性の観点における指標となりうるが、DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合は、令和5年度において、令和4年度と同程度となっている。 ・こころの医療センターの長期入院患者率は、令和4年度並みとなっている。 ・引き続き、地域と連携した退院支援に取り組むことを期待する。					111																																																							
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																	
総合	66.2	68.8	68.9	71.8	68.8	68.3																																																																																																	
こども	67.0	67.8	67.6	68.1	74.2	70.5																																																																																																	
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																	
こころ	38.9	37.5	43.1	44.0	42.0	41.7																																																																																																	



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	令和5年度実績 自己評価		県評価 （令和5年度本評価）	重点 点	数 値	評 価	No																																										
						評 価	説 明																																															
			112	②診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。	破棄・破損額（5年度3月末） <table><tr><td>区 分</td><td>診療材料費</td><td>薬品費</td><td>合計</td></tr><tr><td>総合</td><td>5,446</td><td>1,945</td><td>7,391</td></tr><tr><td>こころ</td><td>321</td><td>119</td><td>440</td></tr><tr><td>こども</td><td>2,930</td><td>3,290</td><td>6,220</td></tr><tr><td>合 計</td><td>8,697</td><td>5,354</td><td>14,051</td></tr></table>	区 分	診療材料費	薬品費	合計	総合	5,446	1,945	7,391	こころ	321	119	440	こども	2,930	3,290	6,220	合 計	8,697	5,354	14,051	A	（総合） 破棄・破損については、部署、原因、金額等の記録を徹底し、特に高額なものはインシデントレポートの提出を義務化している。また、委員会において事象報告を行い、対応策を議論することにより、破棄・破損の削減に努めている。前年同期に比べ▲1,007千円となっている。 （こころ） 薬品類については、前年度までの取組に引き続き、破棄・破損額の抑制のため、3病院間での薬品の譲受譲渡を推進し、不動在庫の軽減に繋がった。 診療材料については、病棟内における在庫の適正化をすすめ、病棟内の在庫を減らし必要時に度発注することとして、前年度までの取組を継続して、期限切れによる廃棄の削減に努めた。 （こども） 各部署と金額等の情報共有を徹底するとともに、委員会等で破棄・破損額の情報共有、適切な在庫管理の周知を行い、破棄・破損の削減に努めた。	・経費節減の観点のみならず、使用期限切れ材料・薬品による医療事故の予防等、医療安全上の要請からも、在庫管理の徹底が求められるが、診療材料、薬品の破棄・破損を抑制し、経費節減を図るため、記録の徹底、院内の薬剤部における委員会での情報共有等を徹底し、有効な在庫管理に努めている。	30		○	112																						
区 分	診療材料費	薬品費	合計																																																			
総合	5,446	1,945	7,391																																																			
こころ	321	119	440																																																			
こども	2,930	3,290	6,220																																																			
合 計	8,697	5,354	14,051																																																			
			113	③積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかわる研修会等を実施する。	（総合） 4月から精神科病棟を開棟した。1ヶ月間の実績をもって5月から10対1看護の届出を行うことが出来た。また精神科病棟の開棟に伴い、総合入院体制加算も2から1へランクアップすることができた。看護補助者の活用に関する所定の研修を受講した看護師長等の配置等が整ったため、急性期看護補助体制加算（看護補助体制充実加算）の新規届出を行った。派遣による看護補助者の増員等により基準を満たせる月においては、急性期看護補助体制加算を50対1から25対1にランクアップするなど状況に応じて変更の届出を行った。下肢創傷処置や静脈圧迫処置など、新しい医療技術についても導入を進め、要件を満たすことができたため、届出を行った。生殖補助医療管理料、一般不妊治療管理料など、人員要件、診療実績、体制整備などの調整及び確認を行い、要件を満たすことができたため、届出を行った。外部のコンサルタント等に研修会の講師を依頼することで、適切かつ最新の情報で研修会を開催出来ている。またこの研修会を行うことで、臨床研修病院の施設基準の要件も維持することが出来ている。  （こども） ●施設基準の新規取得 人員要件、診療実績、他施設との連携構築、院内施設整備、運用構築等含めたマニュアルの整備を実施。 ・クラウンブリッジ維持管理料 ・抗アデノ随伴ウイルス9型（AAAV）抗体 ・情報通信機器を用いた診療に係る基準 ・西2A病棟にかかる療養環境加算 ・歯科口腔リハビリテーション科2 ・ロービジョン検査判断料  ●施設基準の変更申請 診療実績、人員要件を都度確認し、診療実態に合わせて、随時施設基準の変更申請を実施 ・看護処遇改善評価料（109）→（96）へ ・救急搬送看護体制加算2→1へ ・麻酔管理料1、2  ●研修会等の実施 ・東海北陸厚生局主催の診療報酬改定説明会に参加 ・令和6年の診療報酬改定WGを開催し、改定内容の説明及び新規取得項目の検討を実施。	A	各病院において、施設基準の新規及び変更の届出を積極的に行い、診療単価の向上に寄与している。 また、研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識を高めるよう努めている。	・新たに導入した医療技術にかかる施設基準の届出など、医療の提供体制や内容に応じた診療報酬を適正に請求するため、研修を通じた職員養成など体制づくりに取り組んでいる。 ・派遣会社を活用した夜間看護師補助者の配置など、新たな施設基準の取得等に積極的に取り組んでいる。 ・今後も、診療報酬制度の改定に際して、早期の情報収集に基づく迅速な院内体制の確保と、診療報酬事務職員の養成、医療現場への周知徹底が期待される。	30		○	113																																										
			114	④SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。	薬品、診療材料期限切れ廃棄額 <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>薬品</td><td>2,931</td><td>2,279</td><td>2,553</td><td>2,638</td><td>2,031</td><td>3,526</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>969</td><td>973</td><td>627</td><td>1,631</td><td>979</td><td>668</td></tr></table>  薬品・診療材料在庫額 <table><tr><td>区分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>薬品</td><td>92,244</td><td>136,694</td><td>153,688</td><td>160,916</td><td>168,436</td><td>188,840</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>224,292</td><td>221,511</td><td>227,708</td><td>239,545</td><td>251,101</td><td>263,420</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	薬品	2,931	2,279	2,553	2,638	2,031	3,526	診療材料	969	973	627	1,631	979	668	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	薬品	92,244	136,694	153,688	160,916	168,436	188,840	診療材料	224,292	221,511	227,708	239,545	251,101	263,420	A	薬品及び診療材料については、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、ロスを防ぐなどSPD業務の改善を図っている。しかしながら、稀な症例に使用する物品（ただし緊急時になければ困るもの）が期限切れになっており、今後も管理方法について検討を行っていく。 薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の関与により、期限切れ廃棄額の削減と在庫額減少に努めている。 診療材料は、手術室において期限切迫品カートを設置し、使用を促している。医療の高度化により高額材料が増加したが、ピッキングリストの見直し提案等、在庫の削減に努めている。 マスクや手袋等、供給体制が不安定な物品については、在庫量を一時的に増やす対応を実施した。 また、原材料価格の上昇による値上げ物品の増加に伴い在庫額が増えている。	・SPD(Supply Processing Distribution)は、薬品・診療材料等の発注、調達、物流、棚卸等を一元管理する仕組みであり、在庫の適正種類・量の確保、期限切れ廃棄の削減等に寄与している。 ・薬品在庫額については、高度な手術や高額薬剤を使用する化学療法の件数増加等の要因により増加しているが、期限切迫品の可視化による周知、使用状況に応じた他部署への移管、不動在庫のリスト化など、期限切れの抑止に努めている。	30		○	114
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																
薬品	2,931	2,279	2,553	2,638	2,031	3,526																																																
診療材料	969	973	627	1,631	979	668																																																
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																
薬品	92,244	136,694	153,688	160,916	168,436	188,840																																																
診療材料	224,292	221,511	227,708	239,545	251,101	263,420																																																

－ 119 －